

經 濟 学 部

履 修 要 項

平 成 6 年 度

駒 澤 大 學

学 年 暦

前 期

4月8日(金) 9日(土) } 12日(火) 9日(土) } 15日(金) 11日(月) 12日(火) 11日(月) 12日(火) 12日(火) } 13日(水) } 19日(火) 13日(水) } 18日(月) } 22日(金) 20日(水) } 25日(月) 5月25日(水) } 6月10日(金) 7月14日(木) } 20日(水) 20日(水) 21日(木) 21日(木) } 25日(月) 25日(月) } 9月5日(月) } 9日(金)	入学式 } 新入生オリエンテーション } 在校生身分証明登録 } 在校生成績発表 } 体育実技Ⅱ受講届(種目選択届) 受付(学部2年次生) 時事外国語受講届受付 (経済学部3年次生) } 在校生成績質疑応答 } 前期授業開始 } 春季健康診断(卒業年次生対象) } 履修届受付(土曜日は除く) (学部により受付日が異なる) } 卒業論文論題受付(仏教・文学部の 4年次生)(締切日は正午まで) } 中間試験及び前期終了科目定期試験 (授業平常どおり) } 前期授業最終日 夏季休業第1日(9月15日まで) } 体育実技Ⅱ集中授業コース (学部2年次生) } 前期終了科目定期試験欠試験(追試 験申込)受付締切 } 補講期間	27日(火) 28日(水) 26日(月) } 10月1日(土) 3日(月) } 6日(木) 15日(土) 24日(月) } 28日(金) 27日(木) } 29日(土) 11月19日(土) 12月1日(木) } 12日(月) 4日(日) 21日(水) 21日(水) } 25日(日)	} 専攻コース指定届受付 (歴史・社会学科の1年次生) } } 前期終了科目追・再試験 (授業平常どおり) } } 秋季健康診断(卒業年次生以外対象) } } 第112回開校記念日(全校休業) } } 編入学願書受付 } } 転部・転科試験願書受付 } } 転部・転科試験 } } 卒業論文受付(仏教・文学部の4年 次生)(締切日は正午まで) } } 編入学試験 } 冬季休業第1日(1月7日まで) } } 体育実技Ⅱ集中授業コース (学部2年次生)
---	--	--	--

平成7年

1月9日(月) 14日(土) 17日(火) } 26日(木) 27日(金) } 2月3日(金) 6日(月) 7日(火) } 17日(金) 18日(土) 20日(月) } 24日(金) 23日(木) } 3月1日(水) 20日(月) 25日(土)	} 後期授業再開 } 後期授業最終日 } } 定期試験(専門・基礎・教職科目) } } 定期試験(一般・外国語・保健体育 科目) } } 定期試験欠試験受付締切 } 卒業論文口頭試問(仏教・文学部の 4年次生) } } 成績発表(質疑応答)および再試験申 込受付(学部4年次生・短大生) } } 体育実技Ⅱシーズン・コース(ス キー)(学部2年次生) } } 追・再試験(学部4年次生・短大生) } および追試験(学部1~3年次生) } } 卒業生名簿発表 } 卒業式
--	--

後 期

9月16日(金) 16日(金) 19日(月) 26日(月) } 30日(金)	後期授業開始 } 前期終了科目定期試験成績発表(質 疑応答)および再試験申込受付 } 外国語指定届受付(仏教・文<除英米 文>・法学部・短大国文・英文の1年 次生および昭和63年度以前入学の経 済学部の2年次生)
---	--

授 業 時 間

時 限	第1時限	第2時限	第3時限	第4時限	第2時限
時 間	9:00~10:30	10:40~12:10	12:50~14:20	14:30~16:00	16:10~17:40

経済学部学生諸君へ

この「履修要項」は、諸君が本学経済学部の学生として4年間の学園生活を過ごすために必要であると思われる学習上の基本的事項をまとめたものである。

経済学部における教育の主たる目標はすぐれた職業人であると同時にすぐれた社会人を育成し、社会の進展に貢献することにある。そのために諸君は、専門的な知識のほかに教養ある社会人として必要な人文・社会・自然について深い理解をもつことが要求される。

また、わが国経済の著しい国際化の傾向にともない、今後国際交流が一段と推進されると思われるが、国際社会で活躍するにはなによりも外国語を十分マスターしておくことが必要である。

諸君がこうした目標を達成できるように、本学部の教育課程は「一般教育科目」「外国語科目」「保健体育科目」「基礎教育科目」「専門教育科目」「他学部科目」および「随意科目」から構成されており、4年間にわたり幅広く、体系的に学習できるよう十分配慮されている。

さらに経済学部の教育制度上の特徴は、「専門科目」に大幅な選択制を導入するとともに、少人数によるゼミナールを数多く開講している点である。こうした選択制とゼミナールによる教育を重視しているのは、学生諸君の自主的な学習を尊重することにより諸君の能力を効果的に発揮させ、個性豊かな人間を形成することを教育の最終目標としているためである。

諸君はこうした経済学部の教育課程の特質を十分に理解し、将来どのような局面に遭遇しても問題点の所在を的確に把握し、その解決方法を自らの努力と判断で見いだして行く能力を身につけてもらいたいと念じている。

最後に、この「履修要項」を熟読し、4年間の貴重な大学生活を計画的に、しかも悔いのない充実したものとして送られることを切に期待するものである。

駒澤大学経済学部

「現代経済事情Ⅰ～Ⅳ」（各半期、2単位）について

本学経済学部は、現代のめまぐるしく変動する経済社会の実情をいち早く学生諸君に伝えるために、「現代経済事情」を設置しています。その主旨は、今現在もっとも世の中の関心を集めている問題を年度ごとにとり上げ、これに深く関係している方々に話しをしてもらうことによって、本学経済学部が学生諸君に現代社会に関する情報発信源としての役割を果そうとすることにあります。

今年度は、総合商社論、広告と国民生活、第3セクター交通と地域経済、国民生活と協同組合について以下の方々に講師を依頼しました。学生諸君が奮って履修されることを願います。

本年度講師

現代経済事情Ⅰ（総合商社論） 井田 福藏 氏
元・フランス住友商事社長、現・住商ビジネスサービス(株)社長

現代経済事情Ⅱ（広告と国民生活） 松村 勇 氏
(株)東急エージェンシー常勤監査役

現代経済事情Ⅲ（第3セクター交通と地域経済） 宮木 康夫 氏
横浜新都市交通(株)常務取締役、自治大学校講師

現代経済事情Ⅳ（国民生活と協同組合） 兼子 厚之 氏
日本生活協同組合連合会勤務を経て、現在生協総合研究所研究員

目 次

I 単位制と学年制

1. 単位制と学年制 (1)
2. 授業科目の単位数 (1)
3. 授業科目の区分 (1)

II 卒業に必要な単位数

1. 卒業に必要な単位数 (2)
2. 卒業及び学位記の授与 (5)

III 授業科目の履修方法

1. 一般教育科目の履修方法 (6)
2. 外国語科目の履修方法 (8)
3. 保健体育科目の履修方法 (10)
4. 基礎教育科目の履修方法 (10)
5. 専門教育科目の履修方法 (11)
6. 他学部科目の履修方法 (15)
7. 随意科目の履修方法 (17)
8. 再履修科目の履修方法 (17)
 - ※「日本語」・「日本事情」科目の履修方法 (17)
 - ※ 授業科目のコード番号について (18)

IV 履修科目の登録（履修届）とその作成順序

1. 履修科目の登録 (19)
2. 履修届記入上の注意 (20)
3. 履修届（時間割）の作成順序 (21)
4. 授業時間 (21)

V 試験および成績評価

1. 定期試験 (22)
2. 中間試験 (22)
3. 追・再試験 (22)
4. 受験心得 (23)
5. 成績評価・単位認定 (23)
6. 試験時間 (24)
7. 成績発表 (24)

VI	進級について	(25)
VII	教職課程・資格講座	(26)
VIII	事務取扱いについて	
	1. 事務室の事務受付時間	(27)
	2. 休 講	(27)
	3. 掲示・連絡	(27)
	4. 問い合わせ	(27)
IX	学籍について	
	1. 修業年限と在学年数	(28)
	2. 休 学	(28)
	3. 復 学	(28)
	4. 退 学	(29)
	5. 除 籍	(29)
	6. 懲 戒	(29)
	7. 編 入 学	(29)
	8. 再 入 学	(29)
	9. 転部・転科	(29)
	10. 留 学	(30)
	11. 学生氏名・保証人	(30)
	12. 学生番号	(30)
X	既修得単位の認定について	(31)
XI	届書・願書について	(32)
XII	各種証明書取扱い窓口	(33)
	試験実施規程（抜粋）	(34)
	講 義 内 容	(37)

I 単位制と学年制

1. 単位制と学年制

大学では単位制が採用されている。単位制とは、授業科目を履修して試験に合格することにより、各授業科目ごとに定められている単位を修得する制度である。また、学年制とは、単位制に基づく学修過程を第1学年から第4学年の段階を追って計画的に修学し、一定の単位を修得すれば上級学年に進級していく制度である。

本学では、授業科目の履修と単位の修得を体系的、かつ合理的に進められるように単位制と学年制を併用した教育システムを採用している。

2. 授業科目の単位数

各授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果・授業時間外に必要な学修等を考慮して大学設置基準を基に学期において定めている。

3. 授業科目の区分

授業科目は次のように区分される。

- | | | |
|-----------|--------------------------|-----------|
| 1. 一般教育科目 | (人文分野・社会分野・自然分野) …………… | 選択必修科目 |
| 2. 外国語科目 | (第1外国語・第2外国語) …………… | 選択必修科目 |
| 3. 保健体育科目 | (講義・実技) …………… | 必修科目 |
| 4. 基礎教育科目 | (専門教育科目の基礎となる科目) …………… | 必修科目 |
| 5. 専門教育科目 | (専門的知識を内容とする科目) …………… | 必修科目・選択科目 |
| 6. 他学部科目 | (履修可能な他学部公開設置科目) …………… | 選択科目 |
| 7. 随意科目 | (卒業に必要な単位に含まれない科目) …………… | 選択科目 |

- ※ 必修科目 …… 必ず履修しなければならない科目
選択必修科目 …… 数科目の中から所定の科目数または単位数を選び、必ず履修しなければならない科目
選択科目 …… 自由に選び履修できる科目

Ⅱ 卒業に必要な単位数

1. 卒業に必要な単位数

経済学科

A. 平成元年度以降入学生適用

授業科目の区分		科目数	修得単位	計	合計
一般教育科目	人文分野	4	16	32	136以上
	社会分野	2	8		
	自然分野	2	8		
外国語科目	第1外国語	4	8	16	
	第2外国語	4	8		
保健体育科目	講義	1	2	4	
	実技	2	2		
基礎教育科目		1	4	4	
専門教育科目	必修	5	20	80	
	選択	15	60		

B. 昭和63年度入学生適用

授業科目の区分		科目数	修得単位	計	合計
一般教育科目	人文分野	4	16	32	138以上
	社会分野	2	8		
	自然分野	2	8		
外国語科目	第1外国語	5	10	18	
	第2外国語	4	8		
保健体育科目	講義	1	2	4	
	実技	2	2		
基礎教育科目		1	4	4	
専門教育科目	必修	4	16	80	
	選択	16	64		

経済学科

C. 昭和62年度以前入学生適用

授業科目の区分		科目数	修得単位	計	合計
一般教育科目	人文分野	4	16	36	} 146以上
	社会分野	3	12		
	自然分野	2	8		
外国語科目	第1外国語	5	10	18	
	第2外国語	4	8		
保健体育科目	講義	1	2	4	
	実技	2	2		
基礎教育科目		1	4	4	
専門教育科目	必修	4	16	84	
	選択	17	68		

商 学 科

A. 平成元年度以降入学生適用

授 業 科 目 の 区 分		科 目 数	修 得 単 位	計	合 計
一 般 教 育 科 目	人 文 分 野	4	16	32	} 136以上
	社 会 分 野	2	8		
	自 然 分 野	2	8		
外 国 語 科 目	第 1 外 国 語	4	8	16	
	第 2 外 国 語	4	8		
保 健 体 育 科 目	講 義	1	2	4	
	実 技	2	2		
基 礎 教 育 科 目		1	4	4	
専 門 教 育 科 目	必 修	4	16	80	
	選 択	16	64		

B. 昭和63年度入学生適用

授 業 科 目 の 区 分		科 目 数	修 得 単 位	計	合 計
一 般 教 育 科 目	人 文 分 野	4	16	32	} 138以上
	社 会 分 野	2	8		
	自 然 分 野	2	8		
外 国 語 科 目	第 1 外 国 語	5	10	18	
	第 2 外 国 語	4	8		
保 健 体 育 科 目	講 義	1	2	4	
	実 技	2	2		
基 礎 教 育 科 目		1	4	4	
専 門 教 育 科 目	必 修	3	12	80	
	選 択	17	68		

商 学 科

C. 昭和62年度以前入学生適用

授 業 科 目 の 区 分		科 目 数	修 得 単 位	計	合 計
一 般 教 育 科 目	人 文 分 野	4	16	36	} 146以上
	社 会 分 野	3	12		
	自 然 分 野	2	8		
外 国 語 科 目	第 1 外 国 語	5	10	18	
	第 2 外 国 語	4	8		
保 健 体 育 科 目	講 義	1	2	4	
	実 技	2	2		
基 礎 教 育 科 目		1	4	4	
専 門 教 育 科 目	必 修	3	12	84	
	選 択	18	72		

2. 卒業及び学位記の授与

大学に4年以上（7年を超えてはならない）在学し、卒業に必要な単位を修得した者には、卒業証書・学位記が授与され、次の学士の学位が与えられる。

経済学部 { 経済学科 …… 学 士 (経済学)
 商 学 科 …… 学 士 (商 学)

Ⅲ 授業科目の履修方法

※ 北海道教養部では、授業科目等に多少の変更を生ずる場合がある。

授業科目履修上の注意

- イ. 授業科目は、教授会の定めるところに従い各学年に配当する。
- ロ. 授業時間表の備考欄に番号が示されている科目は、各自の学生番号に該当するクラスで履修すること。ただし、再履修または指定された学年で履修できなかった場合はこの限りではない。
- ハ. 各学年に配当された授業科目は、当該学年に限り履修することができる。ただし、下級学年に配当された授業科目を上級学年において履修することはさしつかえない。
- ニ. 各学年の履修科目数の最低および最高限度は、教授会の定めるところによる。
- ホ. 一度単位の認定を受けた授業科目は、再度履修することはできない。

1. 一般教育科目の履修方法

- イ. 一般教育科目は1年次および2年次の2年間に人文分野・社会分野・自然分野の各分野から定められた科目数・単位数を履修しなければならない。
- ロ. 「宗教学Ⅰ」を1年次、「宗教学Ⅱ」を2年次の必修科目とする。
- ハ. 2年次までに所定の科目数・単位数を修得していなければならない。

A. 昭和63年度以降入学生適用

人文分野	4科目	計16単位	} 合計 8科目 32単位
社会分野	2科目	計 8単位	
自然分野	2科目	計 8単位	

分野	授業科目	単位	履修科目数	修得単位	計	備考
人文分野	宗教学Ⅰ (1年次必修)	4	} 「宗教学Ⅰ」・ 「宗教学Ⅱ」の 2科目を必修 4科目を選択	16	32	
	宗教学Ⅱ (2年次必修)	4				
	倫理	4				
	論理	4				
	歴史	4				
	日本史	4				
	世界史	4				
	史	4				
社会分野	法(日本国憲法)	4	} 2科目選択必修	8	32	教員免許状を取る しよは「法学と 法」を必修と する。
	政治学	4				
	社会学	4				
	文化学	4				
	心理学	4				
	概論	4				
自然分野	自然科学概論	4	} 2科目選択必修	8	32	
	天文学	4				
	コンピュータ概論	4				
	文法	4				
	物理	4				
	生物	4				

※「宗教学Ⅰ」の授業は火曜日に玉川校舎(道順は学生部で配布の「学生手帳」を参照)で行う。
 ※「コンピュータ概論」を受講(人数: 1クラス 100名)希望する者は、最初の授業で『履修届』用紙に担当教員の捺印を必ず受けること。(最初の授業教場で先着順にて履修者を決定する。)

B. 昭和62年度以前入学生適用

人文分野 4科目 計16単位 }
 社会分野 3科目 計12単位 } 合計 9科目 36単位
 自然分野 2科目 計 8単位 }

分野	授業科目	単位	履修科目数	修得単位	計	備考
人文分野	宗教学 I (1年次必修) 宗教学 II (2年次必修) 宗教学論 倫理 歴史学 (日本史) 世界史 歴史学	4 4 4 4 4 4 4	「宗教学 I」の 「宗教学 II」の 2科目を選択必修	16	36	教員免許状を取る のものは「法修 も法」を必修と する。
社会分野	法社会学 (日本憲法) 社会学 (社会学) 社会学 (社会学) 社会学 (社会学) 社会学 (社会学) 社会学 (社会学)	4 4 4 4 4 4				
自然分野	自然科学概論 コンピュータ概論 人物生	4 4 4 4 4 4	2科目選択必修	8		

※「宗教学 I」の授業は火曜日に玉川校舎（道順は学生部で配布の「学生手帳」を参照）で行う。

※「歴史学（日本史）」旧「歴史学」。歴史学の単位を修得した学生は履修できない。

※「コンピュータ概論」を受講（人数：1クラス 100名）希望する者は、最初の授業で『履修届』用紙に担当教員の捺印を必ず受けること。（最初の授業教場で先着順にて履修者を決定する。）

2. 外国語科目の履修方法

外国語科目は英語・ドイツ語・フランス語・中国語・スペイン語・ロシア語の6か国語が開講されている。これらのうち英語と入学手続の際に指定した英語以外の外国語の2か国語を履修することになる。その2か国語を、1年次および2年次（昭和63年度以前入学生は3年次）において必要な科目数・単位数を必ず履修しなければならない。

なお、平成元年度以降入学生の学生からは、第1外国語は英語、第2外国語は他の外国語となる。

履修年次	第1外国語		第2外国語		計	
	科目数	単位数	科目数	単位数	科目数	単位数
1年次	2(2)	4(4)	2(2)	4(4)	4(4)	8(8)
2年次	2(2)	4(4)	2(2)	4(4)	4(4)	8(8)
3年次	-(1)	-(2)	-	-	-(1)	-(2)
計	4(5)	8(10)	4(4)	8(8)	8(9)	16(18)

※()内の数字は昭和63年度以前入学生適用

1年次の履修

6か国語のうち英語ⅠA・ⅠBの2科目と入学手続の際に指定した英語以外の外国語ⅠA・ⅠBの2科目の計4科目8単位を必修とする。

授業科目	単位	科目内容	備考
英語ⅠA	2		ⅠA・ⅠBの2科目を必修とする。ただしⅠAは「英会話Ⅰ(定員40名)」または「英語LLⅠ(定員30名)」に振り替えることができる。なお、振り替えを希望する者は、最初の授業に『履修届』用紙を持参し、担当教員の捺印を必ず受けること。
英語ⅠB	2		
英会話Ⅰ	2		
英語LLⅠ	2	視聴覚教材を使用した語学教育	
ドイツ語ⅠA	2	文法	5か国語のうちから入学手続の際指定した1か国語ⅠA・ⅠBの2科目を必修とする。
ドイツ語ⅠB	2	講読	
フランス語ⅠA	2	文法	
フランス語ⅠB	2	講読	
中国語ⅠA	2		
中国語ⅠB	2		
スペイン語ⅠA	2		
スペイン語ⅠB	2		
ロシア語ⅠA	2		
ロシア語ⅠB	2		

※「英語ⅠB」の授業は火曜日に玉川校舎（道順は学生部で配布の「学生手帳」を参照）で行う。

2年次の履修

1年次で履修の2か国語（英語と他の1か国語）を、それぞれⅡA・ⅡBの2科目ずつ計4科目8単位を必修とする。

授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
英 語 ⅡA	2	} 2科目必修	ド イ ツ 語 ⅡA	2	} 1年次で履修した1か国語 2科目必修
英 語 ⅡB	2		ド イ ツ 語 ⅡB	2	
		フ ラ ン ス 語 ⅡA	2		
		フ ラ ン ス 語 ⅡB	2		
		中 国 語 ⅡA	2		
		中 国 語 ⅡB	2		
		ス ペ イ ン 語 ⅡA	2		
		ス ペ イ ン 語 ⅡB	2		
		ロ シ ア 語 ⅡA	2		
		ロ シ ア 語 ⅡB	2		

3年次の履修（昭和63年度以前入学生のみ適用）

1・2年次で履修の2か国語のうち、いずれか1か国語を第1外国語とし、外国語「Ⅲ」を1科目2単位必修とする。

第1外国語

授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
英 語 Ⅲ	2		中 国 語 Ⅲ	2	
ド イ ツ 語 Ⅲ	2		ス ペ イ ン 語 Ⅲ	2	
フ ラ ン ス 語 Ⅲ	2		ロ シ ア 語 Ⅲ	2	

外国語科目履修上の注意

- イ. 外国語科目の組分けは、すべて授業時間表で指定するので、学生は自己の学科・学生番号により該当するクラスで履修すること。
- ロ. なお一層の語学教育を望む学生は、外国語随意科目を開講しているので進んで履修されたい。
- ハ. 不合格科目の再履修については、別に定める（P.17参照）。
- ニ. 2年次（昭和63年度以前入学生は3年次）までに所定の単位を修得していなければならない。

3. 保健体育科目の履修方法

保健体育科目は講義と実技に分かれ、講義は1年次に「保健体育理論」を1科目2単位、実技は1年次に「体育実技Ⅰ」を1科目1単位と2年次に「体育実技Ⅱ」を1科目1単位、計3科目4単位を必修とする。

	授 業 科 目	単 位	備 考
講 義	保健体育理論	2	1年次前期または後期
実 技	体育実技Ⅰ	1	1年次通年
	体育実技Ⅱ	1	2年次前期または後期

イ. 講義・体育実技Ⅰの授業は火曜日に玉川校舎で行う。

ロ. 講義・体育実技Ⅰが1年次不合格となった者は2年次において「再履修クラス」を履修し単位を修得する。

※ 体育実技Ⅰ（再履修クラス含む）の種目等の説明は、最初の授業に『体育実技受講要領』を配布して行うので、必ず出席すること。なお、当日の服装は、普段着でよい。

ハ. 体育実技Ⅱは次の授業形態のいずれかを履修し、単位を修得しなければならない。

A. 本校での前期または後期の体育実技Ⅱの授業

B. 後期（冬季休業中）に実施される有料のシーズン・コースの授業

C. 前期（夏季休業中）または後期（冬季休業中）に実施される玉川校舎での集中授業

ニ. 体育実技Ⅱが2年次不合格となった者は3年次において体育実技Ⅱを再び履修し、単位を修得する。

※ 体育実技Ⅱについての種目の説明、シーズン・コースおよび集中授業等の申込み方法については、『体育実技受講要領』を参照すること。（受講要領配布については、掲示板参照。）

ホ. 講義・実技とも2年次までに所定の単位を修得していなければならない。

4. 基礎教育科目の履修方法

基礎教育科目とは専門教育科目の基礎となる授業科目で、1年次において1科目4単位を必修とする。

履修年次	授 業 科 目	単 位	備 考
1年次	経済学概説	4	

5. 専門教育科目の履修方法

専門教育科目は必修科目と選択科目とに分かれ、それぞれ定められた単位を修得することになっている。履修する授業科目の選択については、専門科目全般にわたって十分検討して履修すること。なお、一度単位を修得した授業科目については再度履修することはできない。

1・2年次開講科目は、ほとんど基礎的科目である。

経済学科

必修科目

A. 平成元年度以降入学生適用（5科目20単位）

2年次必修			3年次必修		
授業科目	単位	備考	授業科目	単位	備考
経済原論Ⅰ	4		時事外国語	4	
経済原論Ⅱ	4				
経済史	4				
経済政策	4				

時事外国語について

時事外国語は、1年次と2年次で履修した外国語（英語と他の1か国語）の中から選択履修すること。なお、外国人留学生の「母語」での履修は認めない。

履修方法

① 受講希望科目（担当者）の決定

成績発表時に配布される授業時間表・履修要項（講義内容）を参考に、受講を希望する科目（担当者）を事前に決めておく。

② 受講申込み

本人が所定の期日・場所で受講希望科目（担当者）を申込み

- ・期 日 4月12日（火）
- ・場 所 1-301教場
- ・時 間 13:00～15:00
- ・方 法 時事外国語履修許可書（当日配布）に受講許可印を押印してもらう。
（先着順にて定員締切あり）
- ・持参する物 学生証、授業時間表

③ 教務部へ時事外国語履修許可書提出

所定期日に履修届と共に時事外国語履修許可書を提出する。ただし、受講許可印のない者は履修できないので注意すること。

B. 昭和63年度以前入学生適用（4科目16単位）

2 年 次 必 修		
授 業 科 目	単 位	備 考
経 済 原 論 I	4	
経 済 原 論 II	4	
経 済 史	4	
経 済 政 策	4	

選択科目の卒業所要単位数

- A. 平成元年度以降入学生適用（60単位以上）
- B. 昭和63年度入学生適用（64単位以上）
- C. 昭和62年度以前入学生適用（68単位以上）

商 学 科

必修科目

A. 平成元年度以降入学生適用（4科目16単位）

1 年 次 必 修			3 年 次 必 修		
授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
会 計 学 総 論	4		時 事 外 国 語	4	
2 年 次 必 修					
商 学 総 論	4				
経 営 学 総 論	4				

時事外国語について

時事外国語は、1年次と2年次で履修した外国語（英語と他の1か国語）の中から選択履修すること。なお、外国人留学生の「母語」での履修は認めない。

履修方法

① 受講希望科目（担当者）の決定

成績発表時に配布される授業時間表・履修要項（講義内容）を参考に、受講を希望する科目（担当者）を事前に決めておく。

② 受講申込み

本人が所定の期日・場所で受講希望科目（担当者）を申込み

- ・期 日 4月12日（火）
- ・場 所 1-301教場
- ・時 間 13:00~15:00
- ・方 法 時事外国語履修許可書（当日配布）に受講許可印を押印してもらう。
（先着順にて定員締切あり）
- ・持参する物 学生証，授業時間表

③ 教務部へ時事外国語履修許可書提出

所定期日に履修届と共に時事外国語履修許可書を提出する。ただし、受講許可印のない者は履修できないので注意すること。

B. 昭和63年度以前入学生適用（3科目12単位）

1 年 次 必 修			2 年 次 必 修		
授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
会 計 学 総 論	4		商 学 総 論	4	
			経 営 学 総 論	4	

選択科目の卒業所要単位数

- A. 平成元年度以降入学生適用（64単位以上）
- B. 昭和63年度入学生適用（68単位以上）
- C. 昭和62年度以前入学生適用（72単位以上）

選 択 科 目 一 覧 (経済・商学科共通)

1 年 次 選 択			3・4 年 次 選 択			3・4 年 次 選 択		
授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
会 計 学 総 論	4	※イ	国 民 所 得 論	4		貿 易 論	4	
2 年 次 選 択			景 気 変 動 論	4		貿 易 実 務	4	
経 済 原 論 I	4	※ロ	日 本 経 済 史	4		証 券 市 場 論	4	
経 済 原 論 II	4	※ロ	経 済 地 理	4		保 険 論	4	
統 計 原 論	4		国 際 経 済 論	4		交 通 論	4	
経 済 史	4	※ロ	農 業 政 策	4		商 品 学	4	
経 済 政 策	4	※ロ	工 業 政 策	4		経 営 管 理 論	4	
商 学 総 論	4	※イ	財 政 学	4		労 務 管 理 論	4	※へ
商 業 史	4	休 講	財 政 政 策	4	※ニ	財 務 管 理	4	
経 営 学 総 論	4	※イ	金 融 論	4		原 価 計 算 論	4	休 講
簿 記 論	4		国 際 金 融 論	4		会 計 監 査 論	4	
財 務 会 計 論	4		銀 行 論	4		管 理 会 計 論	4	
憲 法	4		社 会 政 策	4		税 務 会 計 論	4	
民 法 一 部	4	総則物権	労 働 経 済 論	4	休 講	民 法 二 部	4	債 権
演 習 I	4		中 小 企 業 論	4		商 法 一 部	4	総則会社法
3 年 次 選 択			人 口 論	4		商 法 二 部	4	商行為・手形 ・小切手法
原 書 講 読 I	4		教 育 経 済 論	4		労 働 法	4	
演 習 II	4		日 本 経 済 論	4		経 済 法	4	
4 年 次 選 択			ア ジ ア 経 済 論	4		現 代 経 済 事 情 I	2	半 期
原 書 講 読 II	4		中 国 経 済 論	4		現 代 経 済 事 情 II	2	半 期
演 習 III	4		ア メ リ カ 経 済 論	4		現 代 経 済 事 情 III	2	半 期
3・4 年 次 選 択			ヨ ー ロ ッ パ 経 済 論	4		現 代 経 済 事 情 IV	2	半 期
経 済 学 史	4	※ハ	ロ シ ア ・ 東 欧 経 済 論	4	※ホ			
価 格 理 論	4		商 業 政 策	4				
			マ ー ケ テ ィ ン グ	4				

※イ、「会計学総論」・「商学総論」・「経営学総論」経済学科の学生に限り適用。

※ロ、「経済原論Ⅰ」・「経済原論Ⅱ」・「経済史」・「経済政策」商学科の学生に限り適用。

※ハ、「経済学史」 旧「経済学史Ⅰ」経済学史Ⅰの単位を修得した学生は履修できない。

※ニ、「財政政策」 旧「財政政策論」財政政策論の単位を修得した学生は履修できない。

※ホ、「ロシア・東欧経済論」 旧「ソビエト経済論」ソビエト経済論の単位を修得した学生は履修できない。

※へ、「労務管理論」 旧「労務管理」労務管理の単位を修得した学生は履修できない。

〔廃講科目〕

「経済学史Ⅱ」

現代経済事情の履修方法

- 履修科目の登録をする場合、「制限科目数」の計算においては、2科目で1科目分とみなす。
(1科目…1科目分, 2科目…1科目分, 3科目…2科目分, 4科目…2科目分)
- 『履修届』用紙の合計科目数欄には、受講する全ての科目数の実数を記入すること。

6. 他学部科目の履修方法

所属している学科以外の学科，他学部または短期大学の授業科目の履修を希望する学生は，次の要領で履修することができる。

なお，履修に際しては授業科目担当教員の受講許可を必要とする。

イ. 履修科目

他学部・他学科または短期大学に開設されている授業科目のうち，他学部履修科目として公開された授業科目の中から所属学科が履修を認めた授業科目とする。（他学部履修科目一覧表P.16参照）

ロ. 履修年次

3・4年次生を対象とし，授業科目開設学科の定める年次とする。

ハ. 履修科目数

履修できる科目数は，卒業までに3科目12単位以内とする。

なお，その履修科目は所属学科の履修制限科目数に含める。

ニ. 履修方法

(1) 「履修要項」の講義内容を参考に，『他学部履修科目授業時間表』の中から履修科目を選択し，『他学部履修願』用紙に必要事項を記入の上，必ず最初の授業に出席し担当教員の受講許可を受ける。

なお，『他学部履修科目授業時間表』および『他学部履修願』用紙は，教務部⑩番窓口で配布する。

(2) 『履修届』に記入し，『履修許可書』を添えて，所定の期日（履修届提出時）に提出すること。

ホ. 履修登録上の注意

(1) 所属学科の開設科目は，他学部科目として履修登録できない。

(2) 他学部科目は，『他学部履修科目授業時間表』に記載の専用コード（005…）で登録すること。

(3) 同一名称（開設学科が異なる）の授業科目は，1科目のみ履修することができる。

ヘ. 再履修

他学部科目が不合格となり再度履修を希望する場合は，改めて前項の手続きを経なければならない。

なお，再履修の取扱いについては『再履修科目の履修方法』（P.17）を参照のこと。

ト. 単位認定

修得した単位は，所属学科の専門教育科目の選択科目の単位として認定し，卒業所要単位に算入することができる。

他学部履修科目一覧表

開設学科	授業科目	単位	履修年次	備考	開設学科	授業科目	単位	履修年次	備考	
禅学 科	禅学特講Ⅰ	4	3・4		歴史 学 科	日本仏教史Ⅱ	4	3・4		
	禅学特講Ⅱ	4	3・4			日本史特講Ⅶ(近代)	4	3・4		
	禅学特講Ⅲ	4	3・4			東洋史特講Ⅹ(近・現代)	4	3・4		
	禅学特講Ⅳ	4	3・4			西洋文化史Ⅰ	4	3・4		
	禅学思想史	4	3・4			考古学特講Ⅲ	4	3・4	隔年開講	
	哲学史	4	3・4			歴史哲学	4	3・4		
仏教 学 科	インド仏教史	4	3・4		社会 学 科	哲学史	4	3・4		
	中国仏教史	4	3・4			日本民俗学	4	3・4		
	日本仏教史	4	3・4			マスコミュニケーション	4	3・4		
	日用経典	4	3・4			産業社会学	4	3・4		
	仏教美術	4	3・4			都市社会学	4	3・4		
国文 学 科	現代哲学概説	4	3・4		法律 学 科	社会福祉発達史	4	3・4		
	上代文学	4	3・4			行政法Ⅱ	4	3・4		
	中世文学	4	3・4			民法Ⅳ(1)	4	3・4		
	近世文学	4	3・4			民法Ⅳ(2)	4	4		
	近代文学	4	3・4			比較憲法	4	3・4		
英米 文 学 科	中国文学	4	3・4		政 治 学 科	地方自治法	4	3・4	休講	
	英文学特講Ⅰ	4	3・4			国際関係論	4	3・4		
	英文学特講Ⅱ	4	3・4			西洋政治史	4	3・4		
	英文学特講Ⅲ	4	3・4			宣伝広告論	4	3・4		
	英文学特講Ⅳ	4	3・4			比較社会構造論	4	3・4	休講	
	英文学特講Ⅴ	4	3・4		経 営 学 科	政党論	4	3・4		
	英文学特講Ⅵ	4	3・4			商業史	4	3・4		
	英米演劇特講	4	3・4			国際経営論	4	3・4		
	米文学特講Ⅰ	4	3・4			経営統計	4	3・4		
	米文学特講Ⅲ	4	3・4			経営分析論	4	3・4		
地理 学 科	時事英語	4	3・4		短 大 国 大 科	国文講読Ⅰ(上代)	2	3・4		
	地質学	4	3・4			国文講読Ⅱ(中古)	2	3・4		
	地形学Ⅰ	4	3・4			国文講読Ⅲ(中世)	2	3・4		
	人口地理学	4	3・4			国文講読Ⅳ(近世)	2	3・4		
	応用地理学Ⅰ	4	3・4			国文講読Ⅴ(近・現代)	2	3・4		
	文化地理学	4	3・4		短 大 国 大 科	国文特講Ⅴ(近・現代)	4	3・4		
						英文タイプライティングⅡ	2	3・4		
						時事英語	4	3・4		
						短放射線	計算機言語概論	2	3・4	半期科目 ※
						大科	臨床放射線特講Ⅰ	2	3・4	半期科目
						応用計測学	2	3・4	半期科目	

※「計算機言語概論」については、機器数の関係上選抜により受講者を決定する。

7. 随意科目の履修方法

各学科とも2・3・4年次で履修することができるが、卒業に必要な単位に含めることができない。

授業科目	単位	備考	授業科目	単位	備考	授業科目	単位	備考
比較思想特講	4		ロシア語 F	2		中国語FLL(初級)	2	
英会話Ⅱ	2	※	英語 L L Ⅱ	2	※	中国語FLL(中級)	2	
ドイツ語 F	2		ドイツ語FLL(初級)	2		スペイン語FLL(初級)	2	
フランス語 F	2		ドイツ語FLL(中級)	2		スペイン語FLL(中級)	2	
中国語 F	2		フランス語FLL(初級)	2		ロシア語FLL(初級)	2	
スペイン語 F	2		フランス語FLL(中級)	2		ロシア語FLL(中級)	2	

※ 「英会話Ⅱ」・「英語 L L Ⅱ」の履修を希望する者は、最初の授業に『履修届』用紙を持参し、担当教員の捺印を受けること。

8. 再履修科目の履修方法

- イ. 再履修とは、前年度履修登録し単位を修得できなかった授業科目（受験しなかった科目を含む）を再度履修することをいう。
- ロ. 再履修する場合、授業科目名が同じであれば、担当教員に変更があっても同一科目の再履修となる。
- ハ. 再履修の授業科目は、新履修の授業科目と同時に届け出なければならない。
- ニ. 外国語科目・体育実技Ⅰ・保健体育理論および宗教学Ⅰを再度履修する場合は、それぞれの「再履修クラス」（本校で授業を行う）で履修すること。ただし、「英会話Ⅰ」・「英語 L L Ⅰ」については、当該科目の振替科目である「英語ⅠA」を再履修クラスで履修すること。
- ホ. 外国語科目の再履修は『外国語再履修科目授業時間表』（教務部⑩番窓口で配布）から履修し、最初の授業で『外国語再履修票』を提出して担当教員の許可を受けること。ただし、原級者が同級学年の科目を再履修する場合は正規クラスで履修すること。この場合の外国語科目は、『外国語再履修票』を必要としない。
- ヘ. 1年次生は「再履修クラス」を履修することはできない。

※「日本語」・「日本事情」科目の履修方法

『外国人留学生』及び『海外帰国子女』の一部を対象とする科目で、原則として1・2年次において履修すること。

- 日本語科目は、各所属学科の定めるところにより第1外国語または第2外国語として履修すること。修得単位は、外国語科目の卒業所要単位に算入する。
- 日本事情科目の修得単位は、8科目16単位を超えない範囲で一般教育科目の卒業所要単位に算入する。
- 各所属学科の定める一般教育科目および外国語科目の代替できる単位の範囲を超えて履修した場合は、これを随意科目として単位認定する。

（注）詳細は、『日本語・日本事情科目の履修要項』を参照すること。

※ 授業科目のコード番号について

科目コードは6桁の数字とし、その各位の数字に次の意味を持たせている。

イ. 科目コードの区分

--	--	--	--	--	--

学部 学科 系列 分野 一連番号

ロ. 学部・学科番号は「学生番号 (P. 30参照)」での説明のとおりである。

ハ. 系列・分野区分

授業科目の区分	系列番号	分 野 番 号
一般教育科目	0	
人文分野		1 (必修)・2 (選択)
社会分野		3
自然分野		4
基礎教育科目	1	3
外国語科目	2	
保健体育科目	4	
実 技		1
講 義		2
専門教育科目	5	
必修科目		1・2・3
選択科目		5・6・7・8
随意科目	7	
再履修科目	8	
課程・講座科目	9	
必修科目		1
選択科目		2
教科科目		3・4・5・6・7・8

Ⅳ 履修科目の登録（履修届）とその作成順序

1. 履修科目の登録

所属する学科、学年に開講されている授業科目のうち履修を希望する科目を授業時間表から選び、所定の『履修届』用紙に必要事項を記入し届け出ることにより、通年（または半期）授業を受けることができる。

I) 各年次において履修できる授業科目数（制限科目数）は原則として次のとおりである。

A. 平成元年度以降入学生適用

年 次	履 修 科 目 数	再履修を含む科目数
1 年 次	14 科 目	—
2 年 次	5科目以上12科目以内	制 限 内
3 年 次	5科目以上11科目以内	制 限 内
4 年 次	5科目以上14科目以内	制 限 内

B. 昭和63年度以前入学生適用

年 次	履 修 科 目 数	再履修を含む科目数
1 年 次	15 科 目	—
2 年 次	5科目以上12科目以内	制 限 内
3 年 次	5科目以上12科目以内	制 限 内
4 年 次	5科目以上14科目以内	制 限 内

イ. 体育実技Ⅱ，課程・講座科目，随意科目は，上記表の制限外とする。

ロ. 制限範囲内で順次履修すれば，課程・講座科目の履修や未・再履修科目の補充も制限科目数の範囲内で十分可能となる。

ハ. 半期科目も1科目とする。ただし，「現代経済事情」は，2科目で1科目分とみなす。（現代経済事情の履修方法P.14参照）

II) 登録上の注意

イ. 履修届は必ず本人が記入捺印し，指定された日時に学生証提示の上提出すること。（提出しない場合は，学業の意志のないものとして処理する。なお，指定日時に提出できないものは事前に教務部⑨番窓口で相談すること。）

ロ. 履修届は，4月21日（木）9時30分から16時まで教務部臨時窓口で受付ける。

ハ. 所属する学科以外の授業科目は登録できない。ただし，他学部履修科目（P.16参照）は，履修登録できる。

また，教職課程・資格講座等資格取得のため必要な科目は課程・講座科目として登録できるが，その場合は『課程・各種講座授業時間表』（教職係窓口で配布）から履修し，教職係窓口で受講承認印を受けてから提出すること。

ニ. 履修登録をしない授業科目はたとえ聴講，受験しても単位は与えない。

ホ. いったん提出（登録）した履修科目の変更は認めない。

ヘ. 『履修届』用紙の注意事項をよく読んで間違いのないように登録すること。

Ⅲ) 履修確認表の配布

下記の日・時に教務部臨時窓口において履修確認表を配布する。

(記) 5月18日(水)・19日(木)…… 9:30~16:00 昼休み除く

履修届(本人控)と照合の上、誤りのある場合は、5月30日(月)・31日(火)・6月1日(水)の期間に教務部⑨番窓口で必ず訂正すること。

※ 受付時間(9:30~16:00 昼休み除く、土曜日は9:30~正午まで)

2. 履修届記入上の注意

授業時間表(例)

曜日	時限	科目名	科目コード	担当者コード	担当者名
月	1	ドイツ語ⅠA	312201	879	百済 勇
月	2	保健体育理論(前期)	314201	A10	長濱 友雄
		保健体育理論(後期)	314201	622	
月	3	宗教学Ⅰ	310101	157	岡部和雄
月	4	論理学	310203	306	国嶋一則
月	5	自然科学概論	310401	104	宇和川正人

正しい記入例

曜日	時限	再履	科目名	科目コード	担当	担当コード
月	1		ドイツ語ⅠA	312201	百済	879
月	2		保健体育理論(前期)	314201	長濱	A10
			保健体育理論(後期)	314201	長濱	A10
月	3		宗教学Ⅰ	310101	岡部	157
(1)	4	○	論理学	310203	国嶋	306
	5		自然科学概論	310401	宇和川	104

イ. 楷書体で正確に記入すること。

ロ. 記入の際は、必ず黒のボールペンを使用し、捺印の上提出すること。

ハ. 授業時間表のとおり記入すること。ただし、「担当」欄には、担当教員の姓のみを記入すること。

ニ. 半期終了の科目は「再履」から「担当コード」欄までの中央に点線(上記、正しい記入例参照のこと)を入れ、前期終了科目は上段に後期終了科目は下段に記入すること。

ホ. 再履修科目がある場合は、再履欄に○印をつけること。

ヘ. 履修届は電算機で処理しているため、下記の場合には、登録が無効となるので注意すること。

(1) 科目名・科目コード、担当名(姓のみ)・担当コードが一致しない場合

(2) 時限を誤って記入した場合

(3) 判読できない数字で記入した場合(例として間違い易い数字 0と6, 1と7)

(4) その他、不明瞭に記入した場合

ト. 体育実技の記入方法は、授業時間表に載っている科目コード・担当名(姓のみ)・担当コードを正しく記入すること。

チ. 自己の責任において、必ず指定された日・時・場所に提出すること。

リ. 履修届の本人控を正確に記入し、紛失ないように保管すること。

3. 履修届（時間割）の作成順序

履修要項・授業時間表により、各自がそれぞれの学年次の履修科目を決定する訳であるが、その場合必修科目、選択必修科目、選択科目の順序で決定すること。また、一般教育科目・外国語科目・保健体育科目および基礎教育科目は1・2年次で所定の単位を修得し、上級学年に進むに従い専門教育科目、教職課程・資格講座科目等を多く履修することが望ましい。

1年次生の場合、次の順序で履修する科目を決定すると容易である。

経済学科

順序	授業区分	授業科目（適用）	科目数
1	一般教育科目	宗教学I（必修）	1
2	外国語科目	第1外国語, 第2外国語（選択必修）	4
3	保健体育科目	保健体育理論（半期）, 体育実技I（必修）	2
4	基礎教育科目	経済学概説（必修）	1
5	一般教育科目	人文分野 } 開講科目の中から5または6科目を選択必修 社会分野 } (不足単位は2年次で履修) 自然分野 }	6
	専門教育科目	会計学総論（選択）	
1年次履修制限科目数			14

商学科

順序	授業区分	授業科目（適用）	科目数
1	一般教育科目	宗教学I（必修）	1
2	外国語科目	第1外国語, 第2外国語（選択必修）	4
3	保健体育科目	保健体育理論（半期）, 体育実技I（必修）	2
4	基礎教育科目	経済学概説（必修）	1
4	専門教育科目	会計学総論（必修）	1
6	一般教育科目	人文分野 } 開講科目の中から5科目を選択必修 社会分野 } (不足単位は2年次で履修) 自然分野 }	5
1年次履修制限科目数			14

4. 授業時間

授業時間は、次のとおりである。

時限	第1時限	第2時限	第3時限	第4時限	第5時限
時間	9:00~10:30	10:40~12:10	12:50~14:20	14:30~16:00	16:10~17:40

V 試験および成績評価

1. 定期試験

イ. 前期で終了する授業科目の定期試験は7月14日(木)～7月20日(水)に、後期および通年の授業科目の定期試験は1月17日(火)～2月3日(金)に実施する。

ロ. 正規の手続きを経て履修登録した授業科目のみ受験できる。

ハ. 筆記試験のかわりにレポートの提出を課せられた場合は、論題、枚数、提出日時、提出先等をよく確認の上、表紙に科目名・担当教員名・論題・学科・学年・学生番号・氏名を明記し、読み易くとじた上で提出すること。

なお、指定された日・時以外は一切受理しない。

ニ. 試験時間割は、原則として平常の講義の時限とし、時間および教場等については提示で発表する。

(注意) 試験場は平常の授業教場と異なる。特に集中試験(同一科目を一括して行う試験)は平常時間割と曜日、時限とも変わるので掲示に十分注意すること。

2. 中間試験

授業科目担当教員が中間考査として任意に行う試験(レポート提出を含む)のことをいう。従って試験は平常の授業に準じて行う。

3. 追・再試験

I) 追 試 験

イ. 追試験は、やむを得ない理由があり定期試験(期間外実施・レポート提出を含む)を欠試した場合受験することができる。その場合、欠試者は所定の欠試届にその理由を記入し、自分の全ての試験終了後直ちに届け出ること。〔締切日は前期7月25日(月)、後期2月6日(月)〕

ロ. 追試験料は徴収しない。

II) 再 試 験

1・2・3年次生については、再試験は一切実施しない。

卒業年次生に限り下記により実施する。

イ. 卒業年次に履修登録した科目の定期試験(期間外実施・レポート提出を含む)を受験し、不合格となった科目は願い出により受験することができる。

ロ. 受験料は1科目1,000円とする。

(注意) 前期終了科目の追・再試験は9月26日(月)～10月1日(土)に、後期および通年科目の追・再試験は卒業年次生・在校生とも2月23日(木)～3月1日(水)に実施する。

III) 体育・外国語科目・その他

イ. 体育実技、演習は追・再試験ともこれを行わない。

ロ. 外国語科目についても追・再試験は行わない。ただし、定期試験を欠試した者は当該科目試験終了後直ちに担当教員に申し出て指導を受けること。

4. 受験心得

- イ. 当該受験科目を履修登録していること。
- ロ. 指定された日・時・試験場（教場）で受験すること。
- ハ. 学生証を携帯していない学生は受験できない。
- ニ. 学生証は試験中、机の上に提示しておくこと。
- ホ. 試験開始後30分を超えて遅刻した学生は受験できない。
- ヘ. 試験開始後30分を経過し、受験者名簿に氏名を記入するまで退場できない。
- ト. 学部・学科・学年・学生番号・氏名の記入はペンまたはボールペン書きとする。
- チ. 無記名の答案は無効となるので注意すること。
- リ. 配布された答案用紙は必ず提出し、試験場外へ持ち出してはならない。
- ヌ. 試験場（教場）においては、すべて試験監督員の指示に従うこと。
- ル. 試験場（教場）の秩序を乱したり、試験実施の妨げとなる行為をした場合は退場を命じる。
- ヲ. 試験において下記のような不正受験行為があった場合は、「不正受験行為者処分規程」により処分されるので注意すること。
 - (1) 代人として受験したり、または代人受験を依頼すること。
 - (2) 使用が許可されていないノート・テキスト・参考書・六法・辞書等を使用すること。
 - (3) 所持品その他への事前の書き込みや机・壁等への書き込みを利用すること。
 - (4) 他人の答案をのぞき見て書き写したり、書き写しさせること。
 - (5) 私語及び動作・メモその他の方法で連絡をしたり、連絡を受けること。
 - (6) 試験中にノート・テキスト・参考書・六法・辞書等を貸借すること。
 - (7) 答案用紙をすり替えたり、すり替えさせること。
 - (8) その他上記に類似する行為をすること。
- ワ. 学生証を忘れた場合は仮受験票により受験することができる。仮受験票の発行については、教務部⑨番窓口にて手続きをすること。

5. 成績評価・単位認定

- イ. 定期試験の成績は、優(100点～80点)、良(79点～70点)、可(69点～60点)および不可(59点～0点)とし、優、良、可を合格、不可は不合格として発表する。
なお、素点に関する問い合わせは一切受付ない。
- ロ. 所定の授業時間数の3分の2以上授業に出席し、合格の成績評価を得た授業科目については所定の単位を認定する。
- ハ. 追試験の成績評価は定期試験に準ずる。
- ニ. 再試験(4年次生のみ)の成績評価は良(70点)以下とする。

6. 試験時間

定期試験実施時間（前期）	
1時限 9:20～10:20	4時限 14:40～15:40
2時限 10:50～11:50	5時限 16:10～17:10
3時限 13:10～14:10	

定期試験実施時間（後期）	
1時限 9:30～10:30	4時限 14:30～15:30
2時限 11:00～12:00	5時限 15:50～16:50
3時限 13:00～14:00	

追・再試験実施時間（前期）
1時限 16:10～17:00
2時限 17:10～18:00

追・再試験実施時間（後期）
1時限 9:30～10:20
2時限 10:50～11:40
3時限 13:00～13:50
4時限 14:10～15:00
5時限 15:20～16:10

試験実施規程（抜粋）が掲載されている（P.34）ので参照のこと。

7. 成績発表

- イ. 前期終了科目・後期および通年授業科目の定期試験の結果は書類で発表する。
- ロ. 成績の質疑については、成績質疑応答期間内に教務部⑨番窓口にて相談すること。ただし、評価の質疑については直接担当教員に申し出て相談すること。
- ハ. 成績発表を受けるときは必ず学生証を提示すること。

前期成績発表 9月16日（金）、19日（月）

後期成績発表（卒業年次生） 2月17日（金）、18日（土）

“（在校生） 4月9日頃

VI 進級について

上級学年に進級するためには、進級規程に定める各学年所定の単位を修得していなければならない。修得した単位数により進級および注意進級とし、基準単位数に達しない場合は原級留置とする。

- 注意進級とは、進級の基準単位数には達していないが教育指導のうえ進級を認めるものである。
これによる進級者は、修得単位数が少ないために次年度に原級留置となったり、卒業が困難となる場合もあるので、十分反省して勉学に努める必要がある。
- 修得単位数が注意進級の基準単位数に達しない場合は、原級とし、同一学年に留め置くものとする。

A. 平成元年度以降入学生適用

修得単位基準表

	1年次から2年次	2年次から3年次	3年次から4年次
進 級	30単位以上	60単位以上	86単位以上修得し、一般教育科目・保健体育科目・外国語科目を全て修得していること。
注 意 進 級	29～20単位	59～50単位	86単位以上修得しているが、一般教育科目・保健体育科目・外国語科目が1～12単位不足している場合。
原 級 留 置	19単位以下	49単位以下	85単位以下。または86単位以上修得しているが、一般教育科目・保健体育科目・外国語科目が、13単位以上不足している場合。14科目を履修しても卒業所要単位を取得できない場合。

※ 各科目区分・分野における卒業所要単位を超える単位を除いた修得単位数を計算する。

※ 随意科目・課程・講座の修得科目を除く。

B. 昭和63年度以前入学生適用

修得単位基準表

	1年次から2年次	2年次から3年次	3年次から4年次
進 級	30単位以上	60単位以上	90単位以上修得し、一般教育科目・保健体育科目・外国語科目を全て修得していること。
注 意 進 級	29～20単位	59～50単位	90単位以上修得しているが、一般教育科目・保健体育科目・外国語科目が1～16単位不足している場合。
原 級 留 置	19単位以下	49単位以下	89単位以下。または90単位以上修得しているが、一般教育科目・保健体育科目・外国語科目が、17単位以上不足している場合。

※ 各科目区分・分野における卒業所要単位を超える単位を除いた修得単位数を計算する。

※ 随意科目・課程・講座の修得科目を除く。

VII 教職課程・資格講座

経済学部で開講されている資格取得のための課程・講座は、次のとおりである。

課程・講座名	開講年次	備 考
教 職 課 程	2年次より	教員資格取得のためのもので教職課程の所定単位を修得した者は、中学校1種・高等学校1種の各普通免許が取得できる。
学校図書館司書教諭講座	"	学校教育を充実することを目的とする学校図書館の専門職としての資格。
社会福祉主事講座 社会福祉士基礎	"	社会福祉を増進させるための機関等における専門職としての資格。(社会福祉士の基礎科目も修得可能)
社会教育主事講座	"	社会教育活動を行う者に対し、求めに応じて専門的・技術的な助言と指導を与える教育専門職としての資格。

教職課程・資格講座の履修希望者は、1年次の秋(11月中旬)に実施するガイダンスに出席し、教職課程・資格講座の「履修要項」および「課程・講座受講登録カード」を受け取ること。

(授業科目の講義内容は履修要項の講義内容を参照すること。)

なお、ガイダンスの日時等については、実施1か月前から掲示板で、その旨指示する。

VIII 事務取扱いについて

1. 事務室の事務受付時間

- イ. 事務受付時間は、9時から16時30分（土曜日は12時）までとする。ただし、昼食休憩時間は12時から13時とし、この時間は事務受付を休止する。
- ロ. 履修届提出・成績発表等各申込の受付は、9時30分から16時までとする。

2. 休 講

- イ. 休講は担当教員より連絡があり次第、休講掲示板（教務部事務室前ロビー）に掲示する。従って、教場の黒板に書いて休講の連絡はしない。始業時間より30分以上経過しても連絡のない場合は、教務部⑩番窓口申し出てその指示を受けること。
- ロ. 運輸機関のストライキによる休講措置については午前7時現在、JR東京近郊区間（山手・中央・京浜東北）もしくは東急がストライキを行っている場合の授業は全面休講とする。

3. 掲示・連絡

学生に対する公示・告示および学習上周知を要する事項は、すべて掲示板に発表するので、登校・下校の際は、必ず掲示板を見ること。また、学生個人に対する伝達事項も、掲示または、郵便・電話で連絡するので遅滞なくその指示に従うこと。

4. 問い合わせ

事務室への電話による質問（行事予定、休講、授業、学籍、試験、成績、その他）は、間違いを生じやすく事務に支障も生ずるので一切応じない。必要があるときは、必ず登校のうえ、掲示板を見るか、関係事務室窓口で問い合わせること。

IX 学籍について

1. 修業年限と在学年数

- イ. 修業年限とは、大学の教育課程修了に必要な期間のことをいう。(本大学の修業年限は4年)
- ロ. 在学年数とは、大学において学生の身分を有することができる期間のことで、本大学の在学年数は休学期間を除き7年と定めている。

2. 休 学

傷病その他の事由で引き続き2か月以上修学することができないときは、理由を付し、保証人連署のうえ願い出て休学の許可を得なければならない。

I) 休学の手続き

- イ. 休学願に添えて次の書類を提出すること。
 - (1) 傷病の場合は、医師の診断書
 - (2) 外国で修学する場合は、修学先・修学目的・在留期間を証明する書類および在留地届
 - (3) その他の理由の場合は、事前に窓口で相談の上、保証人連署の休学を必要とする理由書
- ロ. 休学の手続き期限は当該年度の11月30日までとする。
- ハ. 休学理由が休学許可日より2か月未満の期間内に消滅したときは、保証人連署の休学取り下げ願により休学を取り消すことがある。

II) 休学の期間

- イ. 休学の期間は1学年を区分し、休学の許可を受けた日から当該年度の3月31日までとする。
- ロ. 引き続き休学を要する特別な事情があるときは、許可を得てさらに1年に限り休学することができる。
- ハ. 休学期間は通算4年を超えることはできない。
- ニ. 休学が許可された年度は在学年数に算入しない。

III) 休学する場合の学費

休学を願い出る者は当該期の学費を納入していること。

休学願提出日	学 費
4月1日～9月20日	第1期(前期)分納入済のこと。(第2期分免除)
9月21日～11月30日	第1期(前期)分・第2期(後期)分共納入のこと。

IV) 休学原級

休学を許可された者は、翌年度は現学年に原級留置とする。

3. 復 学

- イ. 休学した者が復学する場合は、第1期(前期)学費を納入の上、保証人連署の復学願を4月10日までに提出し許可を得ること。
- ロ. 傷病で休学した場合は、通学可能なことを証明する医師の証明書を添えること。

4. 退 学

傷病その他やむを得ない事由で退学しようとする者は、所定の退学願を提出し許可を得ること。

イ. 退学願は、退学理由を付し保証人連署で願い出ること。

ロ. 退学願提出時に学生証を返却すること。

ハ. 退学年月日は次のとおりとする。

- (1) 当該期学費納入者 …… 退学願提出日
- (2) 当該期学費未納者 …… 学費納入済学期の最終日

5. 除 籍

次の事項に該当する者はこれを除籍する。

イ. 在学年数を越えた者

ロ. 休学期間を越えた者

ハ. 学費の納付を怠り、督促を受けてもなお納入しない者

6. 懲 戒

イ. 本大学の学則等に違反し、その他学生の本分に反する行為があった場合、情状により譴責、停学、退学の処分をする。

ロ. 退学処分は次の事項のいずれかに該当する者に対して行う。

- (1) 性行不良で、改善の見込みがないと認められる者
- (2) 学力劣等で成業の見込みがないと認められる者
- (3) 正当の理由がなくて出席常でない者
- (4) 本大学の秩序を乱し、その他学生としての本分に反した者

7. 編 入 学

本大学卒業者（卒業見込者を含む）または2年以上在学した者（在学中の者を含む）で、同一学部その他学科または他の学部学科の3年次に編入学を希望する者があるときは、選考の上入学を許可することがある。

ただし、編入学者の学年は、単位を修得した授業科目によっては、2年次となる場合がある。

8. 再 入 学

本大学を退学した者または除籍された者で、再入学を希望する者があるときは選考の上許可することがある。

イ. 入学後1年未満で退学した者または除籍された者は対象としない。

ロ. 退学または除籍後3年以内の者とする。（出願時を基準とする）

ハ. 再入学者の在学年数は、従前在学した年数と通算し7年以内とする。

9. 転部・転科

本大学の学生で、同一学部その他学科または他の学部学科に転科もしくは転部を希望する者があるときは、選考の上許可することがある。（学科により異なる）

転部・転科した者の在学年数は、転部・転科した年次にかかわらず、入学の時期から通算する。

10. 留 学

本大学の学生で、外国の大学または短期大学の授業科目の履修を希望する者があるときは、教授会の議を経てこれを許可することがある。

- イ. 履修した授業科目の修得単位については、本大学において修得したものとみなし、卒業所要単位に算入することができる。
- ロ. 留学期間は在学年数に算入する。

11. 学生氏名・保証人

- イ. 学生氏名は、住民票記載事項証明書または外国人登録済証明書に基づき J I S 第 1 水準・第 2 水準文字で運用する。
- ロ. 外国人登録済証明書に記載されている通称名の使用を希望する者は、願い出て許可を得ること。
- ハ. 通称名使用の許可を得た者は、本大学在学中一貫して通称名を使用することとし、本大学発行の証明書、成績表、各種名簿等はすべて通称名で表示する。
- ニ. 保証人は原則として、父、母とし、やむをえない場合は独立の生計を営む親族あるいは縁故者とする。
- ホ. 保証人は、学生の在学中の一切の事項について責任を負うものとする。
- ヘ. 学生・保証人の氏名住所等に変更があったときは、すみやかに所定の変更届を提出すること。

12. 学生番号

- イ. 学生番号は在学中はもとより、卒業後も不変の本人固有番号となるので正確に覚えておくこと。
- ロ. 学生番号は 6 桁の数字からなっていて、その各位の数字に次の意味を持たせてある。

学生番号区分

：	：	：	}		
学	学	入	一		
部	科	学	連		
		年	番		
		度	号		
		曆			
		（	）		

(例) 1994年度入学・経済学部
経済学科14番の場合

3	1	4	0	1	4
：	：	：	}		
経	経	一	14		
済	済	九	番		
学	学	四			
部	科	年			
		入			
		学			

学部・学科の番号

学部・学科名	学部番号	学科番号
仏 教 学 部	1	
禅 学 科		1
仏 教 学 科		2
文 学 部	2	
国 文 学 科		1
英 米 文 学 科		2
地 理 学 科		3
歴 史 学 科		4
社 会 学 科		5
経 済 学 部	3	
経 済 学 科		1
商 学 科		2
法 学 部	4	
法 律 学 科		1
政 治 学 科		2
経 営 学 部	5	
経 営 学 科		1

X 既修得単位の認定について

イ. 新たに第1年次に入学した者

- (1) 他の大学または短期大学（外国の大学または短期大学を含む）を卒業または中途退学し、新たに本学の第1年次に入学した者は、従前在学した大学等において修得した授業科目の単位のうち、一般教育科目、外国語科目および保健体育科目については、合計30単位を超えない範囲で本大学において修得した単位として認定を受けることができる。
- (2) 既修得単位の認定を受けようとする者は、申請書（所定様式）に成績（単位修得）証明書を添えて、教務部長に願出しなければならない。
- (3) 既修得単位の認定は、教務部長を経て当該教授会がこれを行う。

ロ. 編入学者

従前在学中に修得した授業科目の単位は、提出された成績（単位修得）証明書により当該教授会が認定する。

ハ. 再入学者

従前在学中に修得した全授業科目の単位を認定する。

ニ. 転部・転科者

従前在学中に修得した授業科目の単位は、提出された成績（単位修得）証明書により当該教授会が認定する。

ホ. 留学者

本学から外国の協定校・認定校へ派遣された学生が、留学先で修得した授業科目の単位は、提出された成績（単位修得）証明書・履修要項等により当該教授会が認定する。認定した単位は、卒業所要単位に算入される。

XI 届書・願書について

(教務部扱いのもの)

種 類	要 領 (必 要 書 類)	本人 印	保証 人印	取扱 窓口	
届 書	履 修 届	・所定用紙あり ・各年度に単位修得しようとする授業科目を指定 期日に必ず届け出ること	要	不要	掲示
	欠 試 届	・所定用紙あり ・本人履修全科目の試験終了後直ちに届け出ること (締切日は掲示参照)	不要	不要	⑨
	改 氏 名 届	・所定用紙あり ・戸籍抄本添付 ・変更後 1 週間以内	要	不要	⑤
	本籍地(都道府 県名)変更届	・所定用紙あり ・住民票記載事項証明書添付 ・変更後 1 週間以内	要	不要	
	保証人変更届	・所定用紙あり ・在学誓書(保証書)添付	要	要	
	保証人住所変更届	・所定用紙あり ・変更後 1 週間以内	不要	不要	
	死 亡 届	・所定用紙あり ・死亡を証明できる書類(写し可)添付	/	要	
願 書	休 学 願	・所定用紙あり ・傷病による場合は、医師の診断書添付 ・外国で修学する場合は、修学先・修学目的・在 留期間を証明する書類および在留地 ・その他の場合は、保証人連署の理由書	要	要	⑤
	復 学 願	・所定用紙あり ・傷病による休学をした場合は、医師の通学可能 である証明書添付 ・4月10日までに提出すること	要	要	
	退 学 願	・所定用紙あり ・学生証添付	要	要	

※ 大学の定める諸届(願)の提出期限が、日曜・祭日の場合はその翌日までとする。

XII 各種証明書取扱い窓口

証 明 書 名	取 扱 窓 口	料 金
成績・卒業見込証明書（卒業年次生のみ）	教 務 部 ④ 番	在学者にかかわる 証明書 1通200円 （英文 500円） 卒業者にかかわる 証明書 1通300円 （英文 600円）
成 績 証 明 書		
卒 業 証 明 書		
教員免許状取得見込証明書		
教職・講座単位修得（見込）証明書		
一般教養科目修了（見込）証明書		
そ の 他 の 諸 証 明 書		
人 物 考 査 書	就 職 部	
健 康 診 断 証 明 書	学 生 部 ③ 番	
在 学 証 明 書	学 生 部 ② 番	
学 割		無 料
通 学 証 明 書		無 料

※ 経理部前備付けの申込用紙に必要事項を記入し、手数料分の証紙を貼付（郵送料も同様）の上、取扱い窓口で申し込むこと。発行は原則として2日後。

教務部取扱い証明書は、5月下旬から7月下旬まで及び3月は大変混雑するので、掲示に注意し、十分余裕をもって申し込むこと。

試験実施規程（抜粋）

（昭和59年7月13日制定）

（目的）

第1条 この規程は、駒沢大学（以下「学部」という。）、駒沢短期大学（以下「短大」という。）、駒沢大学大学院（以下「大学院」という。）の各学則に規定する試験の実施について必要な事項を定めることを目的とする。

（試験の実施）

第2条 試験は、当該教授会の責任のもとに実施される。

（試験の種類及び実施の時期）

第3条 試験の種類は、次のとおりとする。

- (1) 定期試験 履修した授業科目修了の認定をするために前期あるいは後期の所定期間内に行われる試験をいう。
 - (2) 追加試験（以下「追試験」という。）病気その他やむを得ない理由で定期試験を受けることができなかった者について行う試験をいう。
 - (3) 再試験 第1号の試験を受験し不合格となった者について、臨時に行う試験をいう。
 - (4) 中間試験 第1号、第2号、第3号の試験とは別に平常の授業時間帯に授業科目担任者が中間考査として行う試験をいう。
2. 試験の実施時期については、行事予定表をもってこれを定める。ただし、中間試験については、この限りではない。
3. 第1項第2号及び第3号に規定する追試験及び再試験は、次の各号の一に該当するときは、これを実施しない。
- (1) 学部1・2・3年次生の再試験
 - (2) 学部外国語科目、体育実技、演習、その他実験実習をともなう授業科目の追試験及び再試験
 - (3) 短大体育実技の追試験及び再試験

（試験の方法）

第4条 試験は、筆記、口述又は実技によって行う。ただし、授業科目担任者の決定により、レポート提出をもってこれに代えることができる。

（試験時間）

第5条 試験時間は、原則として第1部は60分、第2部は50分とする。ただし、追試験及び再試験については50分とする。

（受験資格）

第6条 授業科目修了の認定にかかわる定期試験を受験するためには、次の各号の条件を満たしていなければならない。

- (1) 当該授業科目を履修登録していること。
- (2) 授業料その他の学費を納入していること。

2. 前項の条件を満たしているときであっても、当該授業科目について、出席すべき時間数の3分の1以上欠席している者については、当該授業科目の受験資格が認められないことがある。
3. 追試験を受験するためには、定期試験終了後速やかに当該授業科目の欠試験及び追試験受験願を提出し、許可を受けなければならない。
4. 再試験を受験するためには、所定の受験料を添えて再試験受験願を提出し、許可を受けなければならない。

(受験資格の喪失)

第7条 次の各号の一に該当するときは、当該授業科目試験の受験資格を失う。

- (1) 学生証を携帯していないとき。
- (2) 試験開始後30分を超えて遅刻したとき。
- (3) 試験監督員の指示に従わないとき。
- (4) 不正受験行為を指摘されたとき。

(受験心得)

第8条 試験を受ける者は、別に定める受験心得を遵守しなければならない。

(無効答案)

第9条 次の各号の一に該当する答案は、無効とする。

- (1) 受験資格を有しない者の答案
- (2) 不正受験行為により作成された答案
- (3) 氏名、学生番号が記載されていない答案
- (4) 指定された時間、指定された場所に提出されない答案
- (5) 所定用紙以外の用紙を用いた答案

(成績評価及び単位認定)

第10条 試験の成績は、優(100点~80点)、良(79点~70点)、可(69点~60点)、不可(59点~0点)の4段階に分け、優、良、可を合格とし、不可を不合格とする。ただし、再試験の成績は、良(70点)、可、不可のいずれかとする。

2. 合格した授業科目については、所定の単位を修得したものと認める。

(不正受験行為者の処分)

第13条 不正受験行為者の処分については、別に定める。

(事務所管)

第14条 試験実施にかかわる事務は、教務部(教務課、第二学事課)の所管とする。

附 則

この規程は、昭和59年7月13日から施行する。

講義内容目次

一般教育科目	(42)
外国語科目	(62)
保健体育科目	(70)
随意科目	(72)
基礎教育科目	(76)
専門教育科目	(81)
他学部履修科目	(135)

[巻末]

教職および資格講座

一般教育科目

外国語科目

人文分野

宗教学Ⅰ	(池田 魯参)	42
宗教学Ⅰ	(佐藤 達玄)	42
宗教学Ⅰ	(吉津 直英)	43
宗教学Ⅰ	(袴谷 憲昭)	44
宗教学Ⅰ	(片山 一良)	44
宗教学Ⅰ	(再クラス)(岡部 和雄)	45
宗教学Ⅰ	(再クラス)(奈良 康明)	45
宗教学Ⅱ	(中野 東禅)	45
宗教学Ⅱ	(永井 政之)	45
宗教学Ⅱ	(伊藤 秀憲)	46
宗教学Ⅱ	(大谷 哲夫)	46
宗教学Ⅱ	(石井 清純)	47
哲学	(大石 紀一郎)	47
論理学	(木原 英逸・村上 勝三)	47
倫理学	(国嶋 一則)	48
文学	(平野 由紀子)	48
文学	(平 敏功)	48
歴史学	(日本史)(木槻 哲夫)	49
歴史学	(日本史)(立川 章次)	50
歴史学	(世界史)(茂沢 方尚)	50
科学史	(小宮山 隆)	50

社会分野

法学憲法	(前田 英昭)	51
法学憲法	(馬越 道夫)	51
政治学	(浦田 早苗)	51
政治学	(上條 末夫)	51
社会学	(橋爪 敏)	52
社会学	(岩上 真珠)	52
統計学	(飯塚 仁之助)	53
地理学	(川口 太郎)	53
地理学	(矢野 陽子)	53
文化人類学	(内山 明子)	54
社会科学概論	(大石 雄爾)	55

自然分野

自然科学概論	(宇和川 正人)	55
自然科学概論	(漆原 和子)	56
数学	(福田 賢一)	56
心理学	(牧野 晋)	56
心理学	(高橋 良博)	57
心理学	(中丸 茂)	57
天文学	(篠原 正雄)	58
コンピュータ概論	(竹田 洋一)	59
コンピュータ概論	(三好 重明)	59
人類学	(江藤 盛治)	60
物理学	(篠原 正雄)	60
生物学	(中村 敏枝)	61

英語	62
ドイツ語	63
フランス語	64
中国語	65
スペイン語	66
ロシア語	68

保健体育科目

保健体育理論	(高橋 俊介)	70
保健体育理論	(光永 吉輝)	70
保健体育理論	(三幣 晴三)	70
保健体育理論	(再クラス)(牧野 茂)	71
保健体育理論	(再クラス)(宮沢 栄作)	71

随意科目

比較思想特講	(麻生 建)	72
比較思想特講	(洗 建)	72
英会話Ⅱ	(P. A. Bendinelli・T. A. Grange W. Hubbard・D. J. Nolan J. K. Wells・P. Ziegler)	72
英語L LⅡ	(T. J. Cogan・岩山 義春 大庭 直樹)	73
ドイツ語F	(柴野 博子)	73
ドイツ語F L L	(初級)(小林 ゲアリンデ)	73
ドイツ語F L L	(中級)(松岡 晋)	73
フランス語F	(桑田 禮彰)	74
フランス語F L L	(初級)(小玉 齊夫)	74
フランス語F L L	(初級)(M. マルタン)	74
フランス語F L L	(中級)(M. マルタン)	74
中国語F	(釜屋 修)	74
中国語F L L	(初級)(松本 丁俊)	74
中国語F L L	(中級)(小川 隆)	74
スペイン語F	(アウロラ・ベルエタ)	75
スペイン語F L L	(初級)(ホワン・ナバロ)	75
スペイン語F L L	(中級)(ホワン・ナバロ)	75
ロシア語F	(杉山 秀子)	75
ロシア語F L L	(初級)(木村 英明)	75
ロシア語F L L	(中級)(滝川 ガリーナ)	75

基礎教育科目

経済学概説 (阿部 弘)	76
経済学概説 (有井 行夫)	77
経済学概説 (瀬戸岡 紘)	78
経済学概説 (曾我 信孝)	78
経済学概説 (福原 好喜)	79

専門教育科目

1 年次必修科目 (商学科)	
会計学総論 (遠藤 孝)	81
1 年次選択科目 (経済学科)	
会計学総論 (加古 宜士)	81
2 年次必修・選択科目	
経済原論 I (有井 行夫)	82
経済原論 I (大石 雄爾)	83
経済原論 II (浅野 克巳)	83
経済原論 II (浅田 統一郎)	84
経済原論 II (荒木 勝啓)	85
経済政策 (石井 啓雄)	86
経済政策 (広田 秀樹)	87
経済史 (安元 稔)	88
商学総論 (大吹 勝男)	88
経営学総論 (寺中 良二)	89
統計原論 (吉野 紀)	90
簿記論 (島崎 規子)	90
財務会計論 (遠藤 孝)	91
憲法 (藤野 美都子)	92
民法一部 (青野 博之)	92
3 年次必修科目	
時事外国語 (英) (石原 孝哉)	93
時事外国語 (英) (大川 浩)	93
時事外国語 (英) (岡崎 寿一郎)	94
時事外国語 (英) (落合 和昭)	94
時事外国語 (英) (河内 賢隆)	94
時事外国語 (英) (川股 陽太郎)	94
時事外国語 (英) (岸本 茂和)	95
時事外国語 (英) (清水 祐次)	95
時事外国語 (英) (田中 保)	95
時事外国語 (英) (丹治 弘昌)	96
時事外国語 (英) (中尾 俊光)	96
時事外国語 (英) (牧野 輝良)	96
時事外国語 (英) (町田 尚子)	97
時事外国語 (英) (丸小 哲雄)	97
時事外国語 (英) (矢島 直子)	98
時事外国語 (独) (松本 洋子)	98
時事外国語 (仏) (加藤 節子)	98
時事外国語 (中) (釜屋 修)	99
時事外国語 (ス) (佐藤 玖美子)	99

時事外国語 (口) (杉山 秀子)	99
3・4 年次選択科目	
経済学史 (福原 好喜)	100
価格理論 (荒木 勝啓)	100
国民所得論 (吉野 紀)	101
景気変動論 (西村 允克)	102
日本経済史 (古庄 正)	102
経済地理 (渡邊 盾夫)	103
国際経済論 (徳永 俊明)	104
農業政策 (浅田 喬二)	104
工業政策 (大林 弘道)	105
財政学 (西村 紀三郎)	106
財政政策 (里中 恆志)	106
金融論 (渋谷 隆一)	107
国際金融論 (斉藤 寿彦)	108
銀行論 (齊藤 正)	108
社会政策 (光岡 博美)	109
中小企業論 (三井 逸友)	110
人口論 (森岡 仁)	110
教育経済論 (谷敷 正光)	111
日本経済論 (森 武磨)	112
アジア経済論 (小林 英夫)	112
中国経済論 (小杉 修二)	113
アメリカ経済論 (瀬戸岡 紘)	114
ヨーロッパ経済論 (清水 卓)	115
ロシア・東欧経済論 (山縣 弘志)	116
商業政策 (岩下 弘)	116
マーケティング (曾我 信孝)	117
貿易論 (古沢 紘造)	118
貿易実務 (太田 正孝)	118
証券市場論 (澤田 精次)	119
保険論 (石名坂 邦昭)	119
交通論 (石井 彰次郎)	120
商品学 (石崎 悦史)	120
経営管理論 (百田 義治)	120
労務管理論 (石井 脩二)	121
財務管理 (高橋 昭三)	122
会計監査論 (飯岡 透)	123
管理会計論 (中原 章吉)	123
税務会計論 (市川 深)	124
民法二部 (青野 博之)	124
商法一部 (荒木 正孝)	125
商法二部 (前期: 宮島 司)	
(後期: 島原 宏明)	125
労働法 (藤本 茂)	126
経済法 (川井 克倭)	126
原書講読 I・II (岩下 弘)	127
原書講読 I・II (色川 卓男)	127
原書講読 I・II (大吹 勝男)	127
原書講読 I・II (小杉 修二)	127
原書講読 I・II (齊藤 正)	127
原書講読 I・II (清水 卓)	128
原書講読 I・II (中田 秋男)	128
原書講読 I・II (百田 義治)	129

原書講読 I・II (福原 好喜)	129
原書講読 I・II (古沢 紘造)	129
原書講読 I・II (三井 逸友)	130
現代經濟事情 I (井田 福藏)	130
現代經濟事情 II (松村 勇)	131
現代經濟事情 III (宮木 康夫)	132
現代經濟事情 IV (兼子 厚之)	133

一般教育科目

人文分野

宗教学 I

池田魯参

国際化が進む現代において、しばしば日本人の無信仰・無宗教ぶりが問題にされる。今日のような日本の宗教風土がどのようにして形成されたのか、その実状を知ることが先決問題であろう。このような宗教の問題は、大学生の一般教養としても欠かすことのできないものとする。

このような問題意識で、この講義は日本の宗教の歴史的な形成過程とその展開を考察し、現代日本の宗教事情とその諸問題を洗い直したい。

各項目毎に、適宜、受講生から質疑を受け答えるつもりである。受講生は日頃から宗教の問題に関心を向け、どんな小さなことも、それがなんであり、どのような意味をもち、どのようにはたらくのか、問いかける態度を養って欲しい。

<授業計画>

講義はほぼ次のような大枠の順で進める予定である。

- (1) 古代祭祀と仏教の伝来
- (2) 仏教国家の出現
- (3) 新仏教の要請
- (4) 貴族文化と宗教の変容
- (5) 武家社会と新仏教の課題
- (6) 日本文化の形成と宗教
- (7) 戦国時代の宗教
- (8) 徳川時代の宗教政策と動向
- (9) 日本の近代化と宗教
- (10) 新憲法下の宗教
- (11) 現代日本と宗教の諸問題

<成績評価>

一年間の講義を通して、どれだけ日本の宗教事情に関する理解を深めたか、年度末試験において評価を出す。

[テキスト・参考書]

講義の中でその都度指示する。

宗教学 I

佐藤達玄

1) 人間生活と宗教

ここでは宗教の入門として、まず「宗教とは何か」という問いを掲げて、宗教の考究する領域をのべる。次に「宗教をなぜ学ぶのか」ということで、真の専門の知識は豊かな教養の裾野の上にこそ生かされることを説明する。以下、必要な事項を列記する。

§ 知ることと、信ずること

§ 青年期と宗教

2) 宗教の側面

§ 神を立てる宗教

§ 神を立てない宗教

§ 個人現象としての宗教

§ 社会制度としての宗教

3) 宗教のはたらき

§ 個人におけるはたらき

§ 社会におけるはたらき

4) 宗教の歴史

§ 宗教のおこり

§ 古代の宗教

§ 世界宗教の諸相

5) 日本の民族宗教

6) インドの仏教

§ 仏教とは

§ 仏法僧の三宝

§ 仏教の聖典

§ 仏陀の教説 — 仏伝、誕生、成道、説法、入滅、四法印、四諦、八正道、三学、中道、縁起

7) 部派仏教の教説

§ 教団の根本分裂

§ 部派仏教の成立展開

§ アピダルマ教義の特質

8) 大乘仏教の成立

§ 初期の大乘経典

§ 大乘仏教の特質

9) 中国仏教の歴史

§ 仏教伝来の経路と時期

§ 仏典の翻訳

§ 三国時代の仏教

§ 西晋の仏教

- § 江南東晋の仏教
- § 南北仏教の特色
- § 情の仏教と諸宗
- § 唐の仏教と諸宗
- § 宋元以後の仏教

10) 日本仏教の歴史

- § 仏教の伝来
- § 奈良仏教の特質
- § 平安仏教の諸相
- § 鎌倉仏教の諸相
- § 近世仏教の動向

〔教科書〕前田 恵学著『仏教要説』（山喜房仏書林）¥1,236

宗 教 学 I

吉 津 宜 英

a. 受講生へのメッセージ

みなさんはこれまで宗教に対してどのようなイメージを抱いておられるでしょうか。ある人は宗教に向って否定的な印象を持っておられましょう。また、ある人はすでに特定の宗教を信奉しておられるかもしれません。そして、多くの方が自分は宗教に無関心であるとも答えられましょう。私はこれら三様の方々のいずれに向っても、先ず宗教の正体、正しい知識を獲得していただきたいと思っています。特に宗教に否定的であるみなさんは、批判すべき対象への正しい認識を持って発言してゆかなくては説得力はありません。次にすでに特定の信仰に生きている人は自分の宗教以外のものの内容を学ぶことによって、自分の立場を一旦は相対化させ、各種の宗教の中に自分の信仰を位置づけてみて、さらに一段と深い信念に至ることもありえましょう。

次にこれまでは無関心であったというみなさんに対しては現代社会の中に一見して宗教とは思われないものごとの中に、きわめて宗教的な要素が満ちあふれていることを申したいと思います。政治にも、経済にも、教育にも、スポーツにも、趣味の世界にも、いろいろの形で宗教的な様相を指摘することができます。今はバブル経済が崩壊して、「複合不況」などという状況下にあるわけですが、あのバブル経済にも宗教的情熱が買っていたのではないのでしょうか。それは「拝金主義」とも呼べるような信仰にも比類しうるものであります。昨年再び巨人軍の監督に復帰した長嶋氏が現役を引退する時に後樂園球場で挨拶した、そのしめくりの言葉は「我が巨人軍は永遠に不滅です。」であったことを知っておられるでしょうか。これは何と宗

教的響きの強い言葉でしょう。このように私は一見非宗教的分野に見られる宗教性を「見えない宗教」という形で指摘したいと思います。

私は宗教に対してですら、水平に、対等に、対峙する立場を取っておりますので、「宗教は価値のある、よいものだ」と決めつけようとは思っておりません。政治や経済にも多くの問題があるように、宗教にも独自の問題があります。むしろ、この問題点こそみなさんと共に考えてゆきたいと思います。その問題の一端はテレビなどで、いわゆる「新宗教」とか「新新宗教」についての事件としても報じられているところです。ただ、私たちはそれらの報道に対してですら、何が正しいのかを判断する眼力を養ってゆきたいと思っています。

b. 授業内容の大綱

一年間を前期と後期とに分け、前期は「現代の新新宗教の輩出に至るまでの日本の宗教の歴史」、後期は「世界の諸宗教・諸思想の中における仏教の特色」をメインテーマとします。次に具体的授業内容のいくつかを列挙してみましよう。

- (1) 自己紹介、私の宗教学の意図
- (2) 新宗教と新新宗教
- (3) 見える宗教と見えない宗教
- (4) 皆さんの疑問に答える
- (5) 日本の宗教の特色…シンクレティズム
- (6) 日本の仏教の特色…宗祖信仰
- (7) 日本におけるキリスト教
- (8) 宗教の三類型
- (9) 宗教の5W1Hを問う
- (10) 天皇制、民主主義そして宗教（以上、前期）
- (11) 世界民族地図と世界宗教地図
- (12) イスラームが世界を動かす
- (13) ユダヤ教とキリスト教
- (14) 原理主義と聖戦
- (15) バラモン教からヒンズー教へ
- (16) 仏教の特色…縁起と中道
- (17) 中国のアキレス腱、チベット
- (18) 中国思想の仏教批判
- (19) 禅思想の特色…対話による覚り
- (20) 宗教を見る眼（以上、後期）

c. 受講上の諸注意

- (1) 4月の初回の授業で自己紹介、自己PRそしてこの授業への要望提出を依頼する。
- (2) 年間3回（7月、11月、1月）のレポート提出をお願いする。
- (3) 出席を採る。
- (4) 大いに質問をしてほしい。

〔参考書〕『宗教学I』（更生社）¥2,575

その他随時参考図書を教場で指示する。

〈講義目的〉

13世紀中葉に生まれ14世紀初頭にかけて活躍したエックハルトはドイツ神秘主義を代表する思想家であるが、彼は福音書「マタイ伝」第5章第3節「こころの貧しい人たちは、さいわいである、天国は彼らのものである。」を解釈する説教の中で貧困 (poverty, Armut) を二種に分けた。即ち、外的貧困 (ein úwendigiu armout) と内的貧困 (ein inwendigiu armout) とである。そのうち、殊更に後者を重視したエックハルトは、「欲しない」「知らない」「持たない」という精神の貧困即ち精神の自由に神からさえも自由な永遠を夢見たのであるが、そのような考えが今日の日本にも復活し、それが例えば中野孝次氏の『清貧の思想』の流行となって現れている。時あたかも日本経済は不況を伝えられ、精神主義が益々鼓舞されんとする勢いにある。しかるに、そのような今日の状況を、正しい仏教の視点から眺めればどうということになるかという問題意識をもって講義を進めていきたいと考えている。一般的にいえば、あまり明確な問題意識もたない日本文化論は店頭にも氾濫しているであろうが、私の目指すものはそのような日本文化論ではない。むしろ今日流行の日本文化論には厳しく批判的に対処したいと思っている。例えば、ベネディクトの『菊と刀』を見直そうという意図のもとに最近刊行された、副田義也氏の『日本文化試論』では、日本文化における貧困の信仰がやはり二種示され、一方が古来の日本の「わび」「さび」の伝統に通ずるプラスの側面であるのに対して、他方は近代以降の社会問題として捉えられたマイナスの貧困の側面である。その二種を指摘した上で同氏は次のように述べる。「近代以降の日本文化には、貧困をプラスの象徴とする発想とそれをマイナスの象徴とする発想とが同時に存在していた。前者は伝統文化に属し、後者は近代の思想と科学に属する。これらのどちらが正しいかという議論のしかたは生産的であるまい。……しかし、現代日本の資本主義の状況にかぎって言えば、貧困の信仰、貧困をプラスの象徴とする伝統思想の必要性がたかまっている。……まさに発想の転換が必要なのである。日本文化はこの事態に貧困の信仰を対置することができる。それは経済成長の否定を原理的に可能とする思想である。あわせて、無私の文化、無我の文化は、豊かさ志向、浪費志向に結びついた私生活と自我の放棄を勧める。」しかし、こういう記述は、正しい仏教から見る時には全くのデタラメであることを論理的に懇切丁寧に指摘していきたいと思っ

ている。その一端だけを披瀝しておくなら、同語反覆のように用いられている「無私」と「無我」とは実は全く対立するものであり、前者は滅私奉公の精神主義や苦行主義を指すのに反し、後者はかかる精神主義や苦行主義を否定する思想を指すのである。従って、かかる本質的区別を認識せずして、日本文化を讃美するならば、その行き着く先は、河上肇博士の『貧乏物語』以前の貧困礼讃になってしまうであろう。ソ連邦の崩壊が全く単純な意味でもマルクス主義の崩壊に連なるかのごとく見る風潮の強い中で、しかも経済の学生を前に、なにゆえに河上博士は『第二貧乏物語』を書かねばならなかったかを論じうる能力が私にあるとは思わないが、精神主義や苦行主義に基づく貧困礼讃が仏教でありえないことだけは、一年を通じて明確に論証して提示してみたいと希っている。

〈授業計画〉

前期には、エックハルトの問題の説教を、英訳のコピー配布によって、丁寧に読解することに努めたい。そのかたわらで、ヨーロッパ近代の科学の礎をなしたデカルトの『方法序説』を読みながら、同じヨーロッパ文化の中にありながら、両者がいかに異った考え方を代表する者であるかを考えてみるであろう。後期には、『方法序説』を読み続け、それによって「論理主義」というものがいかなるものであるかを学び、それとの対比において「事実主義」の実態を日本文化の中に辿ってみたいと思う。そのかたわらで、インド思想宗教史の中で、仏教だけが「論理主義」を示した唯一の思想であることの意味を考えると共に、その仏教が中国を経由して日本に伝わって定着する間に、「事実主義」に変貌してしまった点を種々の局面において指摘し、仏教を文化として促える危険性にも注目してみたい。

〈評価方法〉

学年末のペーパー・テストによって評価する。

〔教科書〕デカルト著・落合太郎訳『方法序説』(岩波文庫) ¥410

〔参考書〕河上 肇著『貧乏物語』(岩波文庫) ¥410

Descartes : Discourse on Method and the Meditations, Tr. by F. E. Sutcliffe, Penguin Books.

〈講義目的〉

人間にとって宗教とは何かを考える。

〈授業内容・授業計画〉

前期は、宗教一般（宗教と呪術・神話と儀礼・民族宗教と世界宗教など）について扱う。

後期は、仏教の基本的な教え（智慧と慈悲・縁起と四聖諦・戒と禪など）について扱う。

いずれも、現代の我々にある身近な問題の中で、取り上げ、考えたい。

〈評価方法〉

夏期レポート、および年度末テストによって評価する。

宗 教 学 I (再クラス)

岡 部 和 雄

前半では宗教とは何かという問題について、現代のアクチュアルなテーマをとりあげて具体的に考えていく。また後半では仏教に的をしぼり、その基本的輪郭を明らかにしようと思う。

〔教科書〕『宗教学ハンドブック』（世界書院）

『仏教の歩んだ道1』（東京書籍）

宗 教 学 I (再クラス)

奈 良 康 明

人間生活における宗教、仏教の意味、機能および構造を「宗教文化史」研究の枠組の中であきらかにしてゆきたい。出来るかぎり、現代の私たちの生活とのかかわりの中で諸テーマを考える。

〔教科書〕『宗教学ハンドブック』（世界書院）

『仏教と人間』（東京書籍）

宗 教 学 II

中 野 東 禪

人間教育、生き方学という視点から禅について学んでいただきたい。とくに、就職後の人間関係や、結婚、家族、転職、病氣、死別など、生きていく上での「自己のあり方」を禅的に学ぶという姿勢で授業を構成したい。

禅は「問題解決学」という側面をもっている。とくに自己の心のありようを自覚することが、あらゆる場面の中心をなす。したがって「自己を学ぶ」ことは何よりも問題解決学になる。

そうした目標を設定して以下のようなスケジュールで学ぶ。

1. 日本の宗教状況。とくに新宗教の概観と、靈感商法や、たたり霊のしくみについて知って

もらう。これは靈感商法等の被害者を学生から出さないためにも重要である。また、生活・人生の諸側面における不安と宗教の関係で迷わないためにもはっきりとした情報を提供するつもりである。

2. 仏教の歴史と大乘仏教の全体像を日本仏教の宗派の成立及び宗派の一覧を簡潔に学ぶ。これは「宗教学Ⅰ」ですでに学んだはずであるが、社会生活の上で必要な知識として、宗派名や、本山等を知っておくことは何らかの知的資産になると思う。
3. 禅の歴史とその人間観、さとり具体例を禅問答を通して学ぶ。これは、心、生き方、生きざま、出会い、生命観、死生観、自然観など、豊富な生き方の手本である。学生の人生の杖としてもっとも役に立つ心の杖になると思う。
4. 日本の禅について、道元禅師の生き方とことばを通して学ぶ。とくに生き方については「正法眼蔵随聞記」を通して息づかいにふれてゆきたい。
5. 禅の社会化として、生命観と仏教と題して紹介してゆく。家族をもつ人にとってターミナルケアや、尊厳死、病名告知、死の受容、グリーフ・ワークなどがこれからの人生の大きな課題になる。したがってそうしたことに仏教はどんな考え方を示してくれるかを明らかにしてゆきたい。

授業は講義を中心とし、途中で1～2回の坐禅実習を行い、その前後に教場で、調身・調息・調心の基礎を指導する。教科書は「宗教学Ⅱ」更生社と、プリントを多く用いる。評価は、筆記試験と、坐禅実習と、出席状況との三点で行なう。

宗 教 学 II

永 井 政 之

〈講義目的〉

宗教学Ⅰのあとを承けて、仏教、特に「禅」の世界について学ぶ。インドで成立した仏教は中国においてさまざまに「変容」したが、その場合、中国の禅僧は常に「あるべき姿」と現実とをいかに結ぶかに苦心した。結果として中国の禅は、現実と妥協してしまいがちな危険性を内包する。そのような中国禅を批判的に継承したのが道元禅師である。道元禅師は「坐禅」の一行を仏祖の行持として位置づけ、日常生活において一瞬の気のゆるみも許さぬことで「仏の世界」を顕現せしめようとした。中国・日本の代表的な禅者の世界を語りながら、禅が現代における可能性を考えたい。

〈授業内容・授業計画〉

前期：宗教学Ⅰで学んだ「仏教」を再認識しつつ、禅宗の成立、さらに中国人のものの考え方等をみる。

後期：中国禅宗の初祖のダルマ、さらに六祖慧能、百丈懐海らの立場を通じて中国禅の特質をみ、道元・瑩山の立場を考える。

〈評価方法〉

課題図書を最初の授業で指示する。レポートの提出と出席及び筆記試験。

〔教科書〕『宗教学Ⅱ』（更生社）

〔参考書〕授業中に随時指摘。

宗 教 学 Ⅱ

伊 藤 秀 憲

〈講義目的（要旨）〉

一年次の「宗教学Ⅰ」では「仏教」について学んだと思いますので、本年度はその基礎的知識の上に立って、「禅」について学びます。と言っても講義では、禅とは何かを大上段に構えて論じるのではなく、禅宗の歴史を通観しますから、一年間の講義を通して学ぶ中で、それぞれがつかんでもらいたいと思います。仏教や禅について学ぶことに拒否反応を示す人も少なくありません。この授業はあくまでも「宗教学」であって、特定の「宗教」を信じることを強要するものではありません。縁あって駒沢大学で学んでいるのです。禅とはどんな思想なのか積極的に学んでみませんか。禅についての正しい知識を得れば、学ぶ前に考えていたものとは違ったものであったことに気付くでしょう。

〈授業内容・授業計画〉

教科書に沿って講義を進めますので、教科書は必ず用意して下さい（試験間際になって用意する人がいますが、それでは間に合いません）。詳しい内容は教科書を見ればわかりますので、ここでは前後期の講義の大まかな範囲のみを示すことにします。

前期：インドの禅 — インドにおける禅定、禅の語の意味。中国の禅宗の歴史 — 達磨から百丈清規まで。

後期：五家七宗の成立から宋代の禅宗まで。日本の禅宗 — 臨済宗・曹洞宗（道元・瑩山の伝記と思想）

インドにおける禅定から、中国・日本の禅宗の歴史を学び、そこに現れた禅匠たちの生き方から、禅の人生観・人間観等を捉えることを出来たらと思います。教科書には、細かなことまで書かれています。禅についての専門家になるわけではありませんので、禅宗の歴史と思想の流れを大きく

把握できれば十分です。

なお、この授業では、一回は坐禅を実際に行うことになっています。不安に思っている人もあるかも知れませんが、実施するに当たっては前もって説明を行いますし、最初ですので長時間坐るわけではありませんので（20～30分ほど）、心配はいりません。実施の上、もし希望があれば更に行ってもよいと考えています。この坐禅の授業に出席しないと単位が修得出来ないという噂があるようですが、そのようなことは決してありません。でも、ほとんどの皆さんにとって、生涯で一度きりとなるであろう貴重な体験です。進んで出席して下さい。ただし、自分が信じる宗教の教義上の理由から、他の宗教の儀礼等には参加出来ないという人は申し出て下さい。強制はいたしませんし、欠席とはしません。

〈評価方法〉

筆記試験の成績に、出席率、時には提出を求めたレポートを加味して決定します。成績や出席不良は、言うまでもなく各自の責任です。これらの理由の下での評価変更には一切応じません。

〔教科書〕『宗教学Ⅱ』（更生社）¥2,370

宗 教 学 Ⅱ

大 谷 哲 夫

本講座は、1年度の「宗教学Ⅰ」を基盤として、

- ① 仏教における禅の地位
- ② 禅の歴史
- ③ 公案の禅と只管打坐の禅
- ④ 禅と現代思想

などについて概説し、講義の中心を、特に現代人の新しい精神生活のよすがとしての禅仏教の思想を、適宜、禅匠の生き方、またその言葉なりを通して学んでゆくことにその主眼をおく。

仏教の基礎的な事項については適宜にプリントを配布し、その理解を深めることとする。

また、“只管打坐”の坐禅の精神を知るために、前後期、それぞれ1回ずつの坐禅を体験してもらう。

本講座にのぞみ、予め読むべき文献などは特に指定はしないが、講義にともない適宜に参考図書等を授業のなかで指定する。

出席は毎回とる。試験は期末試験のみ行なう。

〔教科書〕講義ノートによる。

〔参考書〕適宜に指示する。

宗 教 学 II

石 井 清 純

〈講義目的〉

本学の創立基盤となった「禅」の精神について、その基礎概念を理解するため、中国・日本両国における形成発展の歴史を概観してゆく。また同時に、それと日本の文化との関わりについても随時概説し、禅が日本人の精神生活に与えた影響についても学習してゆく。

〈授業内容・授業計画〉

前期は、種々の祖師の逸話（公案）をたよりに、達磨による「禅」の成立から末代の爛熟期まで、中国における禅思想の成立発展の歴史を見てゆく。順序は以下のとおり。

1. 禅定と禅と禅宗
2. 達磨による禅の伝来
3. 禅思想の確立
4. 禅宗教団の形成
5. 五家七宗の成立
6. 看話禅と黙照禅

なお、これらの講義の合間に、各祖師にまつわる絵画や墨跡などの解説や、坐禅堂（禅研究館4階）における坐禅の実習等をも行う。坐禅実習については、前期・後期それぞれ1時間ずつを予定している。

後期は次のような形で、日本への禅宗の伝播・発展の歴史を、臨済・曹洞の両派について学んでゆく。

1. 禅の伝来（奈良・平安）
2. 禅の伝来（鎌倉時代）
3. 臨済宗の発展
4. 曹洞宗の発展1（道元）
5. 曹洞宗の発展2（瑩山）
6. 曹洞宗の発展3（江戸時代）
7. 『正法眼蔵』の思想

ただし、本学の性格上、日本曹洞宗の両祖、道元・瑩山両禅師については十分に時間を割り、詳細に解説し、その依って立つところを明確に位置づけてゆくことにしたい。

〈評価方法〉

出席および年度末の筆記試験による。また、前期の終りにレポートを予定している。

なお、坐禅実習を特別扱いはしない。あくまで出席一日とし、他講義への振り替えも認めないので念のため書き添える。

〔教科書〕『宗教学Ⅱ』（更生社）¥2,370

〔参考書〕『禅へのいざない』（4冊，大東出版社）

哲 学

大 石 紀 一 郎

〈講義目的（要旨）〉

哲学的思索の意味や特性、哲学的な問いの立て方を、過去の哲学的営みを通して学び、現代における様々な問題に正しく対処する世界観的教養を身につけることをめざす。

〈授業内容・授業計画〉

前期では、哲学の意味と問いの特性、分析や批判等について要点を説明する。

後期では、ギリシア哲学から現代哲学にいたる西洋の哲学史を学び、過去の哲学的営みの現代的意味を考える。

授業は教科書を基にしながら進めるが、ノートをしっかり取ってほしい。

〈評価方法〉

前期試験、学年末試験および夏休みのレポートによって評価する。時々小テストを行い、平常点として加味する。試験は、原則として教科書、自筆ノート持込み可とする。

〔教科書〕開講時に指示する。

〔参考書〕その都度指示する。

論 理 学

木 原 英 逸・村 上 勝 三

〈講義目的（要旨）〉

論理学はアリストテレス以来個別科学の方法論として重視されてきたが、科学のみならず日常的な行為においても正しい論理的思考が必要とされる。それは、概念を適切に規定し、真正な命題を作り、それを基に未知の命題を正しく推測することによって始めて学問が成り立ち、行為の筋道も見えてくるからである。この点は経済学や経済的営みにおいても事情は同じであるはずである。

〈授業内容・授業計画〉

前期では、アリストテレス以来の伝統的論理学を学ぶが、それは、概念論、命題論、推理論（演繹推理と帰納推理）、虚偽論等である。

後期では、現代の記号論理学の基礎的内容 — 命題論理学と述語論理学 — を学ぶ。

論理学は、抽象的形式的な学問であり、数学と似かよった面がある。それは、一步一步積み重ねて学んでいくもので、手順を踏んでいけばそれほど難しいことはないが、途中から聞いても分からないことが多いので、できるだけ授業には欠席しないようにしてほしい。教科書をもとに授業を進めるが、きちんとノートを取るようになってほしい。

分からないままに先に進むことをできるだけ避けるために、節目ごとに小テストをして、学習の度合いをチェックしていく。

〈評価方法〉

主として前期試験、学年末試験によって評価するが、小テストの結果も平常点として加味する。

〈教材〉

教科書、参考書は開講時に指示する。

倫 理 学

国 嶋 一 則

〈講義目的(要旨)〉

倫理学は、われわれがいかにかに生き、何を為すべきかを探求する学問である。つまり、われわれ人間の生き方に関する哲学である。人間として正しいとか、真実であるとか、理性的であるといわれるためには、善なる人生の原理(人生観)ないし世界の原理(世界観)に基づいて行為し生きるのだからなければならない。たとえば、仏教における善なる行為とは、慈悲に基づく行為であり、キリスト教における善なる行為とは、愛(アガペー)に基づく行為である。

ところが、日常の人生観や世界観は、「ことわざ」に示されるように、決して確実なものではない。すなわち、「負けるが勝ち」に対しては「強いもの勝ち」といわれるのである。われわれが倫理学を学ぶのは、動揺や反対のない確実な人生観、世界観を求めるためである。古代から現代にいたる主要な哲学者たちの思想を研究して、各自の確実な人生観や世界観の確立に努めたい。

〈授業内容・授業計画〉

前期は、哲学や倫理学の基礎的概念と考え方の学習に重点をおく。

後期は、倫理学説の歴史的な流れを見ることに重点をおく。

書物の読解力をつけるために、全学期を通じて、教材の大切な個所を読んで解説する。

〈成績評価の方法〉

出席数、筆記試験、夏期レポートによって成績評価するが、後期試験を重視する。

〔教科書〕学期のはじめに発表する。

〔参考書〕その都度知らせる。

文 学

平 野 由 紀 子

〈講義目的(要旨)〉

日本経済の成長により、国際社会に果たす日本

の役割はますます大きくなってきている。このような現代において、真の国際人であるためには、自国の文化や歴史を知る必要がある。そこで、日本語の歴史を知るとともに、日本文学の原点とも言える万葉集をよみ、文学と社会との関わりについて考える。

〈授業内容〉

前期は、文学の発生の問題や日本語の表記の歴史をとりあげ、さらに万葉集の時代的背景について講義する。具体的には万葉第一期までの歌をよむ。

後期は、万葉第二期から第四期までの歌をよみ、万葉集がその後の文学に与えた影響についても考えていく。

〈評価方法〉

出席および筆記試験。

出席は毎回短いコメントの提出によってとり、出席点としてプラスする。

筆記試験の際、自筆ノートの持ち込みは可とする。ただし、コピー等は不可。

〔教科書〕小野 寛著『新選万葉集抄』(笠間書院)

〔参考書〕金井清一・小野 寛編『年表資料上代文学史』(笠間書院)

文 学

平 敏 功

〈講義目的〉

「文学とは何か」という素朴な問いから考えよう。そして、古典と呼ばれる作品がなぜわたしたちのいう文学のはんちゅうに属するのかという疑問、そこに問題を解く鍵がありそうなのだ。

たとえば、作者「不詳」とか「未詳」という決定について。日本古典のモノガタリ作品は、例外なく作者の存在を否定する。このようにいうと、『源氏物語』のようにその作者を紫式部と等価におく受験レベルの文学史の常識に馴染んだ発想からは、不可解に思えるだろう。けれども、『源氏物語』の作者が紫式部であるとする決定は、所詮は『紫式部日記』の記述からの推定にすぎないのである。そして、再度受験レベルの文学史の常識にそくしていうなら、古典のモノガタリの作者は、あれこれと推測されてはいるものの、結局はよくわからないのである。なぜか、モノガタリは本質的に作者の存在を否定するからだ。

「作者」という概念は、古代の日本では名誉であったり、規範であったりしたようだ。それが、和歌や日記などで考える「作者」というものの意味だろう。

「作者」という存在が、日本の歴史の中で必然

性をもつのは、出版文化の発生と不可分であるとわたしは考えている。それは、「文学」のいとなみが経済活動にくみこまれ、そのいとなみが利潤をもたらす場合に、賃金という形での支払いが必然化するからだ。つまり、作品を<商品>とすることで、個人の作者に利益が分配されるということである。それを日本の文学史に置換するならば、江戸時代の版筆文化の時期と指摘できるだろう。このプレ近代の文化構造が、本質的には利益追求と商品の合理化を美德としたらしいことは、西鶴などの諸作品からも透視できるものと思う。

作者が特定の個人に限定されることの意味とはつまり、商品に対する支払いの保証という経済行為の発想から生まれたのだろう。「書く」という労働行為が、<商品>=作品を媒介として貨幣に交換されるということだ。このさびしい結論は、すくなくとも「作者」の固有名詞をめぐるモノガタリというものの歴史をまじめにたどる時、誰もが感ずる風景なのではないか。

以上のことをながながと述べたのは、わたしたちが考える「文学」というものの意味や、「作品は作者に属する」という公式が、じつは近代思想のワク組みからの発想にすぎないということをあきらかにしたかったからなのである。わたしたちが日本の古典の諸作品を読むときに感じるある種のわからなさの正体は、おおくの場合、上記のような近代思想のワク組みと、作品が固有にもつ思想的ワク組みとのズレに起因するのである。

日本の古典作品を読むということは、だから厳密に言えば現代を相対化し、古典作品のレベルから現代のワク組みをとらえかえすことだとも言えるのである。「古典は本当に読めるのか」という疑念から、古典作品は読まれてもよい。

さて、本講座では『万葉集』の諸作品をとりあげて、わかりやすく分析する。万葉集は日本最古の古典文学であり、もっとも古い日本人のこのころを表現する歌うたの作品集である。そして、万葉集を読むということは、重く厚い研究の歴史を読むということとも重なる。その手つづきなしに、万葉集の学問的な読みはないだろう。

講義は、1回1テーマ完結の形をとる。その際、できるだけ過去の研究成果と現在の研究レベルをごく簡単に紹介し、わたしの判断も示したいと思う。ただし、一方通行にならないように、毎回授業のおわりに各テーマについての意見を書いてもらい、それを評価に応じて成績に加算することとする。講義は、以下のテーマをより具体化したうえで進めたい。

1. 万葉集の構造と編纂
2. 文学意識の発生
3. 初期作品の分析（1～3前期）
4. 歌人の成立（方法と達成）
5. 大伴家持の作品研究（4・5後期）

最後に、成績の評価について述べたい。

成績は、2回のレポート（夏と冬）と定期試験および毎回書いていただく意見の評価を合計して決める。ただし、そのテーマはかならず授業であつかったことのみを前提としてまとめていただきたい。したがって、授業でまったくふれてもいない事がらやテーマを、一般の書物や論文等の引きうつしでもまとめても、評価の対象とはしないので注意すること。熱心な受講を期待する。

【教科書】小野寛著・『新選万葉集抄』（笠間書院） ¥1,600

歴史学（日本史）

木 槻 哲 夫

<目的（要旨）>

日本歴史上のいくつかの事実をとりあげて紹介し、史料講読をまじえながら、日本社会の発展について考察したい。今期は、日本の近代的発展を基礎から支えた初等普通教育=小学校教育の創設・拡充の過程を、明治前半期の東京の事例を中心に論じたい。江戸から東京へと推移する時期に当り、また、いわゆる臣民教育成立の前史に当る。

<授業の内容・計画>

講義を主とし、必要な史資料等はプリントとして随時配布したい。教科書は特定しない。

（前期）江戸後期の教育思潮。江戸後期・幕末期の教育形態。維新期の教育。明治初年の教育機関。明治初年の教育。民衆の教育要求。江戸から東京へ。郷学。東京の学校。東京府の小学校。東京の郷学校。「学制」と東京府の行政。

（後期）東京府の小学校設立。生徒の就学。小学校教育の実況。公立小学校と私立小学校。区部と郡部。農村の変貌と学校Ⅰ。同Ⅱ。市街地の学校Ⅰ。同Ⅱ。貧困者と学校。小学校教育の実態。小学校教育の推移。校舎・教具・教材。子どもの生活。

<評価>

期末に、講義内容に即した試験を行なうことを考えている。

<代表的参考文献>

文部省：

『学制百年史』1972帝国地方行政学会（全2巻）
国立教育研究所：

『日本近代教育百年史』1974教育研究振興会（全10巻）

教育史編纂会：

『明治以降教育制度発達史』1938龍吟社（全12巻）

東京都：

『東京百年史』1980ぎょうせい(全7巻)
その他、東京都下、各区市町村史誌・教育史
(例えば『世田谷区教育史<資料編既刊5冊続刊
中>』など)、各学校史(例えば『駒澤大学百年
史』など)等々。

〔教科書〕特定せず。

〔参考書〕なし

歴史学(日本史)

立川章次

明治維新史の講義、徳川幕藩体制の崩壊への過
程について論述し、明治政府の成立と、その中央
集権的統一国家形成への推移について講義する。

歴史学(世界史)

茂沢方尚

世界史全般について、古代史、中世史、近代史
に分けて、高校の延長授業をするのではなく、東
洋史、わけても中国について、特に先秦時代、殷
周春秋戦国から漢代までを通史的に展望しつつ、
西アジアとの関係があるかとも考えられる。中国
西北方の民族の動向を中心に、中国と異民族との
関係史を史的に追求する。

これを文献的に追求するために、東アジアでは、
『春秋左氏伝』『史記』等を検討し、西方に関し
ては、ヘロドトスの『歴史』等を検討する。

そして、この問題を考える際の基本的な研究と
して必読と考えられる、中国の王国維の『鬼方昆
夷獫狁考』という名論文を、その原文を紹介し、
検討しつつ、文献資料の史料批判一般についての
基本的諸問題を解説する。

又この論文は、金文をも利用しているので、そ
の金文についても基本的な解説を行う。その過程
で、当然甲骨文にまで遡及して、中国の文字その
ものについての基礎的解説をする。いわば、中国
で古くからいわれる「小学」についての解説を行
う。

前期は、中国の古代の文献資料を読む際に気を
つけねばならない点を、原文を引いて、検討して
もらう。

要するに中国の漢文資料について、これを利用
する際に大切な点を確認してもらうことを主目標
とする。

後期も同じ論文を解説検討しつつ、戎狄と中国
人が称する民族との関係を考えてゆき、胡、匈奴
までを含んで考える。そして、この問題を考えて
ゆくときの必読文献たる、『史記』と、その著者

司馬遷についての解説をして、中国史学の記念碑
的著作について、又その影響についての基本的著
作等を紹介し、且つは、経済と心の問題について
の司馬遷の見た中国人の考え方を紹介して、我々
現代についての反省としたい、と考えている。

前期はレポートを課して、資料を読む際の注意
を喚起することを目的とする。

後期は、授業で行ったことを消化しているかど
うかを点検するテストを行う。出欠にはこだわら
ない。

〔参考書〕茂沢方尚著『韓非子』の思想史的研究
(近代文藝社) ¥5,000

科学史

小宮山 隆

<講義目的(要旨)>

自然科学の歴史、すなわち人間が自らを取りま
く自然をどのようにとらえ、どのように知を組立
ててきたか、その紆余曲折にみちた歩みを概観す
る。

また、それを通じて、今日の諸科学の多岐にわ
たる展開を見通す視点を手にしたいと思う。

<授業内容・授業計画>

世界観の歴史、物質観の歴史、生命観の歴史と
いう三つの側面にわけ、物理学、化学、生物学の
それぞれが近代科学として成立する過程と、その
後の展開を追う。

前期 世界観の歴史：ニュートン力学の成立まで
物質観の歴史：近代化学の成立

(ラヴォワジェ・ドルトン)
エネルギー概念の成立

後期 新しい世界観/物質観
相対性理論、量子力学の展
開

生命観の歴史：血液循環の発見
進化論

ノートをしっかり取るようにしてほしい。

<評価方法>

前期試験、学年末試験および夏休みのレポート
によって評価する。月1回程度、小テストを行い、
平常点として加味する。なお試験は、原則として
教科書、ノート等の参照を可とする。

〔教科書〕八杉龍一著『図解・科学の歴史』
(東京教学社) ¥1,957

法 学 憲 法

前 田 英 昭

本講座では、日本国憲法の基本原理を解説するとともに、我々が直面する法的諸問題を取り上げ、法的な考え方ができるように心がけたい。

参考文献は随時紹介する。

〔教科書〕松澤浩一『日本国憲法論』

法 学 憲 法

馬 越 道 夫

〈講義目的（要旨）〉

秩序ある平穏な社会を形成することは、市民社会の目的である。この目的を達成する手段が法律である。この様に法律は社会の秩序を維持する手段であり、道具にすぎない。「悪法もまた法なり」という古い法格言がある。然し悪法を遵守することにより社会の秩序がかえって崩れるならば、この悪法は「法としての機能」を果たして居るとは言えない。講義の目的は法律の持つかかる社会的機能を踏まえ、最高裁判所の判例などの具体事案を通じて、法の機能・内容を出来る限り明らかにする事にある。

〈授業内容・授業計画〉

（前期）法学の基礎理論

4月 法の意義・規範としての法・法の生成と発展・法と道徳、宗教

5月 近代法の成立・法と政治、経済・財産法の体形・法と裁判・裁判の基準

6月 法の解釈・法の効力

7月 市民社会と法（犯罪と刑罰、罪刑法定主義、労働法、家族法）・法の分類

（後期）憲法

9月 憲法の意義、機能・明治憲法の特徴と新憲法の誕生 — その歴史的背景

10月 基本的人権と三権分立

11月 司法権 — 裁判の構造・違憲立法審査権

12月 財政の意義とその構造 — 財政立憲主義・憲法と国民の義務

1月 憲法改正とその限界

〈成績評価の方法〉

筆記試験

*六法全書は教科書の一部と考え、必ず持参すること。

政 治 学

浦 田 早 苗

冷戦後の新世界秩序が模索されている現在、世界は大きな転換期にある。国内では政治改革、行政改革、税制改革が政治経済の緊急課題となり、これまでの政治のありかたに変更が求められている。また、日本の急激な経済成長は経済摩擦、円高、体制的維持費の分担要求といった国際問題を引き起こしている。本講義では、政治と経済の不可分の関係を、国際化・情報化された現代社会の枠組みの中で考察し、政治のメカニズムがいかに関係しているか、また逆に政策決定にいかなる経済的視点が必要であるのか明らかにすることに視点が置かれている。

講義の冒頭では各自の政治への関心を高めるため、その週の時事問題を取り上げ解説し、現代社会の抱える問題について考える。前期の講義では、日本の政治事情の比較対象として1980年代から現在に至るアメリカ、イギリス、ドイツ、フランスそれぞれの国の政治を概観する。スタグフレーションとレーガノミクスからクリントンの政治、サッチャー政権以後のイギリス議会政治、ドイツ統一と冷戦の終結過程、ECの統合とフランスの政治、ミッテランの経済政策等が中心テーマである。後期は、例えばマキシミ戦略、多数決のパラドックス、公共性の理論といったとりわけ経済に関連の深い政治理論をまず概説し、続いて現代日本社会の問題点を考察する。取り上げるテーマは、日本農業の国際化、外国人労働者問題、環境政策等である。年5～6回行う小テスト—簡単な政治論評—は出席点代わりとし、学年末試験に加算する。試験はあらかじめ指示した5問から2題出題する（ノートの持ち込みは不可）。特に教科書は指定しないが、さらに詳細に研究を望む学生には適宜参考書を推薦する。参考書は必読でないが、常に新聞を「読む」ことが全員に義務づけられている。

政 治 学

上 條 末 夫

〈講義目的（要旨）〉

伝統的政治学と近代的政治学の双方の手法によって、政治に関する基礎的な理論と政治の実態を

明らかにする。そのことを通じて主権者のあり方を考える。

〈授業内容・授業計画〉

前期：基礎的理論の解説。四月、政治の概念、政治学の研究方法。五月、国家の概念、権力の概念と主権の意味。六月、政治制度、政治機構、各国の政治制度の比較、現代の政治的イデオロギー。七月、民主政治の理論、大衆デモクラシー論、という内容で、政治の概念と政治の枠組ないしメカニズムを解説する。

後期：政治の実態の解明。九月、選挙制度、選挙権、投票行動。十月、政党の概念、政党システム、政策決定と議会。十一月、政府（内閣）の機能、議員内閣制と大統領制の比較、行政の機能と実態、を明らかにする。さらに十二月以降は、国際社会の特徴、国際組織、平和維持活動、国際法と国際世論の機能、など国際政治について解説する。

〈評価方法〉

出席および筆記試験。

〔教科書〕上條、須藤、寺崎、稲葉『政治学概論』（北樹出版）¥2,500

〔参考書〕阿部、内田『現代政治学小辞典』（有斐閣）¥1,200

に述べたように、他の社会科学とはいささか異なった問題設定（視点・視座）を持つ。社会学的視点とは何か、そ特性をまず理解することから始める。

II. 社会学の歴史 I. で理解したことを踏まえて、社会学の歴史を概観する。歴史とは言っても、言うまでもなくあくまで、社会学的思考法を理解することが目的であり、現代社会学に大きな影響を与えた様々な社会学者の見解を取り上げ検討する。

III. 社会的人間 最後に、現代社会学的問題として、行為論、社会体系論、社会的自我・性格などについてとりあげたい。

一年間、基本的な問題を語るの、それによって、社会学的な見方、考え方を理解し、また、社会学的思考法のおもしろさも分かってもらえると思う。

〈評価方法〉

後期に行うペーパー・テストで成績を評価する。試験はあくまでも、講義内容に即して出題するので、まめに出席することが望まれる。

〔教科書〕安藤喜久雄・児玉幹夫編著『社会学概論』（学文社）

〔参考書〕安藤喜久雄・児玉幹夫編著『わかりやすい社会学』（学文社）
その他適宜指示する。

社会学

橋 爪 敏

〈講義目的〉

社会学以外の学問を専攻する学生にとって、社会学を学ぶことは、いかなる意味があるのだろうか。それに多少なりとも答えるのがこの講義の目的である。

社会学は、経済学と同様に社会科学の一特殊部門であるが、その対象の広さは経済学以上である。社会学は、その名前が示すように、ある意味においては、あらゆる社会現象をその対象とする。それは、社会学が他の社会科学とはいささか異なった問題設定（視点・視座）を持つからに他ならない。この問題設定（視点・視座）を多少なりとも理解し、会得してもらうのがこの講義の目的である。

〈授業内容・授業計画〉

一年間の授業回数は25回くらいで長いようで大変短い。こうした短い時間の中で、あまり多くを扱うことは出来ない。また、近年の学生諸君の社会科学についての基礎知識の不足も考慮して、以下のような内容を講義することとしたい。

I. 社会学とは何か ここにおいては社会学の対象と方法について説明したい。社会学はす

社会学

岩 上 真 珠

〈講義目的（要旨）〉

社会学は、人間行動を社会との関連で理解する学問である。「人間行動をとおして社会を見通す」と言い替えてもよい。

さて、個人は、社会に生み込まれ、社会の一員としてさまざまな社会現象に遭遇する。講義では、誕生から児童期、青年期、成人期、老年期を経て死に至る個人のライフコースをたて軸にして、現代社会のなかで個人が会おう主たる現象である家族、地域、学校、職場などのかかわりを通して、同時代のわれわれをとりまく生活世界の理解を目指す。われわれはどのような社会を、どのように生きているのであろうか。結婚、家族の形成、職場への所属などはどのようになされ、どのような意味を持っているのだろうか。さらに、個人のライフコースを歴史とかかわらせる視点から、社会変動についての洞察にも視野を広げてゆきたいと考えている。

講義を通じて、われわれ自身を見つめ、われわれの生き方が現代社会の社会構造といかなるかかわりを有しているかを理解する、社会学の「眼」

を養ってもらいたい。

〈講義計画〉

講義は、以下のスケジュールにしたがって進めるつもりである。

(前期)

1. 誕生の意味
2. 定位家族 — 父・母の意味
3. 地域社会 — ムラとまち
4. 学校 — 仲間, 競争, 管理, 高学歴化
5. 青年 — 社会における青年の位置, 青年文化
6. 産業社会と職業

(後期)

7. 結婚と家族の形成
8. 中年期 — 人生の再編成
9. 高齢化社会の構造と老年期の出現
10. 高齢化への社会的対応
11. 高齢者の生活世界 — 老いと死への対応
12. 現代社会と個人のライフコース

〈評価方法〉

評価は、前期および後期試験と平素の学習態度で行う。例年、前期はノートに限り持ち込みを認めているが、後期は一切持ち込みは認めない。

〔教科書〕高島・岩上・石川共著『生活世界を旅する—ライフステージの社会学—』

(福村出版)

〔参考書〕授業中、適宜指示する。

統 計 学

飯 塚 仁之助

統計学の基礎的知識即ち統計学の発達過程、統計理論、調査法及び分析法、とりわけ得られたデータを用いてどのように分析し、その結果をどのように解釈するかを教授する。分析法としては、統計集団の特性を知るための平均、散布度、歪度の算出法及び指数、相関関係等を教授すると共に、適宜例題を課す。

欠席すると次週以降の授業内容を理解することの困難が予想されるので、履修者は毎週必ず出席すること。

成績はテストによって評価するが、出席者の少ない時は出欠をとるので、その際は出席回数を斟酌する。

試験場におけるノート、参考書等の使用は認めない。

講義はノートを用いて行うが参考文献は教場において指示する。

地 理 学

川 口 太 郎

〈講義目的〉

地理学とは、「地」表面上に生起する諸現象の「理(ことわり)」を追究する学問であり、すくなくとも大学で講じられる地理学は、諸君がこれまでイメージしてきたような「知名・物産の地理」や「なるほどザ・ワールド」的な「探検地理」とはまったく違ったものである。といったところで、現代社会の諸問題はさまざまな学問分野がアプローチしているわけであり、では何が地理学に特有なのかということ、空間的な観点からの事象把握を重視するといったことになろうか。講義では、こうした学問論や空間論を展開するつもりは毛頭ないが、現代日本の社会・経済や東京の歴史的発展を具体的に述べるなかで、地理学的なアプローチを体験してもらいたいと考える。もっとも、一般的な教養レベルの知識を軸に講義をすすめるので、日本の現代事情や東京の形成に関する興味を満たすといった観点でこの講義をとらえてもらっても結構である。

〈授業内容・授業計画〉

前期は今日の日本の自然や産業を題材にとり、地理学の諸分野について概説する(§1日本国論の変遷, §2日本の自然環境, §3日本の農業, §4日本の工業, §5日本の商業)。後期は東京を題材にとり、歴史的展開のなかで都市がどのように成長してきたかについて論を展開する(§6江戸の空間人類学, §7明治の東京計画, §8東京の近代化, §9東京プロブレム)。

〈評価方法〉

基本的には中間試験及び期末試験を評価の対象とし、これに若干の平常点を加味する。

〈教材〉

上記のように話題が多岐にのぼるため、特定の教科書を指定することは不可能である。毎時間ごとにプリントを配布し、随時参考書を紹介する。

地 理 学

矢 野 陽 子

〈講義目的(要旨)〉

「地理学とは何か」という弟子の問いに対してある著名な地理学者は、椅子から立ちあがると部屋の窓を明け、「あなたの目の前にあります。」とってはほえみました。ある女流地理学者は「人類は地球の子である」といい残しております。いずれも感慨深い内容をもった表現だと思えます。

文化人類学

内山明子

〈講義目的〉

文化人類学は、ある社会の人間が自分たちと異なる人間を発見したときに芽生えたものといえます。その点からみれば、起源をきわめて古い時代に求めることができますが、今日みられるような学として成立してからは百年余りしか経っておらず、ごく若い学問ということができます。とりわけ日本で文化人類学が広く人々の関心と呼ぶようになったのは1960年代に入ってからであり、国際化時代と称される社会風潮と歩を合わせて足場を広げていったのでした。異なる文化との出会いがものすごいスピードで進む中、それまでの自民族中心的な考え方や欧米偏重の世界認識の上にあぐらをかいているわけにはいなくなり、異文化理解をめぐる諸問題を専門的に扱う学問として文化人類学が脚光を浴びるにいたったのです。

さて「国際化」とか「異文化理解」といった言葉には一般に華やかなイメージが付きまっていますが、実際異文化に出会うということは、しばしばものすごい緊張を強いるものであり、何が何でも拒否してしまいたいというような、それまで考えてもみなかったような感情を引き起こしさせるものです。そのような異文化の存在を認め、それを理解し、さらに自分の言葉で語っていくことはどういうことなのか、という重く困難な問題が文化人類学という学問の根底にあることを強調しておきたいと思います。

本講義では、文化人類学の基礎的な概念の説明を通して、そのおおよその姿を提示することを基本的な目的とします。そのさい、世界中の様々な民族の諸文化の中から具体的な事例をあげていきますが、それを単なる「奇妙な」風習として片づけるのではなく、各自がそれまで当たり前としてきた常識に疑問を抱ききっかけとして受け取ってもらいたいと考えています。このような小さな異文化との出会いを体験してもらうことによって、各自が、上に述べた文化人類学の根本的な問題に目を向け自分なりに考えていく可能性を開いてほしいと考えています。

〈授業内容・授業計画〉

最初に文化人類学の成立と展開について簡単に触れ、未開と文明、自民族中心主義、文化相対主義などの問題を取り上げる予定です。その後、前半では人間の連帯の在り方として、親族および政治・経済の分野をみていきます。親族においては、

地理学をむずかしいものと思う前に、体中の余分な力を抜いてやさしいことから考えていきたいと思っています。一枚の地図を手にしたとき、無限の楽しみが湧き、まだ見ぬ旅先の風景が目には浮ぶようになればしめたものです。文字のない未開の時代にも地図はありました。人類は必要からいろいろな道具を産みだしてきましたが、地図もその一つです。地理といえは暗記ものと考え、地名を覚えることに苦痛を感じずという人が意外に多いのも事実です。毎日の生活の中で、例えば、新聞・TVのニュースやドラマ・小説の中等あげればきりのないほど地名はでできます。もしもその地名が自分にとって未知なものであった時、一冊の地図帳（中学や高校で使ったもので結構です）を手許におき、必ず地名のある位置を確かめることを怠らなければ、くり返しの中で自然に覚えてしまいます。やがて何かのおりにその地名の土地を訪れたときの感慨はひとしおと思います。

地理的現象はこの地球表面上には無数にあります。それを地理学としてどのようにとらえるかが問題です。正しい知識の上を立て、地理学的な目でものごとを判断する思考力・分析力を養うことを目指したいと思います。21世紀の輝やかない世界に活躍する皆さんの思考と行動の中に役立てていただきたいと思います。

〈授業内容・授業計画〉

前期は主として地理学の基礎である地図について講義をすすめたいと思います。地理学にとって何故地図は必要か、また地図はどのような目的で使われてきたか、地図から何を読みとるか等、地理学的考察を深めたいと思います。

後期は「所変われば品変わる」という諺から転じて、所変われば地方色があり、そこには地理学が生まれることに注目したいと思います。地理的現象の分布を通して地域分化の概念を学び、具体例をあげて分析したいと思います。地域分化とは同じ性質を持った地域が時間的経過とともに性格の異ったいくつかの地域に分かれることをいいます。

授業内容については下記の形式で行いたいと思います。例としてその一部分をあげておきます。

()内は授業内容を示し、イメージしやすいように表題をつけてみました。具体的なテーマと順序は変更することがあります。

例1. 地理学への招待（序説）

2. 日本列島はなぜ弓なりの形なのか（形態論）

3. ウェゲナーのパズル（大陸漂移説）

4. 所変われば品変わる（分布論）

5. 百聞は一見にしかず（野外観察）

〈評価方法〉

前期は後期の筆記試験と、平常点（いろいろな方法で調べる）。

性、婚姻、家族といったテーマを通して私たち自身が抱えている諸問題にも結び付けていきたいと考えています。政治、経済では、近代的な国家の枠では捉えられない様々な政治形態や生態環境と生業、互酬性といった問題を取り上げていきます。後半では、人間の精神面に焦点を合わせ、分類と象徴、神話、儀礼などから、いわゆる宗教的な現象に関する文化人類学の主要な研究を紹介する予定です。

なお授業は、ビデオやスライドを用いながら講義形式で行ないます。

〈評価方法〉

後期のみ筆記試験で評価する予定ですが、レポート等の課題提出物で試験に代える可能性もあります。

〈教材〉

特に教科書は指定しません。授業の中で参考文献の指示を行います。

社会科学概論

大石 雄 爾

〈講義内容〉

現代社会は複雑に入り組んだ多くの問題をかかえている。環境問題や発展途上国の貧困、日本における「豊かさ」の中の長時間労働や過労死、福祉政策の貧困など、早急な解決を迫られている問題は山積している。いったい、こうした諸問題は どうして生じたのだろうか。社会科学には、その原因を探り出し、問題解決への展望をさし示すという重要な課題が課せられている。

では、社会科学はいかにしてこれらの問題に取り組むことができるのだろうか。現代社会は、既存の社会主義の崩壊によって、資本主義社会としてますます一元化してきている。他方、地球上の多くの場所で民族対民族の対立はなくなればかりか、ますますはげしくなっているようにも見える。この講義において、われわれは、先人たちが社会の仕組みをどのように解明してきたかを把握し、現代社会の仕組みの解明をめざす社会科学のあり方について考えてゆく。

〈講義（授業）方法〉

年間を通して、ほぼ次のよう順序で話を進めてゆく。

1. 社会科学とは何か
2. 社会の仕組みと歴史的発展
3. 資本主義社会の成立と社会科学の生誕
4. 資本主義社会の発展と社会科学の確立
アダム・スミス、ヘーゲル、マルクスの社会観
5. 資本主義の経済と法および国家

6. 民族をどう捉えるか
7. 現代資本主義の経済構造
8. 現代社会の仕組みと社会科学

なお、社会科学の現代的意義を明らかにするという趣旨から、現代資本主義のかかえる諸問題について取り上げ講義する予定である。テーマは、例えば、スタグフレーションとは何か、地球環境問題、外国人労働力移動問題、などである。

この講義に参加する諸君には、自ら、現実の社会に目を開き、問題意識をもって講義を聞くよう期待したい。そのような諸君の関心を喚起する目的で、参加者には年に数回、授業時間内に簡単なレポートを書いてもらうことにする。これは、成績評価の際にも考慮するので、欠席のためレポート提出ができなかった、ということがないように注意していただきたい。

〈成績評価〉

基本的には期末試験で成績評価するが、上記の講義時間内のレポートも一定程度考慮する。

〔参考書〕平野喜一郎著『社会科学の生誕』

（大月書店）

高嶋善哉著『社会科学入門』（岩波新書）¥550

自 然 分 野

自然科学概論

宇和川 正 人

〈授業内容〉

自然環境と資源の諸問題について解説する。あわせて、資源の開発と人類とのかかわりあいについて考察する。

（前期）自然と人類との対応、現代の地球観、地球生態系、環境・資源と開発

（後期）水圏の汚染、大気圏の汚染、岩石圏の汚染、生物圏の汚染、地球白書

〈成績評価の方法〉

筆記試験（年度末）に出席を勘案して評価する。

〔参考書〕その都度紹介する。

自然科学概論

漆原和子

〈授業内容〉

(前期)

メソポタミアから1800年代に至る時代の西欧を中心とする科学器機と自然科学の発展について述べる。天文、数学、医学、物理、生物、化学、農学などの科学の成立と発展を社会的背景もあわせて解説する。

(後期)

日本の自然科学の歴史について概略を述べる。特に安土桃山時代以後、江戸時代、明治期を中心に、天文暦法、医学、生物学、数学、農学を中心に解説する。

まとめとして、自然科学・技術の発展とともにかかえている今日の問題点について考える。環境汚染などのできるだけ今日的テーマをとりあげ、現象の解説と問題点を明確に示す。

〈評価方法〉

試験によって評価する。

〔教科書〕なし

〔参考書〕時代、テーマに応じて、その都度教室であげる。

〔プリント〕教室で必要に応じて、その都度配布する。

〈その他〉

西洋史、日本史を勉強しておくことが望ましい。

数 学

福田賢一

〈講義目的(要旨)〉

数学手法は自然現象、工学的現象を分析、解釈する際に不可欠なものであるが、社会科学諸分野においても、経済学は勿論の事、その応用がますます活発と成っている。

このような現状を踏まえ、各専門領域を学ぶ際の強靱な精神と態度を養成する一助となる事を目指し、現代数学の基本的概念、方法を学ぶ。

予備知識は特に必要としないが、自分自身で考え分析するという態度は当然必要である。

〈講義内容〉

入門

4月

全体の講義の進め方、記号法等、予備知識の確認。

論理

4月～6月

言語の持つ論理、記号論理の基礎表現と論理、情報と論理、応用

線形代数

6月～9月

ベクトル、行列・行列式、幾何、線形計画法、応用

解析

10月～11月

微分積分、多変数関数の取扱い、簡単な微分方程式、応用

現象と数学

今までの知識を総合して、社会現象等の分析、解釈を試みる。時間が許せば、ゲームの理論、確率統計についても論じたい。

〈評価方法〉

主として、前期末、学年末試験の成績により評価を下す。またレポート等を課し、評価の対象とする事もある。

〔教科書〕大学自然科学教育研究会『新しい数学』(東京数学社) ¥1,600

〔参考書〕その都度、講義中に指示する。

基本的には教科書とノートで足りるようにする。そのため、プリント等を配布する。

心 理 学

牧野 晋

〈講義目的(要旨)〉

「心理学」という分野は、皆さんが大学に入られて初めて目にする科目だと思います。心理学という名前から、この科目を履修することで、人の心が読めるようになったり、超能力や超自然現象の話が聞けるのではないかと考える人もいるのではないのでしょうか。残念ながら、心理学はこれらの領域とは違います。

心理学は、ヒトの見る、聞く、感じる、考える、覚える、などといった日常生活におけるさまざまな行動について分析したり、あるいは認識のメカニズムを探るといったアプローチを通じて人間を理解しようとする学問だといえます。

講義では、心理学の各分野を概観し、その基礎的知識を解説するとともに、心理学のとり「科学的アプローチ」とはどのようなものであるかを理解してもらいたいと考えています。

〈授業内容・授業計画〉

心理学の領域は多岐にわたっています。ですから、特に前期・後期を区別しません。基本的には通年で、心理学の代表的な各領域について、一領域あたり、1回～3回の講義時間でお話したいと思っています。

具体的には、初めて心理学に接する皆さんのために、まず心理学とは何かといった項目から出発し、史的概観などを含めて講義します。次に、外界を知るはたらき(感覚・知覚)、行動の変容

(学習), 記憶の世界(記憶), ひとを動かすコントロールするもの(動機づけ, 感情と情動), ひととしてのまとまり(パーソナリティ, 知能), 発達, 社会的行動, 認識のメカニズムを探る(認知)といった各領域について解説します。従来の研究成果をもとに, できるだけ私たちの日常生活に関係づけながら解説していきたいと考えています。また, 講義の間には随時, 実際に皆さんに実験に参加してもらい, 心理学における実験的研究も体験してもらおうと思っています。

<評価方法>

原則として, 学年末筆記試験の成績によって評価します。なお, 出席や実験への参加, 提出物などを平常点として参考にする場合があります。

[教科書] 中村昭之編『心理学概説』(八千代出版)(授業中に図表等を参照してもらうことが多いので, 用意して下さい)

[参考書] 斎藤 勇編『心理学ビギナーズトピックス100』(誠信書房)(非常に読みやすい入門書だと思います)

田島信元編『心理学キーワード』(有斐閣双書)(ある一つのテーマについて見聞き完結型で分かりやすく解説した入門書)

[その他] 授業にて配布するプリント類

心 理 学

高 橋 良 博

<講義目的(要旨)>

心理学を初めて学ぶ人を対象として, なるべく日常的な問題に即しながら, 心理学の主な領域と, その研究方法についての知識を深め, 人間の心理学的理解に興味を持ってもらうことを目的に, 講義を進めてゆく予定です。

また, 講義の中で時々供覧実験などを行い, 心理学研究の雰囲気も伝えたいと思います。

<授業内容・授業計画>

(前期) 心理学の立場で, 人間の心の動きをどの様に考え, 捉えようとしているかを中心に進める予定。4月, 心理学の課題(心理学の定義・領域・研究法), 5月, 感覚(視覚・聴覚・その他の感覚・その他の現象, 盲点および陰性残像などの実験を含む。)6月, 知覚(知覚の特性・知覚のまとまり・空間知覚・仮現運動・知覚成立と内的要因), 7月, 学習(学習の定義・古典的条件づけ・道具的条件づけ・運動学習・記銘学習, オペラント条件づけの供覧実験を含む。)

(後期) 前期の基礎的知識をふまえて, 心理学の

各領域に焦点を当てる。9月, 記憶(記憶の過程・感覚記憶・短期記憶・長期記憶, メモリースパンの実験を含む。), 10月, 思考と言語(試行錯誤・洞察・象徴行動・概念学習・言語), 11月, 動機づけと情動, パーソナリティ(類型論・特性論・精神分析の人格理論, パーソナリティテストなどの体験を含む。), 12月, 精神障害と治療心理学など臨床関係の説明にもふれたい。

<評価方法>

筆記試験, レポートなどの提出物, 平常点(講義中に適宜行われる, 実験および調査への参加度)などを総合して評価を行う。

[教科書] 中村昭之編『心理学概説』(八千代出版) ¥1,500

[参考書] その都度紹介する。

心 理 学

中 丸 茂

<講義目的>

最近, マスメディア(TV)や雑誌などの「それゆけココロロジー」や「心理ゲーム」の流行で, 「心理学」という学問のネームバリューは, 一気に高くなった。しかし, 「心理学」という名前のみ身近なものとなり, その内容はかなり勘違いされている。心理学は, 読心術や心理ゲームではなく「科学」である。したがって, ゲーム感覚で本講義を履修するととまどい, 失望することになる。心理学は, 「行動の科学」であり, かつ, 「応用科学」である。

本講義では, 心理学の基本的な考え方, 研究方法, 知識を, 主観-客観, 意識-行動という次元を中心に論じ心理学で得た知識を, いかに, 日常生活へ応用出来るのかということを修得することを目的とする。

<講義内容>

講義は, 基本的には, 前期に基礎心理学, 後期に応用心理学という流れで行ない, 具体的な講義の内容は, 下記の項目より, 講義回数及び受講生の希望を踏まえた上で, 決定する。

- (1) オリエンテーション: 心理学とは何か, 心理学者とは, 何者なのか?
- (2) 科学としての心理学: 科学的なものの考え方(独立変数 - 従属変数)
- (3) 学習心理学(1): 学習心理学の基礎(S-R)
- (4) " (2): 行動分析学(行動制御法)
- (5) " (3): 行動療法(学習心理学の臨床的応用)
- (6) 認知心理学(1): 認知心理学の基礎(S-O)

—R)

- (7) " (2): 能率的な勉強方法
- (8) " (3): 認知療法 (認知心理学の臨床的応用)
- (9) 人格心理学(1): 個人差の話
- (10) " (2): 内向性 — 外向性の話
- (11) 社会心理学(1): 社会心理学の基礎 (他者の存在)
- (12) " (2): 単純接触の原理
- (13) 社会心理学(3): 愛の社会心理学
- (14) 生理心理学(1): 生理心理学の基礎 (生理→行動)
- (15) " (2): 行動と覚醒水準
- (16) 知覚心理学 : 錯覚の話
- (17) 発達心理学 : 情動の話 (学習と成熟)
- (18) 産業心理学(1): 作業と能率 (BGMの話)
- (19) " (2): ヒューマン・エラー
- (20) 臨床心理学(1): 心理学と精神医学, カウンセリング
- (21) " (2): 心理学と精神分析学
- (22) 音楽心理学 : 音楽療法
- (23) 宗教心理学(1): 禅の心理学 (現象学的アプローチ)
- (24) " (2): 禅の心理学 (社会心理学的アプローチ)
- (25) スポーツ心理学(1): コーチング
- (26) " (2): イメージトレーニング
- (27) 神経言語プログラミング(1)
- (28) " (2)
- (29) ブレーン・ストーミング(1)
- (30) " (2)

〈評価方法〉

前期末試験と学年末試験及びレポート (前後期各1回) の合計得点に応じて成績を評価。筆記試験は、何を持ち込んでも可である。試験内容は、「具体例を3つ以上記述せよ」や「知らない人に説明せよ」など、内容を理解し、自分のものとして、自分の言葉で説明出来なければ解答不可能な問題が多いので、しっかり、勉強すること。

〈教材〉

特に、教科書、参考書は指定しない。年間、50枚程度のプリントを配布するので、講義をよく聴いて、補足しておくこと。また、さらに、その単元の学習を進めたい受講生は、プリントの最後の引用・参考文献・図書を図書館等で手に入れ、読むこと。

〈追記〉

各回とも簡単な実習を行なっていく。

〔教科書〕 毎回プリントを配布。(年間50枚程度)

〔参考書〕 SUPER STRINGサーフライダー21 1993
「あしたのジョー」心理学概論 ユニオンプレス他配布プリントに記載

天 文 学

篠原正雄

〈講義目的 (要旨) 〉

観測装置やコンピューターの発展に伴ない、最近の宇宙の研究は急速に進展している。本講では、比較惑星論など地球物理学との境界領域も含めた広義の現代天文学の描く宇宙像を、研究の手法と併せて紹介する。講義の目的は、宇宙がかつて考えられたような永遠不変、不生不滅の静かな広がりではなく、むしろ荒々しいまでにダイナミックな進化していく世界であることと、我々人類もまたそうした宇宙の歴史の所産であることとを知っていただく所にある。

講義を中心とするが、天体のスライドなどを多用する予定である。

〈授業内容・授業計画〉

前期は、今年7月に予想される彗星と木星との衝突という大事件を念頭におきつつ、太陽系の諸天体および太陽について講義する。

初めに、最近の一連の太陽系探査が明らかにした諸惑星やさまざまな小天体の姿を概観する。惑星上の自然環境を支配する要因である太陽放射のエネルギーと惑星内部からのエネルギーとの働きを解説する。さらに、小天体との度重なる衝突をも考慮に入れて諸惑星の形成史を比較することにより、地球上の自然環境の特質と由来とを明らかにする。

次に、太陽は無数にある恒星の一つであるという視点から太陽について論じる。最新の太陽像を、さまざまな恒星の姿と比べながら眺めてみる。太陽の構造、エネルギー源、進化を論じ、さらに現代における太陽活動の変動とその地球環境への影響に関する研究を紹介する。

後期は、銀河系および宇宙の起源と進化について講義する。時間と空間、エネルギーと物質がどのように生まれ、進化してきたか、現代の考え方を紹介する。銀河系の中で、星間物質から星々が生まれては、再び星間物質へと戻って行くことを繰り返す中で、物質が進化してきた。この過程の重要な現場である星生成領域の研究を紹介しつつ、前期に触れた太陽系の起源の問題を星生成領域の研究の視点から捉えなおす。宇宙における物質の化学進化と地球における生命の起源との間の密接な関連が示唆されるであろう。

最後に、宇宙の歴史と我々人類の存在との深い関わりについて述べ、宇宙生物学や地球外文明探査の可能性について考える。

〈評価方法〉

学期末の筆記試験による。中間試験を実施することもあり得る。平常点を加味する。

コンピュータ概論

竹田 洋一

〈講義目的（要旨）〉

現代社会においてはコンピュータはきわめて重要な役割を果たしており、各個人がパソコンをある程度までに取り扱えることの必要性は日増に高まりつつある。特にこれから社会に巣立ってゆく若い世代にとってはこの技能の修得は必要不可欠と言っても過言ではない。本授業はこの土台となるべき知識を実際にパソコンを操作する体験を通して身につけてもらうことを目的とするものである。

〈授業内容〉

具体的な内容としては、①キーボードの操作の習熟、②BASIC言語を用いた基本的なプログラミングの学習（特にコンピュータグラフィックスに重点を置きたい）、③パソコンの各種ソフトの実行のためのベースとなっているオペレーティングシステムMS-DOSの基本的知識、④ワープロソフト「一太郎」のような応用ソフトの経験、を予定しているが特に②に時間をかけてコンピュータが個々の命令をいかに実行していくか、という「プログラム」の概念に慣れてもらうことに力を入れたい。

〈授業形態〉

毎月の授業の進め方は、月1回の講義+その月の残りの3（～4）回はパソコン（PC-9801）を用いた実習、という形で行なっていく予定である。

〈成績評価〉

成績は、①毎回の出席の様子、②折りにふれて与える課題（レポート）、③前後期それぞれの終わりに行なう2回の試験、の三者を総合して評価する。

〔教科書〕

「MS-DOS版、はじめてのBASIC」

戸内順一・著、啓学出版 ¥2,000

〈その他〉

全くの初心者を対象にしたレベルから始めるので特に予備知識は要求しないが週1回の授業のみではどうしても十分とは言えないので各自情報教育センターに登録して自習用のパソコンで地道に予習復習をする自主的な努力が望まれる。

コンピュータ概論

三好重明

〈講義目的（要旨）〉

この講義の目的は、コンピュータとは何かということから始めて原理的なことを中心に学習し、実際に受講者自身が簡単なプログラムを書いてコンピュータに仕事をさせることを通してコンピュータに馴染むことである。

今日、コンピュータは社会のなかで欠くことのできない存在として、望むと望まざるとを問わずそれとの関わりなしには生活できない程の地位を占めている。このような状況のなかでコンピュータについての正しい知識とその原理の認識は、21世紀に向けてより一層その重要性を増しつつあると思われる。そこで、この講義では、コンピュータとは何か、その構成要素は何か、シリコンや金属などの塊であるに過ぎないコンピュータがどういう仕組みで計算できるのか、コンピュータの動作原理（アルゴリズム）はどのようなものか、プログラム言語とは何であって、どうして必要なのか、ハードウェアとシステムソフトウェア及び応用ソフトウェアの役割、などのことがらを解説してから、実際にコンピュータを操作する実習として、簡単なプログラムを書いてそれをコンピュータに実行させることをやりたい。時間が許せばワープロや表計算などの応用ソフトウェアの実習も行なえるかもしれない。

〈講義形態及び成績評価方法〉

講義室に於ける講義、演習と計算機室に於ける実習、演習とを、講義の進捗状況にあわせて適宜行なう。従って、講義または実習の終わりに次回の教室の指定を行なう。

成績評価は前期末（中間試験）と年度末（期末試験）の2回の筆記試験及び演習（授業中に適宜行なう）によって行なう。

〈その他〉

予備知識は必要としない。しかし、毎回の演習を必ず受け、適宜課される課題のレポートを必ず提出する態度が必要であろう。そのため、授業時間以外にも、情報教育センターに於て各自自習することも必要になるとと思われる。

また、実習のため計算機室を使用するが、計算機の数に限りがあるため、受講希望者が100名を越える場合には、抽選によって受講者を決める場合もある。

人 類 学

江 藤 盛 治

<講義目的(要旨)>

生物としての人類について、自然人類学の視点から考察を加え、文化をもつ唯一の動物といわれている人類を総合的に理解することを目的とする。人類は生物に違いないのか、動物だと言い切って間違いないのか。常識とされているはずのことについて検証を加えてみることから始まり、過去から現在に至る道程のなかから、動物としての人類の本質を探り、また人類の将来をみつめてみたい。

<授業内容・授業計画>

前期は、まず人類学(自然人類学)とはどんな学問か、というオリエンテーションから始める。3本の柱をおく。「進化」「変異」「適応」である。「進化」は長いタイムスパンのなかでの形態的「変異」としてとらえられるが、同時代における形態的「変異」としては、たとえば人種差があり、また同一人種内にみられる個体変異もあり、同一個人の成長・老化も生涯にみられる形態変異にはかならない。「適応」とは、人類が生きていくために、自然環境や自らの作り出した人為環境に対して、生物としてどのような仕組みで対処して来たのか、あるいは、しているのかとすることであり、「進化」も「変異」も「適応」の所産にかならない。要するに「進化」も「変異」も生物学的な「種」あるいは「個体」の環境に対する遺伝的「適応」と密接に関わっている。

自然界におけるヒト(Homo sapiens, 1758年、リンネの命名による)の位置、とくに動物界での分類上の位置づけを明らかにする。ヒトは、リンネによって脊椎動物(分類上の門、以下おなじ)、哺乳類(綱)、霊長類(目)、人類(ヒト科)のなかにヒト(属)(ホモ)、ヒト(種)(サピエンス)として分類されている。それぞれの形態的特徴並びに生活環境を示し、とくに霊長類どうしについて比較解剖学的考察を加えたい。

つぎに古生物学的知見に基づき人類の祖形の出現から始まる人類進化のあとをたどる。前期は恐らく「進化」までで終わるだろう。

後期は、「人類遺伝学入門」で遺伝の復習をし、「集団遺伝学」に触れ、簡単な人類の遺伝の型式を紹介する。ついで人類の「変異」の一つである「人種」についての概念と、その形成の理論、および現在の人類分布のあらましに触れ、そのうえで、自然ないし人為環境に対する人類の「適応」の行われ方のさまざまな営みについて述べることになる。

生物として生きていく営みを補うために、人類

が編み出した生活技術としての「文化」についても、随時触れるつもりである。

人類は、まことに特殊な動物である。汝(なんじ)自身を知らなければなるまい。

最後に、日本人(或いは日本民族)の形成に関する最近の説を紹介する予定である。

<予備知識>

特に必要としない。なるべく平易に講義する。できれば中学校程度の生物学の知識を思い出してくれれば有り難い。

<成績評価>

後期末にレポートを提出してもらう。

〔教科書〕使用しない。

〔参考書〕必要に応じて紹介する。

物 理 学

篠 原 正 雄

<講義目的(要旨)>

「〇〇の物理」と書いて、〇〇の部分に自然科学や技術に関連した言葉を入れてみる。「雲の物理」「岩石の物理」「スキーの物理」「血管の物理」「コアラの物理」、多少苦しいものもあるが、だいたい意味をなす。前世紀にあった、すべての自然科学は物理学に還元されるという主張は、自然の階層構造を無視した暴論である。しかし、あらゆる自然現象の根底には物理が存在しているのであり、この意味で物理学は自然科学の根底をなす科学であると言って良いだろう。従ってその守備範囲は非常に広く、一年間の講義で主な分野を漏れなく見てまわるのは不可能に近い。

本講では、「光とは何か」という問を立て、この問をめぐるさまざまな事柄を取りあげる。これは内容を「光学」に限定することを意味しない。光の本性については、17世紀には力学的に議論され、19世紀には光の電磁気学的性格が明らかにされた。さらに熱現象や、今世紀の物理学の二本柱である相対論、量子論等とも深く結びついている。「光とは何か」という問いに導かれて、結局は物理学のさまざまな主要な分野を通過することになる。

講義の目的は、光について学ぶことを通して、物理学的な目で世界を見るとはどういうことか体験していただくことにある。数式は物理に不可欠な言葉であるが、大切なのは数式により表現された意味である。数式の使用は極力避け、止むを得ず用いる場合はその意味をできる限り平易に説明するので、数学的な特別な予備知識は必要としない。

講義を中心とするが、理解を深めるために問題を考えてもらうこともある。

〈授業内容〉

次のような項目について講義する。

光線としての光(幾何光学) 光あれ! 三角測量 目とレンズ 望遠鏡と顕微鏡

波としての光(光学) 力が無いので止らない鉄は磁石を引きつける 「林檎が地球を引く力」 光は粒子か波なのか? 力と仕事とエネルギー 波の反射と屈折と音波 地震波 水の波(さざ波、津波、磯の波) 波は銀河を駆け巡る 蟹気楼 シャボン玉の膜の色 見えない光・聞こえない音 電磁波としての光(電磁気学) 静電気 電線上のカラス 地球という名の電磁石 ささまざまな電磁石(原子から銀河系まで) 光は電磁波 電波でクッキング 電波望遠鏡と地震予知 X線とガンマ線

熱と光(熱力学) 熱はたっぷり温度は低い?? 熱は流れる 月の砂漠(?)と継ぎ歯(熱膨張) こちこち岩石の対流 石でも落として暖まろうか 熱エネルギー 熱力学第一法則(エネルギーは使っても減らない!?) 第二法則(覆水盆に返れぬ事情) 幻の永久機関 クーラーは世界を暖める 使えないエネルギー 温度差のない世界 万物は光っている 光の温度・宇宙の温度 溶岩の光・星の光・人の光「温室効果様ありがとうございます、だけど……」

光子としての光(量子力学) 純色と混色(ニュートンの光学) 物理の辞書に三原色という語はない 茶色い光の波長はいくら? 「耳は音波を聴くが、目は光波を見ない」 植物は緑の光を追い出す 人参さんが赤いわけ オゾンホール 太陽と星のスペクトル 光の波は粒子か? 電子も波である 電子顕微鏡 放射能と放射線 原子力

光と時空(相対性理論) 「運動するものは縮むが、静止と運動は相対的。ゆえにどちらも相手より縮んでいる」?? ガリレイの相対性原理光の速度の意味 出口なし(光も出られぬブラックホール) 空間はおこちる(あなたの周りでも)

宇宙の膨張と人類 光の旅・太陽発地球経由宇宙の果て行き 生命は光の流れの中の渦 「光はみな宇宙に注ぐが、宇宙は満ちることなし。」

〈評価方法〉

学期末の筆記試験および授業への参加点。中間試験を実施することもあり得る。

〔教科書〕用いない。

〔参考書〕講義の中で必要に応じて適宜紹介する。

生 物 学

中 村 敏 枝

〈講義内容〉

93年9月、8人の科学者が閉鎖空間「バイオスフィア(生命圏)2」から2年ぶりで帰還した。アリゾナの砂漠につくられたこの「ミニ地球」は、1.4haのガラスドームの中に、熱帯雨林、サバンナ、海洋、湿地、砂漠を備えている。彼らは3か月分の食糧を持ち込み、後は自給自足の生活を送った。この長期実験の記録は、将来人類が宇宙に脱出するための参考資料となるのだろうか。

確かに、地球は将来人類絶滅の瞬間を迎える。私達にできる最良の方法は、いかにその瞬間を先に送るかではないか。人類が救わなければならないのは「地球」ではなく人類自身である。私達が守らなくてはならないのは、人類の生存が可能な現在の地球環境である。地球史における人類の時間を少しでも長くするために、これ以上の地球環境の悪化を防がなくてはならない。

この一年間、生物と環境について考えていきたい。まず生物の営みをいろいろな段階(個体・個体群・生態系)で紹介する。次に環境破壊の幾つかについて、その背後にある社会・経済問題も視野に入れて考察したい。人類が絶滅した恐竜たちと同じ運命をたどらないために、私達はどうかしらよいかを一緒に考えましょう。

〈講義項目〉

1. 生物の生活: 生命の維持・植物の物質生産・動物の個体群・社会・行動
 2. 生態系: 物質の循環・エネルギーの流れ
 3. 人間による環境破壊: オゾン層の破壊・地球温暖化・酸性雨・熱帯雨林の破壊・化学物質汚染・ゴミ問題など(これらのうちの幾つか)
- 1, 2は前期, 3は後期の予定。

〈評価方法〉

出席および2回の定期試験。出席率5割では単位は難しいかもしれない。

〔教科書〕未定

〔参考書〕講義中に随時紹介します。

外国語科目

英語

〈英語の教育目標〉

大学での英語教育は、高校英語教育の単なる延長ではなく、専門分野の研究に備えることはもちろんであるが、英語の言語運用能力（コミュニケーション能力）と語感を修得し、英語を通して海外の情報収集、その分析、そして分析結果の統合といった有機的・総合的な判断力や分析力によってさまざまな研究分野と融合することにあります。

地球の反対側で起こっている事件を衛星中継によるテレビやラジオで同時に視聴できるマスメディアが発達し、交通機関も整備された世界にあって、世界中の情報が日本に集まってくる。情報化された社会状況にあっては人類共通の問題を無視して日本だけでは動けない。好むと好まざるとにかかわらず、現在日本はますます世界の舞台で重要な役割を引き受けざるをえなくなっています。情報化のお陰で英語圏の国々も身近になったが、英語や文化が十分に理解されているとはいえない。先進国と発展途上国との立場のズレ、それにとまなう各国の利害の違いや経済格差、人口の不均衡な増加、外国人の労働、資源利用、環境保全といった諸問題などに関する情報を得て、文化的相互依存関係の実状をしっかりと学ばなければならぬ。いわば今日、地球的相互依存する中でわれわれがいかに主体的になりえるかということが問われている時代であるといえます。

このような状況から、マスコミ英語（新聞・雑誌・ラジオ・テレビなど）やテキスト講読によって外国の情報やニュースを「受信」し、テキストの精読・速読・多読から文化・社会・歴史・風土を学びながら、外国人のものの見方や考え方などを捉えてゆきます。同時に、日本の文化や技術を紹介し、かつ理解してもらうことを積極的に海外に「発信」していくことも課せられています。大学では情報や知識の「受信」と「発信」のバランスをとっていく語学運用力を身につけることが大切です。

大学レベルでは、テキストの精読・速読・多読を通して受験英語で得た語彙を拡大し、文法知識を補強しながら、語彙と構文、語のヴァリエーション、パラグラフの捉え方に留意し、美しい英

語の文章表現ができるように習熟するよう努めてもらいたい。同時に、獲得した情報や知識を分析し、その統合的判断によって自分の考えや感情、新しいアイデアなどを明確に説得力のある英語で表現できるようにならなければならない。そのためにはテキスト講読はもちろんのこと、スピーチやグループ討論などによって英語表現・コミュニケーションの論理的展開方法や英語的発想法を修得してゆく必要性があります。英語ができるということは「聴き」、「話し」、「書き」、「読む」という言語の総合的能力を身につけるということです。英語を使いこなせるまでのハードルは高い。この高いハードルを越えるための努力過程において学生諸君にとって一番大切な想像力と創造力が培われるはずです。

他方、過剰ともいえる多くの情報や知識を交通整理する必要があります。英語の最終目標は、現実の内外の諸問題（現象）を通して文化的、社会的、歴史的なものの背後にある意味構造を捉え、それを再び現実的な問題として捉え直すことで、自らを異化し更新して、世界解釈・世界認識として役立ててゆくのです。これには語学をマスターするのが一番の効用です。使える英語でなくては高校までの6年間の英語学習は水泡に帰します。大学での英語学習の持続は必ず君たちの力となり、将来必ず役立ちます。

英語の実力を一層効果的にするためには、自宅学習として毎日個人的に少しでもよいから規則的に英字新聞や雑誌を読み、また英語放送をテレビ講座（NHK教育TV3）やラジオ講座（NHK第2）で視聴する習慣をつけて、世界の事象に関心（好奇心）を抱いていただきたい。学生諸君にとってテキストの速読は不可欠であり、個人的に英字新聞や雑誌の購読は必要条件です。なお、本学図書館ではニューヨーク・タイムズ（The New York Times）、ロンドン・タイムズ（The London Times）、ヘラルド・トリビューン（The Herald Tribune）、ジャパン・タイムズ（The Japan Times）、ストレーツ・タイムズ（The Straits Times）などが読めるので、ぜひ利用していただきたい。

〈英語講座〉

◆1年英語

◇英語 I A

英語の言語運用能力、とりわけコミュニケーション能力を発展させる。英作文、英会話などの基礎表現を培い、「書く」、「聞く」、

「話す」という三つの能力を養う。英語ⅠAは次の英会話Ⅰと英語LLⅠに振り替えて履修することができます。

★英会話Ⅰ

経済学部では、4クラスが開講され、原則として1クラス40名。英語を母国語とする外国人教師が担当。

★英語LLⅠ

3クラスが開講され、原則として1クラス30名。ランゲージ・ラボ(LL)教場を使用し、生きた英語の聴解力と発話力の訓練をおこないます。

ただし、英会話Ⅰと英語LLⅠとは希望者全員が受講できるとは限らない。人数制限をする方法は担当者によって異なるので、4月の開講時に必ず出席し、指示を受けること。

◇英語ⅠB

テキストの精読・速読・多読を通して英文の読解力を養う。とりわけパラグラフの展開に留意し、文意全体の要約の習熟を目指す。

◆2年英語

◇英語ⅡA

ⅠAで修得した言語運用能力を拡大し、応用力を身につける。英作文、英会話などの表現の高度な運用力を養い、少なくとも中級程度の英語運用力を目指します。

◇英語ⅡB

テキストの講読を通し高度な読解力と幅広い教養を修得します。到達度としては200頁位の原書を1～2週間を読み・要約・解釈できる読解力を目指します。できれば批判能力を身につけたい。

◆英語随意科目

英語運用能力をさらに伸ばすために、2年次生以上が受講できる科目。英会話Ⅱ(6クラス)と英語LLⅡ(3クラス)を開講しています。英会話全クラスと英語LLⅡの1クラスは英語を母国語とする外国人教師が担当。各担当者の授業計画をよく読み、開講時に必ず出席し、担当教員の指示を受けること。

ドイツ語

1. ドイツ語という言葉

ドイツ語はヨーロッパではフランス語と並ぶ大きな言語で、現在ドイツ、オーストリア、スイスを中心に約1億人の人々がこれを母語として話しています。ドイツ語の重要性はドイツ経済の力と共に大きくなり、最近では東西ドイツ

の統一により東欧世界にもその重要性が高まっています。もちろん歴史的にも神聖ローマ帝国のような勢力範囲の大きな国家の存在により、ドイツ語の通じる地域が広がりましたが、ドイツ語はとくにその学問に対する貢献により、英語以前には学術語・科学語として非常に重要でした。従って、皆さんが大学で勉強する科目についてその源を知ろうとしますと、多くの場合、ドイツ語の文献に行き当たります。

ところで、ドイツ語は難しいとよく言われますが、文法事項を嫌がらずに一つずついねいに覚えていけば、英語よりやさしいはずですが。日本語でも「書かない」ではなく、「書かない」となるように、一定の決まりを覚えなければなりません。言葉には将棋と同じように駒の動かし方のルールがあります。ルールなしには将棋は出来ません。ただ英語は世界史の中で他言語と接触している間に、ルールがすっかり単純化してしまい、その分ドイツ語のルールは難しく思えるでしょう。しかし、ドイツ語と英語は兄弟の言葉なのでとてもよく似ています。ドイツ語がよく分かるようになると、英語もずっと分かるようになります。

2. ドイツ語の授業について

語学の授業は一般に50人程度のクラスで行われ、毎回必ず出席をとります。授業は一般に教員が問題や訳を学生に当てて答えさせる形式で進みます。

ドイツ語の授業は一年次にⅠA・ⅠB、二年次にⅡA・ⅡBがあります。それぞれ週に一回で担当教員が異なります。ⅠAは文法を中心とする授業で、基本的なドイツ語文法20～28項目を学び、辞書が自由に引けるようにします。教科書は文法事項の説明と、それを使った練習問題で構成されています。この練習問題を予習しておくことが文法理解の秘訣です。

ⅠBはやさしいリーダー(読本)の授業です。ⅠAで学んだ文法を復習しつつ、意味のまとまりのあるテキストを読んで行きます(クラスによっては会話を含んだテキストを使うこともあります)。車の教習で言えば、ちょっと自分で運転してみるようなものです。何度かどこかにぶつけるかも知れませんが、でも大事なことは自分で運転することです。法規や運転技法(=文法)をただ聞いているだけでは走れません。

ⅡA・ⅡBは小話や文学作品あるいは論文調のものを読みます(ⅡA・ⅡBの内容については明確な区分がありません)。一年次の復習をしながら、さらに高度な文法を習い、同時にドイツ語の世界に触れます。

三年次のドイツ語として選択必修「時事外国語(ドイツ語)」が履修出来ます。「時事外国語(ドイツ語)」では主として新聞・雑誌から

選んだ生の記事を教材として用います。

これ以外に卒業単位には含まれない随意科目として「ドイツ語FLL(会話)」の初級、中級と「ドイツ語F」があります。「会話」はLL(視聴覚)教室でビデオ教材などを使い、初級(二年次以上)はドイツ人講師が担当します。「ドイツ語F」は二年次以上でもドイツ語を続けたい学生のためのクラスで、誰でも受講出来ます。他学部の学生と一緒にのクラスで、教材はだいたい受講生と教員との話し合いで決まります。

3. 到達目標

語学は何語でもまず勉強の量の問題です。学ぶ量が多ければ、それだけ力が付きます。一年次のIA・IB, 二年次のIIA・IIBを履修すれば、理想状態では日常的な文章がそれほど困難なく理解出来ます。より具体的な到達目標としては、さらにLLの「ドイツ語FLL(会話)」初級、中級を履修すれば、ドイツ語検定試験3, 4級を目指すことが出来ます。

4. 成績評価の方法

成績評価の大きな基準はまず日常の予習状況です。よく予習し、よく答えていけば、高い評価が得られます。もちろん7月末と1月末の試験、さらに不定期に行われる小テストの成績も重要ですが、語学授業ではいわゆる普段点が貴重であることを忘れないようにして下さい。

5. ドイツ語学習の助けとなるもの

生きたドイツ語を学ぶにはラジオとテレビのドイツ語講座があります。ぜひ活用して下さい。

ラジオ講座

初級 月曜～木曜 午前7時～7時20分
(再放送 午後1時～1時20分)

中級 金曜・土曜の同時刻

テレビ講座

今年度分講座

木曜 午前7時40分～8時

(再放送 金曜午後10時40分～11時)

昨年度分再放送

月曜 午前7時40分～8時

(再放送 火曜午後10時40分～11時)

6. ドイツ語の辞書

英語以外のヨーロッパ言語は一般に、文法が分からないと単語を辞書で見付けることが簡単ではありません(日本語でも「かかない」という時に「かか」で辞書を引かず、「かく」と終止形で引くでしょう)。ドイツ語も同じで、文法を知って初めて、辞書が引けるようになります。それ故、辞書を早めに購入し、予習の際に自分で辞書を引く癖を付けて置くことが大切です。

現在ドイツ語の辞書には初学者用と普通用とがあります。初学者用は引きにくい変形も載

せているので英語並みに引けて便利ですが、その分だけ語数が少なく二、三年次で困ることがあります。なるべく普通用を購入することを勧めます。

a) 初学者用

「クラウン独和辞典」三省堂

「アルファ独和辞典」三修社

「新修ドイツ語辞典」同学社

b) 普通用

「マイスター独和辞典」大修館

「独和大辞典」コンパクト版 小学館

「新現代独和辞典」三修社

「独和辞典」郁文堂

フランス語

フランス語学習の案内

● フランス語は古代ローマ帝国の言語であったラテン語が北フランス地方で固有の変化を遂げて形成された言語です。中世期を経て北フランスが優位に立つと、その地方語が共通語として全土に広がり、ブルボン王朝の政治的・経済的・文化的統一政策の下で国語として完成されていきました。この17世紀の絶対君主制の権力を背景に、言語としての純化と規範化の努力が活発に行なわれて、国語辞典による語彙の整理、語法の強制、綴り字と発音の規定など、主として宮廷の言葉遣いを念頭に標準化されたのです。今日のフランス語の基本構造はこの17世紀以来変わっていないといつてよいでしょう。

第一外交用語としてヨーロッパに君臨していた18世紀、19世紀の威光はもはや望むべくもありませんが、今日フランス語を母語ないしは公用語としている地域は、フランス本土以外にもベルギー(約500万人)、スイス(約150万人)、アフリカの旧植民地約20ヶ国などがあります。また400年の移民の歴史をもつカナダのケベック州を中心とした地域(約650万人)やフランスの海外県(グアドループ、マルチニックなどの西インド諸島の70万人、レユニオン諸島の50万人)も忘れることができません。フランス語は今なお全世界で言語人口推定約8,000万人の有力言語なのです。

日本でのフランス語学習の歴史は幕末の長崎に始まります。明治政府の積極的な欧化政策の下で、主として法学・兵学の分野でフランス語教育が行なわれていましたが、やがて明治憲法の制定に伴ってドイツ系の学問が盛

んになるにつれ、その勢いは相対的に減少して、在野の文化の領域などで重んじられる程度でした。

しかし、第二次大戦後の学制改革によって新制大学の第二外国語として取り入れられてから、フランス語の学習者は飛躍的に増大しました。その結果、辞書類も教授法も随分と充実してきました。これから皆さんが学ぼうとするフランス語はこの延長上にあるのです。この間日仏関係も、文化的な領域のみならず政治・経済の面でも緊密の度を深めてきました。戦後50年近くになった大学は、時代の要請に応えた魅力ある教育を提供するために改革の努力を着実に積み重ねています。その一方で、学ぶ主体である皆さんの積極的な参加も必要不可欠なものと期待されています。皆さんの学習意欲を授業の中にとどしと反映させていって下さい。

● 駒澤大学でのフランス語の授業は次のように行なわれています。

- ① 「フランス語ⅠA」：冠詞・名詞・形容詞の用法や動詞の活用など文の基礎単位とその組み立ての仕組みにあたる文法を中心に勉強します。英語に比べて細かく変化することが多いので、はじめのうちはとっつきにくいかもしれませんが、なれてくればこれはこれで論理的で明晰だと思っておすはずです。「ⅠB」：フランス語独特の音の習得に力をいれます。（綴り字と発音の関係は規則的で、英語のようなアクセントもありません。）発音練習と同時に聞き取り練習もします。また習いたての文法の知識を生かして、辞書を引く練習をしながら易しいフランス語の文章を読んだり、簡単な会話も作文も試みます。
- ② 「フランス語ⅡA」：「ⅠA」の文法事項をさらに広げる一方、すでに習ったことは再確認しながら、文学作品などを通じてまとまったフランス語の文章に親しむ機会とします。「ⅡB」：担当者によって内容の自由な科目で、聞き取り・会話力の向上を目指すもよし、作文練習もよし、講読によって新聞・雑誌で時事感覚を養うもよし、フランス語圏の歴史や社会について基礎知識を集めるもよし、色々やってみましょう。
- ③ これらの必修科目のほか、任意科目として「フランス語F」・「フランス語FL L」（初級・中級）があって二年次以降は自由に履修できますので、どうぞ。「FL L」はLL教材を使ったフランス人などによる授業です。（LL自習室では個人でも様々な視聴覚教材が利用できます。『教材案内』あり。NHKのTV・ラジオにも

講座があります。）

- ★ 辞書・動詞活用表などについては一年次の最初の授業で教員が説明・紹介します。
- ★ 仏語検定試験、仏語研修ツアーに関心のある人は教員に相談して下さい。

中国語

- (1) これから皆さんが学ぶ中国語とは、中華人民共和国政府が制定した“普通話(Pǔtōnghuà)”とよばれる民族共通語です。中国は国土が日本の約27倍と広大で上海語、広東語など方言も多様です。“普通話”は北京語を基礎とした標準語、中国全土を通じる民族共通語です。台湾や東南アジアの華僑社会等で使われている“国語”“華語”との共通性もきわめて高いものです。

中国語はシナ・チベット語族に属し、ウラル・アルタイ語族の日本語とは大きく性格を異にしています。表記文字としては漢字を用いていますが、その発音・字体・意味など日本語と違っており、あくまで「外国語」として取り組むべきものです。発音は難しいとよく言われますが、子音+母音という音節の構造は日本語と基本的には同じで、法則性も高く、最初に日本人の発声習慣にない幾つかの音さえしっかり学べば、意外に易しいものです。また、中国語は、一文字（一つの音節）に固有のトーン（声調という。基本は4種類）があり、独特の音楽的響きをもっています。マスターするとその爽やかなリズムを君自身の唇で楽しめる美しい言葉なのです。

「横文字が嫌い、では中国語」と思っている君、最初の半年は、この美しい発音を身につけるために中国語のローマ字綴りであるPinyinという横文字につきあっていただきます。外国人が中国語をマスターする近道なんです。カタカナで中国語の発音を、というのは不正確で結局は遠回りです。英語と違い、クラスの仲間はみんな同じスタート地点から出発します。新しい気持ちでこの中国語の世界の独特の約束としてのローマ字にとり組んでください。

I A・I B

- (2) I A, I Bの一年間の学習を通してどこまで中国語の力を身につけることができるか。半分は私たち教師の責任、半分は君自身の努力にかかっていることは言うまでもないことです。私たちは、この一年の学習到達目標を次の5点に置きます。

- ① Pinyinの助けを借りて正確な発音の基礎をマスターし、聞き取り能力を習得する。
- ② 声調の基本、その変化の法則をマスターする。
- ③ 基本文型を習得し、初級段階の単文、簡単な複文を正確に読みとる能力を身につける。
- ④ 簡単な日常会話を中心とする初級会話能力の習得に努力する。
- ⑤ 中国語の学習を通して、隣国中国の言語、文化、民族、民衆への知的関心を高めていく。

II A・II B

- (3) 上記の基礎をもとに、2年生でII A、II Bを履修することになります。原則としては、一つが会話中心、もう一方が講読中心となり、ごく日常的な会話・作文ができ、辞書を頼りに易しい読物が読めることを目標にします。中国語により強い関心を抱いた諸君には随意科目「中国語F・L L」（初級はI修了者、中級はII修了者）があります。また、3年次には専門科目としての「時事外国語」が選択できます。

- (4) 授業は、原則として「一冊のテキスト、二人の教師」で展開されます（例外的に「一冊、一教師週2コマ」がある）。二人の教師の分担の仕方はクラスにより異なります。一人の教師が進めた後をもう一人が続ける形、奇数課と偶数課で分担しあう場合などです。

諸君は教師の授業の仕方について質問し、異議を申し立てる権利と義務を有しています。積極的に授業運営に参加してください。

必要な参考図書（辞書など）については、開講後に教師がそれぞれの辞書の特徴などを説明しますから、それを聞いてから選定、購入してください。

開講時に年間授業計画を示すよう私たちも努力します。

小テスト、中間試験、期末試験（前期、後期）については各担当教師により若干異なります。開講後に説明をよく聞いてください。

語学の学習は、一回一回の積み重ねがきわめてたいせつです。初級の一年間は、一回もおろそかにできません。当然、毎回の出席が必要です。その点から出欠をとりますが、この意義を積極的に考えてください。

- (5) 予習、復習は当然必要ですが、授業以外での学習の機会も最近はいへん恵まれています。中国語の講座は、NHKのテレビ、ラジオで行われていますが、4月第一週の開講ですから、授業開始以前にテキストを求め準備してください。また、本学1号館3階の「L L準備室」には各種AV教材が用意され、い

つでも利用できます。各年度使用テキストのテープも完備しています、おおいに活用してください。長時間にわたって中国語の学習が中断する夏休みなど、各種、各地の講習会、集中講義などに参加されるのもいいでしょう。すこし冒険を試みようという諸君には、夏、春の休暇を利用しての中国各地の大学が開催する外国人のための短期留学をおすすめします。詳しいことは教師に相談してください。中国語の独習誌としては、『中国語』（月刊、内山書店）が定期的に発行されています。

学習が進み、興味が湧いてきた諸君には中国語検定試験（準4級、4級、3級、準2級、2級、1級）が待っています。また、中国国家教育委員会（日本の文部省にあたる）が指導、企画した「漢語水平考試（HSK）」も最近実施され、日本でも受験できるようになりました。これは将来英語におけるTOEFLの役割を担うものと予想されます。

最後に、皆さんの健闘を祈り、教室でのいきいきとした出会いをこころから「歓迎」します。楽しく、学び甲斐のある授業をいっしょにつくりあげましょう。

スペイン語

スペイン語を学ぶ諸君へ

1492年イスラム教徒のスペインにおける最後の王国グラナダの陥落により 800年にわたるスペインの国土再征服（Reconquista）が完成しました。同じ年にコロンブスが新大陸を発見し、スペイン人たちは今度は征服者（Conquistadores）として海を渡って行きました。それから500年後の今日スペイン語を母国語として話す人々は19世紀の初頭に次々と独立した中南米の諸国を加えて20ヵ国、米国内のスペイン語を話すラテン・アメリカ系住民（ヒスパニック）を加えると実に3億人を超す一大スペイン語文化圏を構成しています。またラテン・アメリカではコロンビアのガルシア・マルケスを始め、アルゼンチンのボルヘス、ペルーのバルガス・ジョサ、メキシコのオクタビオ・パスなどの文豪が輩出し、その作品は今世界中で読まれています。

スペインという国は古代からヨーロッパ、アジア、アフリカの三大陸からの民族の流入と混血によって多種多様な文化と芸術と特筆すべき国民気質を持っています。ホセ・マリア・バルベルテは「イベロ族から勇気を、フェニキア人から冒険心を、ギリシア人から雅を、ゴート族

からは騎士道を、サラセン人からは東方の詩を、ローマ人からは叡智と武勇を受け継いだ。」と述べています。

ラテン語を母体に中世以降生れた言葉は、ロマンス語と総称されますが、スペイン語もそのひとつで、イタリア語、ポルトガル語、フランス語、ルーマニア語などは姉妹語にあたります。

スペイン語を学ぶに当たって

日常日本語だけで生活しながらただ単位のために外国語を学ぶのは大変なことですし、又その言語の背景となる国の文化・歴史などを知らないでその言葉を学ぶのは意味のないことです。地理的に見てもスペインはコントラストの国であり、又この国を訪れる者に強烈な印象を与えるのは先に述べたこの国の過去の歴史的・文化的遺産が妖しい光彩を放っているからでしょう。エル・グレコ、ムリリョ、ベラスケス、ゴヤの絵画にして然り、文学にしても、良き恋の書、セレスティーナ、ピカレスク小説、ドン・キホーテと言った不朽の名作はこの国の持つ光と陰の世界の具現に他なりません。

スペイン語の発音

からっと明るく南国の太陽が照りつける地中海に面したスペインは明確に発音される語尾の母音と子音の組み合わせでメロディの美しい強弱のはっきりしたりリズムカルでメリハリのある歯切のよい言葉です。母音は日本語と同じくア・エ・イ・オ・ウのたった5つだけで、それぞれ1つの音しかありません。ですから、uを「ユー」と発音したり、iを「アイ」と発音するような英語とはまったく異なり、あくまでローマ字読みに徹することです。でも長年に亘って親しんで来た英語のアクセントを忘れてローマ字読みに徹することはかなりの努力を必要とするかも知れません。

スペイン語の授業

1年次にⅠAとⅠB、2年次にⅡAとⅡBがありますが、いずれもその内容については明確な区分けはなく、文法・会話・読み物の三位一体の授業で、週に1回の計2回。教科書も担当教員によって異なることもありますが、内容が重複しても基礎は何度くり返しても無駄ではありません。駒沢大学にはスペイン人の先生が男・女2名ずつ、4名おられるので、AとBのどちらかがスペイン人の先生に当たるかも知れません。この機会にどうか積極的にスペイン語で話すよう心掛けて下さい。

到達目標

1年次週2回で動詞は直説法現在時制に限定

し、2年次週2回で学年末までには一応文法は直説法・接続法の全時制を終えることになっていきます。

三年次のスペイン語

選択必修「時事外国語（スペイン語）」が履修出来ます。これ以外に卒業単位に含まれない随意科目として「スペイン語FLL（会話）」の初級、中級と「スペイン語F」があります。会話はLL（視聴覚）教室でビデオを教材にして、初級・中級ともスペイン人教師が担当します。「スペイン語F」は2年次以上でもスペイン語を続けたい学生のためのもので他学部の学生と一緒にのクラスです。教材はだいたい受講生とスペイン人教師との話し合いで決まります。

成績評価の方法

おおよその基準は日常の小テストや出席状況です。よく予習し、よく答えていれば当然高い評価が与えられると思います。7月末と1月末には試験がありますが、語学には追・再試という制度はありませんので普段の授業成績が大切です。

スペイン語学習の助けとなるもの

生きたスペイン語を学ぶにはラジオとテレビのスペイン語講座があります。ぜひ新聞などでその時間帯を確かめ活用して下さい。又NHKの衛星放送でも朝スペイン国営放送のニュースを流していますので是非見ることをおすすめします。

スペイン語の辞書

英語以外のヨーロッパの言語は文法がわからないと動詞はおろか、名詞も形容詞も（男性・女性の区別がある）その単語を見つけることは簡単ではありません。文法がわかって初めて辞書が引けるようになります。現在次のようなスペイン語の辞書があります。

現代スペイン語辞典	白水社
西和小辞典	白水社
西和中辞典	小学館
プログレッシブスペイン語辞典	小学館
スペイン語ミニ辞典	白水社
スペイン語新辞典	研究社
和西辞典	白水社

最後にスペイン語は貿易用語としてのみならず、国連における重要な公用語として用いられており、又スペイン文化・歴史・芸術の他に、マヤ、アステカ、インカの文明、大航海時代の新大陸の歴史、現代ラテン・アメリカ文学などの研究に必要不可欠の言語です。言語は人間の知性と感性の象徴であり、幾世紀にもわたる先人の知識の宝庫です。スペイン語の学習を通し

てスペイン語文化圏の社会・文化の理解を深めることは日本の社会・文化をも相対的に再認識することになり、自己の内に複数の文化を共有する楽しみがあります。

ロシア語

はじめてロシア語を学ぶ諸君へ！

ロシア語はインド・ヨーロッパ語中のスラブ語派（この中には西スラブ語、東スラブ語、南スラブ語等があります）の中のモスクワを中心とした東スラブ語のことを指しています。諸君がこれから学ぶロシア語とはモスクワを中心とした現代標準語を意味します。ロシア語というといつ最近までは恐ろしい鉄のカーテンの国の言葉として日本では敬遠されがちでしたが、ソヴェート崩壊後は私達にはぐっと親近感もてる言語になってきました。ロシア語人口の多様さは意外に知られていませんが、ロシア語を使用している人口はざっとEC-欧州共同体の人口3億4,000万人に匹敵する数にのぼっています。ロシア語は現在著しく変貌しつつあるロシア（人口1億5,000万、面積日本の54倍、ロシア連邦内20の共和国）と旧ソ連の多民族の各共和国を含む文字通りユーラシアの共通語として重要な役割を果たしています。

そもそもロシア語の文字は9世紀後半ギリシャ正教を布教するためにモラヴィヤにおもむいた僧侶のキリール兄弟が伝えたものと言われており、ロシア語の文字にはГとかИとか、ギリシャ文字の影響を受けたものがいくつか存在しています。文字は全部で33文字しかなくおぼえるには簡単です。また、日本語の助詞「て、に、を、は」にあたる部分をロシア語は語尾変化によってあらわし、全体の文法体系は極めて整然としています。ですから規則さえおぼえればとても学びやすい言語と言えます。ロシア語の響きはリズムカルで美しく、強弱のはっきりしたメリハリのある、独特の力強さがあります。英語のように難しい冠詞や定冠詞は一切なく、時制や、仮定法も英語よりはるかに単純で、わかりやすい言語といえます。英語とはまったく異なった稀少価値のある言語をやってみたい人は、是非ロシア語を学んでみて下さい。

☆ロシア語ⅠA, ⅠB

○一年次の授業目標

1週間に2回限られた時間枠の中ではじめての言語を学ぶこととなりますので一年間の目標を次のようにしばって集中的にやることにします。

- 1) 母音、子音の基本的発音、アクセント記号（力点）の法則とイントネーションの5つの基本型をみっちりやります。
- 2) 簡単な挨拶の表現や、日常使われるロシア語の独特な表現（ボディランゲージを含む）を身につけます。
- 3) アルファベットを活字体、筆記体できちんと書けるように練習します。
- 4) ごく平易な文章の内容を聴きとりによって理解できるようにします。
- 5) 基礎的な初等文法を学びます。

☆授業計画

最初の4, 5, 6月で発音やイントネーションを徹底的にやると同時にアルファベットの筆記体を主に練習し、自分の名前も書けるようにし、6月、7月頃から特に簡単なロシア語文にも馴れるようにします。簡単な質問にも答えられる練習をします。9月には、6月、7月に学んだ初歩的なロシア語の文法のまとめをします。更に10月以降は1年次文法を中心とする語尾変化を学習してもらいます。ときどきテープをかけて聴きとりの練習もします。毎回授業の初めには楽しいクイズをして、できるだけロシア語に馴れてもらうようにします。

☆評価方法

何よりも授業の出席を重視します。そしてそれプラス平常の授業内の受け答えや反応も記録し、授業内のミニテストをプラスした点で評価点を算出します。年間の授業の最終日に評価点を一人一人に提示し、二次次にむけてのアドバイスもマンツーマンでします。

☆ロシア語ⅡA, ⅡB

一年間ロシア語を学んだ諸君、ロシア語に対して思ったよりやさしいとか、できなかったとか、色々な感想をもつでしょうが、特に授業についていけなかった人達はここで決して諦めてはいけません。一年やそこらで決着がつく筈はないのですから。とにかくロシア人のようにНИЧЕГО！（ニチェヴォー、だじょうV）で粘り強くやることにしましょう。

○二年次の授業目標

- 1) アクセント記号が付いた文章をスラスラと声をだして読めるようにします。
- 2) 日常使われる会話の中の基本的スタイル、依頼、拒絶、要求、命令…等のより複雑なヴァリエーションを学びます。
- 3) 中等文法のエッセンスを学びます。
- 4) やさしい文章を速読で大意がつかめるように練習します。
- 5) 自己紹介や簡単な手紙文を正しいロシア語の表記を使って書けるように実地指導します。

☆授業計画

4月には一年次の復習を優先させます。それ以降は通年で会話と読みを重点的にやります。文章の基本型は必ず暗記してもらい、授業の時にはすぐ応用できるように家でも準備しておくことが大切です。秋以降はロシア語の文章を少しずつ書けるようにドリルします。

☆評価方法

出席点の重視。プラス平常点（平常テストを含む）。なお、場合によっては基準点に満たない人は研究室で補講をしますが、これは決して不名誉なことではなく、むしろ教員が期待しているから声をかけるのですから喜んで研究室に来て欲しいのです。

☆その他

なお上記の授業科目以外に三年次には選択必修「時事外国語（ロシア語）」があります。「時事外国語（ロシア語）」では刻々と変わるロシアの生の記事を教材として使います。又卒業単位には含まれない随意科目として「ロシア語F」と日本人とロシア人による「ロシア語FLL（会話）」の初級と中級があります。「ロシア語F」は二年度以上でロシア語を続けてやりたい人なら誰でもうけることが可能です。「ロシア語FLL（会話）」は視聴覚教室でビデオやOHPをつかってやります。

以上ごく大ざっぱなロシア語授業のあらましを述べましたが、授業以外にも最近独習用の様々な参考書やビデオその他の教材が出ています。それについて若干ふれますと、LL教室では、NHKのテレビ、ラジオのロシア語講座（逐次刊行物）や字幕入りのアニメーション、モスクワニュース、ロシア映画（タルコフスキイ、エイゼンシュテイン監督のもの）など沢山用意されています。それらはLL教室の隣の自習室でも自由に貸出してもらって見ることができますので大いに活用してみてください。なお辞書類の説明ははじめての授業の時にいくつかのサンプルを示し、それぞれの短所と長所を具体的に説明しますので、各人の状況にあわせて購入してみてください。また少しロシア語に馴れたら、ロシア語の検定試験も毎年東京で実施されますので、具体的目標をもつことも語学上達の一つの方法です。また日本・ユーラシア協会主催で横浜港に寄港するロシア船（ルーシ号、プレミアム号etc.）の船上会話教室（ロシア人講師と日本人講師による授業料無料・通信費のみ実費要）もありますので興味のある人は、1号館1600号室のロシア語研究室まで問い合わせに来て下さい。

（文責 ロシア語教室）

保健体育科目

保健体育理論

高橋俊介

〈講義目的(要旨)〉

保健体育理論をとおして身体の健康とか体力について考える。

- I. 運動はなぜ必要か — 人間は動くことによって、生命を維持する。
- II. 体育による教育 — 体育を通して、どのような教育的結果があるか。
- III. 現在行なわれている運動がどのような経緯で生まれてきたか。
イ. 実用面 ロ. 健康の面
ハ. ホモルーデンスの面
- IV. 体育に関係のある言葉の解説

〈評価方法〉 特にペーパーテストは行なわないが毎月1回のレポート提出で試験に変える。

保健体育理論

光永吉輝

〈講義目的(要旨)〉

日常生活においては、自分が現在、健康であることを意識して行動している人は、少ないのではないのでしょうか。病气やけがをして、はじめて健康の重要性や有難さを知るのではなく、日頃から常に健康を意識し、健康に関心の目を向けることが必要であり、自己や他人の生命・そして健康は何物にもまして大切なものであることを、しっかりと認識するように講義するつもりです。

保健分野・体育分野・そして、人体解剖図・ビデオ等を参考にしながら、文明先進国における、文明病や、運動不足に起因するさまざまな、健康障害等の話を通して人間の健康ということの理解を深めてもらいます。

〈授業内容〉

健康と長寿を願う心は、太古の昔より、人類不遍の願望である。多くの人々が、その時代の価値観と、それぞれの専門的な立場から、健康とは何かについて幾多の説を唱えている。この説を引用しながら、健康を考え、日常生活面からの健康論

を講義しようと思っています。その他、体力論・健康と体力・運動不足の害と効果・発育発達・トレーニングの問題・栄養・健康管理等にも触れたいと思っています。そして人体解剖図等を参考にしながら、人体各部分の特長や、欠点を交えながら、文明先進国に多発している疾病や、運動不足から起る、健康障害の話をする予定です。

〈評価方法〉

出席および筆記試験によって行なう。また、レポート等、課題提出物によって、試験に変える場合もある。

〈教材〉

保健体育概論、駒沢大学保健体育部編を引用しながら進みます。その他の教材については授業開始時に説明します。

保健体育理論

三幣晴三

〈講義目的(要旨)〉

体育・スポーツに関する全般的知識、特に生涯体育、スポーツの文化的視点からの考察、人間の運動に関する実際の考察を中心とし、さらに現在および将来に向けての健康的内容をとり扱う。

体育・スポーツについては、人間の持つ歴史的財産としての文化という視点から考察し、人間にとっての意義を過去の歴史から掘り起こし、現在のさまざまな問題点を明らかにして、将来の方向性を生涯体育の視点から探り出したい。

人間の運動はさまざまな学問領域から研究されている。しかし、その本質を探り出すのはきわめて困難である。体育独自のプロパーな領域としての人間の運動学を、スポーツの運動と同時に日常生活での運動も取り扱い、運動実践に役立たせたい。

健康については現代生活での種々の問題点をストレス学説から探り出し、学生生活における健康の有り方を実際の視点から考察したい。

〈授業の進め方〉

教科書を中心にして進めていくが、随時VTR、レポート、種々の印刷物等を利用する。

〈評価方法〉

出席および筆記試験、さらにレポート提出によって評価する。

- [教科書] 駒澤大学保健体育部編『保健体育概論』
(カヅサ出版部) ㊦1,700
- [参考書] 『ホモ・ルーデンス』(中央公論社)
『スポーツ運動学』(大修館書店)

保健体育理論(再クラス)

牧 野 茂

健康の正しい認識, 健康を阻害する因子, 健康・体力づくりを中心テーマとし, 具体的な事例又は話題をとりあげながら授業を展開する。

保健体育理論(再クラス)

宮 沢 栄 作

大学保健体育の目的をふまえ, 我が国体育の変遷にふれ, 併わせてその時代時代の体育の特長を明確にとらえさせることを導入とし, 身体運動の意義とスポーツの持つ価値の再認識を生理, 解剖学的根拠をもって図る。具体的には, 栄養学を含めた体力トレーニング論と, 価値あるべきスポーツが, 方法を誤ると重大な障害を引き起こすスポーツ障害の原因, 予防更に日常生活に於ける救急処置法等についてふれていきたい。また現在大きな問題となっているエイズについて, ビデオ等を教材として過ちのないよう指導をしたいと考えている。

随 意 科 目

比較思想特講

麻 生 建

ヨーロッパの思想が明治以来、さまざまな形で歪められながら輸入されてきた経緯を考えながら、日本の思想とヨーロッパの思想の差異について考える。

〔教科書〕丸山真男『日本の思想』岩波新書C39

比較思想特講

洗 建

法律と宗教のかかわりについて考察する。法律が規範の体系である以上、社会で主要な伝統となってきた宗教の世界観や人間観と無縁ではあり得ない。東西の宗教文化と日本の近代法をめぐる問題について考える。

〔参考書〕随時指示する。

英 会 話 Ⅱ

P. A. Bendinelli ・ T. A. Grange
W. Hubbard ・ D. J. Nolan
J. K. Wells ・ P. Ziegler

全学で6クラスを設け、学部および短大の2年次生以上を対象とします。1年次で英会話Ⅰを履修した学生を対象とするクラスとそれ以外の初修者も参加できるクラスがあります。各担当者の講義内容 (syllabus) を参考にし、場合によっては受講希望クラスの担当教師に相談してください。

担当者、曜日、時限、クラスは時間割表で確認してください。

P. A. Bendinelli

A course for highly motivated students.
(UPPER LEVEL II CLASS) Class will be student orientated, not teacher orientated. Details in first meeting.

T. A. Grange

"... the English language is nobody's special property..."

You must learn to listen. Carefully.
And you must talk. Talk, talk, talk, talk, talk, and talk some more. To your classmates. To yourself. To me.

"... it is the property of the imagination..."

(Derek Walcott, Nobel laureate in literature, 1992, quoted by Jervis Anderson in "Derek Walcott's Odyssey", The New Yorker, December 21, 1992)

W. Hubbard

This course presents the basic as well as more advanced language skills that one needs for everyday communication in English. The emphasis is on class interaction, comprehension, and application. A variety of dialogs, situations, topics and EIKEN oriented material will be used.

〔教科書〕The text material will be decided depending on the ability of the students assessed at class time.

D. J. Nolan

At the core of this course is

- 1) a series of dialogues that are topical and should prove interesting to Japanese students, and
- 2) language activities that are meaningful and intellectually rewarding.

The material is advanced in the sense that it takes for granted the considerable familiarity Japanese students already have with English but recognizes a need to provide further opportunities to internalize what students have learned at lower levels.

The course specifically intends to help students prepare for the STEP tests (Eiken), either second level or higher, the targeted level depending upon the qualifications of those who apply.

Grades are determined on the basis of attendance, participation, and occasional short tests.

〔教科書〕Dale Fuller/Clyde W. Grimm,

Milestones, Macmillan Language House

¥1,800

J. K. Wells

Hello students! Welcome to my English Conversation II course. Once again this year I hope to provide an opportunity for Students to practice speaking English with each other. So, if you like to speak English, please come to my class. There are no tests! See you in class!!

P. Ziegler

The course will consist of exercises designed to expand student vocabulary and improve oral communication skills. A wide variety of materials will be used.

〔教科書〕英語の新聞記事のコピー・その他 Mark Twain Huckle berry Finn Yohan, ¥720

英語 L L II

T. J. Cogan ・岩山義春
大庭直樹

英語 L L I のアドバンスト・コースとして全学で3クラスを設け、学部及び短大の2年次生以上を対象とします。1年次に英語 L L I を履修しなかった学生も参加できるようにしてあります。最後までやり通す意欲ある学生を歓迎します。

担当者及び曜日、時限、クラスは時間割表で確認して下さい。

T. J. Cogan

In this intermediate-advanced course we will study American English through video. The text this year will probably be either a popular movie or a video series. Since the class will be small, there should be ample opportunity for students to discuss in English what they see on the screen. The purpose of the course is to improve each student's ability to comprehend and speak English at a fairly high level. The course will be conducted entirely in English. I will announce the text on the first day of class.

岩山義春

聞き取りと表現力の向上をめざします。毎週話題となっているニュースを選び、それを繰り返し聞き、英文でアウトラインを書いてもらい、毎回提出してもらいます。書くことなくして英会話上達はありませぬ。毎回の熱心なクラス参加を強く望みます。

テキストはプリントを使用します。

大庭直樹

前期と後期にビデオ映画（英語の字幕付き）をそれぞれ1本ずつ観る。前期は、会話表現、語法等を検討しながら、各場面を英語で要約することに重点をおく。後期は、映画の各場面について、フリーにディスカッションする形式をとりながら、発話力を身につけていく。授業は英語でおこなう。

ドイツ語 F

柴野博子

我々がドイツ文化をどうとらえているか、また、ドイツ人が日本文化をどうとらえているか、といういわゆる異文化理解の問題は、国際化がさげばれている今日、非常に重要なテーマだと思えます。そこで本年は、ドイツ人の講演や新聞・雑誌の記事等を手がかりにして、この異文化理解の問題を考えて行きます。

なお、テキストは、随時コピーしてお渡しします。

ドイツ語 F L L (初級)

小林 ゲアリンデ

生きたドイツ語に触れ、聴き取り能力をつけることをめざす。そして基本的な語彙や文型を身につけ、ドイツ語の基礎的な表現力を養成し、簡単な日常会話ができるようにしたい。テキストは教室で適宜配布する。

ドイツ語 F L L (中級)

松岡 晋

本講義は F L L (初級) 修了者を対象とするが、時間割りその他の都合でそれを未履修の学生も、受講してかまわない。また初級・中級の両方を同時に履修してもさしつかえない。

学習上の目標は、毎年秋におこなわれる「ドイツ語検定試験」(独検)の四級ないし三級に合格できるための会話力・耳からの理解力・文章理解力の養成にある。

目標をもってドイツ語を学ぶ意欲のある学生の受講を期待している。テキストはコピーを用意するが、受講者の希望もとり入れる。

〔教科書〕コピーを配布する。

フランス語 F

桑 田 禮 彰

フランスの文化と社会を、いくつかのテーマに沿って具体的に概観しながら、日本との違いを考えていきます。テーマとしては、家族/教育/趣味/宗教/思想などを予定しています。いずれの場合も、フランスの最新の社会科学・人文科学の成果を紹介しながら、授業をすすめます。出席者には資料を配布します。資料にはフランス語のものと日本語のものがありますが、フランス語の初心者でも歓迎します。フランス文化とフランス語は不可分です。この授業は特にフランス文化に重点を置き、フランス語については、出席者各人の能力を考慮した指導をしていきます。フランスという鏡に映る日本を見極めようとする意欲的な人の出席を望みます。

〔教科書〕 使いません。

〔参考書〕 授業の中で指示します。

フランス語 F L L (初級)

小 玉 齊 夫

ビデオ教材を利用して、初級の聞きとり・会話の練習を行います。この授業の良さは、自由な発想のもとに、教える者も教えられる者も、2年生も4年生も平等に、友愛感に溢れた雰囲気、しかも少人数で、フランス語に親しめるという点でしょう。ともすれば文字と文法とに片寄りちなこれまでのフランス語習得を、音と映像とで補うのが主たる目的ですが、事情が許せば、フランスの絵画や映画を見に外へ飛び出したい、とも思っています(昨年は皆でvinをすすって、フランス文化を「実践」したりしました)。

授業時間が少ないのが難ですが、その気になれば、一年後には初歩のフランス語会話は出来るようになる、はずです。Bon courage!

〔教科書〕 『Avec Plaisir 1』 (4月にLL事務室で購入のこと)

フランス語 F L L (初級)

M. マルタン

初心者のための実用的なフランス語会話です。やさしい聞きとり練習や文章パターンの習得を通じて、基礎的会話に必要な表現能力を養成することを目的とします。テキストは教室で配布します。

フランス語 F L L (中級)

M. マルタン

初級会話にやや慣れた学生のための実用会話。初級会話を簡単に復習したあと、少し高度な聴きとり、及び表現の練習をします。

教材は教室で指示します。

中国語 F

釜 屋 修

中国の民衆の生活の実態を微型小説(ショート・ショート)、新聞記事などを通してさぐりつつ、中国語読解能力の向上をめざします。中国語学習歴二年以上またはそれと同等の力を有し、中国と中国語に関心をもつ諸君を“熱烈歓迎”。

毎時間簡単な中国語会話の練習もとりいれます。独自プリントを開講時に配布します。

〔参考書〕 開講時に紹介します。

中国語 F L L (初級)

松 本 丁 俊

ビデオ教材を使って、会話と聴き取りの練習をします。中国語 I 既習ていどの基礎力が必要です。ビデオの内容は、ごく日常的な場面での会話ばかりで、楽しく学んでいけるとおもいます。

発音の復習から始めますので、イチからやり直したい人、中国語 I A・Bの成績が芳しくなかった人でも大丈夫。

中国語 F L L (中級)

小 川 隆

中国語を1年以上履修したか、またはそれと同程度の学習歴のある人を対象に、映画・テープ等を使った会話と聴き取りの訓練を行います。新たな知識の獲得よりも、既習の知識の耳と口への定着を主な目標とします。教材はプリントを用意しますが、適宜、基本的な文法知識の復習を行うため、下記の教科書を毎回持参して下さい。

〔教科書〕 山下輝彦『中国語の入門』 白水社

¥1,800

スペイン語F

アウロラ・ベルエタ

1・2年でおぼえた基本のスペイン語を身につけよう！最新のビデオを見てかんたんな会話をどういうコンテキストの中で使うかをたしかめてから実際に声を出して自分のものにします。必要に応じてカセットテープも使う予定です。

〔教科書〕VIAJE AL ESPAÑOL『SELF-ACCES COURSE BOOK 2』（SANTILLANA）発行
発売元：伸興通商株式会社 ¥2,000
Tel. (03)3353-1751

ロシア語F L L（初級）

木村英明

日常会話に役立つ簡単な表現をやさしい文章を用いて練習します。発音、イントネーションに重点をおいた反復練習により初等ロシア語の知識を耳と口から身につけることを目的とします。特に、最初の段階では受講者一人一人の発音上の欠点を分かりやすく指摘し、正しいロシア語の発音に慣れるようにします。

〔教科書〕プリントを教場で配布。

スペイン語F L L（初級）

ホワン・ナバロ

初心者を対象に、スライドやビデオを見ながら、やさしい日常会話を勉強します。正規授業のスペイン語を履修している学生の受講を望みます。

ロシア語F L L（中級）

滝川 ガリーナ

ロシア語の正規授業を履修した人または同程度の学習体験を有する人を対象とします。ロシア語独特の言いまわし、イントネーションを小話等の短文を用いながら受講者の能力に応じて修得することを目的とします。またロシア語を通じユーラシア大陸におけるロシア連邦、各共和国、諸民族の生活や文化にもふれます。

〔教科書〕プリントを教場で配布。

スペイン語F L L（中級）

ホワン・ナバロ

前年度L L初級を終えたもの、またはそれと同等の学力を身につけているものを対象に、ビデオを見ながら、日常会話を勉強します。

ロシア語F

杉山秀子

本講座はロシア語初級課程を終えたものを主たる対象とする。ロシア語の表現力を身につけるための平易な読みものを取りあげ、ロシア語らしい言いまわしや、語いを広げて様々なスタイルのロシア語文に馴れてもらうことを主眼とし、第二には最新版のアガニョークやリテラトゥールナヤ・ガゼータの記事を取りあげ、現代ロシア社会のひずみや歪んだ部分に光をあててみたい。

〔教科書〕教場にてプリントを配布。

〔参考書〕露語辞書、NHKロシア語初級教科書の文法表（この教科書をもっていない人は文法表をさしあげます。）

基礎教育科目

経済学概説

阿部 弘

〈講義の目的〉

「経済学」はアダム・スミスの「法学」体系を元にして形成されてくる。大学での最初の経済学の講座はイギリスはエディンバラ大学で、道徳哲学者であるデュゴールド・ステュアートの手によって、1800年に開設された。このとき受講生はヨーロッパ各地域から集まったという。さてスミスが生涯の仕事として後の世に自ら残したものは『道徳感情論』（1759年）と『諸国民の富』（1776年）であり、この二つの労作とともにスミスが大学で講義をしてきた「法学」の体系の一部から構成されていた。スミスの時代は18世紀の後半であり「哲学」と「法学」が主たる学問であった。その特徴は、D・ステュアートが始めた、この最初の「経済学」の講義にも色濃く現れていた。この経済学は道徳哲学の体系の一部として位置づけられていたからである。しかしだからと言って、わたしたちは「経済学者は元来哲学者であった」という見解にぶつかるとき、この見解が現在言われているものであるにもかかわらず、これは現状の経済学にはどうも相応しくないと考えるのが普通である。と同時に、「もの」とか「おカネ」ばかりを扱っていると、経済学には「人間が不在だ」という、これまた「哲学的な」意見が出され、今度はこれはもっともだとも考えてしまう。次には人間の生活の根本的な経済活動を取り扱うはずの「経済学」とは一体何なのだろうかと考えたくなる。

スミスは人間・人間社会は「コモン・センス」を基盤として成り立っていると考えていた。彼が生まれ育ったイギリスの歴史的環境、スコットランドの風土でもあった。この感覚は同時代のフランスのマテリアリズムと軌を一にしていた。

さてフランスでは「ブルジョア」社会階級が政治的支配権を握りまさに「資本主義」社会が到来するかに見えたが「資本主義社会」はスミスの国であるイギリスで典型的に発達をした。経済学はこの一見矛盾したことを胸の内に秘めて成立する。またスミスとは異なった、階級的コモン・センスの立場から法学者マルクスが経済学の体系の本質的なものを提起する。以上のような経済学の持つ

ている問題を踏まえて、講義の目的を「経済学の形成過程」に置いて、そのことを思想的・歴史的状況の中で検討する。

〈講義内容〉

講義の順序としては、「経済学」に特徴的な「価値」・「交換価値」という考え方の歴史的・思想的把握から入り、この考え方が人間を「個人」（インディヴィドゥーム）として措定し、この個人相互の関係を「法」とするというものの考え方に結実していることを明らかにする。

そのためには第1部として「人間」がその形成過程から「労働」を中心にして「社会」を形成してきていて、この労働を通じた人間としての個人が存在が「価値」という人間相互の関係として社会化する過程を、労働手段の発達と人間形成、このことと言語形成との関連として明らかにする。

第2部：以上の過程は歴史的に古代インドの社会ですでにみられるものであり、ギリシア、ローマ、等々を通じてヨーロッパに広がっていくのであり、その様を歴史的・思想的に展開する。思想的にはアリストテレスやジャン・ボダン、そしてマンデヴィル/スミス、フランス革命期の哲学者たち/カント/ヘーゲルという一連の繋がりの分析の中で、これらの思想家たちが人間と労働との関係をどのように特徴づけていくのかを明らかにする。

第3部：しかし人間の社会が支配者と被支配者に分かれるに及んで「労働」は支配者のためのものとして位置づけられていくさまを「子女」・「奴隷」の「イエ」としての生産力化、そして賃金労働者の創出の過程の分析を通して明らかにし、そのなかでマルクスの「経済学」体系の位置づけを試みる。そして「イエ」の生産力という考え方が現代の社会でも顕著に存在していることを、特に「過労死」・「慢性疲労症候群」/女性の「総合職」・「家事労働」などが問題になっている現代日本社会論として提起する。

〈年間計画〉

年間を通じて、7月上旬、10月中旬、12月上旬、1月中旬、の4回にわたってレポート作成を行う。その方法は第1回目は講師が問題提起をし、2回目以降は諸君のレポートのなかから講師が問題を作成してそれに応えてもらうという形をとる。講師と受講生との「講義」という一方的交通の中で、以上のような形で対話を試みようとするのである。なお評価はこの4回のレポート作成を基準

とする。

〈テキスト〉

阿部 弘著『労働と所有一経済学の出発—』

(八千代出版)

参考書等は講義のなかで指定する。

〈連絡方法〉

受講生と講師との対話を積極的に勧める意味から講師の連絡先を掲げておく。

〒179 練馬区光が丘6-1-4-204/Tel 3976-7984:

研究室2538 Tel 3418-9360

経済学概説

有 井 行 夫

〈授業の目的〉

これから大学で4年間、経済学を学んでいくための課題と意義を明らかにすることが本講義の目的です。

皆さんは、高校までに、政治経済のほか、日本史、世界史、地理など、現実の社会経済にかかわるいくつかの科目を学んできたはずですが、そこでは教科書を理解し記憶する努力を重ねてきたことでしょう。その努力の到達度は、学期ごと試験や入学試験で、アチーブメント・テストによって判定されてきたでしょう。

こうした努力によって獲得した知識は、それ自体、有意義なものです。また、そのすべてが大学で経済学を学んでいくための基礎になるものです。けれども、教科書学習の過程で、ややもすると、教科書こそが勉学の対象なのだ、というような気分になってしまうものです。ところがよく考えてみると、現実の社会、現実の経済を学んでいくさいの本当の唯一の教科書は、私たちが生きているこの社会そのもの、この生きた経済そのものなのです。現実の生きた経済は、過去の歴史を背負いながら運動し、日々刻々と変動しており、実のところは、将来がどうなるのか、誰も確実なことはわからないのです。

教科書に記載されている知識の体系は、実は、貧困や生活の格差、景気変動、インフレ、国際的衝突など、現実の生きた経済現象が私たちに投げかけている問題について、先人たちが解きあかしてきた理解の到達点なのです。だから、経済学をいきいきと学ぶための大前提は、現実の社会・経済が私たちに投げかけている問題そのものを共有することです。「問い」を確認したとき、はじめて解答＝学問の意義が浮かび上がるのです。そして、その「問い」を投げかけるのは、テストではなくて、現実社会そのものなのです。

本講義は、現実の社会が投げかけている問題を皆さんに提示し、問題解決としての経済学を学ぶ

意義を明らかにします。わけのわからない巨大な力＝社会に翻弄されて受動的に生きるのではなく、主体的にこの社会、経済を理解し、自分の意見をもち、主人公として生きよう。これが、本講義をつらぬくメッセージです。

〈講義の内容と進め方〉

以上の目的に合致した最高の教材は、実は、「今日の新聞」です。果たして、「今日」という日になにか起きるのかわかりませんが、基本的に「今日の新聞」の主要記事について、ひろく社会的・政治的視野のもとにとりあげて、それがかわっている背後の問題を明らかにします。出来事は、偶然的ですし、具体的には予測を超えたことばかりです。それにもかかわらず、1年を通じて25本程度のトピックスをとりあげるなかで、ある普遍的な経済的社会的な問題が浮かび上がってくるはずですが、使用する教科書は一定の普遍的問題構図を提示しており、とりあげた問題の位置の確認のために参照します。

〈昨年度の講義内容〉

ちなみに昨年度結果的に論じることになった内容(93/11/22現在)を提示しておけばつぎのようです。

- ① 13兆2千億円の総合経済対策
- ② 進む円高
- ③ ロシアの国民投票
- ④ PKOの政治経済学
- ⑤ 選挙による「国家」の創出——PKOとカンボジア続論
- ⑥ 「社会主義」とは何であったか
- ⑦ 「時間の尺度」を考える——現代における時間の速さ
- ⑧ 企業社会と政治改革——「会社」の話
- ⑨ 政界再編と経済システム
- ⑩ 企業と政治・続論
- ⑪ 〔時間内で自由レポート〕
- ⑫ 東京サミット——サミットのルーティン化と体制化
- ⑬ 細川連立政権の構図と課題
- ⑭ 凶作とコメ問題
- ⑮ エリツィン VS. 最高会議——ロシアをどうみるか
- ⑯ 「働きすぎのアメリカ人」と過労死社会日本——経済構造の改革をみる眼
- ⑰ 所得税と消費税——所得税減税論議によせて
- ⑱ 椿発言の波紋と日本の構造問題
- ⑲ 政治改革法案・衆院特別委通過
- ⑳ 不況下において地球環境問題を考える

〈成績の評価〉

経済学への導入としての講義の性格上、平常点つまり、授業への出席と何回かのレポートで評価します。

〔教科書〕経済学教育学会編『経済学ガイドブック』（青木書店）¥2,800
なお、なんらかの新聞を毎日読むこと当然のこととします。

経済学概説

瀬戸岡 紘

☆ 経済学概説は、経済学の楽しさと奥ふかさを紹介する科目です。

あたらしく経済学部に入學された諸君が、これから経済学を学習し研究するためのイントロダクションとなる話をするのが、この講義です。ここで私がなにより大切にしたいと考えていることは、まだ入学してまもない諸君がおおいに抱いているはずの勉学への期待をうらぎらないで、むしろ、ふくらませるようになっていくことです。そのために、この講義では、受講者となる諸君の期待や要望に応じて、きわめて柔軟にプログラムを組んでいくつもりです。以下にかかげた、この講義のテーマも、大まかな目標としてのプログラムにすぎません。

前期〔導入の話題〕

◇最近の経済をめぐる話題から（内容未定）
〔世界各地の経済を題材として一経済史と経済政策論へのイントロダクションー〕

- ◇ヨーロッパの経済・今昔
- ◇アメリカ経済の特質
- ◇旧ソ連・東欧の実験
- ◇日本の経済
- ◇アジア経済の発展
- ◇地球と経済

後期〔思想家や経済学派を題材として一経済学史と理論経済学へのイントロダクションー〕

- ◇古典学派の人びと
- ◇歴史学派とその後継者たち
- ◇マルクス学派
- ◇近代経済学の諸潮流
- ◇ケインズと現代

〔むすびの話題〕

- ◇あたらしい経済学派の諸見解と21世紀の世界

☆ 前期の課題は、経済史、経済事情、経済政策のイントロダクションです。

世界各地の今日の経済事情を概観しつつ、そのような経済事情を生んできた歴史的背景を考え、あわせてそれぞれの地域での経済政策の実態をごく簡単ながら紹介します。最後は、環境問題のような21世紀を展望するさい、さけてとおれない諸問題にまで話をすすめます。

☆ 後期の課題は、経済学史と経済理論のイントロ

ダクションです。

過去の著名な経済学者や経済学派のおかれた環境やその人（たち）自身が格闘した難題などの紹介をとおして、今日われわれがまなぶ経済学の生いたちをたどってみます。あわせて、それぞれの学者や学派の理論のアウトラインや特色をも概観します。

そして最後は、今日の最新鋭の経済学の潮流や苦難にも言及します。

☆ 1回の講義にひとつのテーマをとりあげます。

講義では、一回ごとにひとつずつテーマをとりあげます（上記の◇について、おのおのふたつぐらいのテーマ）。毎回の講義では、なるべく身ごかした話題や経済的現象、あるいは日々のニュースからはじめて、基礎的な理論やキーワードの解説もくわえながら話をすすめますが、どんなテーマをとりあげるにあいにも、なにより経済学のおもしろさを諸君にわかってもらえるように展開していくつもりです。そのために講義では、諸君との対話を大切にしながら、ともに考えていくようにするつもりです。

☆ 最新のニュースや膨大な情報、そして歴史的事実こそ、この講義のテキストです。

この講義では、特定の図書を教科書として使用しません。一回一回の講義をとおして、諸君の経済学にたいする関心や問題意識をひきだしていくことがこの講義の課題だと考えるからです。たくさん出版されている書物や雑誌、テレビ番組などのなかに勉学に役立つものが見つければ、その都度紹介していくつもりです。

☆ 経済学のおもしろさがいっそう理解できた受講者が単位をとることもできます。

この科目は必修科目なので、学生番号により、経済学部のすべての学生が受講しなければなりません。それだけにこの講義は、経済学部のさまざまな学生の期待にこたえるように努力します。しかし、安直に単位だけをねらおうとする学生には、容赦ない対応をとることになるかもしれません。1年後に経済学がいっそう好きになったと感じられるような受講者がもっともよい成績をとることのできるような評価をするつもりです（具体的には開講後提示）。同時に、受講者の諸君からも、私の講義にたいする評価をくだしてもらおうつもりでおります。

経済学概説

曾我信孝

〈授業の内容〉

この講義の目標は、受講者ができるだけ早く経済学に対する問題意識をもつようになり、さらに

適切な分析力をつけてくれることを願うものがある。

とりわけ今日では情報量が増加したことによって、情報に振り回されているきらいがある。それは分析力の低下という高尚な次元ではなく、なにが問題なのかすらも意識しなくなっているところに大きな問題がある。なぜなら、自ら問題を意識しないことによって、他人の問題提起（今日ではマスコミの力が大きい）によりかかってしまうからである。それは、情報操作の可能性を大きくし、ますます問題を意識することから遠ざけられてしまう。もはや今日では、「生活提案」などと称して、あらゆる面で問題のすり替えや説得がなされ、自ら問題を意識することは極端に少なくなっているといっても過言ではない。

もちろん、この講義でこれらの問題をすべて解決することなどできない。とりわけ詳細な分析などは時間的に困難である。それらは、学生諸君がそれぞれの専門科目へと延長し、ゼミ選択の指針にしてもらいたい。

講義は問題点の指摘と分析のサンプル、問題提起の二つに大別して行う。前者では、われわれの生活でもっとも身近な「価格」を取り上げ、以下のような内容で進める。

1. 現代価格の問題点

- (1) 独占価格（管理価格）
 - ・大企業によって価格がコントロールされている。
 - ・大企業間の競争過程で価格支配が必要。
- (2) 商品の価値
 - ・価格設定の社会的基準は「価値」
 - ・「価値」とは何か。
- (3) 不等価交換
 - ・利潤率の低下と『収奪』
 - ・市場支配と収奪

2. 価格の設定（独占価格）

- (1) 独占的高価格
 - ・利潤率の低下（生産設備・流通費の巨大化）
 - ・独占利潤の確保（戦略・政策の安定資金の資金確保）
- (2) 生産指向
 - ・一定利潤の上乗せ方式（＝全部原価＋希望利潤）
 - ・管理不可能な費用の上乗せ
 - ・管理可能なものは最終段階の「利潤」
- (3) 市場指向（今日的な価格設定の方法）
 - ・競争価格 ・模倣価格 ・追随価格 など
- (4) 戦略的価格設定の方法
 - ・上層部吸い上げ価格設定
 - ・浸透価格設定 など

3. 独占価格の維持

- (1) 製品の使用価値の政策的変革
（副次的使用価値の強調＝本来の使用価値の隠蔽）

- (2) チャンネル支配
（販売チャネルの支配と販売価格の強要）
（独占利潤の配分－大規模小売店との関係）
など
- (3) 流通費の参入障壁
（巨額な流通費の投入による価格の説得）
（広告費の恒常的巨額化による競争の排除）
など
- (4) 商品原価と価格の乖離
（商品の品質検証の困難性）
（価格の客観性の欠如）
など

また、後者については経済時事問題を取り上げ、それがどういう問題なのかなどを解説する。ここでは、若干のコメントを加えるにとどまり分析には深く立ち入らず、できるだけ多様な問題を取り上げたいと思っている。また、学生諸君の問題意識の発表の機会をもうける。

＜評価の方法＞

- 期末試験（後期のみ）……60%
- 夏期休暇中の課題 ……20%
- 問題意識の発表 ……20%

＜参考書＞

基本的には、教科書を使用しない。参考書は講義中に指示する。

経済学概説

福原好喜

この講義は学生に経済学についての基礎的知識を得てもらうことを目指す。毎回統計や図表を用いて、その時々々の日本経済、世界経済の諸問題について、概括的説明と問題提起とを行なう。学生諸君が、身の回りや、新聞、テレビで見聞きする経済事象について主体的関心と具体的知識を得る一助になればと思っている。昨年講義で取り上げたテーマを幾つか例示すると、

1. 政府の「新農業政策」はまぼろし
2. 日本の女子労働
3. EC通貨統合——マーストリヒト条約
4. 世界通貨ドルの問題点
5. アメリカ財政赤字の現状
6. 貿易黒字拡大と日米貿易摩擦
7. 日本人の労働時間と休暇
8. バブル崩壊から本格的な不況へ
9. 日銀の失敗——オーヴァーキラー
10. 農業の衰退と食糧自給
11. 林業壊滅——円高の結末
12. 農林業の衰退と自然破壊
13. 緊急輸入 300万トン以上で世界的米不足へ
14. 農産物輸入とポストハーベスト

15. 史上最悪の兇作とコメ緊急輸入
16. ECからEEAへ
17. 世界経済の現状
— EC, NAFTA, APEC —
18. EAECと日本の利害
19. 経済成長率から予測する10年後の世界経済
20. 日本の景気動向
21. 景気動向指数分析
22. 作況指数75, 政府発表はウソ
23. 米の輸入自由化と米作の将来
24. 米の流通機構
25. 株価下落の影響——不良債権の処理に苦悩する銀行
26. 土地価格下落と金融システムの不安定化

専門教育科目

1 年次必修科目 (商学科)

会計学総論

遠藤 孝

〈授業の主たる内容〉

企業会計とは何か、会計学とは何かにつき、2年次以降の会計学関係の科目を学ぶに当たっての基礎的知識、技術につき講義する。

〈授業・講義形態〉

できるかぎり多くプリントを配り板書による講義を補う

〈授業項目と授業スケジュール〉

前期

① 4月第1週 ② 4月第2週

企業会計とは何か、会計学の領域、職能について、記録・計算－複式簿記、企業活動内容の報告・開示－財務会計、企業管理－原価計算、管理会計、企業会計の社会的信頼性、適法性、適正性－会計監査、その他、税務会計、経営分析などにつき、それぞれその内容につき講義

② 5月第1週

企業の発表する財務情報につき、それがどのような手続をもって作成され、どのような時期と発表されるか、企業活動の記録・計算、財務諸表－財務情報作成などの企業会計の枠組につき講義、ここで企業情報－有価証券報告書より実際の貸借対照表、損益計算表を配る予定

③ 5月第2週、第3週

企業会計を規制する法律、規則、原則などどのようなものがあるか、その内容、企業会計規制の枠組につき概説する。

以上までで企業活動の記録、会計、企業情報の開示、それによる意思決定システムとしての企業会計の性格につき基礎的問題につき講義

④ 6月第1週より～10月最終週または11月第1週まで複式簿記につき講義

企業活動－資本調達活動、その運用、利潤追求活動、これらを写しとるものとしての複式簿記の役割

取引とは何か、勘定とは何か、借方、貸方とは何か、借方、貸方記入のルール－貸借記入原

則、勘定科目の分類

仕訳とは何か、取引による仕訳記入の実際、仕訳より元帳転記の実際

記録・計算の検証－試算表の作成、6けた清算表の作成

商品勘定の分割記入、当座預金勘定の記入－小切手、手形記入－約束手形、為替手形とは何か、その記入

有価証券とは何か、その記入、その他主たる勘定につきその記入の実際につき講義

期間損益計算とは何か、その仕組

貸倒れの見積もり、減価償却とは何か、減価償却費の計算、計上、費用・収益の繰延見越

8けた清算表の作成

- ⑤ 11月第1週または第2週より最終週複式簿記より財務諸表の作成、2年次以降への会計学関係科目への連結につき講義
会計学を何んのために学ぶか、総括

〈成績評価の方法〉

前期最終週につき複式簿記、とくに仕訳につき試験を実施、後期試験で、複式簿記、理論につき試験

以上のスケジュールは、学会出張、大学祭などの大学の行事によって変更することがある。

〔参考書〕講義の際指示。

1 年次選択科目 (経済学科)

会計学総論

加古 宜士

〈授業の主たる内容〉

会計学の基礎的な理論と技術について総合的・体系的に講義する。

〈授業項目と授業スケジュール〉

(1) 前期においては、次のスケジュールで授業を行う。

- ① 会計の意義と役割について概説する。
② 会計学の研究領域について概説する。

- ③ 企業会計の計算構造の基礎をなす複式簿記のメカニズムについて、その原理と手続を理解習得させる。
 - ④ 簡単な損益計算書と貸借対照表を作成する能力を養成する。
- (2) 後期においては、現行の企業会計制度における次の領域別に、重要課題を順次とりあげ、できるだけ分かりやすく解説する。
- ① 資産会計
 - ② 負債会計
 - ③ 資本会計
 - ④ 損益会計
 - ⑤ 財務諸表
 - ⑥ その他の会計情報

〈履修条件〉

毎回の授業内容について復習すること。
授業の進行に応じて随時宿題を課する。

〈成績評価の方法〉

前期末と後期（学年）末に筆記試験を行う。なお、前期40点、後期60点（総合100点）とする。
〔教科書〕新井清光著『現代会計学』（中央経済社）¥2,400
新井清光編『簿記検定3級商業簿記』（税務経理協会）¥630

2年次必修・選択科目

経済原論Ⅰ

有井行夫

〈講義の目的と問題意識〉

スーパーマーケットに行ってご覧下さい。実に多くの種類の商品が整然と積み上げられています。しかも、より多く使われるものは大量に、そうでないものは少量にという具合に、一定の量的構成で積み上げられています。

諸商品の堆積、こういう観点から見れば、私たちの暮らすこの社会全体が、すなわち日本という国全体が、ひとつの巨大なスーパーにはかなりません。また、諸商品の来し方をたずねれば、どこかの工場での生産であり、行く末を見れば、他のどこかの工場での生産的消費であり、あるいはどこかの家庭での個人的消費です。これらの観点から見れば、日本という国の全体が、ひとつの巨大な工場でもあり、ひとつの巨大な家庭でもあります。

それにもかかわらず、実際には、日本という国

そのものは、ひとつのスーパーでも、ひとつの工場でも、ひとつの家庭でもありません。諸商品の、私的な、ばらばらの生産者たち、売手たち、消費者たちが、競争を通じて複雑に入り組みもつれあって、さまざまなアンバランスの絶え間ない修正運動のなかで、結果的に、あるバランスをもった社会経済システムをつくりあげているのです。不思議ではありませんか。

かぎりない利潤追求を基本的な活動動機とする企業の商品生産にもとづいて、現代的商品経済は成りたっています。本講義の目的は、この基礎的な仕組みを明らかにすることです。その際、現代は純粋に私的な商品経済ではなく、さまざまな「公共的なものの総括」として経済的国家が、システムの安定に不可欠の要素として組み込まれています。この意義についても理解の射程にいれて論じます。

原論Ⅱでは、現代資本主義システムが成り立っていることを前提して、いかに、そのシステムの機能が作動しているかに主たる関心があるのについて、本講義、原論Ⅰでは、資本主義システムそのものがどうして成り立ち得ているかに主たる関心があります。そこで、原論Ⅰは、社会の成り立ちの根拠としての労働、および経済的費用の根源としての労働から話をはじめることになります。原論Ⅰは、カール・マルクスの確立した労働価値論を継承しながら現代をとらえる理論潮流に属します。

〈講義内容の概要〉

第1章 経済学の対象と方法

人間性と社会形成の根源的な原因としての労働、必然的な社会関係としての生産関係、社会関係を生産関係に媒介することの認識論的意義、生産関係の物象化（＝非人格化）の仕組み。

第2章 市場経済

財の根源的費用としての労働、商品生産社会における労働の特殊性、価値と使用価値、生きた貨幣の成り立ちの必然性、貨幣の諸機能。

第3章 資本と増殖

貨幣を生む貨幣としての資本の概念、資本が社会的総生産をとらえることの可能性、剰余価値の一般的な可能性、労働力商品の意義、資本の価値増殖過程における諸範疇、賃金形態の意義。

第4章 価格と利潤

剰余価値と利潤、諸資本の部門内競争による価格形成、諸資本の部門間競争による価格形成、独占的市場構造における価格形成。

第5章 資本の再生産と蓄積

再生産運動として資本のシステムをとらえることの意義、私的所有原理と取得原理の対立、資本構成の高度化と産業予備軍効果、単純再生産と拡大再生産の表式、資本の過剰生産と景気循環運動。

第6章 国民所得と分配

分配論の意義、商業資本と商業利潤、利子生み資本と信用制度、地代、転倒した経済的諸範疇の意義。

第7章 国家と財政。

「公共的なものの総括」としての国家、資本のシステムの媒介形態としての国家、ケインズ政策の含意と役割、公共性と私的営利性との矛盾する転換運動としての現代経済、資本は国家の壁を破るか。

〈講義の方法と成績評価〉

90分の講義、約25回で、以上の内容をひとつお話しするのは、実は、時間的にかなり困難です。骨格的内容にできるだけ時間を集中します。使用するテキストはもっともコンパクトなもの1つを選んでいますが、できるだけこのテキストに忠実に解説し、重要箇所はアンダーラインを指示します。成績評価は、解説済みのテキスト箇所のみから出題して実力試験によっておこないます。つまり、ノート、テキスト持ち込みは不可ということです。

〔教科書〕平井ほか『経済原論』（有斐閣）
1,300円。

〔参考書〕経済学教育学会『経済学ガイドブック』（青木書店）2,800円。

経済原論 I

大石雄爾

〈講義内容〉

20世紀末を迎えて、国内・国外を問わず現代社会は大きく揺れ動き、ますます複雑な様相を呈している。そのような時代であるからこそ、私たちはただ目まぐるしく移り変わる日々の出来事のみを目を奪われてはならない。現実をよく観察し、そこに貫いている傾向や法則をしっかりと捉えることが必要となってくる。

この講義は、このように複雑な現代資本主義社会の運動法則を理解する上で必要な基礎的・一般的知識を身につけることを目的としている。そのために、以下のようにテーマを立て、講義を進めていく。

1. 経済理論を学ぶにあたって
2. 社会科学としての経済学
3. 経済学の対象と方法
4. 商品とは何か
5. 商品生産社会と貨幣
6. 貨幣の諸機能
7. 貨幣の資本への転化
8. 資本の生産過程
9. 絶対的剰余価値の生産

10. 相対的剰余価値の生産
11. 資本主義と賃金
12. 資本の蓄積
13. 資本の流通過程 — 資本の循環と回転
14. 社会的総資本の再生産 — 単純再生産
15. 社会的総資本の再生産 — 拡大再生産
16. 剰余価値と利潤
17. 生産価格と平均利潤率
18. 商業資本と商業利潤
19. 利子生み資本と利子
20. 近代的土地所有と地代
21. 国家と財政
22. 国際経済関係
23. 資本主義と産業循環
24. 現代資本主義経済理解のために

〈講義（授業）方法と留意点〉

講義においては、上記のテーマについてはほぼ1回につき1テーマのペースでお話する予定である。できる限り理解を深めてもらうために、相当量の板書をするようになる。参加する諸君は、ただこれを書き写すだけでは不十分である点を自覚し、自分で読み返したとき意味が理解できるノートの取り方を工夫してほしい。

毎回の講義の冒頭では、その時々政治・経済にかかわるトピックスをとり上げて解説を加える予定である。また、諸君の問題関心を引き出すために、年間数回にわたって「30分レポート」を実施する。これは、年間の成績を評価する際に、考慮の対象となる。

経済原論は理論という性格上、全体的な関連の強い科目であり、年間を通して受講して初めて十分な理解が可能になるという特徴をもつ。その点からして、毎回必ず出席することを強く要求したい。欠席する場合には、その事由を書いた、客観的な証明書の役を果たす文書を提出する必要がある。

〈成績評価〉

試験は原則として年度末に行なう。平素から講義に出席し、反復勉強していないと失敗することが多い。また、「30分レポート」も加味して評価する。

〔教科書〕平野喜一郎他『経済原論』（青木書店）
¥2,781

〔参考書〕金子ハルオ他『資本主義の原理と歴史』（青木書店）¥1,854

経済原論 II

浅野克巳

〈授業の目的と内容〉

経済学の目的は、われわれの日常生活の中で

く身近に生起する様々な経済問題の原因は何か？なぜそのような問題が起きるのか？それらを解決するための処方箋はどのようなものであるべきなのか？といったことを考えることであり、われわれの生活と深い関わりがある。

このような観点から、「経済原論Ⅱ」では経済学の基礎理論を近代経済学の方法にしたがってできるかぎり平易に解説する。具体的な授業内容と年間のスケジュールは、以下のとおりである。

〈授業項目およびスケジュール〉

前期

I. マクロ経済学

1. 経済循環と国民所得の概念
2. 国民所得の決定
3. 財政・金融政策
4. 経済の変動と成長

II. ミクロ経済学

1. 消費者行動の理論
2. 企業行動の理論

後期

3. 市場均衡と価格決定
4. 一般均衡分析

III. 公共政策

1. 公共政策のマクロ分析
2. 公共政策のミクロ分析

IV. 国際経済学

1. 国際経済学のマクロ分析
2. 国際経済学のミクロ分析

〈授業を受けるために必要な勉強〉

現代経済学を勉強する上で不可欠なことは、現実の経済問題に常に関心をもつことである。日常の経済問題に関する生きた情報は、さまざまなマス・メディアをとおしてあふれるほど豊富に提供されている。とりわけ『日本経済新聞』には毎日必ず目をとおしてもらいたい。必要な記事はスクラップ・ブックに整理しておくこと、授業だけでなく将来の就職試験などにもおおいに役立つであろう。

現代経済学を理解するためには、数学の知識が必要であるといわれるが、標準的な基礎理論で用いられる数学は必ずしも高度なものではない。高校の基礎解析あるいは代数程度の知識で十分であろう。経済分析に必要な数学は授業の中でも説明するが、要は「習うより慣れる！」紙と鉛筆で自ら反復練習することが肝要である。

なお、近年初心者でも使いやすいコンピュータのソフトがいくつか開発され、「駒沢大学電算室」に常備されている。それらを利用しシミュレーションを行ってみることも、経済学理解の一助となるであろう。「経済原論Ⅱ」の内容と関連のあるソフト、あるいは利用の仕方については最初の授業で詳しく説明する。

〈成績評価について〉

成績は年間2回（前期・後期）行うテスト（筆記試験）の合計点のみによって評価する。

〔教科書〕 浅野・荒木・浅田『エコノミクス改訂版』（成蹊堂）1994年

〔参考書〕 上記テキストの巻末には、各章ごとに必要な参考書が一括して掲げられているので参照されるとよい。

〔問題集〕 青山『経済原論の頻出問題』（実務教育出版）1993年 ¥906

経済原論Ⅱ

浅田 統一郎

本講義は、近代経済学の基礎理論をわかり易く体系的に解説し、『価格理論』及び『国民所得理論』の一層進んだ内容を理解するために必要な知識を修得するための橋渡しをすることを目的にしています。また、本講義を受講することによって得られた基礎知識は、現実の経済問題を解釈し、その解決策を考えるための指針としても役立ちます。

近代経済学の理論体系は、「ミクロ経済学」と「マクロ経済学」という二大分野に分けられます。ミクロ経済学は、19世紀のジェボンズ、マーシャル、メンガー、ワルラス、20世紀に入ってからにはヒックス、サムエルソン、アロー、ドブリュー等によって発展させられてきた理論分野で、経済を構成する個別的な消費者や企業の行動にまでさかのぼって市場における価格決定の問題を分析し、完全競争、独占、独占的競争、寡占等の市場形態の相違が資源配分の効率性や所得分配にどのような影響を及ぼすかを分析します。（駒沢大学経済学部では、『価格理論』という科目がこれらの問題を専門的に扱っています。）他方、マクロ経済学は、20世紀前半にイギリスの経済学者ケインズによってその基礎が築かれた経済学の重要な一分野で、国民所得、物価水準、失業率、政府財政余剰、国際収支等の「集計概念」（様々な細かい個別的な変数を合計して、あるいは平均して得られる概念）を用いて、経済全体の動きを大づかみに把握することを目的としています。（駒沢大学経済学部では、『国民所得理論』という科目がこれらの問題を専門的に扱っています。）マクロ経済学の理論は、現在、政府による経済政策が経済全体に対して及ぼす影響と効果を分析したり論じたりする際に必要不可欠な思考の枠組を提供してくれますが、同時に、この分野は、正統派ケインジアン、ポスト・ケインジアン、マネタリスト、サプライサイドの経済学、合理的期待学派等、様々な学派が並存して各学派の間で活発な論争が行な

われている分野でもあります。また、ハロッド、ドーマー、ロビンソン、ソロー等によって発展させられた経済成長理論、ヒックス、カルドア、グッドウィン等によって発展させられた景気循環理論も、マクロ経済学から派生した分野とみなすことができます。

本講義では、これら二つの理論体系の基礎知識を以下の順序に従ってわかり易く解説します。

I. ミクロ経済学

1. 消費者行動の理論
2. 企業行動の理論
3. 市場均衡の理論
4. 不完全競争の理論
5. ミクロ経済学の応用（公共政策のミクロ分析及び国際経済学のミクロ分析）

II. マクロ経済学

1. 国民所得の概念
2. 国民所得決定の理論
3. 貨幣と利子率（IS・LM分析）
4. マクロ経済学の応用（公共政策のマクロ分析及び国際経済学のマクロ分析）

なお、教科書は、浅野・荒木・浅田著『エコノミックス』（成蹊堂）を使用しますが、本講義の範囲を越えてもっと詳しくミクロ経済学とマクロ経済学を勉強したい受講者や本講義の修了者のために、下記の「指定図書」を推薦しておきます。

〈成績評価について〉

成績は年間2回（前期・後期）行う筆記試験によって評価します。

〔教科書〕浅野克巳・荒木勝啓・浅田統一郎著『エコノミックス』（成蹊堂）

〔指定図書・文献等〕武隈慎一著『ミクロ経済学』（新世社）

廣松 毅・R. ドーンブッシュ・

S. フィッシャー著『マクロ経済学』

上・下（マダロウヒル）

経済原論 II

荒 木 勝 啓

原論は本来ミクロ・マクロ両面にわたって学習すべきであるが、この科目が商学科選択および他学部生の教職科目でもあることを考慮して、この授業はもっぱらマクロ経済学の基礎的部分（IS-LM 分析まで）に限定して行うことにする。

ところでなぜ経済事象を理解するために「経済理論」を学ばなければならないのであろうか。理論なき現実観察がいかに危ないものであるかは、毎年のように見られる次のような答案の叙述をみればよく理解できよう。

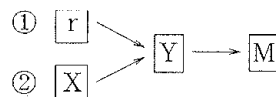
「公定歩合が下がる。すると景気が良くなると

ともに国際収支の黒字幅が拡大し……」

この記述は、おそらく「日本経済が過去において輸出主導型であり、輸出拡大によって（その結果）黒字が増大しながら景気が拡大していった」という記憶に基づいて書かれたものであろう。たしかに経験に基づけば、日本経済の輸出拡大（黒字増大）と、景気拡大は同時進行的であったようにみえる。しかし経験の一般化ほどこわいものはない。ではアメリカはどうだったであろうか。景気が拡大するたびに国際収支の赤字が増大したではないか。

上述の答案のように(A) 景気がよくなると国際収支の黒字化傾向となるのが正しいのか、それともアメリカがそうであったように(B) 景気がよくなると国際収支の赤字化傾向となるのが正しいのか。

そこで問題の整理が、すなわち前提条件を明確にした上で結論を導くという方法論、つまり「理論」が必要となるのである。今輸出をX、輸入をMとし、国際収支を便宜上經常収支すなわち輸出ー輸入だけに限定し、 $B = X - M$ と書こう。BはもしXがふえれば増大（黒字化）し、Mがふえれば減少（赤字化）する。X、Mともにふえればその相対的なふえ方に応じてBの増減が決まる。さて、公定歩合をrと表し、「景気」を国民所得Yで代表しよう。すると、「公定歩合が下がると景気が良くなる」という関係は $r \downarrow \rightarrow Y \uparrow$ と書ける。「輸出が増大すると景気が良くなる」という関係は $X \uparrow \rightarrow Y \uparrow$ と表すことができる。また輸入は景気が良くなると増加するのが一般的であるから $Y \uparrow \rightarrow M \uparrow$ という関係がある。すると図式的に



のようなcausality が成立つてあろう。さて上述の答案の混乱は、本来この図式の①から出発する事象の流れを、日本経済の経験が示した②から出発する流れと混同してしまったところに原因があるのである。①から出発したとすれば、結果はMの増加だけであり、従って $B = X - M$ は赤字化以外の道はない。すなわち80年代後半のアメリカ経済のように超低金利政策のもとで輸出の拡大を伴わなければ經常収支Bは赤字化する以外にないのである。②から出発したとすれば、結果はやはりMの増大となるがしかし、日本経済の経験が示すように $\Delta X > \Delta M$ である限りBはふえる。すなわち經常収支は増大するのである。こうして、上述の答案は前提が違うが故に、誤りであり、また(A)が正しいのか(B)が正しいのかという問題は、「景気が良くなった」その原因、出発点が①であるのか②であるのかを明示化しなければ判定でき

ないという結論が導けるのである。このように理論とは条件明示化の方法論なのである。

以上のように本講義は現実問題をたえず念頭に置きつつもマクロ理論を基礎から構築するということを主眼に置いている。年間の主要項目は次の通りである。

- (1) 総供給＝総需要
- (2) 均衡国民所得の決定
- (3) 政府・海外部門の存在する場合への拡張
- (4) 乗数
- (5) ビルト＝イン＝スタビライザー
- (6) 貨幣とは何か
- (7) 信用創造理論
- (8) 貨幣数量説
- (9) マネタリズム
- (10) 古典派経済学の3命題
- (11) ケインズ理論
- (12) IS-LM 分析
- (13) 財政政策と金融政策
- (14) ポリシー・ミックス
- (15) フィリップス曲線をめぐって
- (16) 期待理論
- (17) 成長理論

なお、最低年1回実地研修を行う。予定では証券取引所である。この時出席点をとる。

試験は期末に前後期合わせた分の試験を行う。ノート・本・電卓持込可。2題出題し1題は計算問題、1題は論述問題が予定。

〔教科書〕浅野・荒木・浅田著『エコノミックス』(成蹊堂)

経済政策

石井啓雄

〈授業の主たる内容〉

「経済政策」の講義のありかたとしては、土台としての経済構造と政策主体としての国家の問題を軸に、経済政策とはどういうものかを専ら理論的に詳細に論ずる方法とか、現代の資本主義国家の政策手法についてだけ細かく述べる方法とか、特定の領域、たとえば産業政策など教師の専門的研究領域にそくして講義する方法もある。しかし私は、この講義が2年次の経済学科の必修科目として位置づけられていることを重視した講義を行うようにしたい。すなわち、経済学科の学生は、経済学関係の科目としては、現在1年次において「経済学概説」だけを必修科目として履修することができ、2年次において「経済原論Ⅰ」「経済原論Ⅱ」「経済史」とならんでこの「経済政策」を必修として履修する。そしてこれらは、3・4年次においていろいろな専門科目を選択科

目として履修する前提として位置づけられている。このようなカリキュラム編成のなかで、この講義では、土台としての資本主義の発展段階、すなわち、生産力の発展を基礎とする重商主義、自由主義、独占資本主義、国家独占資本主義という発展段階ごとに、この資本主義の構造的発展を背景に変化していく経済政策の内容の基本的な点について講義する。

〈授業項目とスケジュール〉

試験その他を除いて、講義の回数は意外に少なく、おおむね25回である。そこでこの講義回数をおおむね次のように充当する。

- (1) 土台としての経済構造と政策主体としての国家の関係および政策とはどういうことかなどについて、2回。
- (2) 重商主義段階の経済構造と経済政策について、おおむね3回。前期重商主義、市民革命、後期重商主義、この段階での保護貿易政策その他主要な経済政策について。
- (3) 自由主義段階の経済構造と経済政策について、おおむね5回。イギリスにおける産業革命の意味、穀物条令の廃止に象徴される自由貿易の意義と産業資本の自立化による自由主義的経済政策の主な内容。イギリスに対しては後進的なフランス・ドイツ・アメリカなどの経済政策について。
- (4) 独占資本主義段階の経済構造とその経済政策について、おおむね3～4回。自由競争が必然的にもたらす独占資本の成立とそれによる国家の政策の変化、資本の輸出と多民族支配の発展。第一次世界大戦の意味などについて。
- (5) 国家独占資本主義の成立とこの段階での経済政策について、おおむね5～6回。1929年恐慌以後の経済政策の変化と第二次世界大戦の意味をふまえた上で、第二次大戦後のアメリカ主導のI.M.F = GATT体制、各国の国家独占資本主義の経済政策。経済成長政策と1970年代以降のその動揺、植民地の独立と新植民地主義的経済政策などについて。

以上のほか、①いわゆる社会主義の成立とその崩壊をめぐる経済政策問題、②明治維新と戦後改革を経た日本の経済構造と経済政策の特殊性など、についても可能なかぎり講義し、全体として25回の講義とする。

〈履修条件と成績評価その他〉

高校時代に学習した歴史（日本史および世界史）を含む社会科学の知識、および1年次における経済学概論の履修、そして経済原論Ⅰ・Ⅱの並行履修をきちんと行うことを当然の前提とする。講義回数が少ないので学会との重複、やむをえない病欠など以外、休暇の前後でも休講はしないので、学生諸君もそのつもりで受講されたい。

成績評価は、自覚的な勉強を期待して、期末試

験の成績を基本とするが、時に出欠をとり、特に期末試験の成績が振るわない学生の成績評価については、この出欠を考慮することとする。試験については基本的に書物、コピーなどの持ち込みは認めず、自筆ノートについてのみ考慮することがあることとする（その決定は12月の講義の際にする）。

〔教科書〕特に指定しない。

〔参考書〕講義の過程で適宜、ひんぱんに紹介する。

経済政策

広田秀樹

〈講義目的〉

経済的豊かさが人間の幸福の必要十分条件ではないが、経済的繁栄の土台があって青年への十分な教育、国民の基本的人権が保障されることも事実である。私の講義の目的は、持続的な経済発展・経済安定に対して、いかに経済政策がインパクトを与えるのか、実施した政策によって国民が幸福にもなれば、不幸にもなるという、経済政策の重要性を学生諸君に理解してもらおうところにある。

〈授業形態〉

広範な経済政策関連の知識を分かりやすく講義する。解説する経済政策のフィールドが広範になることで、各フィールドの知識の詳細さが欠落する場合も考えられるので、毎回講義以上に詳細な知識を書いたプリントを配布する。又、講義の30～40%は英語を使用し、これからの本格的な国際化社会で活躍する学生諸君の英語力伸長にも貢献したい。（大学生なら誰でも理解できる平易な英語を使用するので、心配無用！）。さらに、授業が単調にならないように質問形式・討論形式も導入し、主体的な政策形成能力を育成する為に、シミュレーショントレーニングも実施する。

〈授業スケジュール〉

常に理論的な精密さとケーススタディを展開することを念頭に置き、政策史・現代資本主義経済の政策メカニズムの2つを軸に講義をする。実際の経済政策は各国の内部経済制度や国際関係に影響されるので、常に国際比較にも十分配慮して解説する。

講義の概要は以下の通りである。

1. 経済政策論の基本事項（4月）
経済政策を学ぶ上で共通した前提要素である、理論と政策の関係・政策主体・政策効果の測定等について。
2. 経済発展と経済政策（5月）
経済政策は資本主義経済の発展過程ないし発展段階によって、常に変化をしてきた。重商

主義の政策・自由主義の政策・独占資本主義の政策・ケインズ革命・社会主義の経済政策・マネタリストの政策・サプライサイダーの政策。又、最近の規制緩和・税制改革論争等の現代の日本経済が直面する政策課題も含めて、経済発展のフローを軸に説明する。

3. 財政政策・金融政策（6月・7月）
先進資本主義国に共通の財政・金融政策のメカニズムを解説。財政政策に関してはケインズ派とマネタリストの間の論争点、国債依存と政策効果の関係も含めて、又金融政策に関しては、金融制度の発展過程・国際経済との関係も含めて、両政策のメカニズムを、短期的及び長期的政策効果の視点で分析する。
4. 社会保障政策・住宅土地政策（9月）
社会保障政策・住宅土地政策の国際比較を長期的な経済発展の流れの中で説明する。
5. 発展途上国型産業政策・先進国型産業政策（10月）
経済のサプライサイドへのインパクトとしての産業政策を、産業構造の変化・官民の力関係の変化を十分考慮して説明する。産業構造と産業政策は長期的に最も経済発展と国民生活に影響を与えるものなので時間を多く使用して詳細に説明したい。
6. 対外的経済政策（11月）
各国経済の密接な連関を、商品及び資本の流れと、それに対する政策を近年の日本経済の過大な貿易黒字に対する対応も含めて説明する。
7. 経済政策の国際比較（12月）
経済政策の政策内容が各国の伝統的政策思想や政策主体と民間セクターの相違で、質的に異なる事を説明する。

〈成績評価〉

定期試験・レポート。又、授業内の確認小テストで総合評価する。

〔教科書〕『入門経済政策』（中央経済社）
¥4,000

〔参考書〕サムエルソン『経済学』（上・下）
（岩波書店）
小宮隆太郎・奥野正寛・鈴木興太郎編
『日本の産業政策』（東京大学出版会）
宇野弘蔵『経済政策論』（弘文堂）
フリードマン『資本主義と自由』
（マクロウヒル好学社）
斎藤精一郎『サプライ・サイド・エコノミクス』（日本経済新聞社）
北田芳治・相田利雄編『現代日本の経済政策』（上・下）（大月書店）

経済史

安元 稔

〈講義内容〉

講義の前半において、「経済史」とは何か、何を対象とし、どのような方法で分析するかについて考え、「経済史」という学問が現在までどのような発展をして来たかを説明する。講義の後半では、先ず、最近100年間におけるヨーロッパの経済発展を比較ヨーロッパ社会経済史という視角から簡単に説明し、北欧・西欧・南欧・東欧のそれぞれにおける社会経済的発展の類型を考え、次いでそれぞれの地域の特質を生んだ前工業化期の経済発展をイギリスのそれと比較しながら考えて行きたい。その場合、人口・社会構造・経済構造の変化を各地域毎に考察する予定である。受講者は、教科書、年間講義予定表・講義資料（講義中に配布）を常時持参しなければならない。

〈年間講義予定〉

第1編『経済史』とは何か？

- I. 経済史の対象
 1. 「経済的営為」の特色
 2. 経済史の課題
- II. 経済史の性格
 1. 社会科学・経験科学としての経済史
 2. 経済学と経済史、歴史学と経済史
- III. 市場経済と非市場経済
 1. 市場経済の特質（長所と欠陥）
 2. ヒックスの『経済史の理論』
 3. 中央集権型計画システムの問題点

第2編 経済史学の発展

- I. ドイツ歴史学派の経済発展段階説
- II. マルクスの歴史認識
- III. マックス・ウェーバーの「経済と社会」・「プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神」
- IV. ヨーゼフ・シュンペーターの経済発展理論・「イノベーション」概念
- V. 第二次世界大戦後における経済史研究の潮流

第3編 ヨーロッパ経済の歴史的発展

- I. 経済社会の土台としての人口
 1. 16～18世紀ヨーロッパの人口変動
 2. 20世紀ヨーロッパにおける社会経済的発展の人口史的基礎
- II. 中世ヨーロッパの経済システム（1000～1500年）
 1. 土地領主制・村落共同体・農業生産
 2. 「商業の復活」
 3. 中世都市の成立と都市の商工業組織
 4. 中世経済システムの崩壊

III. 近代ヨーロッパの経済発展（1500～1750年）

1. 商業革命
2. 価格革命
3. 第一次農業革命と農業発展
4. 農村工業の展開と問屋制家内工業
5. 産業革命前夜のイギリス経済

IV. 産業革命と工業化社会の到来（1750～1870年）

1. 農業生産性の上昇と産業革命
2. イギリス産業革命の特質
3. 市場経済の展開
4. 産業・労働組織の変化
5. 資本供給と資本形成
6. 技術革命
7. 工業化と都市化
8. イギリス産業革命とヨーロッパ諸国の工業化

V. 20世紀ヨーロッパにおける社会経済的な発展の諸類型

〔教科書〕アンブロジーウス／ハーバード著

肥前栄一他訳『20世紀ヨーロッパ社会経済史』（名古屋大学出版会）

商学総論

大吹 勝 男

〈講義目的〉

商学総論といえば、商学という名から連想して、本講座ではビジネスに役立つテクニックあるいはノウハウを伝授するものとする学生もいるようですが本学の商学科はビジネス・スクールの大学版では決してありません。近年、大学においてさえも、学問が軽視される風潮にあります。そして生残りをかけ、学生集めのために実用主義を売りものにしている大学もありますが、本学も大学である限り、学問の場でなければなりません。換言すれば、大学でしか学べないもの、物事の見方、考え方を学ぶことです。そして、極端に言うならば、実用的でないもの、すぐには役に立たないもの、これを学ぶのが大学です。この様に言うと、落胆する学生もあるでしょう。しかし、心配することなかれ、その効果はジワジワと後になってでてくるのです。実用的なことは、その場限りのものであり、また社会にでて容易に身につくものなのです。何年間かキャリアを積んだビジネスマンから聞くことは、大学時代に理論的な勉強しておくべきであったということです。本学の商学科は経済学部を設置された商学科であり、諸君は経済学部にも所属する学生であるということから、本講義では、科学的経済学の立場から流通論を、そして商業論を講ずるものであり、その内容からして商

業経済学といいかえてもよいものです。したがって、講義においては、現代における流通および商業に関する諸現象を科学的に認識するために必要な流通理論（物流の基礎理論を含む）および商業資本の理論を講義します。また、本講義は、諸君が3年あるいは4年において履修するであろうマーケティングや商業政策のための基礎理論を提供するはずのものでもあります。また、商学科の学生は、あわせて経済原論Ⅰを履修すれば、本講義の理解の助けとなるでしょう。

〈授業内容・計画〉

(1)商品論（価値論）、(2)生産過程論（労働過程論）、(3)流通過程論（資本の流通過程・流通時間・流通諸費用）、(4)資本の回転と流通資本、(5)商業資本の諸問題（商業資本の本質論・商業資本の自立化論）、(6)商業利潤の諸問題・純粋流通費用の回収問題・商業労働の諸問題・ホワイトカラー（サラリーマン）論、(7)商業資本の回転と価格、(8)大規模商業資本・独占的商業資本論。これらの項目について話しながら、今日の諸問題を取りあげていく予定である。今年は、(1)(2)は概説的に行う。

〈評価方法〉

主として学年末試験によるが、授業の予習をかねてレポートをかす。また時々、小テストを実施し、諸君の理解度を確かめ、一層の理解を深める手段とする。

期末試験は論述形式ですが、テキスト、参考書、ノート、持込み可とします。しかし、誤解しないで下さい。この措置は、私自身学生時代に非常に疑問に思っていたことでありますが、諸君に、受験生の様な暗記の勉強を卒業してもらい、充分な準備をして試験に臨んでもらいたいということでもあります。いうならば、問題のわからないレポート試験とでもいえばよいかもしれませんが、従って、容易に単位がとれるという意味ではありません。

〔教科書〕大吹著『新版流通費用とサービスの理論』（梓出版社）

『経済学論集』（駒沢大学経済学部発行）第20巻2号、4号。第22巻1号、4号。図書館にてコピーして下さい。

経営学総論

寺 中 良 二

〈講義概説〉

経営学には大別して企業論と管理論という二つの学問領域がある。企業論の展開として個人企業、合名会社、合資会社、有限会社、株式会社（初期・近代・現代）、公企業、自主管理社会有企業について体系的に講義を展開する。特に資本主義企

業の最も支配的企業形態としての株式会社制度については、証券市場制度成立による出資資本の回収機構、擬制資本範疇としての株価形成の論理と算式、株式会社の支配機構およびそれに基づく財務技術の狙いと事例、現代株式会社における経営者支配をめぐる論争、その他について説明する。また、自主管理制度については、労働者の人間的復権にもとづく企業民主化の徹底性を明らかにしたい。さらに、管理論においては、アメリカ資本主義の独占形成期に成立したティラーの作業管理技術の主内容とその本質、大企業における下層から上層への管理技法の全般化と経営者の役割、全体主義批判の思想を根底にもつドラッカーの組織原理や労務管理などに言及する。以上二つの領域ともに、経営学という学問が、人間の幸福に少しでも役立つらねばと思う。尚、経営の国際化に対応して、専門用語（経済英語・経営英語）の履修者習得にも力を入れたいと考えています。

〈企業論講義目次〉

I. 企業形態論の方法

II. 人的会社

- (1) 個人企業の特徴と限界
- (2) 合名会社の形成と特質
- (3) 合名会社内部の変化
- (4) 合資会社の形成と特質
- (5) 有限会社の成立要件
- (6) 有限会社の意図と地位

III. 株式会社

- (1) 初期株式会社の成立事情
- (2) 人的会社と近代株式会社
- (3) 資本の動化
- (4) 擬制資本および株価の形成
- (5) 自己資本の他人資本化
- (6) 創業者利得のヒルファディングによる解明
- (7) 株式会社の機能資本家
- (8) 株式会社と協同組合
- (9) 創業者利得の取得形態
- (10) 現代株式会社の主内容
- (11) 配当利子化の二段階
- (12) 自己金融
- (13) 経営者支配の諸問題
- (14) 株式各論

IV. 公企業

- (1) 主要国における公企業の設立事情
- (2) 現代資本主義のもとにある公企業の性格と役割

V. 企業の民主化・国有化・社会化

VI. 自主管理社会有企業

- (1) 自主管理連合労働体制
- (2) 体制転換（株式会社化）

VII. 米国自動車企業各論

〈管理論講義目次〉

I. 現場肉体労働者に対する管理としての管理論

の成立 — ティラーシステムにおける管理機能と執行労働の分離

- II. 全般的管理への拡大としての管理論 — 中間管理者に対する管理（分権管理）とトップ・マネジメントの経営戦略
- III. ドラッカー理論の主内容および現代的意義と限界
- IV. 人間主義的管理論の意義 — 管理のための管理論から人間の幸福に奉仕する管理論へ

〈成績評価〉

年度途中における平常試験を1～2回実施して、多数の必修履修者間の学力格差を解消しつつ、期末試験の成績との総合評価（単なる算術平均はしない）を行う。平常試験は原則として口頭出題の筆記試験であるが、口頭試験（数名単位で最前列に呼び出し、論理的誘導質問による1問1答の討論形式）も実施したい。レポートによる単位認定は一切行わない。尚、期末総合評価においては、全員の成績が万一悪い場合には相対評価法を導入して救済する。

〈注意〉

- (1) 大教場における前列席が空席にもかかわらず最後尾に着席せし者並びに講義中に私語をする者に対しては授業時間中に講義内容について指名質問を行うことにしている。
- (2) 4～5月中及び9月最初の授業時間には、原則として授業内容の復習として5～15分間最初に再度要点を喋る。これで履修学生諸君の講義理解が高まるものと思う。
- (3) 授業に出て真剣に講義を聴くこと。そうでないと答案が書けません。論理を真に理解すれば暗記は一切不要である。意味が判らずに暗記しても全く無駄である。
- (4) 教科書については、最初の授業で指示する。参考書については、授業の進行に応じ言及したい。

度数分布表

統計値（平均値、中央値、最頻値）
散らばりを表す統計値（分散、標準偏差）

- 2. 確率変数と確率分布
2項目分布
正規分布
- 3. 標本抽出と標本分布
ランダム・サンプリング
中心極限定理
t分布
- 4. 統計的推定
推定とは何か
平均値の区間推定
- 5. 検定
検定とは何か
平均値の検定
- 6. 回帰分析 I
単純回帰モデル
最小2乗法
回帰と相関
- 7. 回帰分析 II
回帰における統計的推論
多変量回帰（重回帰）
- 8. 経済成長の見方
弾力性の話
eの話
2講では、2項分布や正規分布の分布の様子を見るために、パソコンでプリント・アウトさせた資料を配布して、具体的なイメージを持ってもらえるよう努めたい。
6, 7講では、予め用意したデータをパソコンにインプットして、実際に走らせると同時に、グラフ上にプロットされたデータの姿と回帰線との相互関係が目視できれば望ましいであろう。
数学上の知識は特に前提とはしない。
〔教科書〕『現代統計解析』（芦書房）

統計原論

吉野 紀

現代の統計学の基本は推測統計学にあるという認識に立って講義を進めてゆく。できるだけ多くの時間を回帰分析の説明に充て、現実の経済現象から採られた経済データを用い、経済分析との接合に意を尽くしたい。いわば数量的経済分析の基礎ともいべき内容を解くことになろう。『白書』や各種の公表されたペーパーに多用されている様々な回帰式の理解と評価ができるようになれば、本講の目的の一部は達成されたといえるであろう。

〈授業計画〉（順序と項目）

- 1. 記述統計 — 標本データの整理 —

簿記論

島崎 規子

〈講義目的（要旨）〉

最も授業で目的とする点は、簿記とは、どのようなものであるかを知ってもらい、簿記の面白さを理解し、好きになってもらいたいことである。簿記は、実践学です。学生各人が電卓とペンを使って先生といっしょに勉強に参加して、簿記の面白さを知って下さい。

そこで、本講義では、前期は複式簿記の基礎知識に重点をおき、後期は、これらを応用した具体的な問題を中心に取扱い、これから簿記検定を受験する者や、経理で活躍しようとする者にすぐ役

立つよう体系的に講述する。

〈授業内容・授業計画〉

講義の大筋は、次のとおりである。

〈前期〉 — 簿記の基礎編 —

- ① 簿記の主要概念
- ② 取引、仕訳、勘定記入
- ③ 決算手続、試算表、精算表（その1）
- ④ 決算整理と精算表（その2）
- ⑤ 貸借対照表と損益計算書

〈後期〉 — 主要取引の処理編 —

- ⑥ 現金、預金、有価証券取引
- ⑦ 商品売買、掛と掛以外の債権・債務取引
- ⑧ 固定資産、手形、資本取引

〈評価方法〉

出席および筆記試験。平常点をあげる場合もあります。また、小テストなども評価に加えます。

〔教科書〕下野・島崎・石田共著『複式簿記の理論と演習』（中央経済社）

財務会計論

遠 藤 孝

〈授業の主たる内容〉

会計学、とくに企業の活動内容を外部に伝達開示することを目的とする財務会計（FINANCIAL ACCOUNTING）について、その伝達、開示の手段である貸借対照表（BALANCE SHEET）、損益計算書（INCOME STATEMENT）を中心に、その性質、内容、役割などについて講義する。

財務会計論は会計学原理ともいえるもので、企業会計とは何か、企業が作成する貸借対照表などの決算書は、どのようにして作成されるか、それはどのような性質、内容をもつものであるか、それはどのような役割を果たすものであるか、また決算書はどのように読んだら良いのか、など実例をもって説明する。

〈授業形態、講義〉

できるだけ多くプリントを配る予定。

〈授業項目と授業スケジュール〉

前 期

- ① 4月第1週
企業会計、財務会計とは何か。
会計学、財務会計論とは何か。その企業会計、財務会計の何を学ぶのか。
- ② 4月第2週
先週に引続き、企業会計、財務会計とは何か。企業会計、財務会計がわれわれの生活とどのように関係しているのかを中心に講義。
- ③ 5月第1週
財務会計の制度性について。
企業会計制度とは何か。日本の企業会計制度、

各国企業会計制度のタイプ。

- ④ 5月第2週
先週に引続き、日本の企業会計制度の問題点、「企業会計原則」について。
- ⑤ 5月第3週
貸借対照表論、貸借対照表とは何か。実際に企業が作成した貸借対照表で説明。貸借対照表の役割、貸借対照表学説。
- ⑥ 6月第1週
資産評価について。流動資産 — 棚卸資産の評価、有価証券の評価、現行評価制度の問題点。
- ⑦ 6月第2週
資産評価について。固定資産の評価、土地評価、減価償却について。
- ⑧ 6月第3週
繰延資産について。繰延資産の特殊性、繰延資産項目とその償却。
- ⑨ 6月第4週
引当金について、引当金とは何か。引当金の設定基準 — 商法、「企業会計原則」の引当金、引当金会計の問題点。
- ⑩ 7月第1週
同 上
- ⑪ 7月第2週
資本会計について。
後 期
- ⑫ 9月第1週
損益計算書とは何か。費用収益の認識。
- ⑬ 9月第2週
連結財務諸表とは何か。
- ⑭ 9月第3週
同 上
- ⑮ 10月第1週
企業内容、会計内容の開示について。
注記 財務諸表附属明細表（書）
- ⑯ 10月第2週
同 上
- ⑰ 10月第3週
財務諸表の監査、商法上の監査。
- ⑱ 10月第4週
財務諸表の監査、証券取引法上の監査。
- ⑲ 11月第1週
会計の国際化、会計基準の国際的調整。
- ⑳ 11月第2週
同 上
- ㉑ 11月第3週
日本、世界企業会計の最新動向。
- ㉒ 12月第1週
同 上
- ㉓ 12月第2週
会計学を学ぶについて考えるべきこと。 — 総括

②4 最終週
予備

以上のスケジュールは、学会出張、大学祭など大学の行事によって変更することがある。

〈成績評価の方法〉

試験による。(前期、後期2回実施の予定)
〔教科書〕講義の際指示。

憲 法

藤 野 美 都 子

〈憲 法〉

国民は、基本的人権を有する。一方、国家は、この国民の基本的人権を保障する義務を負う。この関係を、『基本的人権』と『統治機構』の規定として明示するのが憲法である。憲法とは、国民の自由や権利を守り、権力の横暴や濫用を防ぐために、定められる国家の最高法規なのである。したがって、国家は、憲法を守る義務を負い、国民は、憲法を守るよう要求する権利を国家に対して有する。

講義では、きちんと憲法が守られているか否かに着目しつつ、日本国憲法について概観するものとする。私達の日常生活と憲法との関係を理解してもらうため、出来る限り、具体的事例を挙げながら講義を進めるつもりである。

〈授業計画〉

1. 憲法入門・男子中学生丸刈校則事件
2. 日本の憲法史(1)・大日本帝国憲法の特徴
3. 日本の憲法史(2)・日本国憲法の制定過程
4. 国民主権と天皇制・天皇主権から国民主権へ
5. 平和主義(1)・自衛隊と日米安全保障条約
6. 平和主義(2)・これからの平和政策
7. 基本的人権の享有主体・外国人の人権
8. 基本的人権の私人間効力・企業による人権侵害問題
9. 幸福追求の権利・プライバシーの権利
10. 法の下での平等・女性差別撤廃条約と男女平等
11. 信教の自由・政教分離と靖国神社公式参拝問題
12. 表現の自由・刑法 175条の猥褻罪と性表現の自由
13. 国民の知る権利・子どもの権利条約と内申書の公開問題
14. 経済的自由・職業選択の自由と財産権の保障
15. 適正手続の保障・被疑者と被告人の権利
16. 残虐刑の禁止・死刑廃止条約と日本の死刑制度
17. 生存権・朝日訴訟と堀木訴訟
18. 教育を受ける権利と教育の自由・教科書検定訴訟

19. 労働者の権利・労働基準法と過労死問題
20. 国会(1)・政治改革と選挙制度改革
21. 国会(2)・衆議院と参議院
22. 内閣・行政国家化と国会による行政統制
23. 裁判所(1)・司法権の独立
24. 裁判所(2)・「憲法の番人」と違憲立法審査権
25. 地方自治・住民のための地方分権
26. 憲法を活かすために

〈成績評価〉

基本的には、定期試験の成績による。

〔教科書〕芦部信喜著『憲法』岩波書店(2,700円)

民 法 一 部

青 野 博 之

〈講義目的(要旨)〉

生活に関連するものとして、民法を学ぶ。民法の最初ということで、民法入門という性格も有する民法総則が中心となるが、物権法も、もちろん講義対象である。せっかく民法を学ぶつもりになったのであれば、民法全体のイメージをつかむためにも、民法の体系性からしても、できれば、民法二部も続けて受講してほしい。

民法総則・物権法の中で、自分と他人との関係を権利義務という法律の目でみることができるようになれば、講義目的は達成される。自分は他人に対して何をなぜ主張することができるのか(権利)、自分は他人に対してなぜそんなことをしなければならないか(義務)を受講生自身が考えていけるように講義を進めたい。質問は大歓迎である。

出席者がそれほど多くなければ、私から受講者に質問しつつ、受講者に民法の条文を読み上げていただきながら、私の講義を聞いていただくことになると思われる。

〈授業内容・授業計画〉

前 期

民法総則のうち法律行為の前半まで(民法一条から一一八条まで)。

4月、序説(たとえば、自分の土地はどういうふうに使ってもいいとはどういう意味か、他人に迷惑をかけても自分の自由に使ってもいいか)。

5月、自然人(たとえば、未成年者と契約をするときにどんな問題があるか)。

6月、法人(たとえば、法人という制度を認めることによってどんな利点があり、どんな弊害が発生するか)、物

7月、法律行為(たとえば、契約は自由であるとはどういう意味か)。

後 期

民法総則のうち法律行為の後半から時効まで、

および物権法（民法一一九条から三九八条の二二まで）。

9月、法律行為（たとえば、契約を取り消すことができるのはどんな場合か、契約を取り消すとどういう結果になるか）、期間、時効（たとえば、時効という制度はなんのために認められているか）。

10月、物権総論（たとえば、物権は債権とどこが違うか）、物権変動（たとえば、マンションを買った場合には何をしなければいけないか）。

11月、占有権、所有権、用益物権（たとえば、土地を借りるとどんな権利が発生するか）。

12月、担保物権（たとえば、土地を買うためであれば、お金を借りやすいのはなぜか）。

1月、質問に答える（受講生からの質問には毎回の講義時間の際に答えるが、それとは別に質問時間を設ける）。

〈評価方法〉

出席して質問をした回数、およびその質問の内容を重視する。出席者に対して私の方から質問をするので、これに答えてくだされば、これもカウントに入れる。正しい答えでなくともよく、自分で考えた答えであればよい。自分で考えることに意味がある。答えられなかったとしても不利には扱わないので、安心して質問に答えてほしい。出席したらできるだけ、質問をし、私からの質問に答えることが結局受講生のためになる。また、私のためにもなる。したがって、質問および回答はこの講義を進める鍵である。試験に際しては一切の持ち込みを不可とする。

〈教材〉

教科書：我妻 栄・有泉 亨著（川井 健補訂）『民法1（総則・物権法）』（一粒社）、教科書は、上記のものを使うが、ほかに自分が気に入ったもの、手持ちのものがあれば、それでもよい。
六法：憲法・民法・刑法・商法・民事訴訟法・刑事訴訟法を中心として法律を集めて編集したものを六法と呼んでいる。受講する際にはぜひとも六法を持っていくこと。外国語を学ぶ際に辞書が欠かせないように、法律科目を履修する際には六法は不可欠である。六法は、『ポケット六法』（有斐閣）、『コンパクト六法』（岩波書店）、『デイリー六法』（三省堂）などの大きさ（厚さ・値段）のもので十分である。『コンサイス六法』（三省堂）、『判例基本六法』（岩波書店）、『判例六法』（有斐閣）を進んだ勉強をしたい受講生に勧める。『口語〜』という書名のついたものでもよい。六法は毎年出版されるので、新しいものの方が望ましい。

3 年次必修科目

時事外国語（英語）

石原 孝 哉

〈要 旨〉

新聞英語の基礎を学ぶとともに、新聞を通じて広い教養を身につけることを目指します。

〈授業内容〉

新聞記事をスタイルの面から、ごく大まかに分類すると、出来るだけ早く、正しく、事実を伝えることを目的とするニュース記事と、世論をリードし、啓蒙するオピニオン・リーダーとしての役目があります。

この二つは形やスタイル、構成なども違っているために、別々に学習することが理想的です。

この講座では、日々に変化するニュース記事については、最初に一般的な特徴やルールなどの説明をし、あとは典型的な新聞記事をプリントによって学習します。

一方、論説やコラムなどについては、教科書を読みながら勉強してゆきます。

〈評価方法〉

出席を重視します。折にふれて新聞英語のレポートを出してもらいますが、この内容も重視します。

なお、前期末にも中間試験をおこない、期末試験と同等に評価します。

〔教科書〕石原孝哉、市川 仁

Human Documents in Newspapers

『新々・現代の映像』（南雲堂）

¥1,300

時事外国語（英語）

大 川 浩

カレント・イングリッシュは今迄に学んできた多くのジャンルの英文とは異なって、時制の不一致、所有格の省略、略語・短縮語の多用等々、独特の構文や表現法によって書かれている。従って前期は主として英字新聞の特徴を中心に講義を行い、(1) Headline（見出し）(2) Lead（書き出し）(3) Body（本文）等の読み方を短文の記事で学び、練習問題を行うことによって内容の理解度の確認作業をして、段階的に見出し語や略語、専門用語の習得を行なう。

後期は国内外の政治、経済、科学、その他一般

ニュースに関する記事——前半は短文、後半は長文——を読み、現代社会のあらゆる分野の情報を得る媒体としての英字新聞の読解力の涵養を意図する。

前期、後期を通じて随時、専門用語の小テストを行なって英字新聞のボキャブラリーの増大をはかる。夏季休暇中も課題を出し、後期の授業再開時に課題に関する試験を施行する。後期は毎時間、レポートの提出を求める形態で授業を展開する。

成績評価に関しては、前・後期の試験を中心として、夏季休暇中の課題試験及び平常点などを加味して評価基準とする。

〔教科書〕開講時に指示する。

時事外国語（英語）

岡崎 寿一郎

〈講義目的（要旨）〉

各種英字新聞の記事を教材とする時事英語の総合教材を使用し、英字新聞記事についての精密な読解と解説によって現代社会と国際情報にたいする理解を深める。

〈授業内容・授業計画〉

The New York Times, the Asahi Evening News など各種の英字新聞記事についての精密な読解と内容の問題分析、また付設された練習課題の解答を通して、政治・経済・外交・軍事・環境保護からスポーツにいたるまで多方面の英語ニュースを理解するとともに時事英語についての語学的知識を豊富にする。

〈評価方法〉

前期の評価は、後期授業の予習を目的としたレポートを課す。後期の評価は、年間授業の学習の成果をみるために、辞書の使用を許可し、出題範囲を定めぬ筆記試験を定期試験期間中に行う。なお、平常の出席は重視して評価に加える。

〔教科書〕『時事英語の総合演習』（1994年度版）（朝日出版社）¥1,250

〔参考書等〕教場にて指示する。

時事外国語（英語）

落合和昭

〈講義目的（要旨）〉

英字新聞、および、英文雑誌の種々の記事の読解を目的とする。

〈授業内容・授業計画〉

前期は英字新聞入門コース。国内で発行されている英字新聞を中心に、比較的読みやすい記事で

できるだけ広範囲（社会、文化、政治、経済、科学、家庭生活、社説、コラム等）にわたって、できるだけ数多く読む。

後期は英字新聞応用、および、英文雑誌コース。前期よりもさらに難解な国内・国外の英字新聞や外国の英文雑誌（タイム、ニュース・ウィーク等）の記事を読む。また、同じ出来事、事件であっても、国内と国外ではその取り扱い方、分析の仕方が異なる場合がある。そのような場合、国内と国外ではどのように視点が異なるかも探ってみたい。

〈評価方法〉

筆記試験、および、発表。筆記試験は定期試験のかたちでは行わず、そのかわりに授業内に筆記試験を前期3回、後期3回行う。また、授業形態は徹底的な演習形式をとるため、学生には毎回記事を割り当て、訳してもらふ。評価は筆記試験60点、授業中の発表およびレポートが40点、計100点とする。出席は筆記試験を除く全授業回数のうち2/3以上なければ、成績は不可とする。

〈教材〉

教材は、この授業計画書を書いている現時点では、多くの出版社の来年度版の時事英語のテキストが出来あがっていないため、具体的に示すことはできない。

時事外国語（英語）

河内 賢隆

種々の世界的なサミットに見られるように、政治、経済、環境問題などは時々刻々変化しています。また一方で、人工衛星やバイオケミカルなどに象徴されるように、科学技術の進歩や発展にも目を見はるものがあります。そのような時代にあつて、英語は今や我々にとって全く不可欠の言葉です。本講は、その英語を通して、身近な世界情勢に接し、英語力の向上を期したいと思います。特に、倒置、省略、修辭的表現、描出語法などに留意しジャパントイムスあたりを気楽に読めるようにしたいと思います。

時事外国語（英語）

川股 陽太郎

〈授業の目的〉

英字新聞を読みながら、新聞英語に特有の表現や、政治経済等に関する語彙を習得する。また直読直解を通して、要旨を把握する能力を向上させると同時に、記事の背景（社会的・文化的背景）を良く理解し、一層の教養を深めることを目指す。

〈授業内容〉

前期は、国内の英字新聞（ジャパントゥイズ、アサヒエヴニングニュース等）を使用し、比較的読みやすい記事（政治・経済・社会・文化等に関する記事）を中心に読み進み、

後期は、社説・論説等の高度な内容の記事も取り入れる。国外の新聞（ロンドンタイムズ、サンデータイムズ等）もあわせて使用する。

ニュース記事は、その時点で重要と思われるもの興味そそられるものを、随時採用する。

〈授業形態〉

講義形式を取ることもあるが、原則として授業は演習形式を取り、学生の発表を中心に進める。一回の授業で、適量の教材（B4版一枚、記事一つ、場合により二つ）を読むことを予定している。

授業の具体的なやり方としては、見出しの読み方・内容の把握・発音・音読・眼の移動等の練習をしながら、政治経済に関する基本的な語彙・重要な語彙等も学ぶようにする。時間が許す限り文化的背景に関する説明も極力取り入れる。英文の内容を前から読み下し、把握する練習（後戻りしないで理解する練習）、パラグラフごとに内容を把握し、大意をつかむ練習は、特に大切にしたい。要は慣れであり、それが出来る出来ないは訓練次第である。

一回の授業で、出来るだけ多くの学生が発表するように、原則として、一人一パラグラフを担当する。レポートの提出もある（年間5回程度）。

〈評価方法〉

毎回の授業における発表と小テストにより評価する。「前期・後期試験」は特はない。発表は発表回数とリーディング及び理解度により、テストは、受験回数と合計得点により評価し、この二つは等分に評価する。小テストは年間約20回、毎回を原則とし、授業開始時刻と同時に進行（5分間）。

〔教材〕 適当な記事のプリントを随時配布する。
以上

時事外国語（英語）

岸本茂和

「時事英語」という言葉を聞いてなにを連想するか？英字新聞の「ジャパントゥイズ」や「ニューヨークタイムズ」だろうか？それともアメリカの週間雑誌「タイム」や「ニューズウィーク」だろうか？おそらくひとつにはそれは当をえた連想であろうし、またそうでないかもしれない。

当をえているというのは、英語を第二言語として習得してきた日本人にとって、新聞や週間雑誌の文体や語彙がこれまでつきあってきた一般的な文章（そんなものがあると仮定しての話だが）と

いささか異にするところがあるからであり、そうでないかもしれないというのは、日本人にとって「時事日本語」などというカテゴリーがないのとおなじように、英語国民にとって「時事英語」などというカテゴリーがじつは存在しないからである。それが存在するのは、だから、外国語学習者から見て、という条件がつねに付帯する。

われわれの授業では、したがって、アメリカの新聞と週間雑誌の文章がどんなものか実際に読んでみよう。しかしこれに多くの時間を割くつもりはない。おおくはアサインメントとして受講者に課すことになるだろう。授業では、1980年代後期以後のポストモダン（現代後期人）が書いたポストモダンなトピックを読んでみたい。トピックは合衆国の政治・経済・文化・風俗の諸相に関係してくるであろう。

このクラスの受講者は、ambitiousで、aggressiveで、しかも、assiduousでなければならない。

教科書・参考書は開講時に指示する。

時事外国語（英語）

清水祐次

〈授業の目的及び内容〉

時事英語の代表的な分野である新聞・雑誌の英文記事を取扱うことにより、その独特のスタイル、語法等に親しみ、習熟すると共に、同時代に進行中のなまの記事内容にふれることによって、世界の政治、経済、文化等の動きや流れについて考え、理解を深めたい。

〈評価の方法〉

前期・後期のテスト及び平常点によって総合評価する。

〔教科書〕 浅野・木塚編注『World Events '94』（金星堂）¥1,700

時事外国語（英語）

田中保

〈講義目的（要旨）〉

時事外国語（英語）を学ぶ目的は、英語で新聞や雑誌などのニュースを読み、理解することである。そのためには、まず英語の力をつけることと、日頃から国内、国外の問題に関心を持ち世界的視野で社会の動きを見ることが大切である。

〈授業内容・授業計画〉

前期は指定したテキストを発表形式で読み、後期は新聞・雑誌のコピーによってニュース記事を、

その場で辞書を使用して日本語に訳出し、時事英語に関する特有の英語表現や略語などの勉強をし、その紹介文の内容を説明した後、毎回訳出文を提出してもらいます。出席を重視し、時折授業内でテストを行います。意欲のある学生諸君の参加を希望します。

〈評価方法〉

出席・発表・授業内試験・レポート提出等によって成績を評価する。

〔テキスト・参考書〕開講時に発表します。

時事外国語（英語）

丹 治 弘 昌

時事英語の講座を担当してまず痛切に感ずるのは、学生の修得している語彙と実際に新聞、雑誌あるいは放送においてニュースに使われる英単語の間にはかなりの差があることである。これは習得語彙の量的な不足もさることながら、質的な面での個々の単語の意味を包括的にとらえていないことからきていることと思われる。一つの単語について一つの語義をもって事足りると思ひ込んでいたり、また頻度数の低い意味にこだわって、ニュース全体の意味を取り違えたりすることが良く見受けられる。そこで時事英語の単語を段階的に、同時に政治、経済、労働、軍事などのジャンル（分野）ごとに分けて、かなり整理してから学習を始めたい。時事英語というと、むやみに英単語を暗記し、語彙数をふやさなければならないと思われがちだが、むしろ基礎的な語彙の活用や応用に習熟し、簡単なコメントを表現できることから始めて、段階的に語彙修得を重ねていって、質と量の両面から時事英語の学習をすすめることが望ましい。

前期は時事英語の基礎的な語彙についてのドリルを行い、単語力の向上をはかりたい。講義というよりも、練習問題を数多くこなす訓練の時間ぐらに考えてもらいたい。後期は英文週刊誌のなかから、やさしい記事を選んで読んでいき、次第に難しいものへと発展させていきたい。

（テキストはプリント使用）

時事外国語（英語）

中 尾 俊 光

〈授業目的〉

世界は大きく変化しています。世界の中の日本も例外ではありません。いま大切なことは、世界で何が起きているのか、日本は何を求められている

のかを、できるだけ正確に具体的に知ることでしょう。また、英字新聞等を通じて、日本のジャーナリズムが触れない事柄・視点に接することができることも少なくありません。多様な見方があることを知ることは大切なことです。

具体的には、英字新聞に特有の表現や語彙に関する基礎的なことから、要旨を把握する能力を養い、記事の背景（社会的・文化的背景）の理解までを目指します。

〈授業内容〉

・印刷教材①「時事英語の特徴」

できるだけ多くの時事英文の実例によって、時事英語の特徴の理解を深めます。

・印刷教材②「ニューヨーク・タイムズ社説」

印刷教材③「ジャパン・タイムズ社説」

日米それぞれの英字新聞の中で信頼されている新聞の「社説」を読む練習をします。

・「テキスト」

世界の大きな出来事・潮流について「解説」と、実際の「新聞記事」の二本立てで構成されています。したがって、皆さんはそれぞれの地域の近年の動向を概観したうえで、個々の新聞記事に臨むことができるでしょう。そして単に時事英語の読解法を学ぶといった技術的なレベルを越えて、時事問題自体への関心と認識を深めて下さい。

テキスト、印刷教材①～③を併用しながら授業を進めます。

〈授業形態〉

授業は原則として演習形式なので、学生の「発表」を中心とした展開となります。授業の進め方は、印刷教材①～③を中心に音読（発音）、見出しの理解、内容把握（英文を前から読み下すことに留意する）の練習をします。次に、レポート報告の形式でテキストを読みます。

〈評価方法〉

授業内の発表 - 50%

レポート - 25%

期末試験 - 25%

なお、授業への「出席」を重視します。

〔教材〕テキスト - 「NEWS WORLD '94 (最新時事英語・世界を読む'94)」マクミランL. H.

印刷教材①～③ - 教室にて配布

時事外国語（英語）

牧 野 輝 良

〈講義目的〉

英字新聞を読めるように訓練する。

〈授業内容・授業計画〉

最初に時事英語のテキストにより、英文の記事

の構成、特徴等を学習し、経済、法律、科学、スポーツ等さまざまな関係記事にふれて、時事英語に一応慣れた後に、英字新聞に移る。多読、速読により、英字新聞が身近かなものとなるように努める。

授業は全員参加を旨とし、各人指名、発表という形式をとり、毎授業の終わりには英文の間に英文による解答を書き提出する。

<評価方法>

授業中のリーディング、和訳、レポート、期末テスト等による総合点にて評価する。

〔教科書〕安田・松田編『CURRENT ENGLISH』
(成美堂) ¥1,400

時事外国語（英語）

町田尚子

このコースは海外で発行されている英字新聞が読みこなせるようになることを第一の目的としています。ジャーナリズム、特に報道の英語は読み手に情報あるいは記者・論説者の意見を正確に伝えることを旨としているので、一定の約束事と特有の表現法と文体に習熟すれば、ニューヨーク・タイムズでもそれほど苦勞せずに読めるようになります。

第二の目的は日本の経済・政治・社会に関する出来事や問題が海外の英字新聞でその国あるいは土地の読者にどのように紹介され、論じられているかを読み、外からの視点に接することです。日本で報道されている問題を「世界から見た日本」という観点からもう一度考えてみようと思うのです。

<授業内容・授業計画>

前期（5月中旬まで）

1. 英字新聞概説（下記タイトルを中心に説明します。）

“Why read overseas English newspapers?”

“What are the elements of the English newspaper?”

“The form of news story”

“Never ever jump the headline!-its functions and grammar”

“The inverted pyramid”

2. 新聞英語の文体について

同格構文、埋込み文（関係節、補文）が多用される英語の読み方のコツとパラグラフ展開に焦点を当てて説明します。

（5月中旬以降）

ガットのウルグアイ・ラウンド／コメの市場開放問題、対ロシア経済支援／北方領土問題、日本の国際協力・対外援助、アジアの近隣諸国との関

係等に関連した記事を教材として準備し、渡します。各担当者が概要と問題点を発表する演習形式で授業を進めます。ニューヨーク・タイムズ、ロンドン・タイムズ、サンデー・タイムズ、ストレイツ・タイムズ（シンガポール）等から取る予定です。

後期 10月中旬以降

前期のニュース記事から、論説・社説、特集記事の読みに集中します。“Four Pathways Japan Might Take”（*The New York Times* ; Economic Scene), “Japan’s Better Example”（*The New York Times* ; editorial）とこれに類する内容のものを扱います。

<評価方法>

担当発表の平常点と前期・後期の筆記試験で評価します。

〔教科書〕上記、記事等のプリント

時事外国語（英語）

丸小哲雄

<演習目的>

海外情報収集とその分析と総合によってテキスト読みと想像力の育成に眼目。英字新聞・雑誌や原書テキストを使用して、語彙、英語のヴァリエーション、パラグラフの捉え方に留意し、速読を目指します。語学的・技術的なものを修得しながら、最終目標は時事問題（現象）の背後にある不可視的な構造とイデオロギーを捉え、それを自分の現実的な問題として捉え直す習練、いわば観念連合の涵養です。具体的には、時事問題を取り上げ、スピーチやグループ討論などによって英語表現・コミュニケーションの論理的展開方法や英語的発想法を修得してゆきます。そのためには英字新聞・雑誌の講読はこの演習の前提条件となります。

<授業内容・授業計画>

前期

英字新聞・雑誌の語彙と構文を習熟することを目指します。“The Japan Times”とテープも利用します。同時に本年度は「アジアにおける日本の役割」を考えるための以下のテキストを読みます。

1. The Wealth of Japan : a Reappraisal

2. Dangerous Illusions

3. Opening communications as well as Markets

4. Japan’s Role in Asia

日本の国土的・経済的・産業的現状を理解するための資料、日米の歴史的発展過程、人口問題、労働問題、資源問題、環境問題などの情報を得て、グローバル視点からアジア的日本を考えるよう試

みます。マクロからマイクロへの観念連合の習熟。
後 期

速読からアイデアをつかみ、時事的な問題を考える討論形式を導入する。さまざまなトピックスについての肯定と否定を判断するのに参考となるテキストを読み、しかる後にその考えを基にして各授業の後半には自分の考え方を表現できるように努めます。各授業のトピックス（各1回）は以下の通りです。

1. The Supreme Penalty
2. Socialism
3. student Activism
4. divorce
5. Natural Resources
6. Life After Death
7. Rice Policy
8. Cancer
9. Censorship
10. Japanese
11. Japan's Purity
12. The Nature of Reality
13. The Study of English

<評価方法>

出席、平常点、前期・後期のターム・ペーパー（レポート作成）、前期・後期の語学試験などの総合評価。

〔教科書〕前期：*Beyond National Borders*
（桐原書店）

後期：*That's Your Opinion*
（朝日出版）

〔参考書〕随時指示します。適宜コピーも配布します。

時事外国語（英語）

矢 島 直 子

時事英語は、新聞記事にせよ、雑誌の記事にせよ、放送英語にせよ、事実を伝えることを第一目標にしているのです、ニュースの言わんとしていることを正確につかむ必要がある。が、それさえできれば用は足りる。つまり、風雪に耐えた熟読玩味を要する名文というのはあまりないから、精読は必要ないと言える。

<授業計画>

上のように述べたものの、時事英語に初めて接する学生もいるだろうと考えられるので、最初は読やすい教科書版になったものか、日本国内で発行されている英字新聞・雑誌のプリントから入り、読み慣れるまでは訳読する。その際同時にニュース構成の仕方を検討し、要点をつかむ作業も行なっていく。

読み慣れてきたら、第二階段として、海外の読みやすい新聞・雑誌に移行する。分かりにくいところ、重要なところは訳読するが、それ以外は英語のまま理解してもらうよう努める。要点をつかむ作業を引き続き行なう。

第三段階は難しいと思われる海外の新聞・雑誌を読むことにする。都合よく教科書版があればそれを使うが、なければプリントを使用する。この段階になると、ある程度訳読をしないと、要点さえつかめないだろうと思われるので、手順としては逆戻りになるが、訳読の割合は前段階より増えよう。ただし、学生諸君の力がついていけば、英語のまま読む割合は増すことになる。

選ぶ題材は、日本国内の英字新聞・雑誌ならば主として海外と関係のある記事、海外の新聞・雑誌ならば日本と関係がある（ないしは日本に影響を及ぼすような）記事を扱う。

授業の進め方は、学生諸君に読んでもらうやり方をする。外国語の勉強は、演習科目と同じように、自分でやらなければ身に着かないからである。従って、進度は学生の努力次第になるため、上記の第一～第三段階を年度内にどう按配できるかな授業がはじまってから分かるだろう。

<成績評価>

期末試験 —————80%

普通の授業による努力—20%

〔教科書〕開講時に指示する。

時事外国語（ドイツ語）

松 本 洋 子

ドイツの新聞や雑誌が日本の政治、経済をどのようにとらえ、報じているかを知ることはきわめて興味深いことである。これらの記事を読みながら、2年間習得した語学力をさらに向上させ、新聞、雑誌等の文章になれ、親しんでもらうようにする。（教材はDie ZeitやDer Spiegelの日本関係の記事などをその都度プリントして配布する。なお参加者全員には、配布された教材を、授業で行う予定箇所まで予習しておくことを義務づける。成績評価は授業での平常点を重視する。）

時事外国語（フランス語）

加 藤 節 子

フランスの雑誌または新聞の抜粋を集めたやさしいテキストにより、フランスの社会、政治を学び、基本的時事用語に慣れるようにしたい。後期はヨーロッパという広い範囲で経済学をテーマと

したテキストを読む予定である。
受講者は必ず予習してくること。

〈評価方法〉

平常点および前・後期のテスト。
テキストは教室で指示する。

時事外国語（中国語）

釜屋 修

1979年以来的の改革・開放政策のもとで中国の経済は大きく変貌しつつあります。都市と農村、沿海部と内陸部の成長格差、国民の中の貧富の差の拡大、インフレなどさまざまな矛盾を内包しつつ、民衆は市民的欲望に対する禁圧から解放され、よりよい生活を求めていきいきと暮らしはじめています。「中国の特色をもった」「社会主義市場経済」の実態はなにか。半年の北京滞在での実感をつまみ、中国「老百姓」（民衆）の希望と失望を新聞記事等から読みとることを狙いとします。

〈授業の形態〉

予備講義（テキストのテーマ性について）→資料朗読・翻訳（学生）→点検と語法解析（教員）の形で展開し、演習形式とします。

〈スケジュール〉

前期は比較的やさしい文章を選び、後期にやや長い文章に挑戦します。

毎時間、15分程度の簡単な日常経済会話の練習を行います。外国語はまず「口と耳」からという原則を忘れないためです。

〈履修の条件〉

中国語初、中級単位取得者もしくはそれに相応する実力を有する者。中国語、中国に関心ある諸君を歓迎します。

〈テキスト、指定文献〉

独自プリントを開講時に配布します。指定文献、経済関係文献解説に必要な辞書、事典の紹介は開講時に行います。

〈成績評価〉

通年5回以上欠席した者は評価の対象としない（5回を有給休暇と誤解しないこと）
平常点と期末試験（前・後期）により評価します。

時事外国語（スペイン語）

佐藤 玖美子

現在スペインでは、全国紙、地方紙併せて週1回以上発行される新聞が160紙ある。そのうち143紙が日刊紙であり、発行部数の総計は約470万部といわれる。本年度はその中で最大の発行部数

を誇り、現政府社会労働党を支持する進歩派であるEl pais紙の、特に経済面、政治面、社会面をピックアップして講読を行いたいと思う。

1・2年次に習得したスペイン語の基礎を活用しながら、時事文という、1段高度な分野にのぞむことになるが、新たな決意をもって挑戦してもらいたい。特に最初は、ほとんどこれ迄に接しなかった語彙の羅列に、戸惑いを感じることも多いと思うが、とにかく始めは、まめに辞書を引くことから始めて欲しい。また、字づらのみを読んで内容を読み取らないまま平気である、という安易な態度に落ちいりがちな者をよくみかけるが、必ず内容を把握することを前提として欲しい。そのために、特に前期では読む量に関しては欲張らず、まず大見出しのみを訳すことから始め、次に小見出しを訳してみる、そしてこれに慣れた時点で本文の訳出に入る、という形でとにかく最初はゆっくり丁寧に読み進みたいと思う。

後期に入って諸君が時事文にも慣れ、時事的語彙も豊富になれば、あるときはあえて辞書無しでの速読にも挑戦してもらいたい。

また、外国語の新聞を読むには、当然のことながら日本の新聞を毎日よく読んで、特に世界の情勢についての十分な予備知識を備え、日本語の時事用語にも精通してもらいたい。そして、時には日本の新聞とスペインの新聞との、記事の取り上げ方の違い、同じ事件の報道の仕方の違いなどについて、諸君と意見を交わすことも試みたいと思う。

〈成績評価〉

出席日数、夏休みのレポート及び平常点
〔教科書〕コピー

時事外国語（ロシア語）

杉山 秀子

〈講義目的〉

本講座は時事ロシア語文を中心とし、広くロシア語で書かれた社会科学文献の要旨をきちんと把握し得るための基礎力を養成することを第一の目的とします。

〈授業計画・授業内容〉

前期：

格の応用、関係代名詞をつかった複文、副動詞、形動詞の用法を扱った中級文法を復習しながら、やさしいアネクドットや笑い話、平易に書かれた新聞の切りぬき等を取りあげ、ロシア語らしい文章の表現法に慣れる練習をします。更に帝国主義論の序文および一節を取りあげ、形動詞をつかった文章が実際にどのように構築されているかを詳細にとりあげ、格調の高い名文を味わって欲しい

と思います。

後期：

本格的生の新聞・雑誌を読む前にクロコディール（風刺漫画新聞）の広告文や短文の中で生きた現代ロシア語文に触れていきます。これらの文章は大人向けのもので、もちろん力点（アクセント記号）はついていませんので、授業に出る前にはどこに力点があるのか各人が辞書できちんとしらべる必要があります。

揺れ動く現代ロシア社会の実相を伝えるプラウダやリテラトゥールナヤ・ガゼータをとりあげ、特にペレストロイカ以降にぞくぞくと出てきた新造語に注目しつつ文章の大意を把握する訓練をします。

〈評価方法〉

出席および平常点を重視します。

ゼミナール形式で一人一人発表し、その内容いかんも平常点に加算されます。

与えられた文章を単に眼で追うだけでなく、発音や正しい力点のおき方、イントネーションの構造のうちの第何式をとるかなども問題にします。ロシア語の文章を常に声を出してきちんと読めるかどうか、そのつど一人一人、点検します。

〈教材〉

プリント配布（無料）しますが、配布されたプリントはそのつど必ず持参して下さい。紛失の場合は再交付しませんから、自分で責任をもってコピーをして下さい。

〔教科書〕教場にてプリント配布

〔参考書〕露和辞典

3・4年次選択科目

経済学史

福原好喜

学問としての経済学の成立は、近代ブルジョア社会の生誕と軌を一にしている。例えばイギリスの重商主義、フランスの重農主義、ドイツの歴史学派、そして又イギリスの古典学派などの経済諸理論は、一方では世界資本主義の発展段階に、そして他方ではその国民経済の編成過程によって色濃く規定されている。経済学の歴史を単に経済学者による経済理論の受容、継承の歴史としてではなく、近代ブルジョア社会の成立、並びにその変容の過程の中で捉えようと思う。近代における経済学の成立・体系化の歩みを、近代資本主義の成

立並びに確立過程の中に位置づけるというのが私の基本的視角である。講義は重商主義段階からマルクス経済学の生誕までを包括する。経済学の歴史とはまさしく近代ブルジョア社会の自己認識の歴史に他ならない。かかる観点から、学生諸君に経済学及び経済学史に対する心底からの興味を喚起できればと思っている。授業は前半で近代ヨーロッパの生成史を、英、仏、独について概括し、後半で各国経済学の成立史を講義する。

価格理論

荒木勝啓

価格理論で何を学ぶか。

ある1つの基本コンセプトないしキーワードを手がかりとしてその背後に存在する大きな広がりが見え、それが次々と明らかになっていくという例は多いが、経済学における「価格」はその代表であろう。

有名な例をあげてみよう。例えば身近にある1本100円の鉛筆。支払った100円はどうなるのだろうか。そのうち10円は文房具屋の店主の利潤となり20円は店員の賃金に払われる。（1：2の割合とする）。残り70円はどうなるか？三菱鉛筆KKに仕入値として支払われるであろう。そのうち5円は三菱の会社と株主に10円は三菱の労働者に支払われるであろう（この場合も1：2としよう）。残り55円はどうなるか。同様に例えば木材業者に支払われ、以下同様のことがくり返され、こうして100円は部分部分が1：2の割合でフラクタルのように細分化され、人々に分配されつくすのである。即ち100円は「鉛筆」に対して支払われたのではなくことごとく「人」に対して支払われたのである。

こうして何気ない1本100円の鉛筆の中には、世の中の投入・産出（または仕入販売）を通じた生産構造ないし産業連関構造が組み込まれており、と同時に一種の社会関係である分配構造が金太郎アメのごとく埋め込まれていることがわかる。すると次のようなことが言えないだろうか。生産構造が変われば（例えば技術変化）、すべての価格体系は（鉛筆も含めて）変化するのである。また分配関係が変わればやはりすべての価格体系は変化するのである。これらの性質は、この講義の始めの方で登場する多部門モデルの用語を使っていると、第1の方は、価格体系が生産の物量体系に対する双対（デュアル）モデルであることから導かれ、第2の方は価格体系が均等利潤率のもとで分配関係から独立ではないという命題から導かれるのである。かくして日常的用語「価格」は、大きな経済構造の中に置かれたあるいはそれを背景とした相互依存的成分へと変身するのである。

- (1) 2部門モデルによる価格決定の依存性（産業連関分析）
- (2) 2部門モデルによる分配と価格の依存性（リカード＝スラッファモデル）

でこのことはさらに詳細に検討されよう。

ところで今百円という価格で限られた予算の中から（他の財の購入を抑えて）鉛筆を「買った」ということは、その背後に当該個人の選択ないし最適化行動があったと考えてよいであろう。すなわち価格を経済の構造の中に置かれた被決定因とみるのではなく、個別主体にとっては最適化のパラメーター（または「所与」）とみなすことも可能である。すると、理論の展開は、主体的均衡の理論へも発展していくことが可能である。後期は主としてこの方向で講義を行う。

- (3) ラグランジュ乗数法（制約付最適化手法）
- (4) 消費者選択理論
- (5) 企業行動の理論
 - i) 競争的企業
 - ii) 独占的企業
 - iii) 需要の価格弾力性の応用（マーシャルニラー条件）

(6) 市場均衡

原論のミクロ部分と異なる点は(3)に重点が置かれ、従って、理論構築上の基本的技法が完全にマスターできる点にある。この習得のためには時間をたっぷりとる。例えば $u = f(x_1, x_2)$ がなぜ「曲面」なのかといった案外あたり前にみえてそうでもない基本的事項に十分時間を費やすであろう。(3)が理解できてしまえば後は水が低きに流れるがごとく順調に進むであろう。以下、

- (7) パレート最適と競争的均衡・コア
- (8) 余剰分析
- (9) 市場の失敗・外部性・公共財
- (10) 寡占の理論（クールノー解・共謀解・シュタッケルベルク解）
- (11) ダイナミック・ゲーム論

と続く。

成績評価の方法は、次のような期末試験を行う。

- I. 計算問題（2題のうち1題選択）配点60点
 - II. 記述式問題（または、計算問題）配点40点
- ノート・本・電卓持込可

〔教科書〕 浅野・荒木・浅田著『エコノミックス』（成蹊堂）

〔参考書〕 ヘンダーソン・クォント『現代経済学』増補版（創文社）

武隈慎一『ミクロ経済学』（新世社）
 〒2,884

国民所得論

吉野 紀

220万の法人企業、6,200万人の就業者、そして4,200万の世帯、これらの間でさまざまな生産活動や取引が営まれている。これに政府や海外取引を含めると、日本経済では正に無数といってよいほどの取引関係が日々結ばれていることになる。これらの取引関係は複雑に入りこんでおり、その1つ1つを追跡すると、経済という森に歩み入って、森全体の状況についての認識に到達することが難しくなる。そこで、森の上に飛び上がって、これらの取引を上空から眺める工夫が生まれてくる。こうして、上空から眺めると複雑に入りこんだ諸取引はいくつかの類似した性質を共有するグループに分けられることに気付くであろう。このような諸活動の1年間の成果が、たとえば、日本経済の場合、国民総生産（GNP）440兆円に結実してゆくのである。

「国民所得論」はこのような視点に立脚した経済分析方法である。しばしば、マクロ（巨視的）分析とよばれる所以である。モデル・アナリシスと、現実に観察される日本経済との対応が常に心懸けられるであろう。

〈授業計画〉

「国民経済計算」……………5回

GNP、GDPなど、国民経済全体をとらえるための経済指標の理解と、さまざまな諸取引間の相互関係をとらえることが主題となる。

「平成3年日本経済の循環図」（配布資料）

『国民経済計算の知識』西嶋・藤岡（日経文庫）

「総需要・均衡産出量、均衡所得」……………4回

いわゆる単純なケインズ派の所得決定理論が、モデル分析に即して説明される。このテーマの終了後、練習問題が宿題として課される。解答と解説は授業中に示される。

『入門マクロ経済学』中谷（日本評論社）第3章

「貨幣・利子率および同時均衡」……………8回

この段階で貨幣のはたす役割が導入され、前回までの主題との接合がはかられて、IS曲線とLM曲線を主な武器とする分析が進められてゆく。モデルを用いた説明が中心となるが、日本経済の置かれている現況との関わりが登場する機会も徐々に増えてゆくであろう。本テーマの終了時にも、簡単な練習問題が宿題として課される。正解と解説は授業中に示す。

「金融政策、財政政策」……………4回

前回までの内容が理解されれば、金融政策と財政政策の発動によって、望ましい所得水準を達成するプロセスは比較的容易に理解できるものと思

われる。ただし、金融政策、財政政策ともに、その効果という点では一律ではなく、機動的なポリシー・ミックスが望まれる、といった点にも触れなければならない。

『マクロ経済学(上)』ドーンブッシュ・フィッシャー(マグローヒル)第4章
「労働市場を組み込んだ総需要・総供給分析」

……4回

これまでに扱われてきたのは、財やサービスの取引と貨幣市場であったが、これに労働力市場が明示的に組み合わされる。

「最終講義」……………1回
平成7年日本経済の予想。

海外経済との関わりは、主に為替レートを中心にここで触れられる。

〈成績評価〉

期末試験……………85%
2回の練習問題の提出(2回とも提出することが条件)……………15%

なお、練習問題を教場で黒板に解答して見せてくれる学生諸君(年間15名前後)には、学生諸君全体の意見を反映しつつ別途配点することもある。

〔教科書〕開講時に指示する。

景気変動論

西村 允 克

〈講義目的〉

長期的にみれば、市場経済は生活水準の飛躍的上昇を実現してきた。しかし、この上昇過程はスムーズな上昇過程ではなく、好況と不況という2つの現象を交替的かつ周期的に繰り返しながらの上昇過程であった。この現象が景気変動(景気循環)である。この景気変動の過程を理論的、歴史的、統計的に説明することが、景気変動論の目的である。

講義は教科書を用いて行うが、教科書は講義の素材であり、講義そのものではないことを充分銘記して受講されたい。講義内容はむずかしいものではなく、経済理論を学ぶための基礎的な考え方に充分配慮して進めるから、受講者は基礎的な考え方を講義のそれぞれの局面において繰り返し適用することによって、自らの学習効果を最大にするように工夫されている。

〈授業内容・授業計画〉

景気変動は全体としての経済の問題であるから、前期では景気変動を理解するための基礎理論として、マクロ経済理論を学習する。そのスケジュールと重点は次のようである。

1. 国民所得(GNP)決定理論

1.1 全体としての経済活動水準を示す数値として、なぜ国民所得(GNP)が採用されるのか。

1.2 国民所得(GNP)決定理論を学ぶことによって、経済を安定させる要因(安定因)と経済を変動させる要因(変動因)を明確に把握する。

1.3 変動因が変化すると、決定変数はどのように変化するか。

2. 経済成長理論

2.1 景気変動と経済成長を理論的に区別して把握する。

2.2 景気変動過程を経済成長理論ではどのように説明するか。

前期で学習した景気変動の基礎理論によって現実の景気変動を説明することが、後期の講義の主要内容であり、具体的には次のように進められる。

3. 景気変動の種類

3.1 キッチン波動、ジグラー波動、クズネットツ波動、コンドラチェフ波動について

3.2 これら波動の相互関係によるシュンペーターの景気変動の説明

3.3 ミッチェルによるディフィジョン・インデクスによる景気変動の測定

4. 戦後日本の景気変動

4.1 戦後復興期(昭和20年から30年)における景気変動

4.2 高度成長期(昭和30年から45年)における景気変動

4.3 安定成長期(昭和45年以後)における景気変動

4.4 バブル崩壊について

〈評価方法〉

ペーパーテストによる。

〈その他〉

毎日、新聞の経済面の見出しに必ず目を通し、何が現在の主要な経済問題であり、そこではいかなる経済数量が問題とされているかを理解すること。

〔参考書〕金森久雄編『景気の読み方』(有斐閣)
日興リサーチセンター編『景気循環で読む日本経済』(日本経済新聞社)

日本経済史

古 庄 正

開港前の日本は、極東の一封建国家にすぎなかった。1853年(嘉永3年)のペリー(M. C. Perry)来航に始まる鎖国体制の解体と欧米列強による領事裁判権・協定関税率・最惠国条項を内容とする

安政条約の強制は、政治的にも経済的にも軍事的にも、幕末日本を植民地化の危機に陥れた。にもかかわらず、開港後わずか数十年の間に、日本は工業化を達成し、アジアにおける唯一の工業国家になった。この講義では、幕末開港後のこうした工業化過程とその歴史的條件をできるだけ系統的に、また分かり易くお話してみたいと思っている。日本経済史の対象はすこぶる広いが、時間的・能力的制約から今年度はこの問題に限定した。お話の中身としてはいまのところ次のテーマを予定している。ただし、年度内に生起する事件の中で、経済史との関連で特に重要なものについては、適宜取り上げてお話するよう心掛けたい。生きた具体的な現実との緊張関係を抜きにした講義は、社会科学の講義としては適切なものではないと思うからである。

- (1) 幕藩体制の動揺
- (2) 開港と植民地化の危機
- (3) 明治維新
- (4) 明治政府の工業化政策
- (5) 政商と天皇・華族の資本蓄積
- (6) 農民の分解と士族の没落
- (7) 自由民権運動と天皇制国家
- (8) 産業革命と工業化
- (9) 紡績と製糸業
- (10) 工業化と在来産業
- (11) 重工業と鉱山業
- (12) 工業化と公害
- (13) 資本主義と地主制
- (14) 鉄道業と海運業
- (15) 外国貿易の発展と構造
- (16) 工業化財政・金融
- (17) 植民地の領有とその矛盾
- (18) 工業化は民衆にとって何であったか。

経済史を含めて、いま、なぜ歴史を学ぶ必要があるのだろうか。講義要綱を書くたびに、いつも気になるのはこの点である。大学の教員のような研究を商売にしている人間は一応別として、一般の学生や市民にとって、果たして歴史を学ぶ必要などあるのだろうか。結論的にいえば、私はやはりその必要があると思っている。戦後補償裁判に事例をとって、その理由を若干述べておきたい。

第2次大戦中、日本政府と日本企業は百万を越える朝鮮人を軍人・軍属・従軍慰安婦として、あるいは労務要員として日本に連行し、酷使虐待の果てに多くの人々を死傷させた。にもかかわらず、日本政府も関係企業もこれに対して何の補償もしなかっただけでなく、未払金さえ支払わずに戦後処理に決着をつけた。

こうした理不尽な戦後処理の再検討を求めて、被害者たちはいま東京地裁その他に提訴し、裁判を始めてる。しかし、日本政府も関係企業も強制連行・強制労働・差別待遇の事実を一切認めず、

未払金問題は1965年の日韓協定で解決済として、被害者の要求を突っぱねている。

日本政府と関係企業はなぜこういう傲慢な態度を取り続けているのだろうか。それは、研究者であるわれわれの怠慢と資料不足（敗戦後、国と企業は関係資料を徹底して焼却した）のために、事実の究明が充分でなく、多くの日本人が無知・無関のままに放置されているからであろう。歴史を学ぶことの意義は、現在を知り未来を洞察する武器を仕入れることにあるといわれるが、それは、具体的にはこういうことをいうのではなからうか。

経 済 地 理

渡 邊 盾 夫

経済地理学の分野には、農業地理学、工業地理学、情報・通信、金融などがある。ここでは農業地理学と工業地理学の概要について講義する。

前期には、農業地理学を講義する。

わが国の農業は、その経営規模は約1haといわれている。戦後の農地改革によって自作農になったとはいえ、この経営規模では、農業所得のみでは十分ではない。このため、農民は、他の産業に季節的または恒常的に従事するようになる。この様な兼業農家が増大し、現在全農家の約85%を占めている。この状態を引き起こした要因は何か、またこの時期、国はどのような政策をとったか、を考える。また高度経済成長期に農村人口が流出をし、この流出人口は当時第二次産業に吸収されたとされている。これらの事柄を中心に進める。

後期には、工業地理学を講義する。

わが国の工業は、その生産規模、生産額とも世界有数といわれている。しかし、この工業化とくに現在の重化学工業化は多くの努力によって達成されている。

ここでは戦前の工業地域形成、特に阪神工業地帯の形成過程を繊維工業（綿工業）を中心に説明をする。次に戦後の工業地域形成、特に太平洋岸工業地域の重化学工業化の形成過程について、国の役割、産業構造などについて説明する。

この農業と工業は、高度経済成長期に国の政策、労働力の移動、と類似している点が見られるが、これらの点に関しても、あわせて説明をする。

<成績評価>

出席および期末試験とする。

〔教 材〕 必要に応じてプリントを配布する。

国際経済論

徳永俊明

〈講義の趣旨〉

学問への出発点は「私はどこにいるのか?」という問いにあります。実際、私たちはアマゾンの密林で生活しているわけでもありませんし、江戸時代の農村に生きているわけでもありません。では「どこ」にいるのでしょうか。

「世界の中にいる」と言っても、「日本にいる」と言ってみても、これらは答えにはなりません。どのような世界なのか、どのような日本にいるのか——少なくともこれをつかまえないければ先の問いに対する答えにはなりません。今日の世界社会、今日の日本社会の〈内容〉を理解しなければなりません。

ところで、世界経済は、今日、世界社会・日本社会の〈土台〉をなしているものです。世界経済という〈土台〉なしには、世界社会も日本社会も成り立ちません。世界と日本を理解するカギは世界経済を理解することにあります。この講義では、このような位置にある世界経済の〈基本構造〉の解明をめざします。ただし、私の力量からして“社会主義”経済に十分言及することはできません。資本主義世界経済に限定して検討します。

この講義のキーワードは〈階級的支配関係〉と〈民族的支配関係〉です。世界経済は、資本主義という社会の誕生とともに成立し始め、資本主義社会の〈土台〉として、またその〈産物〉として推移してきました。資本主義社会は、言うまでもなく、〈階級的支配関係〉を基軸としていますが、同時に、世界の諸民族の間の〈民族的支配関係〉をもう一つの基軸としていることが重要な特徴です。これら二つの支配・従属の関係は資本主義社会のいわば2本柱をなすものです。そして、〈民族的支配関係〉こそ世界経済の〈基本構造〉として機能してきたのです。

そこで、この講義では、この〈民族的支配関係〉の問題を座標軸にして世界経済の基礎的な理論と歴史、現状そして展望を検討したいと思います。

前期は、世界経済の歴史を跡づけ、今日の世界経済の歴史的段階を確認します。

後期は、歴史的知識を念頭において、今日=第2次世界大戦後の世界経済の〈基本構造〉を形づくっている主な柱の一つずつ検討します。

〈国際化〉の問題がいよいよ重大になっているいま、多くの諸君の主体的な受講を期待します。

〈講義テーマ(予定)〉

前期 — 世界経済の歴史的推移

- (1) 〈講義の趣旨〉および〈講義テーマ〉の説明

- (2) 資本の本源的蓄積と重商主義植民地体制
- (3) 産業革命と自由貿易植民地体制
- (4) 帝国主義と帝国主義植民地体制
- (5) 第1次世界大戦と世界経済
- (6) 戦間期の世界経済

後期 — 今日の世界経済

- (1) 第2次世界大戦と世界経済
- (2) 「アメリカ中心体制」
- (3) 新植民地主義と世界経済
・貿易 ・国際通貨制度 ・資本輸出
(「援助」と多国籍企業) ・〈南北問題〉
と新国際経済秩序
- (4) 世界経済の現段階
- (5) 日本経済と世界経済
- (6) われわれの選択

*ほかに、3~4回のゲストによる〈特別講義〉を予定しています。

〈講義の方法〉

教科書は下記のとおりですが、教場では毎回資料をプリントして配布し、それを説明するという形で講義をすすめます。

〈成績評価の基準〉

講義では、世界経済の〈基本構造〉を理解するために不可欠の事項が指摘されます。成績はそれらの事項 — 世界経済の“枝葉”ではなく、“幹”の理解度をもって評価します。(前期)小テスト(後期)学年末定期試験

〈備考〉

私の研究室は第2研究館4階、電話は直通03-3418-9353です。気軽に立ち寄って下さい。

〔教科書〕徳永俊明『世界経済と第三世界』

(大月書店) ¥1,800

農業政策

浅田 喬二

〈講義内容〉

講義の前半では、農業政策論を農業経済学の視点から究明する。それは、封建制農業の崩壊過程、資本主義の発生・展開によって、資本制下の土地問題・農業問題がどのような内容、性格のものであるかを、歴史的・理論的に検討することである。講義の後半では、日本資本主義下の土地問題・農業問題を、日本資本主義の生成・展開過程と関連させながら具体的に解明する。この場合、日本資本主義を1945年8月の敗戦を境にして、戦前資本主義と戦後資本主義に区分し、それぞれの時期の日本資本主義と農業政策・農業問題との内的関連を具体的に考察する。

〈講義目次〉

前篇 農業政策論の理論的諸問題

1. 農業政策論の課題と方法
 - (1) 農業政策論の課題
 - (2) 農業政策論の方法
 2. 封建制農業論
 - (1) 労働地代論
 - (2) 生産物地代論
 - (3) 貨幣地代論
 3. 農民的分割地所有論
 - (1) 農民的分割地所有の本質規定
 - (2) 農民的分割地所有存立の前提条件
 - (3) 農民的分割地所有の自己矛盾的性格
 - (4) 農民的分割地所有の諸形態
 4. 資本制地代論
 - (1) 差額地代（第一形態，第二形態）論
 - (2) 絶対地代論
 - (3) 独占地代論
 5. 農業資本主義化の「二つの道」論
 - (1) 「二つの道」理論の一般的規定
 - (2) 帝国主義段階における「二つの道」論
 6. 農民層分解論
 - (1) 農民層の分解と農民層の分化
 - (2) 農村の階層・階級区分
 - (3) 資本主義の発展段階と農民層分解
- 後篇 日本資本主義と農業問題

1. 日本地主制史論
 - (1) 日本地主制の発展段階
 - (2) 日本地主制の四類型とその特質
 - (3) 日本地主制の歴史的 성격
2. 植民地主制史論
 - (1) 植民地台湾地主制史論
 - (2) 植民地朝鮮地主制史論
 - (3) 植民地「満州」地主制史論
3. 戦後日本の農地改革論
 - (1) 農地改革の経緯
 - (2) 農地改革の過程と実態
 - (3) 農地改革の意義と限界
4. 戦後農業政策の展開と農業・農村問題
 - (1) 基本法農政の展開
 - (2) 総合農政への移行
 - (3) 貿易自由化と日本農業の将来

〈成績評価の方法〉

成績評価は学年末のテストによって行う。

〔教科書〕

上原信博『農業政策論』（有斐閣）
 浅田喬二『増補 日本帝国主義と旧植民地地主制』（龍溪書舎）

〔参考書〕 開講時に指示する。

工業政策

大林弘道

〈問題意識・課題〉

戦後日本経済の歴史的な発展は工業のそれに主導されてきたものであった。また、それは「産業政策」とよばれる特異な性格を持つ工業政策に依存するものであった。こうした日本の工業とその政策に対する関心が先進国にも、発展途上国にも広く存在するのが近年の著しい特徴である。しかし、現在の日本経済、とりわけ工業は深刻な困難にある。一時的な不況というよりももっと大きな変化の時期を迎えているがごとくである。このことは、戦後の日本経済における工業の発展を改めて検討し直すことを要請している。講義では、以上のような戦後日本の経済における工業の展開を検討し、現代の世界経済の展開における工業の意義と役割を考察する。そして、再び日本経済における工業の今後を展望する。

〈授業計画〉

- (1) 工業経済・工業政策の一般的考察…………… 2回
工業生産を農業生産・商業・サービス業活動などと比較しながら、その特質を明らかにし、そのうえで、工業経済・工業政策の研究課題を提示する。
- (2) 工業の歴史的発展…………… 4回
工業の展開を、資本主義の成立と発展との関連で考察する。
- (3) 戦後日本と工業経済・工業政策…………… 15回
戦後日本経済における工業復興、新産業の創出・発展、産業調整、海外生産化などの具体的様相を紹介しながら、そこでの工業政策＝産業政策の問題を検討する。
- (4) 現代経済と工業…………… 5回
現代の世界経済における工業の中心はアジアにある。そしてアジアの中でも、NIEsからASEANそして中国・ベトナムへと発展の中心は移動しつつある。このような国際的な諸条件が日米関係とともに日本の工業にどのような影響を与えるかを検討する。

〈成績評価〉

- (1) 夏期休暇レポート…………… 20%
- (2) 期末試験…………… 80%

〔教科書・参考書〕

詳細な紹介を開講時にするが、以下の2冊が主要な参考書である。
 金田重喜（編著）現代工業経済論 創風社
 1991. 4. 25
 井村喜代子 現代日本経済論 有斐閣
 1993. 8. 10

現代のもろもろの財政問題打開の処方箋を書くための論理を具体的な状況理解の下で考える。よって講義の基本的要件は次のようになる。

- (1) 財政学の発展過程を概観し、その間の財政問題を理解して、財政学が当面している諸問題を把握する。
- (2) 財政学で通常とりあげる原理、原則、法則等を検討し、その現代的意義を吟味する。
- (3) 財政活動の理論的把握のため、財政の現実体の理解に努める。財政の制度、歴史、現状等を解明する。
- (4) 財政の理論、制度、歴史、実体の理解にもとづいて財政政策の課題を定める。

〈授業項目と授業スケジュール〉

I. 財政学の発展過程概要

1. 17, 18世紀の財政学 — 財政学の成立
 - (1) 英国古典派の財政論まで
 - (2) ドイツのカメラリズムの財政学
2. 19世紀の財政学の統合 — ドイツ正統派財政学
 - (1) 19世紀の経済社会 — 金本位制への流れ
 - (2) 国家経済（公経済）の独自性
3. 20世紀の財政学の新展開
 - (1) 第1次世界大戦後の社会経済の変容
 - (2) 政府活動領域の拡大 — ミクロとマクロ
 - (3) 財政学の諸原理に対する条件付加

II. 財政秩序

1. 財政制度と財政組織
 - (1) 財政主体の自律 — 旧憲法と日本国憲法
 - (2) 予算制度の要件 — 議会主義
 - (3) 予算機能と予算原則 — 現代への展開
 - (4) 旧憲法, 日本国憲法, 財政法の財政処理
2. 財政の意志形成 — 財政運営の現代的課題, 行政府の優越
3. 財政の構造 — 財政硬直化, 財政収支の型の形成

III. 経費論 — 財政需要

1. 無用論, 消極的肯定論, 積極的肯定論
2. 消極的肯定論の課題 — 経費の規模と膨張
3. 積極的肯定論の課題 — 新しい需要の性格
4. 経費の機能と分類 — 新しい機能に即して

IV. 財政収入論

1. 財政収入論の性格転換 (1)公的負担の増大
2. 財政収入論の性格転換 (2)公債金収入増大
3. 租税論一般 (1)伝統的租税論の性格
4. 租税論一般 (2)現代財政の租税の性格
5. 租税根拠, 租税原理, 租税原則, 租税体系
6. 税制史と租税構造 — 現代税制の性格

V. 地方財政論

1. 地方財政論の性格 — 各国別事情
2. 日本の地方財政の特性
3. 地域格差と格差調整 — 一般調整と個別調整
4. 西高東低型の地方財政

IV. 財政政策論

1. 公的債権, 公的債務の理論と実体 — 公債論展開の前提条件, 1930年代以前の課題
2. 財政政策論の起点 — フィスカルポリシー
3. フィスカルポリシーの発展像 — 制度制約
4. 政策論と制度論 — ビルト・イン・スタビライザー
5. OECD勧告 — 各国の財政政策の課題
6. 戦後の財政政策の推移と問題点
7. 当面の財政運営の課題 — 新年度予算案検討

〈試験・成績評価について〉

財政とは政治団体の経済活動である。とくに中央政府の政策活動がひとびとの関心の的となる。その活動の影響が現代では非常に大きいからである。そのことを理解してもらうことが講義の意図であるから、その理解と理解をもとにした履修者の見解を問うことで成績評価をする。試験は当然論文形式となる。その期待に即した試験方法を考えている。

〔参考書〕肥後和夫編『財政学要論』〔第4版〕
(有斐閣)

西村紀三郎著『財政学新論』第3増補版(税務経理協会)

西村紀三郎編著『統計からみる財政学』改訂版(学文社)¥1,600

山口公正編『図説日本の財政』平成5年度版(東洋経済新報社)¥2,000

〈授業の主たる内容, 基礎となる学問的傾向〉

経済生活の中で公共部門の関与する比重は確実に増大しつつある。近代経済学の発展とともに財政学にもそれをとり入れたかたちでの財政理論が展開されてきた。そしてこれに基づく財政政策は重要な経済政策の一つになっている。財政政策が国民経済に機能するメカニズムについてその理論的枠組みを検討し、理解することは納税者としての国民にとって重要なことである。この講義は公共支出政策及び公共収入政策についてそれらの基本理論及び政策基準を紹介して検討し、現実の政策に対する判断力を養うことを目的とする。

第I部は「財政の総需要管理政策」のテーマで、

マクロ経済学の分析手法による短期の財政政策の理論を14回に分けて講ずる。第Ⅱ部は「目的別公共需要と財政政策」と題し、財政の目的別経費ごとに厚生経済学の資源配分の分析手法による政策理論と所得再分配目的による政策理論を10回にわたり講ずる。第Ⅲ部は「財政収入政策」とし、税負担の公平、課税技術について講ずる。

〈授業項目と授業スケジュール計画〉

各週の授業の主たる項目及び授業計画は次のとおりである。

(第1週) 講義内容の紹介と年間授業計画の説明。

(第2週) 財政支出規模と国民所得の決定、総供給額曲線と最適供給。(第3週) 総需要額曲線。

(第4週) 乗数の波及過程。(第5週) 政府支出の乗数効果。(第6週) 課税の乗数効果、均衡予算定理と予算乗数。(第7週) 大量国債の累積とその限界、名目成長率と国債負担の減少。(第8週) 国債(債券)価格と市場金利、物価の上昇と国債負担の減少。(第9週) IS曲線の描き方、LM曲線の描き方。(第10週) 財政政策と金融政策の組合せ、IS-LM 分析とクラウディングアウト。

(第11週) 総合収支とマンデル=フレミングモデル。(第12週) 変動為替相場制と財政金融政策。

(第13週) 経済成長と財政政策、供給能力の成長、総需要の成長、必要成長率、財政操作の作用。

(第14週) ビルトインスタビライザー。(第15週)

機関費と純粋公共財、純粋公共財の性格、純粋公共財の最適供給。(第16週) 公共財産の形成、費用-便益分析の理論構造。(第17週) 生活関連社会資本の最適形成。(第18週) 産業経済的社会資本の最適形成、社会資本の供給と混雑現象。(第19週) 産業経済費と補助金、農業補助と死荷重、公企業補助と費用過減産業。(第20週) 社会的費用とピグー的補助金、公害補償とコースの定理。

(第21週) 教育費と補助金、スピルオーバーと補助金。(第22週) 社会保障関係費と所得再分配、賦課方式年金と高齢化社会、福祉政策と生産性の停滞。(第23週) 地方財政費と財政調整。(第24週) 公債費とリカード流等価定理、公債負担の世代間転嫁学説。(第25週) 所得課税政策と国民負担、租税原則学説と負担の公平。(第26週) 給与所得税と累進課税。(第27週) 法人所得税と課税技術。(第28週) 消費課税政策、一般消費税、個別消費課税。(第29週) 試験と評価についての説明。(第30週) 試験。

授業の配当曜日によって年度授業回数に若干の異動があり、予定どおりの時間数が組めないことがある。その場合は一部予定を割愛することがある。

〈履修条件・成績評価方法〉

経済学部には別に「財政学」の講義が設けられている。「財政政策」の講義は政策の理論を中心にした財政学の一分野についての講義であるから、

同時平行して別に「財政学」を履修すべきである。とくに統計を使った日本財政事情、租税論、日本財政史の学習のためには「財政学」の履修を要する。「財政政策」の履修の条件としては「経済原論Ⅱ」の履修を終えていることが望ましい。また「国民所得論」、「価格理論」は関連科目として重要である。

成績評価は学期末テストとして行われる試験による。試験は論述式による。

〔教科書〕教科書は使用しない。毎時間、講義案を配布する。

〔参考書〕野口悠紀雄著『公共政策』(モダン・エコノミックス12, 岩波書店)

¥2,000

中谷 巖著『入門マクロ経済学』

(日本評論社) ¥3,300

金融論

渋谷 隆一

〈授業項目と内容〉

第1部 金融の基礎知識(前期授業)

第1章 市中銀行

第1節 預金

2 借用金

3 資本金・積立金

4 貸出金

5 有価証券

第2章 中央銀行

第1節 発券機能

2 銀行の銀行としての機能

3 政府の銀行としての機能

第2部 日本の金融制度(後期授業)

第1章 日本金融体系史論

第1節 戦前の金融体系史論

2 戦後の金融体系史論

第2章 金融制度改革論

第1節 松方正義の銀行分業論

2 戦前・金融制度調査会の銀行分業論

3 戦争経済と銀行兼営論の台頭

4 GHQ主導の銀行分業論

5 金融自由化と銀行兼営論への傾斜

講義は第1部金融の基礎知識と第2部日本の金融制度とに分けて進める。

第1部では、金融制度の中核である市中銀行(第1章)と中央銀行(第2章)を対象とする。前者は銀行の勘定科目によって業務内容を解説し、それに関連する諸事項(たとえば手形交換、為替業務、小切手と兌換銀行券との比較、預金の源泉と形態、信託会社、旧相互銀行、信用金庫、資金運用部資金、預金銀行と債券発行銀行、オーパー

・ローン、割引手形、貸付金、利子、BIS規制、その他金融自由化に伴う業務内容の変化など)にもふれる。後者は中央銀行の3つの機能(発券〔保証準備発手法、屈伸制限発手法、比例準備発手法、最高額制限発手法〕、銀行の銀行〔金利政策、マーケット・オペレーション、支払準備率操作、窓口指導〕、政府の銀行)を中心に概説する。

第2部は、以上の金融の基礎知識をふまえて日本金融制度に関する2つの問題を取り上げる。第1章では、日本金融体系史に関する戦前・戦後の代表的な学説(飯淵敬太郎『日本信用体系前史』1947年、石浜知行『特殊金融機関史論』1937年、松成義衛・三輪梯三、長幸男『日本における銀行の発達』1959年、加藤俊彦『本邦銀行史論』1957年)の紹介と批判を行う。

第2章では、日本資本主義の後進性とその発展段階を念頭におきながら、金融制度改革の推移とその性格変化をみてゆく。まず松方正義によるイギリス銀行分業論の導入、その意義と限界、次いで第1次・第2次大戦時の銀行兼営論の台頭と金融制度調査会及び第2次大戦後・GHQ主導の銀行分業論への変更、金融制度の再建、最後に金融自由化の進展に伴う銀行兼営論への傾斜(業態別子会社方式→ユニバーサル・バンク方式)、一方におけるリテール・バンクとホールセール・バンクといった新たな分業形態の出現について考察を進めてゆきたい。

〔教科書〕三宅義夫『金融論(新版)』1981年(有斐閣)

後藤新一『金融制度の改革と展望』1992年(時潮社)

〔参考書〕加藤俊彦『本邦銀行史論』1957年(東大出版会)

渋谷隆一編『明治期日本特殊金融立法史』1976年(早大出版部)

渋谷隆一編『大正期日本金融制度政策史』1987年(早大出版部)

伊牟田敏充編『戦時体制下の金融構造』1990年(日本評論社)

齊藤精一郎『ゼミナール現代金融入門』1988年(日本経済新聞社)

全国地方銀行協会『金融自由化の進展と地方銀行の対応』1991年(同協会)

国際金融論

齊藤 寿彦

〈講義目的(要旨)〉

外国為替、国際通貨、国際銀行業の理論と歴史と現状を中心として国際金融を講義する。金融面に重点を置きつつ、できるだけわかりやすく講義

し、時事問題にも言及する。

〈授業内容・授業計画〉

前期

前期は外国為替および国際金融市場について説明する。4月、外国為替の仕組。5月、外国為替相場論。6月、外国為替銀行論。7月、国際金融市場論。

後期

後期は国際通貨と日本の金融の国際化を明らかにする。9月、国際通貨の理論。10月、IMF体制の成立、IMFの制度と機能と現実、旧IMF体制の崩壊。11月、変動為替相場制、SDR、ユーロダラー。12月、円の国際化、銀行の国際化、証券の国際化、東京の国際金融センター化。1月、日本企業の国際的資金調達、東アジアにおける日本の金融の国際化の進展。

〈評価方法〉

学年末の筆記試験を中心とする。前期末の授業時間中に行う小論文の作成と出席点を若干考慮して成績をつける。

〔教科書〕授業時間中に指定する。

〔参考書〕東京銀行調査部『外国為替の知識』(日経文庫)¥750

銀行論

齊藤 正

〈講義の目標〉

資本主義社会においては、銀行は、産業資本(製造業)、商業資本(流通業)と並んで資本として不可欠の存在であるが、その制度や役割は各国別にみても、歴史的にみても必ずしも同じものとはいえない。しかし、現代社会における多くの領域で銀行の占める比重はますます高くなっており、近年の「バブル経済」の下で顕著に現れたように、銀行の活動のあり方が経済全般の行方に多大な影響を及ぼすに至っている。したがって、銀行のあるべき姿とは何であるかを問うことは重要な課題であり、本講義の目標はその点を考える手掛かりを、制度的、理論的、実証的な視点から提供するところに置いている。

〈銀行論の主たる対象〉

銀行論の対象領域は、広義には「貨幣と銀行に関するあらゆる経済現象」(Money and Banking)であるが、本学部では、金融問題を取り扱う隣接科目として「金融論」、「国際金融論」、「証券市場論」、「経営財務論」が併せて開講されているので、本講義では銀行制度と銀行経営を中心としながら、我が国の銀行制度の特色と銀行の社会的役割について考えていきたい。

〈授業項目とスケジュール〉

前期では銀行業務を中心にみながら銀行の社会的役割を確認し、後期では戦後日本の銀行がどのような役割を果たしてきたのかを検討する予定であるが、具体的授業項目は以下の通りである。

1. 近代的銀行資本の成立
 - ① イングランド銀行の成立過程と近代的銀行
 - ② 明治期日本の銀行制度の成立過程の特殊性
2. 銀行の役割と主たる業務
 - ① 金融制度の中心的な位置を占める銀行
 - ② 銀行と実体経済：商業信用と銀行信用
 - ③ 負債勘定：預金、他
 - ④ 資産勘定：貸出金、有価証券、預け金、他
3. 中央銀行
 - ① 「銀行の銀行」、 「発券銀行」、 「政府の銀行」
 - ② 金融政策
4. 高度成長期における我が国の銀行制度の特色
 - ① 「金融の二重構造」
 - ② 都市銀行経営
 - ③ 中小企業金融専門機関経営
5. 低成長への移行と銀行経営
 - ① 都市銀行経営
 - ② 中小企業金融専門機関
 - ③ 「バブル経済」下の銀行経営
6. 金融自由化と銀行経営
 - ① 欧米の金融自由化
 - ② 我が国の金融自由化
 - 1) 金融自由化の背景と進展
 - 2) 金融自由化の問題点
7. 金融再編成の展開
 - ① 「バブル破綻」後の銀行経営
 - ② 合併、再編の動きとその特徴
 - ③ 金融制度改革法と今後の展開
8. 銀行の公共性と社会的責任

〈成績評価の方法〉

基本的には前期（試験または夏季レポート）と後期試験の総合評価とするが、試験に際しては一切の持ち込みを不可とする。出席に関しては、授業に関する「的を得た」質問や意見を加点する方式をとるので、積極的な態度で授業に臨んで欲しい。

〔教科書〕 谷田・野田・久留間編『現代金融の制度と理論』1992年（大月書店）
熊野・龍編『現代日本の金融』1992年（大月書店）
毎時間レジュメを配布し、それに沿って講義する。

〔参考書〕 『わが国の金融制度』（日本銀行）
（わが国の金融制度が詳細に説明されている）

社会政策

光岡博美

〈社会政策の内容〉

社会政策とは、資本主義社会で発生する社会問題や労働問題を体制内において解決する社会改良思想や政府の政策を意味している。この社会政策という学問は19世紀の中葉に、当時ヨーロッパの後進国であったドイツで発生したが、やがて近代化をめざす日本に紹介された。この意味で、戦前から、社会政策学は日本の経済学のなかでも重要な位置を占めてきたが、それは戦前日本の経済学がドイツ経済学から大きな影響を受けてきたからであった。

戦後の時代になると、社会問題や労働問題の処理は、政府の政策によってだけではなく、国民の権利を前提として、その解決が意図されるようになってきた。殊に、労働問題は、政府の介入を避け、労使の自主的な団体交渉によって事態に対処していくという方向に向かった。労働基準法、労働組合法、労働関係調整法といった労働法体系は、このような体制を作り出すために制定された法律だったのである。

このような現実世界の変化は、社会・労働問題研究へのアプローチの方法として、労使関係論の学問的発達を促すこととなった。戦後の日本においても、欧米社会で開拓された労使関係論を吸収し、日本の労働問題や労使関係の実態を分析し、労使関係をその実態に即して理解しようとする研究が大きな影響を及ぼしている。

〈本年度の講義内容〉

そこで、このような社会政策論や労使関係論の動向を視野に置いたうえで、本年度は、次のような講義内容で授業を行うことにしたい。

- (1) 社会政策学の思想と理論
- (2) 労使関係論の思想と理論
- (3) 日本における社会政策の歴史
- (4) 日本における労使関係の歴史
- (5) 戦後日本における労使関係の展開
- (6) 現代日本の社会政策と労働問題
- (7) 日本的労使関係の現実とその未来

上に述べた(1)～(7)の項目について、各々約3回程度の講義を予定している。しかし、時には、社会政策や労働問題を勉強するための専門書の紹介や解説、最近注目されている外国人労働者問題や女性労働問題などの時論、私が専門的に研究してきた問題なども、できるだけ分かりやすく解説してみたいと考えている。

また、授業とは直接関連はないが、労働問題を考えるうえでも有益と思われるような名作（映画）を鑑賞する機会も準備してみたい。

なお、全体の講義を通じて、その時々^々の社会政策や労働運動・社会運動によってどのような問題が解決され、どのような問題が未解決のまま残されその解決が迫られているのかを考えてみることにする。そして、われわれにとっての“より良い”社会とはどのような社会であるのかといった事柄にも思いをめぐらしてみたい。

履修条件と成績評価

履修条件は特にないが、教場では私語を慎むこと。また必要に応じて、出欠の点検を行う場合もある。成績の評価基準や答案作成上の注意は、年度末試験の2週間ほど前の授業で説明する。

〔教科書〕なし

〔参考書〕必要に応じて講義のなかで紹介する。

中小企業論

三井逸友

「中小企業」を論じるというのは実は存外に容易ではない。世界的な「中小企業フィーバー」の続いた80年代をへて、深刻化する不況と「構造転換」のすすむ今日こそ、さまざまな俗論や安直な先入観念を排し、きちんとした学問的方法と総合的でグローバルな現状認識をはかり、さらに21世紀を展望した「政策観」をつくり上げていく必要がある。

日本の中小企業は約600万、企業の99%、従業員の80%を占め、製造業中小企業に限っても80万をこえ、付加価値の50%以上を生み出している。つまり、日本の経済社会にとって中小企業はきわめて重要な「メジャー」な存在であるとともに、諸外国からうらやましがられる「日本産業の競争力」を支えているのである。しかしこのことは、中小企業の地位が安定し、そこに働く人々が恵まれていることを示すものではない。中小企業をめぐる格差、不利、経営不安などの「問題状況」も依然広くみられ、今日また深刻となっている。しかもこうした「期待」と「困難」の交錯する事態は先進国に共通して確認されているのである。

この講義ではこうした中小企業の存在状況と役割、当面する問題を概観し、次にこうした中小企業の存立と問題性をめぐる理論・研究を検討し、「中小企業問題」の二面性と、現代経済における中小企業の「構造論」的位置づけを明らかにする。講義の後半では、「下請制」、「地場産業産地」などの中小企業群の形成する分業と協働・集団の諸形態の特徴と最近の動向を追い、結合生産力の「効率性」と、これに対する競争と統制・管理の貫徹がもたらす「経済的関係」のうえでの問題状況を示す。事態は独占大企業の「支配・利用」と「過剰・淘汰」の間で現われるのである。さらに

こうした「中小企業問題」に対応して展開されてきた「中小企業政策」の国際比較研究を行い、「生産力」的に成功を収めてきた日本の「中小企業近代化政策」の特徴と限界、これに対する欧米の政策の相違点と近年の「収斂傾向」を解明する。加えて補論として、最近の政策課題として注目される、「構造転換」（リストラ）対応策、分業にもとづく結合生産力の目的意識的な組織としての、企業間連携・共同促進策、新規開業促進策、そして「基本法30年」での中小企業政策の見直しの動きについてもふれてみたい。授業は主に講義の形で進めるが、企業経営のナマの現場を理解してもらうため、ビデオ、スライドの上映、企業経営者の方の話などもとり入れたい。その中で産業分析の基礎知識も伝え、さらに担当者の世界各地や全国での見聞も活用する。

構成予定

- I. 中小企業論の課題と対象、規定と構成、問題状況
- II. 「中小企業論」研究の方法と「存立」論・「問題」論
- III. 中小企業の現代的存在形態
- IV. 「中小企業政策」の展開と国際比較

なお、毎年夏休みには、補足的資料として、『中小企業白書』を読んでもらい、希望者にはレポートを書いてもらっている。成績評価は、他の専門科目同様、学年末定期試験を中心とする。

〔教科書〕三井逸友『現代経済と中小企業』（青木書店）¥2,800（税抜）

〔参考書〕巽・佐藤編『新 中小企業論を学ぶ』（有斐閣）
中小企業庁編『中小企業白書』〔各年次〕

人口論

森岡仁

授業内容

人口に係わる学問分野は数多く存在するが、とくに経済学との関係から接近しようとするところにこの授業の特徴がある。現実の経済と人口の関係を歴史的に振り返ってみると、その起源は人類がこの地球上に出現した時期にまで遡りうるわけで、そういう意味では両者の関係は何にも増して古いといわなければならない。経済学的にきわめて早い時期から人口が論じられてきたのも、このような理由によるものと思われる。

経済と人口との関係は、どちらかが一方的に他に働きかけるというのではなく、時に応じて強弱の違いはあるにせよ、互いに作用しあう相互依存の関係にある。1970年代に市民権を獲得し、そ

の後大きな発展を遂げつつある経済人口学は、正にこの点に注目する人口学の新たな分野であるが、この授業も経済人口学の立場に立って、経済と人口の相互依存の関係を理論的、実証的に追い求めようとするものである。そこにおいては、日本を含む世界全体の人口について、過去から現在、そして可能なかぎり将来に及ぶ人口現象にまで論究してみたい。ことに、先進工業諸国に現在共通してみられる低出生力と年齢構造の高齢化の問題は、わが国においても経済との関係から早急に解決を迫られている重大事であり、将来さらに重要度を高めていくことは周知の事実である。一方発展途上諸国に生じている急激な人口増加の問題は、内容をまったく異にするにせよ、貧困からの脱却のためには緊急に解決しなければならない困難な課題になっていることも周知のとおりである。

このようにみえてくると、今や人口問題は地球規模で考え、そして解決していかなければならないことが理解されよう。しかしながら、人口を取り巻く関連分野が広範囲に及ぶことから、はたしてどこまでが人口の問題であり、どこまでが他の分野の問題であるのかを的確に見極めることが重要になってくる。石油が不足すれば人口は多すぎるといい、労働力が不足すると出生率が低すぎるといふ。何が真の人口問題であるのかが不明確だとすれば、当然それに対応する政策も不適切なものにならざるをえないであろう。的確な事実判断の下に適切な政策を施すためには、しっかりとした理論的知識を備えていなければならない。この授業においては、経済人口学の成立と発展の過程を辿ることによって、人口理論の基礎的知識を養ってみたい。アダム・スミスが、マルサスが、そしてマルクスも登場してくる。かれらを決して過去の人間と考えてはならない。新たな分野である経済人口学も、そのルーツを辿るとマルサスに遡るのである。勿論、現在活躍中の人口学者や経済学者も登場する。例えば、G. S. ベッカーの92年度ノーベル経済学賞受賞は耳新しいところであるが、かれを中心とする“出生力の経済学”は、経済人口学の重要な一部を形成しているのである。

何はともあれ、この授業では人口という眼鏡を通じて経済をじっくりと眺めてみたい。そして一人でも多くの学生諸君が人口に関心を抱くようになってほしいと考えている。なぜなら人口問題とは、国民一人一人の問題だからである。

〈授業スケジュール〉

- I. 経済人口学の生成と発展
- II. 日本の人口と経済発展
- III. 世界の人口問題
- IV. 人口政策

〈履修条件〉

履修に当たったっての条件というものはとくに無いが、近年大きな関心事になっている人口の“高齢

化”や“小子化”に関する知識を、どのような手段をつうじてでも良いから得ておくことが望ましい。

〈成績評価〉

学年末の定期試験、出席状況

〔教科書〕大淵 寛・森岡 仁著『経済人口学』
(新評論) ¥2,800

教育経済論

谷 敷 正 光

〈授業内容〉

経済発展に産業教育が果たした意義とその役割について考察する。

日本は近年、「経済大国」として世界的に認められるようになったが、この発展を築いた基礎に日本の高い教育水準と人材養成があるといわれている。そして欧米各国では経済面での国際競争力の低下が教育水準の低下と密接に関連しているとの観点から日本の産業教育政策を解明するとともに、2000年に向けて一斉に教育改革に着手している。アメリカの「危機に立つ国家」「全米教育サミット」「2000年のアメリカ」、イギリスの「教育改革法」「二十一世紀に向けての教育・訓練」、フランス「ジョスパン法」など各国の改革の中心は厳しい経済競争に勝ち残るための教育水準の向上、教育に市場原理の導入、高等教育の質的充実、教育投資の拡大など教育を「国の最優先課題」と位置づけている。

そこで本年度は、こうした各国の経済再建と教育改革の動向と、日本の現状をまず考察する。

次に、外国からは高く評価されている日本の高い教育水準、人材養成教育を戦前は産業資本確立期を中心に、戦後は朝鮮戦争を契機に復興した復興期から平成景気までを中心にそれぞれの経済発展段階の特徴とそれに応じた産業界の教育要求と国の教育政策、産業教育政策を考察する。

〈授業形態〉

講義の他、その都度現実的理解のために年間5～6回程、視聴覚教室でビデオを使用する。

〈授業項目と授業スケジュール〉

(1) 欧米先進国の経済の現状と教育

- ①アメリカ
- ②イギリス
- ③フランス
- ④ドイツ
- ⑤日本

(2) 戦前の経済発展と実業教育の振興

- ①学制時代（明治10年前）
- ②教育令時代（明治20年代）
- ③学校令時代（明治30年代）

④実業学校令時代(明治30年代)

(3) 戦後の経済発展と産業教育の振興

①復興期

②高度成長期

③1970年代

④1980年代

⑤1990年代

(1)(2)は前期に、(3)は後期に講義する予定。

<履修条件>

欠席しないこと。

<評価方法>

定期試験の成績

[教科書] 特に使用しない。年間25~30枚のプリントを講義資料として配布する。

[参考書] 豊田俊雄編『わが国産業化と実業教育』

(東大出版)

文部省『産業教育百年史』

(ぎょうせい)

本庄良邦著『産業教育体制研究』

(三和書房)

日本経済論

森 武 磨

1980年代の後半には日本の GNPは世界の14%を占めるまでになった。1950年が1%であることと比べるといかにすさまじい経済成長であったかがわかる。また、1950年代には世界の GNPの40%を占めていたアメリカはこの間に25%までに低下し貿易赤字と財政赤字に苦しみ1985年には債権国に転落した。しかし、80年代好景気を謳歌した日本経済は90年代に入って本格的な不況局面に突入し出口がいまだ見えない状態である。社会的にも物質的なゆたかさの背後に過労死を生む世界に冠たる長時間労働、少ない休暇とサービス残業、日貧困な住宅と高地価といった状況が一般化している。このような日本経済の激しい変動はなにゆえ生まれたのであろうか。

その成長の軌跡と矛盾の累積を企業主義や会社主義ともよばれる最近の日本的経営論・労使関係論も射程におきながら解明してみたい。

本講義では、1930年代初頭の世界恐慌から第2次世界大戦をへて1945年の敗戦による日本経済の崩壊と戦後改革と高度経済成長を経過することによって「経済大国」化した1980年代まで日本経済の段階的変化とその構造的特質とを説明する。すなわち、日本経済を歴史的構造的に把握することがこの講義の課題である。

講義の進め方は1930年から1990年代に至る日本経済の歩みを各時期の生活のあり方や生活構造からとらえ、つづいて産業構造、資本蓄積のあり方、

さらに経済政策の検討を通じて各時期の企業・資本の労働者・国民の管理・支配の特徴を明らかにして、最後に対外関係・国際関係を検討するという順序ですすめたい。

年間の講義スケジュールは以下のとおりである。

1. 世界恐慌と戦争
 - ・経済の軍事化
 - ・財閥と地主制
 - ・ファシズムと国家総動員
 - ・大東亜共栄圏
2. 戦後経済改革
 - ・戦後改革と占領政策の転換
 - ・生産の再開と復興
 - ・労働農民運動の激化と資本の再編
 - ・朝鮮戦争と日米経済協力
3. 高度成長第一期
 - ・重化学工業化と技術革新
 - ・企業集団と中小企業
 - ・日本の労使関係の成立
 - ・経済政策と権力構造
 - ・貿易・為替の自由化
4. 高度成長第二期
 - ・長期好況と大型投資
 - ・企業主義
 - ・高度成長と地域開発
 - ・資本の自由化
5. 経済大国化
 - ・ドルショックと石油危機
 - ・企業と職場の変貌
 - ・臨調行革
 - ・世界のなかの日本

成績評価は期末試験を中心に採点する。さらに中間試験として指定文献のリポートを課す予定である。提出なき場合は期末試験の評価から10点減点する。また、毎回講義の参考資料を配付し、出席を重視する。

[教科書] 森 武磨ほか『現代日本経済史』

(有斐閣) 1,700円

アジア経済論

小林 英 夫

今日ほどアジアが注目されるようになった時期もめずらしい。アジア一般というより、その目ざましい経済成長が注目されたのである。1970年代は韓国、台湾、香港そしてシンガポールが、そして80年代後半になるとタイやマレーシアといったアセアン諸国が、その高成長のゆえに注目された。韓国をはじめとする4ヵ国は、一つの高成長グループとしてくぐられ、その名をニックス(NICS)と称された。

では、なぜ、この時期、アジアで経済成長が生じたのであろうか。それは、どのような歴史を背景に生まれたのか。そして、こうした成長地域の出現は、世界政治と経済にどのような影響を与えたのであろうか。アジア経済論は、こうしたアジアの経済成長の歴史的背景と現状そして将来を展望し、それが日本と世界の政治、経済に与えたインパクトを考察することにある。

授業は、講義形式でおこなう。ただし、原則として年間2回外部講師をまねいて、実際のアジアの実情を紹介してもらっている。昨年は残念ながら実現できなかったが、これまでに野村証券の調査員にシンガポールの金融事情を、ジェトロの調査員にマレーシアの実情を紹介してもらった。今年も同様の“アジア・ガイド”を計画している。

今年度の授業項目と授業スケジュールは以下の通りである。

4月

アジアの実情

5月～7月

日本とアジアの経済関係（戦後日本とアジアの関係を、Ⅰ. 賠償過程、Ⅱ. 借款過程、Ⅲ. 直接企業進出の3期に分けその過程を追うと同時に、それが日本の産業構造に与えた影響について検討する。

7月の夏休み前に、外部講師をよび、直接企業進出に的をしぼった、実態報告をおこなう。

9月～12月

東南アジアの日本企業の活動（1972年以降開始された日本企業の東南アジアでの活動実態について、主に輸出加工区でのそれをめぐってその活動実態を検討する）

1月

まとめ（1年間の講義について、まとめをおこなう）

授業の受講にあたっては、あらかじめ指示した教科書を講読しておくこと。テストは、夏休み直前と期末のテストの2回を実施し、両者の総合成績で決定する。

〔参考書〕小林英夫『戦後日本資本主義と「東アジア経済圏」』（御茶の水書房）

¥3,200

小林英夫『東南アジアの日系企業』

（日本評論社）¥3,200

中国経済論

小杉修二

1. 現在の中国は対外開放、経済成長と生活の向上の結合、経済改革の試み等、新たな活気がみなぎるようになった。また、企業自主権の拡大、

株式会社、個人営業の公認、失業・倒産の制度化、「1国2制度」「6・4天安門事件」等々話題に事欠かない状況である。

本講義ではこのような目前の変化をとらえると同時に、より長い視野と射程で問題を論じることとする。即ち、本講義のキー・ワードは、超大国志向、社会主義、発展途上国である。この三点で中国の長期的動態を論ずる。

2. 前期授業のはじめに、キー・ワードを3週間分かけて説明する。ここでは、地域研究が本来もっている特徴である、問題のさまざまな面をとらえる、ということと、そのうち比重の大きい側面は何であるかをつかむ、といった点に留意する。特に、私独自の見方である中国の超大国志向について詳しく説明する。

3. 2につづいて、中国経済の解明に取組むが、それは一言でいえば歴史的方法をとる。すなわち、中華人民共和国の成立（1949年）から今日までを、3つの特徴的な時期に分けて、(1)ソ連モデル（1949～57年）、(2)毛沢東モデル（1958～78年）、(3)鄧小平モデル（1978～）として、それぞれの時期の特徴とその変化の動因を説明する。

このような方法をとるのは、今現在の目先の出来事も何かの方向へ向かって動いている訳だが、その方向というものは、あまりに近くで見ているとわかりにくいものだからである。つまり、現在および将来というのは、過去の何らかの延長であると考えからである。それが単純な延長である場合もあろうし、新しい条件に見合った微修正の延長である場合もあろうし、また全く過去の否定的総括に立った転換である場合もあろう。その場合も、過去の何が否定的に総括されたのかを知らねば、将来への延長線は引かれまいであろう。そこで歴史的方法をとるわけである。

4. 上記の3つのモデルを超大国志向、社会主義、発展途上国の3つのキー・ワードを軸にして説明していくが、そこでの中国は著しく軍事大国志向、経済成長志向である。世界の他の国々がそのような志向性をもっている中で、また、中国が途上国であることからして、やむを得ない面もあるが、世界が環境問題で行き詰まりつつある中での、このような志向性のもつ問題点をも相対化し得る見方をもてるように留意したいと思う。

5. 授業の進め方は、教科書に沿った講義とビデオ（1-201 または1-301 教室）上映による説明の二本立てで行っている。

教科書は専門家向けに書かれており、自明のことや初歩的なことは書かれていない。したがって、中国経済に全くの初心者であると思われる学部学生に対しては、自明とされていること

や、初歩的な知識の説明を補いながら講義を行う。

また、何分にも外国のことなのでイメージがわきにくいといった問題があるので、年に数回、中国関係のビデオを見る。例えば、新日鉄宝山製鉄所、天津の用水路、長春第1自動車工場、江南億元郷、天安門激動の40年等。

6. 受験勉強の本質は正解当てクイズである。しかし、このような方法は実社会では通用しない場合が多いし、正解も変わっていく。諸君が物事（中国経済）を自前の頭で理解し判断できるための勉強が高等教育の場である。そのために、無数にいる専門家の意見の比較、優劣判定、取捨選択、時間による検証、といった作業が必要になる。その前提になるのが、各専門家の学説の正確な理解である（学説の受入れとは異なる）。テストは基準となる一つの学説（とりあえず、私の説）の正確な理解ができたかどうかを見るものである。

7. 学習が正解当てクイズに終わるかどうかは諸君の学習意欲にも係わっている。教科書の脚注引用文献や同第5章「諸学説の検討」あるいは授業中にその都度指摘する文献を積極的に読むことを希望する。

〔教科書〕小杉修二著『現代中国の国家目的と経済建設—超大国志向・低開発経済・社会主義』
（龍溪書舎）¥3,300

アメリカ経済論

瀬戸岡 紘

- ☆ 現代のアメリカ経済事情を幅ひろくわかりやすく解説します。

最新のアメリカ情報と、過去の私のアメリカ生活および研究活動でのエピソードを多数まじえながら、今日のアメリカ経済事情について、幅ひろく、トータルな解説をするのが、この講義です。それとともに、アメリカのできごとと関係のふかい世界の情勢を、ひろく検討します。

- ☆ 特別な経済学の予備知識がなくても理解できる授業です。

この講義を受講するためには、特別な経済学の予備知識などは必要ありません。経済学部以外の学生でも十分に理解できるように、理路整然と、わかりやすく話をすすめます。しかし同時に、アメリカ経済につよい関心をもつ学生諸君には、さらにふかめた研究をしていく動機をつかめるような学問的挑発を試みようかとも考えています。他方、講義でとりあげるニュースとキーワードは、就職などでの試験を受けようとする者にも役にた

つものとなるでしょう。全体として、この講義は、いわゆる専門的な特定領域の探求をこころみるものではなく、奥ふかく興味のつきないアメリカ経済の世界に諸君を道案内するものなのです。

- ☆ 1回の講義でひとつのテーマをとりあげます。

1回ごとに独立したひとつのテーマをとりあげ、完結させるように話します。年間をとおしてきくと現代のアメリカ経済の全体の輪郭がわかるように講義を組んでいます。とりあげるテーマには、おおむねつぎのようなものを予定しています。

前期

〔導入の話題〕

◇大統領の今年の経済政策とアメリカ経済の近況

〔総論〕

◇アメリカ的特質

◇アメリカ経済の歴史的背景

〔アメリカ経済各論〕

◇アメリカの農業

◇アメリカの工業

◇アメリカの企業家

◇アメリカの労働者

◇アメリカの商業とサービス

◇アメリカの金融

◇アメリカの科学技術

◇アメリカの先端産業

後期

〔世界とアメリカ〕

◇国際通貨ドルの地位とIMF

◇アメリカと貿易（GATT）

◇アメリカ軍の世界的ネットワークと経済的意義

◇アメリカの海外援助

◇アメリカの多国籍企業

◇多国籍企業とアメリカ経済

〔アメリカと世界の諸地域〕

◇アメリカとEU

◇アメリカと日本

◇アメリカとアジア・太平洋

◇アメリカとカナダ・メキシコ

〔むすびの話題〕

◇アメリカの経済学（あたらしい学派の見解）

- 毎回の講義では、まずテーマに即した最新のニュースを話題にするところから話をはじめ、ついでそれぞれのテーマを理解するための基礎的な事実とキーワードを具体的な資料やデータにもとづいて解説します。各講義のしめくくりには、受講者諸君との対話を大切にしながらテーマの本質について考えてみます。

- ☆ あたらしい情報やトピックスを、解説つきで、つねに受講者に紹介します。

年間予定とは別に、あたらしいニュースや情報は、随時、解説をつけて、お話しします。ただし、

ただあたらしいことを追うばかりにおちいらな
いで、ことの真相や本質的なことがらを、ちよ
とちどまって考えることができるような、多少
とも理論的な視角をもちこみます。

☆ アメリカの諸大学にみられる長所をとり入れた
授業です。

講義は、極力、受講者諸君の希望をいかして、
たのしくすすめるつもりです。とくに、この講義
には、アメリカの大学に見られる望ましい習慣を
とり入れるようにこころがけています。たとえ
ながい時間の講義に諸君がつかれて集中力を
おとさないように、講義の途中で小休止をおく
ようにしています。講義のなかでの受講者諸君
の発言や質問は大歓迎です。講義にたいする
受講者の側からの評価や採点、改善提案など
は、もちろん今年も実施します。

☆ 最新の情報をもとに講義をすすめます。だから
特定のテキストは使用しません。

この講義では、特定の図書を教科書として
使用しません。アメリカ経済をあつかった文
献はあまりにたくさんあって、しかもどの一
冊も、これさえ読めばアメリカ経済が把握
できるというほどアメリカ経済は単純では
ないからです。講義では、その都度よい文
献などを紹介していきます。今、どうし
てもといわれれば、日々のニュースと諸君
の周囲にあるさまざまなアメリカものの本
の全体が、この講義の教科書です。

☆ 熱心な受講者には楽勝の、単位だけがほしい
学生には恐怖の科目です。

この講義は、3年生、4年生いずれもが
受講できることはいまでもありませんが、
以上にのべたこの講義の性格からして、
3年生のうちに受講することをすす
めます。また、この講義については、
いわば単位をかすめとることなど考
えないほうが無難でしょう。すすんで
受講しようとする者には、退屈させ
ない楽しい講義をするつもりです。
また、そういう受講者がよい成績を
おさめられるように評価のしかたを
工夫しています。

ヨーロッパ経済論

清水 卓

経済学部カリキュラムの特色の一つは各国
経済論科目が充実している事ですが、それ
は、情報通信や交通手段の発達によつて、
地球がますます狭くなり、我々の生活・
活動が国際化することに対応して、諸
外国の实情に通じ、地球規模で物を考
え、判断し、行動できる人材を養成し
たいとの期待によるものです。

今日の複雑に発達した社会の動向が、
経済活動によってのみ決定されている
わけではないことは

自明な事ですが、経済の動向が決定的
な役割を果たしていることも否定でき
ません。ヨーロッパ経済論は、第二
次世界大戦後の西ヨーロッパ諸国の
経済発展とECを中心とする欧州統
合過程を解明する事を課題としま
す。講義は4つの課題に沿って展
開します。

第1の課題は、ヨーロッパ統合の歴
史的背景を解明することです。

第2の課題は、第二次世界大戦後
のヨーロッパ経済の発展過程を、
世界経済と関連させて解明する
ことです。

第3の課題は、第二次世界大戦
後のECを中心とするヨーロッパ
統合の展開過程を解明すること
です。

第4の課題は、今日のヨーロッパ
経済の分析です。

西ヨーロッパについては、歴史、
文化、政治、社会、経済などあ
らゆる分野で、洪水のような大
量の情報を翻訳書や日本人によ
る研究書その他の文献、雑誌や
新聞によって容易に手にする
事ができますし、衛星放送など
によって、リアルタイムでニュ
ースに接する事もできます。
しかし、知ることができる環
境にいると言う事は、現実に関
心に向け、知ろうと努力する
事は別物です。この講義を手
掛かりに、現代ヨーロッパに
ついての関心を深め、学生諸君
自身が、客観的、体系的なヨ
ーロッパ像を構築し、それを今
後様々に活かして行けるよう
期待します。

<授業項目とスケジュール>

第1週～第3週。ヨーロッパとは何かという
課題に取り組みます。まず、現在世界の繁
栄の一つの極であるヨーロッパがどのよ
うにして自己を中心とする近代世界
経済システムを形成したのかを
確認します。ついで、ヨーロッパ
社会・経済のダイナミズムを、
自然条件と産業活動の多様性と
経済発展の格差、民族問題など
ヨーロッパの地理学的多様性と
の関連で解明します。

第4週～第11週。2つの大戦と
ヨーロッパ体制の危機。1950年代
ヨーロッパ冷戦体制。1960年代
経済成長下の西ヨーロッパ諸
国の経済政策と経済構造の近代
化。経済成長＝高蓄積の限界
(社会的矛盾、スタグフレーション、
南北問題、環境問題など)。1970
年代経済危機とその打開策
(ミッテランの失敗、サッチャー
の挑戦と挫折、オールドタ
ナティブ模策)。

前期最終週。前期試験。

第13週～第16週。1950年代
の統合(欧州経済協力機構、
欧州審議会、欧州石炭鉄鋼
共同体)。欧州経済共同体と
欧州自由貿易連合。1960年代
のEC統合(関税同盟と共通農
業政策)。1970年代経済危
機下のEC(通貨危機、市場統
合の停滞、拡大と制度的前進)
。1980年代経済危機の深刻
化と1992年市場統合。

第17週～第25週。EC統合の現状と課題。1993年11月EU＝欧州連合が発足した。EU諸国は戦後最悪の長期不況のさなかにあり、1999年単一通貨発行を目指す経済通貨統合は絶望視されている。不況対策を求める国民各層と統合促進のため各政府が追求する「収斂策」との対立は深刻化しつつある。また、外国人労働者問題、ユーゴ危機など予断を許さないヨーロッパ情勢を追跡する。
最終週。期末試験。

〈履修条件・成績評価〉

定期試験では授業内容から出題します。持ち込みは不可。穴埋め問題と論述問題を組み合わせ出題します。試験とレポートおよび出席回数を総合して成績評価します。

〔教科書・参考書〕第1週に、知らせます。

ロシア・東欧経済論

山 縣 弘 志

〈授業内容と目標〉

ソ連邦が解体し、東欧諸国も再編成されて、いかなる方向かとはもかくとして移行過程にあるが、この地域が従来の歴史的経緯を背負って今後も多少とも他と区別される経済圏を形成していくことは確かであろう。

ロシア・東欧圏は、ヨーロッパとアジアにまたがりオリエントと接するユーラシア地域として、独自の、また内部的には多様な文化を醸成してきた。この地域は、帝国主義の時代に、第1段階としてロシア革命、第2段階として第2次大戦を契機に社会主義をめざすことになった。そしてそれはまぎれもない社会主義の歴史として通俗的に理解されてきたが、本来は社会主義の模索として開始されたものであり、社会主義になりえたか否か自体が問われなければならないという認識が、同時代史によって求められている。社会主義であれ資本主義であれ、個別の体制は独自のあり方として捉えなければならない。その意味からも、ロシア革命による歴史の断絶か連続かの問題は、今日においては、後者に重点を置いた捉え方が妥当であるということが明らかになったのであるから、しからばロシア・東欧圏の歴史的連続性と独自性を何に求めるか、という問題も併せて探究していく必要がある。

社会主義論の原理的な捉え直しの上に立って、1930年代にソ連邦で形成され40年代に東欧に移植された独特の体制への認識が深まり、我々の時代の当面している課題が明らかになれば、自らの姿を鏡に映すという外国研究の基本的役割をいささかでも果たすことになるであろう。

〈授業予定〉

トピックスにコメントする機会が多いと思われるので、以下はあくまで予定と考えて頂きたい。

1. 社会主義とロシア革命
 - (1) 社会主義論の歴史
 - (2) マルクスの社会主義論
 - (3) ロシア革命のめざしたもの－レーニン時代－
2. ソ連経済体制の成立とスターリン時代
 - (1) 1920年代から30年代への根本的転換
 - (2) 工業化と農業集団化
 - (3) ソ連型「社会主義」の特質
 - (4) ソ連・東欧経済圏の形成
3. 「計画経済」と经济管理システム
 - (1) 「計画経済」の成立
 - (2) 「計画化」と「計画経済」の実態
 - (3) ソ連型经济管理システム
4. ソ連経済の到達水準
 - (1) 経済構造の特質
 - (2) 軍事生産と工業生産力
 - (3) 工業技術の諸問題
 - (4) 農業政策と農業制度
 - (5) 農業生産力
5. 停滞からペレストロイカへ
 - (1) 経済改革の時代
 - (2) ブレジネフと停滞の時代
 - (3) ペレストロイカとその挫折
6. ロシア・東欧経済の現状と課題
 - (1) ロシア・東欧社会の特質
 - (2) 市場経済化の諸問題－何から何への移行か－

〈成績評価〉

本講義に限らず、学生諸君にはステレオタイプから脱して自分自身の頭で考えることを求めたい。そのような観点で、成績評価はレポート（9月提出、40点配点）と定期試験（自筆ノート持込み可、60点配点）によって行う。

〔教科書・参考書〕

教科書はない。授業中にノートを取るのは当然である。参考書は適宜指示する。

商 業 政 策

岩 下 弘

〈授業項目〉

- 一 わが国の小売商業構造と蓄積構造
 - 1 80年代の小売商業構造
 - 2 80年代の大手小売業の資本蓄積構造
 - 3 90年代の大手小売業の資本蓄積構造
- 二 わが国の流通政策論
 - 1 中小小売商保護政策
 - 2 流通近代化政策
 - 3 流通システム化計画

- 4 流通革命論
- 三 流通ビジョンと流通政策
 - 1 70年代の流通
 - 2 80年代流通産業ビジョン
 - 3 90年代流通ビジョン
- 四 わが国の小売商業調整政策の展開過程
 - 1 百貨店法
 - 1) 第一次百貨店法 2) 第二次百貨店法
 - 2 中小小売商業振興法
 - 3 小売商業調整特別措置法
 - 4 大店法
 - 1) 1973年法 2) 1979年改正法
 - 3) 1991年改正法
 - 5 凍結宣言、要綱及び条例
 - 6 通産省による行政指導＝抑制措置
 - 7 規制緩和
 - 1) 規制緩和の流れ－前川レポート、行革審報告 2) 日米構造問題協議 3) 適正化措置
 - 8 特定商業集積法
 - 9 街づくりと都市計画
- 五 海外の流通政策
 - 1 イギリス
 - 1) 出店調整政策－都市・農村計画法
 - 2) 日曜営業問題－商店法
 - 2 フランス－ロワイエ法
 - 3 ドイツ－土地利用計画
 - 4 アメリカ－ゾーニング規制
- 六 「大型店問題」と訴訟－中小事業者運動論
 - 1 大型店の出店をめぐる諸問題
 - 1) 社会問題としての大型店の出店
 - 2) 消費者と大型店
 - 2 江釣子訴訟
 - 1) 北上市の商業とジャスコの出店及びその影響
 - 2) 訴状と判決の問題点
 - 3 生業権訴訟
 - 1) 名古屋市の大型店問題
 - 2) 名古屋市の商業と小売市場
 - 3) 生業権論
- 七 流通問題と消費者保護政策
 - 1 消費者問題論
 - 2 消費者保護基本法
 - 3 消費者行政
 - 4 生協
- 八 流通問題と独禁政策
 - 1 独占禁止法
 - 2 不公正取引
 - 3 取引慣行

〈成績評価〉

試験、レポート、出席により評価する。

〔教科書等〕

教科書は特に指定しない。必要な文献は指示する。

マーケティング

曾我信孝

1. 前期はマーケティングの基本政策を収奪構造の観点から解明する。

- (1) 製品政策
 - ① 概念と差別化政策
 - ② 多様化・細分化政策
 - ③ ライサイクルと計画的陳腐化政策
- (2) 価格政策
 - ① 概念と価格設定の方法(1)
 - ② 価格設定の方法(2)と消費者支配
 - ③ 差別価格と収奪
- (3) チャネル政策
 - ① 概念と流通機構
 - ② 商業の排除と系列化政策
 - ③ 流通支配の形態
- (4) 販売促進政策
 - ① 概念と人的販売政策
 - ② 広告政策と広告業界
- (5) マーケティング・ミックス

※前期の講義のねらいは、マーケティングの基本理論を理解してもらうことにある。しかし、講義中は理論の説明に固執するわけではなく、とりわけ消費財のマーケティング事例を豊富に取り入れるつもりである。それは学生諸君が今後マーケティングを応用できる能力をつけることを期待しているためである。

2. 後期はマーケティング理論の応用と国際マーケティングの分析を課題にする。とりわけ、総合商社を軸として、日本企業が激変する国際市場にどのように対応しているかを、マーケティングの観点から分析する。

- (1) 激変する市場環境
 - ① 国内市場の変化
 - ② ブロック経済化
 - ③ 経済規制の緩和
- (2) 総合商社の新事業
 - ① 川下戦略
 - ② 消費財生産部門への参入
 - ③ 新事業への対応政策
- (3) 総合商社の国際マーケティング戦略
 - ① 消費財マーケティングの展開
 - ② 総合商社の需要創造活動
 - ③ ネットワークと支配
- (4) 総合商社と子会社
 - ① 子会社戦略
 - ② マーケティング管理と子会社
- (5) 情報化戦略
 - ① 国際化と情報の対応
 - ② 通信事業と支配

③ 情報関連事業と支配

※地球規模での市場の変化は、日本企業だけではなく、世界の企業がマーケティングを限定した地域で展開することはできなくなっている。また、日本市場だけを考えても、生産から消費までを考えなければならないマーケティングでは、国際マーケティングを抜きには論じられなくなっている。そのなかで、日本企業の国際マーケティングに総合商社は深く関与している。したがって、総合商社の行動を分析することで、総合商社の国際マーケティングはもとより、日本企業の国際マーケティングの実態を解明することにねらいがある。

<評価の方法>

- ① 年一回の定期試験……70%
 - 夏休中の課題 ……20%
 - 出席状況 ……10%
- ② 評価基準
 - 講義内容の理解 ……60%
 - 問題意識 ……30%
 - 分析力・応用力 ……10%

〔教科書〕曾我信孝『総合商社とマーケティング』（白桃書房）¥4,000

〔参考書〕三浦 信・来往元郎・市川 貢『マーケティング』（ミネルヴァ書房）
¥2,200
石原武政『マーケティング競争の構造』（千倉書房）¥2,800

貿易論

古 沢 紘 造

オゾン層破壊、熱帯林破壊、温暖化、酸性雨、放射能汚染など地球を取り巻く環境はますます深刻になっています。一方、私たち生命体は水・大気・土壌の汚染により生存を脅かされるところまで来ています。本講義では、こうした危機的状況を踏まえ、生命系の経済学の立場に立って日本の対外経済関係（貿易、投資、援助）を批判的に考察したいと思います。その際、構造的に、また、人々の生活の実態に触れながら検討をすすめます。

生命系の経済学とは、人格をもった人間としてのニーズ、環境、資源、地球のすべての生命との共存などを基準とした主体的な指標の確立と、それを実現し保証する政策と運動を具体的に提出する経済学です。詳しくはポール・エキンス編著『生命系の経済学』（御茶の水書房）を読まれるとよいでしょう。

<授業内容>

- I. 農産物と貿易
- II. 水産物と貿易

- III. 林産物と貿易
- IV. 資源と貿易
- V. 工業製品と貿易
- VI. 援助と貿易
- VII. 企業進出と貿易
- VIII. 総括

I～VIIIの具体的な内容については、最初の講義のときに話したいと思います。

<評価方法>

基本的にはペーパー・テストにより評価しますが、自主的にレポートを提出してもらい、それを含めて評価をすることも考えています。答案やレポートを書くとき、論点を明確にし、自分の考えをしっかりと出すように努力してもらいたいと思います。思考の跡がうかがえないものは評価の対象にはならないでしょう。

<教材>

とくにこれといった教科書はありません。専門用語などむずかしいことは、そのつど説明しますので、授業に出てもらえば内容は充分理解できると思います。講義の中で特に興味をもち、もう少し掘り下げてみたいということがありましたら、遠慮なく話に来て下さい。いろいろな文献や訪れたらよい機関を紹介いたします。講義の内容と卒業論文のテーマが関連しているということで研究室（第2研究館4階34号室）を訪ねる人もいます。

貿易実務

太 田 正 孝

<講義目的（要旨）>

日本は国際ビジネスへの依存度が死活的に高い経済システムをもつ国である。国際ビジネス（International Business）は、様々な商取引を含むが、その大きな支柱の一つは国際貿易活動である。本講義は、こうした国際貿易活動を主に実務的側面から解説していくが、同時に国際貿易活動の基盤となる、国際ビジネスの概念的枠組みや戦略的側面についても時間の許す限り触れる予定。

<授業内容・授業計画>

前期は、貿易契約の成立と契約履行に至るまでのプロセス、さらにそれに伴う様々な手続き（保険・運送・外国為替・コミュニケーション）について、輸出・輸入の両面から包括的に解説する。しかし現在のグローバル化においては、二つの国家の独立した商人間でのアームズ・レングスな取引によって生ずる貿易取引ばかりではなく、多国籍企業のロジスティックス戦略の一環として発生する場合も多い。そこで後期は、出来るだけ早い時点で、直接投資による現地生産、現地経営を含む多国籍企業のグローバル戦略について考察した

い。

＜評価方法＞

成績評価の割合は、前期レポート30%、後期筆記試験50%、出席20%。

〔教科書〕 浜谷源蔵著『貿易実務入門』（同文館、1993）

〔参考書〕 朝岡良平著『貿易売買と商業慣習』（第三版）（東京布井出版、1985）

浜谷源蔵著『最新貿易実務』（同文館、1991）

新堀 聰著『貿易売買』（同文館、1990）

国際商業会議所日本国内委員会『Incoterms, 1990』

江夏健一編著『多国籍企業論』（八千代出版、1993）

証券市場論

澤田 精 次

＜講義目的と問題意識＞

証券市場を広く金融市場の一環として捉え、その国民経済的役割、仕組み、歴史、現状、問題点などを、国際的視点を交えて考究する。

学生にとっては、いきなり入り難い面もあり、また時間も限られているので、あくまでも基礎知識を与えることを念頭におくが、基礎理論に偏することなく、随時アップ・デートな現象・問題を織込んで、社会的関心を高めるようにしたい。

＜授業スケジュール＞

- ① まず、証券とはどういうものかを考え、その中での資本証券（有価証券）の要件をつかむ。つぎに、その有価証券が発行・売買される証券市場の特質をさぐる。
- ② つぎに、その証券市場の存在意義、すなわち国民経済的役割を、資金調達、運用ならびに経済運営との関わりを通じて解明する。
- ③ これまで有価証券として、一括して論じてきた段階から、株式・債券など個々の証券について、その種類、役割、特徴などを考究する。
- ④ 証券の発行市場の観点から、株式・債券がどのような方法で発行され、それが企業など発行対の資金調達計画とどう関係しているかを明らかにする。
- ⑤ つぎに流通市場に移り、取引所市場・店頭市場の実態、仕組みを考究、現在行われている売買仕法を解説する。
- ⑥ 以上によって、証券市場の制度的仕組み、現状の考察をほぼ終えるので、つぎには、株価の決定要因を考究、そこから株式相場の諸タイプについて触れる。

- ⑦ 最後に、平均株価、株価指数など、日常の新聞、テレビなどで見聞される株価指標の内容、特性などを考察、証券市場への理解に資するよう配慮する。

＜教 材＞

参考図書は下記のとおりだが、特に教科書は指定しない。ノートをしっかりとなれば、別に参考書を読まなくても、十分理解できると思うし、またそのようなつもりで講義をする。講義だけで理解できなかった部分があれば、質問してもらえば答えるし、ここにあげた参考書によってある程度補えるものと思う。

〔参考書〕 大蔵省証券局編『図説 日本の証券市場』（財経詳報社）
 東京証券取引所編『東証要覧』（東京証券取引所）
 証券団体協議会編『証券用語辞典』（東洋経済新報社）

＜評価方法＞

学年末試験によって成績を評価する。試験問題は、最終講義で出題数の約倍を提示、その中から出題する。内容は、講義をよく理解していれば、容易に答えられる程度のものである。ただし、ノートをはじめ一切の持込みを認めないので、事前に十分理解して、頭に入れておく必要がある。

保 險 論

石名坂 邦 昭

＜授業内容・授業形態＞

保険学研究の方法としては、保険法学的アプローチ、保険経済学的アプローチ、保険経営学的アプローチ等がある。さらに保険種目に応じて海上保険、火災保険、生命保険、社会保険などに分類される。前者は保険現象一般を取り扱うものであり、後者は当該保険種目の範囲に限定し、それぞれにつき研究を行うものである。

保険総論は古くから保険経済と保険経営の両面を含んできた。保険経済学は部門経済学の一つで、保険現象を経済現象として把握し、巨視的立場から分析を進めることを目的としている。全体としての経済的立場からする保険現象の分析に保険理論、保険史、保険政策に分岐する。

保険経営学は部門経営学の一つで保険制度や保険事業の内外に生起する経営現象の解明を目的としている。

近年、保険経済学、保険経営学と言った理論構成を保険者側におく立場に加え、保険利用者側に置くリスク・マネジメント論もさかんに研究されるようになった。

本講義においては保険理論、保険制度の研究に

加えてリスク・マネジメント論についてもふれることとする。

〈授業スケジュール〉

- 4月～5月 保険本質論及び保険の歴史
- 5月～6月 保険の企業形態
- 6月～7月 保険取引
- 9月～10月 保険の技術
- 10月～11月 保険各論（損害保険論・生命保険論）
- 11月～12月 リスク・マネジメントと保険

〈履修条件〉

- 受講前に必ず当日の予習をしておくこと。
- 成績は定期試験の結果と合わせて判断する。
- 〔教科書〕開講時に指示する。
- 〔参考書〕『リスク・マネジメントの基礎』（白桃書房）

〈その他〉

講義途中での入室・退室は他の学生に迷惑になるのでやめてもらいたい。

交通論

石井 彰次郎

場所的移動を本質とする交通を研究対象とする学問には、交通社会学、交通心理学、交通経済学、交通経営学、交通法学、交通工学など多くの専門分野がある。

本講義においては、交通の経済学的研究、すなわち部門経済学としての交通論の授業を行う。

経済学的知識を前提として、特殊部門としての交通の諸問題を取上げる。

〔内容〕

- 問題提起
- 交通の概念規定
- 交通における企業形態
- 交通資本の自立化
- 産業資本と交通
- 交通資本の循環
- 交通における規制の発達
- 運賃論

以上の諸項目を交通の今日的課題との関連を指摘しつつ論じる。

〔履修条件〕

- テキストは使用せず
- 参考書は講義において必要に応じてその都度指示する。

〈成績評価〉

期末テスト、レポート、出欠調査（年に数回行う）により行う。

商品学

石崎 悦史

商品の競争という視点から商品学の新しい体系化を試みる。特に商品のデザインやパッケージやブランドがもつ情報発信力に注目し、価格競争以外にも商品の競争要因はあり、それらが複雑にからみあって、我々の目前に具体化している現象を本質的に分析していきたい。したがって講義は我々が日々生活しているなかで目にしている諸現象を理論的に解明していくことを目的としているので、学生諸君の意見も発表してもらう機会を多くし、意見交換をすることによって、「当たり前」と考えられていることを再考するつもりである。企業の商品戦略についても関心をもち、使用対象の提供と利益追求の二重性の意味を考えたい。

- 〔教科書〕石崎悦史『商品学と商品戦略』（白桃書房）¥3,500
- 河野五郎著『使用価値と商品学』（大月書店）¥2,000
- 片岡 寛編著『市場力学を変える商品多様化戦略』（中央経済社）¥1,500

経営管理論

百田 義治

〈講義の要旨〉

今日、日本の経営システムは、「トヨタイズム」という言葉に象徴されるその「効率性」の側面においても、また「長時間労働」や「過労死」という言葉に象徴される「否定的」な側面においても大きな関心が寄せられている。現代社会における我々の生活は、その大部分が企業の活動を媒介に実現されているのであり、物質的にも精神的にも豊かな社会を実現し、働きがいのある労働生活を回復するために、現代企業における経営管理問題に無関心でいられないことは多言を要しないであろう。

経営管理論は、企業の経営管理諸活動を近代化・合理化する技法・制度・理念の提供を課題として誕生したものであり、今日においても、その基本的な性格が実践性にあることは否定できない。すなわち、現代の経営管理論は、めざましい技術革新の進展や著しい国際化の展開、あるいは急速に進行する高齢化社会の到来や深刻化する環境問題、さらには自覚した市民として登場しつつある消費者の行動の多様化など企業を取り巻く諸条件の変化に起因する諸問題に対する実践的な指針・政策を提供するという方策論的性格を一面におい

て有している。

本講義では、このような方策論的経営管理論が提起するさまざまな経営管理の技法・制度・組織あるいは理念・思想の歴史的展開と現状を事実即して具体的に考察する。しかし同時に、経営管理の諸問題は、広義の経済学、あるいは社会科学の対象として位置づけて考察することが必要である。なぜなら、一つには、現代企業の諸活動は、経営者や管理者ばかりではなく、圧倒的多数の従業員の「総労働」として実現されているのであり、そのような総体としての企業構成員すべての労働と生活の豊かな未来を展望することが経営管理論の課題でもある。二つには、現代企業は私企業とはいえ「社会的存在」・「社会的公器」でもあり、国民全体の豊かな未来を展望するという立場から、現代企業の経営管理問題の多様な諸相を歴史的、客観的、科学的に認識し、その問題点を解明することも経営管理論の重要な現代的課題である。すなわち、現代企業の諸活動は企業構成員全体の労働に支えられたものであり、またその諸活動は一般株主や消費者あるいは取引業者や地域住民などの、さらには国際化（グローバルイゼーション）の現状を踏まえれば進出国との関係をも含めて、数多くの利害関係者との多面的で密接なネットワークの中で展開されているのであり、したがって現代企業の経営管理の諸問題は、実践的・方策論的な立場からだけではなく、一般従業員、下請・関連企業、地域住民、消費者などの労働と生活との関係をも視野に入れて検討されなければならないであろう。本講義では、できる限り、このような視点からも経営管理の諸問題にアプローチすることにしたい。

<授業の方法>

授業は、主として、教科書と参考書を素材に授業スケジュールに従って行うが、経営管理問題への関心を鼓舞する意味でも、また経営管理の歴史的展開を学ぶことの現代的意義を理解する意味でも、新聞や雑誌の記事などできる限りアップ・トゥ・デートな生きた題材の利用にも努める。とくに、技術革新や日本の経営や国際化など経営管理の現代的課題を扱う後期の授業では、ビデオなども利用し、できるだけ具体的に現代企業の経営管理の実際を把握することにも努める。

〔授業スケジュール〕

- ①第1週～第2週：経営管理入門（社会と企業；現代企業と経営管理；経営者と労働者）
- ②第3週～第7週：現代経営管理の基本構造（生産管理；労務管理；財務管理；マーケティング；トップ・マネジメント、など）
- ③第8週～第12週：経営管理の理論（科学的管理論；人間関係論；現代組織論；経営戦略論、など）
- ④前期試験（前期最終週）

⑤第14週～第15週：技術革新と経営管理（ME技術革命と労働；現代企業の情報化；OAの進展と事務労働）

⑥第16週～第18週：日本的経営論（日本的労使関係；日本的生産システム；法人資本主義と企業集団；企業社会論）

⑦第19週～第22週：国際化と経営戦略の新展開（日本企業、アメリカ企業、イギリス企業などの具体的事例について）

⑧第23週：現代経営管理の課題と労働の未来

⑨第24週：後期試験

（以上のスケジュールは授業の進め方の基本的な方向です。時間割編成の関係などで若干変更することがあります）

<成績評価の方法>

前期試験と後期試験に、数回のレポートと出席状況を加えて総合的に評価します。

〔教科書〕今井俊一編著『経営学』（八千代出版）1994年

笹川儀三郎編著『現代経営の基本問題（仮題）』（税務経理協会）1994年

〔参考書〕新書・文庫などを中心に随時指定します。

労務管理論

石井脩二

<講義目的>

日本経済の繁栄を支えてきた日本企業の存在意義が問われはじめています。国際的には依然としてくすぶり続ける経済摩擦や経済ブロック化への動き、国内的には政財界ゆ着による倫理性のない企業犯罪の頻発、過労死や長時間労働に示される労働生活の貧しさ、いわゆるバブル崩壊に伴う企業業績の悪化といった情勢のなかで、あらためて日本企業のあり方が問われている。日本企業をとり巻くこれらの環境変動は、日本企業が今後どのような方向へ進んでいくのかという「将来予測」を難しくしている。この変化の激しい時代に必要なのは、現実に生起している事実を可能な限り把握し、そのなかで次なる時代の方向を自分なりに見定めることである。この講義の目的は、日本企業の現実に焦点を合わせ、これから到来するであろう社会がいかなる様相をもつことになるかを考えるための情報を提供することにある。

<講義内容>

企業は、一般にヒト・モノ・カネ・さらに情報といったさまざまな経営資源を調達・購入し、その効果的な組み合わせによって目的とするものを実現していく。日本企業が国際的に強い競争力を発揮しえたのは、これら諸資源のうちヒト資源つ

まり人的資源の活用の卓越性によるといわれている。企業活動のうちで人事・労務管理といわれてきたものが専らこのヒト資源の有効利用に関係している。ところが現在、日本企業がつくりあげてきた強い競争力そのものが問われはじめています。このことは、競争力の源であった日本企業での人的資源管理つまり人事・労務管理そのものがその妥当性を問われているということにはかならない。この講義では、日本企業が直面している企業環境の変化のなかで、どのような人的資源管理が展開されようとしているかを極力最新の情報によりつつ明らかにし、新しい制度・方式の展開の先にもどのような日本企業の将来が浮上してくるかを考える。

前期は、人的資源管理に関わるもののうち、一般に「雇用管理」といわれている領域の問題を扱う。雇用管理とは、企業が必要とする量と質の人的資源を調達し育成する一連の計画的・組織的活動である。この雇用管理を貫いていた原理・原則は、周知の終身雇用慣行であり、年功制度であった。しかし、今日は、日本企業を取りまく環境変動は、従来の雇用管理の原理・原則をゆり動かし、解体の様相さえみせはじめています。この講義では、その変動に関する事実情報を可能な限り把握し伝えようというわけである。講義は、以下の順序で進めていく。

序章

労務管理ないし人的資源管理とは

第1章

日本企業が直面している諸問題

第1節 企業環境の変化と日本企業の戦略転換

第2節 事例研究

第2章

雇用管理の内容と新しい動き

第1節 募集・選考

第2節 教育訓練・配置

第3節 昇進・昇格

第4節 給料・報酬

第5節 労働時間

第6節 定年退職

第3章

人事制度の新しい展開

第1節 変化を促進した要因

第2節 具体的制度とその有する意味

<授業方式>

授業は、講義方式、板書。出欠にはこだわらない。但し前期・後期それぞれに試験を行う。

<成績評価>

前期(50点)、後期(50点)を総合して判定する。試験内容の評価は、答案の論理性と説得性にもとづく。勿論、講義内容をふまえていることを条件とする。優・良・可・不可の配分は行わない。全員の答案がすぐれていれば全員が優と判定され

ることもありうる。また、その逆も極端な場合には生じうる。

[教科書・参考書]

テキストは使用しない。しかし、以下の文献は必読。講義時間にプリント配布。

- ① 日本経済新聞社編『ゼミナール現代企業入門』(日本経済新聞社)¥2,800
- ② 日本経済新聞社編『会社解体新書』(日本経済新聞社)¥1,300
- ③ 日本経済新聞社編『テラスで読む当世労働事情』(日本経済新聞社)¥1,300
- ④ 佐野陽子『企業内労働市場』(有斐閣)¥1,700

財務管理

高橋 昭三

<講義目的(要旨)>

財務管理の研究が対象としている領域は、企業が経営活動に必要な資金を株式、社債、CPおよび銀行借入等によって調達し、それを設備やM&Aなどの長期・固定的な投資や短期的な運転資本および金融資産等に運用する、いわゆる財務活動である。この領域は、ここ10年足らずの間に世界的な規模で展開された「金融・資本市場の国際化・証券化・自由化」のもとで多様な発展をとげ、数年前までは企業本来の営業活動の利益に比肩する利益をもたらして「財務の時代」といわれるほどの脚光を浴びた分野である。しかし、現在いわゆるバブル経済の崩壊とともにその在り方に再検討が進められている分野でもある。このような矛盾を含んで展開されている企業の財務活動を対象とする財務管理の講義では、近視眼的な「ノウハウ」の観点からではなく、現代の企業の代表的な形態である株式会社の発展と共に展開されてきた資本の調達と運用の諸々の技法を歴史的・理論的に考察することを主眼とした。

<授業の内容と授業計画>

- (1) まず財務管理を理解するに不可欠の基礎的な諸概念、例えば資本の循環と回転・固定資産と流動資産、収益性と財務流動性の均衡、資本コスト等を解明する。
- (2) つぎに現代株式会社の基本的な特徴 — 「譲渡自由な株式制度」のメカニズムの理解にもとづいて、株式会社の多種多様な資本調達方法(株式・社債・CP発行等による会社金融)を説明する。

以上の(1)と(2)は前期(夏休み前)で済ませ、後期では資本の運用の面に重点を置き、以下の順序で講義する。

- (3) 長期・固定的な資本支出の管理(資本予算論

あるいは投資管理論)

- (4) 在庫投資等の短期的な運転資金の管理
- (5) 配当政策 (内部留保にもとづく成長政策)
- (6) 資本市場の国際化・自由化のもとの企業の財務戦略 (為替リスク・ヘッジや金融先物取引ならびにM&A等について)

なお、講義を進めるうえで、プリントを配布して具体例を示したり、随時、新聞記事などの解説を織り込んで理解を深めてもらうようにしたい。

〈履修条件および成績評価の方法〉

企業の財務動向についてはよく新聞紙上に報じられるので日本経済新聞や朝日・読売等の全国紙を読む習慣を身につけること。また、講義をどの程度理解したかを知ること、成績評価に資するために、授業時間中に簡単なテスト (20~30分程度の小テスト) を前・後期とも数回ずつ実施する。なお成績評価は学年末に筆記試験またはレポートによって評価するが、上記の小テストの成績を加味する。

〔教科書〕高橋昭三『現代経営財務』〔三訂版〕
(税務経理協会) ¥3,100

〔参考書〕高橋昭三編著『資本市場の変容と経営財務』(中央経済社) ¥3,000
後藤幸男編『現代の企業財務戦略』
(中央経済社)

水越 潔編著『新金融証券市場と会社財務』(税務経理協会)

会計監査論

飯 岡 透

会計監査の目的は、企業の作成した財務諸表がその企業の財政状態や経営成績を適正に表示しているかどうかについて、監査人が意見を表明することであり、企業規模の拡大、利害関係者の多様化および企業活動の複雑化に伴い、近年、その役割はますます重要になってきている。

本講座では、次の内容につき順次講義する。

- 1. 会計監査の目的と種類
 - (1) 会計監査の目的
 - (2) 会計監査の種類
 - (3) 監査基準の必要性とその構造
- 2. わが国における監査制度の発展
 - (1) 戦前におけるわが国監査制度の展開
 - (2) 戦後におけるわが国監査制度の展開
- 3. 証券取引法による監査制度
 - (1) 証券取引法による企業内容開示制度
 - (2) 公認会計士監査制度
- 4. 商法による監査制度
 - (1) 商法による計算と公開制度
 - (2) 監査役監査制度

- (3) 会計監査人監査制度
- 5. 監査人の要件と責任
 - (1) 監査人の要件
 - (2) 監査役および会計監査人の選任と解任
 - (3) 監査役および会計監査人の職務権限と責任
- 6. 監査証拠の種類と内容
 - (1) 監査証拠の意義と分類
 - (2) 十分な証拠とその決定要因
- 7. 内部統制と監査リスク
 - (1) 内部統制の構成要素とその評価
 - (2) 監査リスクと重要性
- 8. 監査要点と監査手続の選択適用
 - (1) 監査要点の意義と種類
 - (2) 監査手続の意義と分類
- 9. 監査計画の設定要件と組織的監査
 - (1) 監査契約と予備調査
 - (2) 監査計画の目的とその設定
 - (3) 組織的監査の必要性と審査機能の整備
 - (4) 他の監査人の監査結果の利用
- 10. 監査調書の目的と種類
 - (1) 監査調書の目的と作成要件
 - (2) 監査調書の種類と保存
- 11. 経営者による確認書の意義と記載内容
 - (1) 経営者による確認書の役割
 - (2) 経営者による確認書の記載内容
- 12. 監査報告書と監査概要書
 - (1) 監査報告書の意義と機能
 - (2) 監査報告書の種類
 - (3) 短文式監査報告書の記載内容
 - (4) 特記事項の記載内容
 - (5) 監査概要書の目的と記載内容

会計監査は、財務諸表の適否についての意見表明を目的とするものであるから、会計学総論、簿記論および財務会計論などの講義を履修し、財務諸表について十分に理解していることが望まれる。なお、成績は、レポートおよびテストの結果によって評価する。また、教材・参考書については、最初の授業時に指示する。

管理会計論

中 原 章 吉

〈授業の主たる内容〉

「管理会計」という分野は、多くの人にとって、大学に入って初めてお目にかかるものです。どの分野でも、ある段階に達するまでには、何段もの階段を一段一段昇ってゆかねばなりません。この「管理会計論」は、その二段目にあたる科目です。一段目の科目は「会計学総論」です。

「管理会計論」は、企業の「ことば」である会計、その知識体系である会計学の学習に必須な会

計学の主要な2領域である「財務会計」と「管理会計」のうちの一つであるということができると思います。「財務会計」が企業の外への「ことば」であるのに対して、「管理会計」は企業の内での「ことば」です。

〈授業項目と授業スケジュール〉

前期は、管理会計の本質、体系その中での意思決定会計と業績管理会計をキーとして管理会計の基礎的概念を説明すると共に予算管理や原価管理との関連についても講義していきたいと思ひます。

後期は、管理会計の豊富な各論のなかから、「財務諸表分析」と「付加価値管理会計」をキーとして管理会計の問題点を検討します。「財務諸表分析」については、その企業の健康診断としての役割を、方法とその留意点、収益性の分析、生産性の分析、安全性の分析、総括的方法を内容として説明します。「付加価値管理会計」については、経営計画とくに要員計画と付加価値会計、経営管理のための付加価値生産性を内容として説明します。

〈予め読むべき文献など〉

1年生で「会計学総論」を選択しなかった経済学科の学生は会計学の入門書を読んでおくと講義が理解しやすいと思ひます。例えば、『企業会計の基礎知識』（創成社）

〔教科書〕講義の際、指示します。

税務会計論

市川 深

税務会計論という文字からは、ほのぼのとしたメルヘンもロマンも思い浮かず、誰も毛嫌いしがちであります。しかし、将来企業経営に携わる人はもちろん、そうでない人でも、税とのかかわりなしに生きられませんし、そのかかわり方によっては、税に無知のために一生に一度や二度呻吟させられることも少なくありません。

本講義では、税法についての大綱を日常生活に関連させ、わかり易く、毎回プリントを配布して、興味深く展開するようにします。最初は個人に課せられる税（所得税、相続税）、ついで企業に課せられる税について学びます。

税務会計論の講義をとおして、学問と芸術を愛する心が皆さんに醸成されることを念じています。

〔教科書〕市川 深著

『相続税判例コメンタール』

（税務経理協会）

〔参考書〕講義の都度指示します。

民法二部

青野博之

〈講義目的（要旨）〉

生活に関連するものとして、民法を学ぶ。債権法を講義内容の中心にする。民法全体のイメージをつかむためにも、民法の体系性からしても、できれば、民法一部を既に受講していることが望ましい。あるいは、民法二部と並行して民法一部を受講していただいた方が受講生のためになると思ふ。しかし、民法一部を受講していない学生にもわかっていただけるように努力するので、受講生はそれほど心配しなくてもよい。

債権法の中で、自分と他人との関係を権利義務という法律の目でみるができるようになれば、講義目的は達成される。自分に他人に対して何をなぜ主張することができるのか（権利）、自分は他人に対してなぜそんなことをしなければならないか（義務）を受講生自身が考えていけるように講義を進めたい。質問は大歓迎である。

出席者がそれほど多くなければ、私から受講者に質問しつつ、受講者に民法の条文を読み上げていただきながら、私の講義を聞いていただくことになると思われる。

〈授業内容・授業計画〉

前期

債権総論（民法三九九条から五二〇条まで）。

4月、債権法の序説（たとえば、債権は物権とどこが違うか）、債権の目的（たとえば、利息はいくら高くても支払うと約束した以上払わなければならないか）。

5月、債権の効力（たとえば、売主が約束通りに物を渡してくれないときに買主はどうすればよいか）。

6月、多数当事者の債権関係（たとえば、他人の保証人になるとどのような不利益を受けるか）、債権譲渡、債務引受、契約上の地位の譲渡。

7月、債権の消滅（たとえば、銀行に定期預金をしている人には銀行が比較的容易にお金を貸すのはなぜか）。

後期

債権各論（民法五二一条から七二四条まで）。

9月、契約総論（たとえば、売主が物を渡さないのに買主は代金を支払わなければならないか）。

10月、契約各論（たとえば、土地を買ったところ、約束通りの面積より不足しているときはどうすればよいか）。

11月、契約各論（たとえば、自分の借りたアパートを自分の好きなように使うことができるのか）、事務管理、不当利得。

12月、不法行為（たとえば、自動車事故にあっ

た場合において相手にどのような理由で賠償金の支払を請求することができるか)。

1月、質問に答える(受講生からの質問には毎回の講義時間の際に答えるが、それとは別に質問時間を設ける)。

<評価方法>

出席して質問をした回数、およびその質問の内容を重視する。出席者に対して私の方から質問をするので、これに答えてくだされば、これもカウントに入れる。正しい答えでなくともよく、自分で考えた答えであればよい。自分で考えることに意味がある。答えられなかったとしても不利には扱わないので、安心して質問に答えてほしい。出席したらできるだけ、質問をし、私からの質問に答えることが結局受講生のためになる。また、私のためにもなる。したがって、質問および回答はこの講義を進める鍵である。試験に際しては一切の持ち込みを不可する。

<教材>

教科書:我妻 栄・有泉 亨著(水本 浩補訂)『民法2(債権法)』(一粒社),教科書は,上記のものを使うが,ほかに自分が気に入ったもの,手持ちのものがあれば,それでもよい。

六法:憲法・民法・刑法・商法・民事訴訟法・刑事訴訟法を中心として法律を集めて編集したものを六法と呼んでいる。受講する際にはぜひとも六法を持ってくること。外国語を学ぶ際に辞書が欠かせないように,法律科目を履修する際には六法は不可欠である。六法は,『ポケット六法』(有斐閣),『コンパクト六法』(岩波書店),『デイリー六法』(三省堂)などの大きさ(厚さ・値段)のもので十分である。『コンサイス六法』(三省堂),『判例基本六法』(岩波書店),『判例六法』(有斐閣)を進んだ勉強をしたい受講生に勧める。『口語〜』という書名のついたものでもよい。六法は毎年出版されるので,新しいものの方が望ましい。

商 法 一 部

荒 木 正 孝

この講義では,商法総則(法例,商人,商業登記,商号,商業帳簿,商業使用人,代理商)および会社法(総則,合名会社,合資会社,有限会社,株式会社)の基本的な事項について説明する。

商法は,民法を一般法とする特別法であるから,民法総則,物権法,債権総論の基本的知識があれば一層理解しやすいと思います。

講義のやり方としては,限られた授業時間をできるだけ有効に使いたいで,議論の多い会社法に多くの時間を割き,会社法を理解するために必

要な限りにおいて商法総則に触れることにしたい。また,会社法のなかでも現代社会において国民の経済生活に大きな影響を及ぼしている株式会社について,その生成,機能,構造,消滅などの私法的側面を規整する株式会社法に重点を置き,重要問題を中心に法規,学説,判例および実務の取り扱いなどを検討し,会社法の基本原則を理解できるようにする。

〔教科書〕荒木正孝著『現代企業法(商法総則・会社法)』(成文堂)

〔参考書〕奥島・中島編『商法演習I(会社法)』(成文堂)

鴻・竹内・江頭編『会社判例百選(第5版)』(有斐閣)

商 法 二 部

前期:宮 島 司
後期:島 原 宏 明

<講義目的(要旨)>

手形・小切手の一般的講義を行う。近時においては,権利が証券上に化体された有価証券が経済上も法律上も重要性を帯びてきており,有価証券基本法である手形・小切手法を知ることが特に要請される。

手形・小切手とは一体何であるのか,それが振出され,譲渡され,決済されて行く過程を,手形・小切手法との関わりから考察してみることとする。従って,商法としての手形・小切手法の講義ということになるが,その前提には,民法の法律行為論の理解が必要となる。講義中も必要な限りで法律行為に触れることになるが,予備知識があればより望ましい。

前期は,手形行為を中心とした総論的問題について考える。

後期は,約束手形を中心に,振出,裏書・支払等について考える。

<評価方法>

筆記試験により評価する。

<教材>

特に教科書は指定しません。担当者は交付契約説という立場に立つが,それ以外のいずれの立場による参考書であっても,自らの理解の助けとなるものであれば,一冊買っておいても良い。

二,三参考までに挙げておく。

〔参考書〕田辺光政『最新手形法小切手法』(中央経済社)

前田 庸『手形法・小切手法入門』(有斐閣)

木内直彦『手形法小切手法』(勁草書房)

労働法

藤本 茂

労働法とは、雇用労働関係において生起する問題を取扱う法領域で、大まかには、労働保護法と労使関係法の領域からなる。

労働保護法は、個別的労働関係法とも呼ばれ、労働者個人と使用者との間の労働契約を通じて形成された関係を規整する法領域のことをいう。労働保護法は、資本主義の形成発展と共に、労働者にかされた苛酷な雇用労働の実際を背景に労働者の労働条件や労働環境を改善するために、徐々に形成された法領域である。わが国では、特に第二次大戦後、憲法27条の勤労権によって「労働基準法」が制定された。現在では、「労働基準法」を中心に「最低賃金法」「男女雇用機会均等法」などがある。

労使関係法は、集团的労使関係法とか労働団体法とも呼ばれ、労働者集団＝労働組合と使用者（団体）との間の関係を規整する法領域のことをいう。また、労働者集団も組織である限りにおいてその中には一定のルールがあり、そのルールの規整もこの法領域の検討対象である。労使関係法がわが国で日の目を見たのは第二次大戦後の占領期で、民主化政策の一環としての労働組合の保護助長政策としてであった。そのような経緯からわが国の労使関係法はアメリカの影響を受けている。制定法では、憲法の労働基本権による「労働組合法」「労働関係調整法」などがある。

以上のように、労働法は第二次大戦後に本格的に出発発展し、現在に至っている。労働法は、社会構造の変化や労働者の意識の変化によって、絶えず、法理の妥当性に検討が加えられるとともに、制定法の改正、制定もなされている。特に近年は、労働保護法の領域で盛んに法改正がなされているし、またなされようとしている。

授業としては、近い将来、身近に接することになるであろう現行法制での労働関係における基本的な事項を採り上げ、検討するつもりである。したがって、講義は、法律条文の単なる説明は極力避けるとともに、判例の動向、行政の考え方と言及し、なるべく具体的出来事との接点を意識しつつ行いたい。

授業のスケジュールは、以下のとおりである。

はじめに、基礎的用語

1. 労働保護法

- ① 労働基準法の特色
- ② 労働の自主性確保のための法的措置

- ③ 労働条件の決定
- ④ 平等取扱い
- ⑤ 契約成立、採用内定、配置転換
- ⑥ 解雇
- ⑦ 就業規則
- ⑧ 賃金、賃金の法的保護
- ⑨ 労働時間

2. 労使関係法

- ① 団結権保障と労働組合
- ② 労働組合の組織と運営
- ③ 組織強制と統制
- ④ 組合活動、不当労働行為制度
- ⑤ 団体交渉、労働協約
- ⑥ 争議権

出欠については、出席を単位取得の必要条件とはしない。しかし、出席しないで単位を取ることは難しいことを、承知しておくこと。

成績評価は学年末試験を最重要視する。学年末試験を受験しない者は、評価の対象外とする。レポートなども評価の参考として課すこともありうる。

<参考書等>

六法は用意して頂きたい。コンパクトなもので結構であるが、最新のを用意すること。

参考書は、特に指定はしない。図書館にあるものなどを見て、自分にあうと思われるもので結構。例えば、基本法コンメンタール『労働基準法（3版）』（日本評論社）、基本法コンメンタール『労働組合法』（日本評論社）とか、青木宗也・金子征史著『労働関係法』（日本評論社）、菅野和夫著『労働法』（弘文堂）のような教科書などがある。最近の教科書では、小西・渡辺・中島著『労働関係法』（有斐閣）がある。

経済法

川井 克 倭

<授業の主たる内容>

自由主義経済を採る国の経済政策の基本となる独占禁止法を中心として講義する。

経済法とは何か。自由主義経済と競争との関係、競争政策の意義などについて概観した上で、経済法における独占禁止法や消費者保護関連法などの位置づけを行い、その上で、独占禁止法を中心として解説する。

授業形態としては、受講生の意向にもよるが、受講生の負担を考慮すれば、講義制となることも止むを得ないであろう。

<授業項目と授業スケジュール>

第一部と第二部に分ける。

第一部では、経済法を概説する。第二部では独

占禁止法を中心として解説する。前期では、第一部と第二部のうちの一部、後期では第二部の残りを解説する。

〈履修条件等〉

特別の履修条件はない。しかし、授業内容が社会主義経済がなぜ失敗し、自由主義経済がなぜ残りえたのか、自由主義経済の根底にある理念と競争政策の関係、国際社会における経済政策の調和など、現代社会の歴史的流れを独占禁止法をとおして社会科学的にみていくのであるから、そういうことに興味を持たない学生には無理である。

受講態度が悪い学生に退席を求めることもある。

成績評価は、年度末の試験を中心とするが、前期末に簡単なレポートを提出させる。また、出席点はプラス方向にのみ加味することとする。

〔教科書〕川井克俊著『競争政策法概説』

〔参考書〕授業のなかで適宜紹介することとする。

についての解説を中心に行います。この時期に今まで学んできたものの再確認をしてもらいたいと思います。

後期

読んでいくペースをやや早めて、現代経済学についての少し専門的な説明に重点をおきたいと思えます。専門的内容といっても、丁寧に説明するつもりですので、おそれることはありません。

〈評価方法〉

平常点（授業の出席・様子等）と後期レポートによって評価します。また、臨時に課題を出すことがあります。

〔教科書〕随時、配布します。

原書講読Ⅰ・Ⅱ

岩 下 弘

欧米の流通に関する文献を読む（英語）
テキストはそのつど配布する。

原書講読Ⅰ・Ⅱ

色 川 卓 男

〈講義目的〉

現代経済学に関する包括的な英語論文を抜粋して読んでいきたいと思えます。最終的には、現代経済学的一端が理解できるようになれば、と考えています。なお、英語や経済学等については、基本的な点から丁寧に説明するつもりですので、おそれず参加して下さい。

〈授業内容〉

科目の性格上、講義のような形式をとれません。学生の皆さんに訳出してもらい、それに対して様々な解説を加えたいと思えます。また質問等があれば、できるだけお答えしたいと思います。

〈授業計画〉

前・後期を通じて、現代経済学に関する雑誌論文等を読む予定です。実際に読んでいく論文は開講時に参加者との相談の上、決めたいと思えます。なお、各期の具体的な方針は以下の通りです。

前期

英語の文法的解説や経済学の基本的な用語等に

原書講読Ⅰ・Ⅱ

大 吹 勝 男

〈講義目的〉

諸君らの多くが将来なるであろう、ホワイト・カラー労働者（サラリーマン）について考えるための材料を提供することを目的とする。

〈授業の運営方法〉

ゼミ形式でテキストの輪読によりすすめる。

〈評価方法〉

レポート・訳文の提出等による予定。

〔教科書〕『WHITE COLLAR PROLETARIAT』

原書講読Ⅰ・Ⅱ

小 杉 修 二

現在の中国の「最高実力者」鄧小平の著作を読む。参加者は中国語履修者であることとする（中国語を母国語とする者は日本語への厳密な翻訳能力を目標とする意欲のある者に限る）。

〔教科書〕プリントして配布する。

原書講読Ⅰ・Ⅱ

齊 藤 正

〈授業の内容・目標〉

近年、自由化・国際化は世界的な潮流であるが、それに伴い金融環境は大きく変化し、従来の理論的枠組みではとらえきれない諸問題が次々に生起している。本年度は、昨年度に続き、Sarkis J. Khoury, *The DEREGULATION of the WORLD FINANCIAL MARKETS* を読むが、授業の目標は、第1に、各国（米、英、日）の自由化の実際を比較

検討しつつ、なぜ、80年代以降自由化・国際化が共通の流れになったのかについて理解を深めること、第2に、自由化・国際化の問題点はどこにあり、今後どのような制度が望ましいのかについてそれぞれの見解を獲得すること、に置いている。さらに、経済英語の読解力の向上、専門用語（テクニカル・ターム）の習得も重要な目標である。

〈授業の進め方〉

授業は各自があらかじめ分担した箇所を訳出したうえで、討議する方法をとるので、訳出者は十分準備して、大意を把握して授業に臨んで欲しい。なお、訳出の分担は一回の授業で5名程度を予定している。

〈履修に際しての要望〉

自ら英語を読み、理解する姿勢が重要ですから、「この際、原書に挑戦しよう」という意欲的な諸君の履修を望みます。なお、受講登録の前に、第1回目の授業に必ず出席して下さい。

〈成績評価の方法〉

通常の授業態度（出席状況、事前の準備状況、授業への意欲等）、及び読解力を基にして総合的に評価する。前期・後期とも試験は行わない。

原書講読 I・II

清水 卓

〈授業内容〉

イギリスの立場からの欧州共同体の現状分析を行っている文献を講読します。扱っている分野は、単一欧州議定書とEC政策決定機構、欧州統合の制度的展開、イギリスの加盟問題、EC財政問題、共通農業政策問題、各国経済分析、通貨問題、社会的統合、ECにおけるイギリスの役割、単一市場の将来などです。

この文献は、ECのなかでも、独自の立場を堅持しようとするイギリスの眼からみたEC論であり、EC委員会を中心とするECの公的機関の見方とは異なった視点を提供してくれるという点で興味深いものです。

扱っている分野が広範囲にわたっているので、ECについての入門書としても有益であると思います。ただし、入門書といっても、日本の新書版程度の文章でありますから、内容を正確に理解することはそれほど容易ではありません。

これまでの授業で、既に幾つかの分野は読了しています。本年度は、共通農業政策と通貨問題を読みたいと思います。受講希望者は、日本経済新聞社「ECの知識」有斐閣「EC経済を見る眼」を事前に読んで、ECについて、ある程度の基礎知識を得ておいて下さい。

〈授業方法〉

毎週参加者は1人1ページ程を割り当て、翻訳を文章にしてきてもらいます。英語力にもよりますが、そのための準備には2時間程度は要するでしょう。

〈成績評価〉

毎週の授業における発表、出席状況で成績を評価します。試験は行いません。

〔テキスト〕第1週に配布します。受講希望者は第1週の授業に必ず出席して下さい。

原書講読 I・II

中 田 秋 男

〈講義目的（要旨）〉

フランスにおいて、1970年代の中頃よりレギュラシオン（Régulation）という概念を使用しながら、新たな現代資本主義社会の分析を展開してきている潮流がある。授業では、このレギュラシオン学派と呼ばれているグループの論文を英語と仏語で読んでいく。

前 期

レギュラシオン学派の出発点は、第二次大戦後にみられた持続的、かつ規則的な高度経済成長（「黄金の30年」）と、60年代末以降にみられる緊張と矛盾の高まり（「苦悩の20年間」）とを如何にして、同一の理論装置で説き明かしようのか？という問いである。

前期の授業では、レギュラシオン学派がどのように形成されてきたのかを三つのグループ（①国家独占資本主義論グループ、②グルノーブル・グループ、③パリ・グループ）の検討を通して明らかにする。特に、パリ・グループに関しては詳しく検討する必要がある。何故なら、彼等のグループこそ、いわゆるレギュラシオン学派と呼ばれるのに値する理論的体系性を兼ね備えており、すでに多くの実績を挙げているからである。

従って、次の問題として、彼等の理論的枠組を構成している、現実分析の為の媒介諸概念を考察しなければならない。すなわち、

- ① 蓄積体制
(a. 外延的蓄積体制 b. 内包的蓄積体制)
- ② 制度諸形態
(a. 賃労働関係 b. 資本間競争 c. 国際諸関係 d. 国家の役割)
- ③ 調整様式
(a. 旧式的調整 b. 競争的調整 c. 独占的調整)
- ④ 危機の諸水準および諸類型の区別
a. 「外的」攪乱としての危機？
b. 循環性危機 — 安定的発展様式内部での調

整の構成要素 一

- c. 調整システムそれ自身の危機
- d. 蓄積体制プラス調整システムの危機

等々の概念を理解する事。

後 期

前期は抽象的な次元で、レギュラシオン学派の理論的枠組を学んだが、後期では、具体的にこれ等の概念用具を用いて分析された各国別のプロブレマティークをみていく事とする。その際、各人が興味ある国を受けもって、それぞれ、レギュラシオン学派の分析の意義と限界を明らかにしていく方向で検討していく。尚、原書講読という科目の性格上、語学力について多少の不安を抱いている学生諸君もいるかと思うが、その点についての心配は全くありません。何でも理解するにはそれなりに時間がかかるものです。約9年間の留学生活の経験をもとに、どのように語学を学んだら良いのかについても、一緒に考えてみたいと思っている。残り少ない大学生生活を新たな気持ちで、もう一度始めてみようと考えている学生諸君には、是非参加される事を大望する。Vouloir, c'est pouvoir!!

<評価方法>

出席および平常点を重視。一年間、同じ時間と空間を共に過ごす以上は、お互いの発展に結びつく創造的な授業空間を考えたい。

〔教科書〕テキストはコピーして配布します。

〔参考書〕最近、レギュラシオン関係の書物は大部分多く出版されているので、必要に応じて授業中に指示する。取り敢えず次の2冊は必読。

R. ボワイエ『レギュラシオン理論』
(山田鋭夫訳, 新評論, 1989年)

M. アグリエック『資本主義のレギュラシオン理論』(若森章孝他訳, 大村書店, 1989年)

原書講読 I・II

百 田 義 治

<授業内容>

本年度は、経営学の基礎理論であるF.W. Taylorの経営管理学説に関する文献を輪読する。「科学的管理」(Scientific Management)の父とも呼ばれるF.W. テイラーは経営学の発展に最大の貢献をした者と評価されている。また、彼が展開した「科学的管理論」は経営学の「成立指標」と位置づけられている。F.W. テイラーの「科学的管理論」それ自体は世紀転換期アメリカの工場管理の「近代化」・「合理化」を直接的な対象としたものではあるが、しかし「科学的管理論」に盛り込まれ

ている経営管理(マネジメント)に関する基本的な思想は、その後の経営管理の歴史的発展の中で、経営管理の過程的に分化した諸領域(販売管理、購買管理、生産管理、人事労務管理、事務管理など)に、また階層的に分化したトップ・マネジメント、ミドル・マネジメント、ローア・マネジメントの諸領域の管理にも拡大・適用されている。したがって、F.W. テイラーの「科学的管理論」を学ぶことは、経営学の基本的な性格、理念、技法、制度を理解することでもある。

<授業の方法>

テキストを輪読する形式で授業を進めるが、ある程度のスピードで読まないとな全体の輪郭がつかめず、議論を行うことが困難である。受講者数にもよるが、一定の予習と割り当てられた部分(各人1週1頁程度)を事前に訳して授業に参加することが必要である。英語にある程度の実力を有し、経営学に関心がある学生の受講を希望する。

<成績の評価>

授業における発表の内容と出席状態で成績の評価を行う。前期試験および後期試験は行わない。

〔教科書〕随時配布する。

〔参考書〕随時指定する。

原書講読 I・II

福 原 好 喜

カール・マルクス『資本論』(ドイツ語)を講読する。在職中に第三巻の終りまで行くのが私の夢である。今年度は恐らく価値形態論を読むことになる。講義は訳のみでなく、内容の詳しい説明検討を行う。授業は少人数なのでゼミのような雰囲気である。学生諸君からの希望があれば、夏休みなどに泊り込みで勉強することもある。受講者は、第二外国語としてドイツ語をとった人、あるいは独学でもドイツ語の素養のある人が望ましい。(毎年夏休みには私のところにドイツ人の家族が泊りに来るので彼らと交歓の機会が持てたらと思っている。)

原書講読 I・II

古 沢 紘 造

現代アフリカの社会、経済に関する文献(英語)を輪読する。アフリカは世界で最も遅れた大陸といわれているが、「人間の生活そのものの豊かさ」からみたらどうだろうか。第三世界に対する私たちの考え方の底にある偏狭で独断的なものを見つめなおしてみたい。文献としては、アフリカの新

聞に掲載されている論説、エッセイ、小説、投書などを使うことにしたい。輪読のあと、内容について活発な討論が行われることを大いに期待している。評価は前期・後期のレポート提出による。

原書講読Ⅰ・Ⅱ

三井逸友

「原書講読」のねらいは、外国語による専門文献とともに読み、ナマの材料による深い知識をえるとともに、外国語による読解力を実践的に磨くことにあると考える。しかし残念ながら、これまでの経験から、多くの学生諸君の語学力は応用はもとより、基礎からかなり心もとないものであると、判断せねばならない。

「国際化時代」の今日、国際共通語としての英語を「読み・書き・話す」能力はあらゆる機会にますます必要なものになってきている。それなのに、英語の授業を8年以上も受け、難関の入試を突破してきてなお、どうして英語の基礎的実力が身につかないのか？私の考える問題点は次のようなことである。①もちろん、コトバを単に試験のために記憶するもの、いやいややらされるものと受けとめては、向上はない。②同様に、英文を理解するとは、辞書を手がかりに1つ1つの「コード」を邦文に判読置換していく「暗号解読」としていても、進歩はない。③さんざんいじめられた「学校英語」「受験英語」は無用の物で、まったく別の「ホンモノのエイゴの世界」があるはずだ、といった「エクスキューズ」ばかり考えていても、何にもならない。④同様に、英文を読まされるばかりの英語教育だから、聞けない話せないになるんだ、といったよく聞かれる「批判の声」にうなずいているのは、実は空しい。「逆は真ならず」で、残念ながら教科書の英文程度を理解できない人には、「駅はどこですか？」位しか話せずに終わるのである。

では、どうしたらよいのか？そうしたことを「原書」を素材に、実践的に説明し、学生諸君の本来備えている基礎力を前向きにのばそうというのが、この時間のねらいである。ただしそのために、最低限守ってもらいたいことは、①この機会を利用して、「使える語学力」を少しでも身につけたい、という積極的な意欲と熱意をもって臨むこと。②よい辞書（フリガナつき・中学以来愛用といった代物ではない、中級以上の、例文豊富なもの）を備え、労をいとわず辞書をひく習慣をつねに保つこと。③中・高校以来の「英文法」、「予備校的英文解釈法」といった説明にアレルギー反応をおこさず、それがいかに大切か得心し、忘れたところがあればすぐ教科書をひっぱり出し

て復習する気力を失わないこと。④何よりも「コトバ」は「音」からはじまっていることを念頭におき、恥ずかしがらず音読に心がけること、以上である。

担当者は以上の考え方でこの時間を例年すすめてきたが、近年履修者が著増し、喜ぶべきことというより、少々困惑している状態である。そのため、「居眠りしていても、来ていれば単位になる」などという誤解をしている諸君には履修を遠慮ない、毎回出席を前提に、密度の濃い、ディスカッションと質疑応答式の授業をすすめたい。うへの趣旨と姿勢に賛同する、意欲ある諸君の参加を待つ。

テキストそのものは、新年度開始時に準備したが、基本的には、担当者が関心をもってとり組んできている、EUやEU加盟国での経済政策・産業政策、あるいは企業経営などに関する最新の文献をとり上げてみたい。詳しくは、履修者の希望に沿って考えるつもりである。激動する欧州の政治・経済・社会や日本との比較、日系企業の活動などにある程度の関心をもってもらうことが望ましい。関連する資料、新聞記事等も配布する。

なお、単位取得ならびに成績評価については、従来から出席状況と学年末試験によって認定を行ってきた。この方針は本年度も変わらないが、履修者諸君の意欲も加味してみたい。

〔教科書〕特に指定しない。

現代経済事情Ⅰ（総合商社論）

井田福蔵

〈講義目的（要旨）〉

二十一世紀に向けて世界の政治・経済・社会において、大きな構造変革が予想される中で、総合商社は、世界の動向を把握し、将来を予見して、国際ビジネスに果敢に挑戦している。その柔構造を持った巨大パワーが、商社マンの力強い情熱に支えられて、来るべき地球時代に焦点を合わせ、総合商社は国際総合企業を目指して、着実に前進している。

日本の総合商社は世界でも非常にユニークな存在であり、取扱商品が多種多様で、商活動が広範囲にわたり、提供する機能が多岐にわたる強大な多国籍企業であるので、その実態を一語で云い切れることは難しい。

9大総合商社の売上高の合計は、年間120兆円にもなり、（ちなみに日本のGNPの30%に当る）、この9社で日本の輸出の40%、輸入の65%（1991年の実績）を取り扱っている。一般的にはこの9社が総合商社（GENERAL TRADING COMPANY SOGO-SHOSHA）と云われている。

そこで、戦後48年間の日本の縮図とも云われる総合商社の発展過程及び機能と役割について、商社マンとしての実践的体験を基に、具体的な説明により、その実態の解説をし、あわせて総合商社の将来を論じたい。総合商社は、いつもその時代時代のニーズに極めて敏感に対応しながら、その役割を果たして来たが、今や協調の時代に入った世界経済と、国際的な「共生」(SYMBIOSIS)が課題となっている日本の産業の中で、国際的ビジネスの推進者として期待されている。

国際的ビジネスマンを目指す若い人々に、海外ビジネスの体験を紹介して、その現場感覚と臨場感を持ちながら、国際ビジネスの世界への関心を一層高めるためのお役に立てるような講義になれば幸いである。

<講義内容>

次の4つの視点から、具体例をあげ、帰納的な考察をしながら、総合商社の実態を解説する。

(1) 総合商社の歴史と発展

鎖国貿易・商館貿易時代から、明治時代、太平洋戦争後の復興期、それに続く高度成長時代、オイルショックによる産業構造の変化、プラザ合意と円高不況、平成景気とバブル崩壊期まで、日本経済の変遷とその時代時代の環境の変化に対応しつつ発展した過程をみる。

(2) 総合商社の商活動と機能

総合商社の活動と、取引機能を中心とした多様な役割と機能は、時代や社会の要請に応じてダイナミックに変化している。金融・情報・オルガナイザー(組織化)・マーケティング機能などを高度化しつつ、国際性に立脚した新しい機能を創設している。

(3) 総合商社を取り巻く環境の変化と課題

ボーダレス時代に進む世界経済のブロック化、世界情勢の激動と市場の変化の中で、又日本国内の、「輸出入国論」の修正、消費者のニーズの多様化、商社機能の低下などにより、環境はますます厳しくなっている。「商社斜陽論」や「商社冬の時代」を克服して来た総合商社は、今新たに様々の課題に直面している。

(4) 総合商社の未来像

二十一世紀を目指し、新しい総合商社への国際戦略を立て、世界的規模での総合化を図り、地球時代の国際総合企業になっていく日本の総合商社は、日本及び世界の構造変革に合わせて自己変革をしながら、柔軟で機敏に対応していくことで、自らの将来への道を大きく開いていくとしている。

[教科書] 特定の教科書は指定しない。

[参考図書・資料] 開講時に紹介する。

現代経済事情Ⅱ (広告と国民生活)

松村 勇

<授業の問題意識>

「広告」というコミュニケーションシステムが現代国民生活との関わりの中でどの様な問題を抱え、近い将来にどうなっていくのか、又、どうなるべきなのかを考察するのが本講の主旨である。極端なバブル崩れの後、わが国の経済は未だ経験したことのない不況に陥っている。国民生活はかなり疲弊してきている。一日も早くこの不況を脱して真に生活大国と言うに適わしい国民生活の実現に向かうことが、衆目の一致する最重要課題である。そのために、政治・経済・社会全ゆる局面での見直しとリストラクチャー・リエンジニアリングの遂行が急務とされている。広告においても同様、いやむしろより厳しい変革が求められている。

「広告」は戦後一貫して経済成長の強力な担い手の一員として評価されてきた。ところが今日、いとも簡単にいわゆる3Kの一つに数えられ、軽視されかねない由々しい状態にある。それだけに素早い変革に迫られている。

本講ではかかる問題意識に立って、現代国民生活と広告の係わりを、三つの側面(広告が国民生活に資する三つのステージ)から見直し探究したい。三つの側面とは、広告を伝えるメディア、広告がもたらすインテリジェンス、そして広告の果たすソーシャルエンジニアリング機能のことである。国民の基本的価値観の変容も含めて、今、生活の構造的変革が進んでいる。飽和市場と冷え切った消費マインド、選んでも買わない時代、それでも内需主導型の豊かな経済社会の実現を目指している。そういう時代に対応すべく変革する広告の現実と近未来を探究する。

<授業の主たる内容>

1. 広告とメディアと国民生活

広告はメディアがあって成り立ち、メディアは広告によって支えられる。そして、メディアも広告も国民生活者によって制御される。国民生活者が主役である。情報やメディアに対して受け手である生活者が、モノ言わぬ大衆から能動的なユーザーに変身してきた中で、メディアは急激に変貌しつつある。メディアの多様化とそれらの並存。激しいメディア淘汰。受け手からの情報収集機能を備えているか否かがこれからのメディアの生存条件になってきた。かかるメディアの変革によってマーケティングも変化する。以上の様な状況を踏まえて次の諸テーマにつき考察する。

a. マスメディアの現状と将来(特にテレビメ

ディアについて)。

- b. イベントは復活するか。
- c. ニューメディア定着するか。生活メディアとしてのマルチメディアは実現するか。
- d. 文化のメディア性と企業メセナ。
- e. メディア変革とマーケティング。

2. 広告がもたらすインテリジェンスと国民生活マーケティングの目的は継続的に売れる仕組みを創ることにある。広告はこのマーケティング意思に則って送り手の主張をメッセージにして、それを効率良く送り届ける役務を担う。しかし、広告の送り手と受け手が良好で継続的な売り手と買い手という関係になるには(他にもいろいろ必要な作用はあるが)、広告は更に進んで双方にとって得になることを納得させる知的情報(インテリジェンス)として共有されるものにならなければならない。近時、頓に顧客満足が重視されている。顧客の自己実現のための協力という視点からも、広告のインテリジェンス化は一層重要になってくる。以上のような観点から次の諸テーマについて考察する。

- a. 広告インテリジェンスと消費文化の形成
- d. 広告と衣・食・住
- c. 新しいライフスタイルと顧客満足
- d. 広告における法規範
- e. 広告会社の仕事と役割

3. 広告のソーシャルエンジニアリング機能と国民生活

社会の複合化・多文化が進むほど、ぶつかり合いが多発する。こうした社会問題の解決に、間接的ではあれ、融和剂的に広告が役立つと期待される。この期待に応じてこそ広告が社会に共感を以って受容られ、本来機能を遂行することができる。かかる論点から、社会主潮の形成、社会資本の動き、規制緩和の促進、エコロジーの展開、サブカルチャーの醸成などと広告の関係性を考察する。

〈授業の進め方他〉

授業は講義形式にする(OHPを使う場合もある)質問は何回かにまとめて対応する。成績評価は期末に小論文を提出してもらう。

〔参考書籍〕日経広告研究所編『広告白書 平成5年版』¥3,000

日経広告研究所編『平成5年版 広告に携わる人の総合講座』¥3,500
いずれも6年版が出れば6年版を。

現代経済事情Ⅲ (第3センター交通と
地域経済)
宮木 康夫

〈講義目的〉

今日、公共的事業の事業主体として第三セクターが多用されている。

この手法は、公共部門の財政上その他の制約を補い同時に民間の効率性導入を趣旨とするもので、効果的に運用されれば明らかに有効な手法である。しかし現実には種々の問題も指摘されており、今後健全な発展を期待する上では改善検討すべき課題も少なくない。

一方、この手法は様々な分野の連携から成り立っており、これを分析することは現在の経済社会の仕組みと分野相互の関連を大づかみに把握するのに効果的と思われる。

本講座では、第三セクターをめぐる課題をいくつかの側面から検討しつつ、経済社会の実践的理解を深めるための一助としたい。

〈授業内容・授業計画〉

授業は次の三つの内容に分れる。

① 公共的事業についての、国と地方の分担ならびに公共部門と民間部門の分担のあり方を分析する。

次に、民間部門が担当あるいは協力(いわゆる民間活力の活用)する場合、その具体的方式の各種を考察する。

② 我が国における各種企業形態の全体像を概観し、公企業、公私協同企業ならびに私企業それぞれの実態と活動分野を比較する。

次に、公私共同企業の一つである第三セクターについて理論的な分析を行う。

③ 代表的な公共的事業である交通事業を第三セクターが担当する場合を事例として、これの地域経済に及ぼす経済的效果ならびに事業計画の立案、実行、経営につきケーススタディーを行う。

この中で、第三セクター方式の最大の効果、即ち同一同質の公共サービスをより低コストで供給し得ることにつき、その根拠、実現のための条件等を分析する。

授業は、基本的な理解を得るような論点解説を基礎としつつ、できるだけ現実の事例を引用して進めたい。講義とともに適宜パンフレットやビデオ等を利用する。

〈評価方法〉

2回程、特定テーマにつき簡潔なりポートの提出を求め、その内容で評価する。

〔参考書・教科書〕

特定の教科書は指定しない。講義の都度レジメ

と資料を提供する。

現代経済事情Ⅳ（国民生活と協同組合）

兼子厚之

〈講義目的（要旨）〉

現代社会は、病理的とも言える人間疎外と生産至上主義への有限な資源からの反省、そして「会社中心主義」への批判的ライフスタイルも生み出しつつある。それはやがて20世紀的経済・社会システムからのパラダイム転換が望まれ、人々が主人公の「社会的営み」の経済・社会システムの創造がもとめられるだろう。

世界中には、生協・農協、信用、共済等の各種協同組合に6億6千万人もの人々が関わり、生産とくらしの協同を進めている。歪みを極限までもたらしつつある現代社会の経済システムのなかで、自立した人々の自発的な意思による人と人の結合の協同組合経済システムは、国民生活にとって人間らしい営みとしての役割と価値を広げている。

国民生活の多くの場面で行われている生協や農協などの協同組合の事業と活動の実際を紹介しつつ、人々の生産とくらしに協同組合のシステムがどのような原理で関わり、どのような協同組合運動の発展展望論理を持っているか解説する。それは、協同組合運動の歴史的経過、協同組合論とその系譜、現代社会の国民生活と協同組合の事業と活動論理の実際を講義することとしたい。

このように本講座では、現代社会の経済・社会事情の一つの断面である「国民生活と協同組合」の関係を分析しつつ、協同組合の基礎的理論と運動論理を論考し、生きた経済社会の実践的理解を相互に深める一助としたい。

〈授業内容・授業計画〉

世界史的な協同組合の誕生から現代までの概略史、協同組合理論の系譜の論点解説を基礎に、現代社会の国民生活と生協・農協を始めとした各種協同組合組織体の事業と活動、そのシステムの実際を紹介し、国民生活・経済社会（生産と流通）と協同組合の相関を考え、協同組合の果たしている機能や果たすべき役割への課題などを解説する。また、20世紀的経済・社会システムの行き詰まりは、人々が主体に座る経済・社会のシステムへの模索を始め、協同的経済社会への転換が志向されている動向を解説する。

以下のような授業計画で進めたい。

1. 現代経済社会のパラダイム転換と協同組合
2. 産業革命と協同組合の誕生
イギリス産業革命と協同組合／ドイツ、フランスの協同組合誕生／日本の産業組合の誕生と法

3. 協同組合とその運営原則
ロッチディール協同組合原則／ICA 原則の変遷と論議
4. 世界の協同組合の活動
経済先進国の協同組合／経済発展途上国の協同組合
5. 日本の協同組合
発展史／協同組合の法体系／各種協同組合の現状
6. 協同組合の理論
協同組合理論の系譜、現代協同組合論の焦点
7. 日本の生協の発展とその活動
高度経済成長と消費者被害／生協運動発展の要因
国際化と協同組合／生協の現状と課題
8. 協同組合の主体と民主的運営
協同の主体とその活動／民主主義と経営効率
協同組合システム／協同組合労働
9. 協同組合の統合と分権
協同組合間協同と連帯／連帯と主権
統合と分権／協同組合の株式会社化
10. 消費社会と協同組合
現代生活と消費／安全とくらし／商品・流通と生協
11. 現代社会と協同組合
現代社会と競争と協同／文化と協同／いきがいと協同
協同組合運動の困難性と克服／ニューコープ運動
12. 社会的経済と協同組合
現代経済社会の政策ベクトル／社会的経済
協同組合の果たす役割
13. 補論
このような授業内容で、国民生活と協同組合の実際の姿を通して、現代社会と経済の生きた姿をとらえ、考え合う授業としたい。

〈評価方法〉

2回程度に分けた特定テーマのレポートを提出いただき、その内容で評価したい。

〔教材〕

① テキスト

テキストとして講座ノート（B-5、230P）を作成し、印刷実費（予定価格 900円）で購入してもらい使用する。また、講義の都度、講義レジュメを提供する。他にビデオやブックレットを提供し活用する。

② 参考文献図書等

講義内容を補足する参考図書として以下の文献を勧める。

- ・「協同組合の新世紀」大内力監修、(財)生協総研編 コープ出版(株) 1992年12月18日発刊
- ・「生協…21世紀への挑戦」野村秀和編、大月書店 1992年10月発刊

- 「変化する世界…協同組合の基本的価値」
S. Aベーク著 日本協同組合連絡協議会編
1992年7月発刊
- 「西暦2000年における協同組合」…リードロ
ー報告 1989年11月、日本協同組合学会訳編、
日本経済評論社

他 学 部 履 修 科 目

(全学部・短大共通)

※他学部科目の講義内容が掲載されているが，受講できる科目は各学部・短大によって異なっている。（履修についての詳細は，「他学部科目の履修方法」を参照すること。）

目 次

禅学特講Ⅰ(原田 弘道)……………1	アジア経済論(小林 英夫)……………10
禅学特講Ⅱ(黒丸 寛之)……………1	日本経済史(古庄 正)……………11
禅学特講Ⅲ(石井 修道)……………1	中小企業論(三井 逸友)……………11
禅学特講Ⅳ(鈴木 格禅)……………1	教育経済論(谷敷 正光)……………12
禅学思想史(峰岸 孝哉)……………1	アメリカ経済論(瀬戸岡 紘)……………13
哲学史(中村 友太郎)……………1	財務会計論(遠藤 孝)……………14
インド仏教史(池田 練太郎)……………2	管理会計論(中原 章吉)……………15
中国仏教史(佐藤 達玄)……………2	会計監査論(飯岡 透)……………15
日本仏教史(石川 力山)……………2	商業政策(岩下 弘)……………16
日用経典(皆川 広義)……………2	貿易論(古沢 紘造)……………16
仏教美術(中島 亮一)……………2	マーケティング(曾我 信孝)……………17
現代哲学概説(田島 節夫)……………2	労務管理論(石井 脩二)……………17
上代文学(小野 寛)……………3	経営管理論(百田 義治)……………18
中世文学(水原 一)……………3	行政法Ⅱ(斎藤 寿)……………19
近世文学(富士 昭雄)……………3	民法Ⅳ(1)(叶 和夫)……………20
近代文学(高田 知波)……………3	民法Ⅳ(2)(叶 和夫)……………20
中国文学(中村 璋八)……………3	比較憲法(竹花 光範)……………20
英文学特講Ⅰ(石原 孝哉)……………3	経済法(川井 克俊)……………20
英文学特講Ⅱ(高野 正夫)……………3	国際関係論(首藤 素子)……………20
英文学特講Ⅲ(岡崎 寿一郎)……………3	西洋政治史(浦田 早苗)……………20
英文学特講Ⅳ(中岡 洋)……………4	宣伝広告論(上條 末夫)……………21
英文学特講Ⅴ(高松 雄一)……………4	政党論(前期:岩井 奉信)……………21
英文学特講Ⅵ(丸小 哲雄)……………4	(後期:早川 純貴)
英米演劇特講(落合 和昭)……………4	経営統計(相山 長知)……………21
米文学特講Ⅰ(東 雄一郎)……………4	国際経営論(茂垣 広志)……………21
米文学特講Ⅲ(原川 恭一)……………4	保険経営論(石名坂 邦昭)……………21
時事英語(坂本 武)……………5	財務会計論(渡邊 恵一郎)……………22
地形学Ⅰ(小池 一之)……………5	経営分析論(片桐 伸夫)……………22
地質学(貝塚 爽平)……………5	税務会計論(高木 克己)……………22
人口地理学(土谷 敏治)……………5	経営労務論(中村 真人)……………22
応用地理学Ⅰ(高木 正博)……………5	商業史(山田 勝)……………23
文化地理学(交口 善美)……………5	国文講読Ⅰ(上代)(佐原 作美)……………23
日本仏教史Ⅱ(廣瀬 良弘)……………5	国文講読Ⅱ(中古)(鈴木 裕子)……………23
日本史特講Ⅶ(近代)(山口 一之)……………5	国文講読Ⅲ(中世)(蘭部 幹生)……………23
東洋史特講Ⅹ(近・現代)(安藤 正士)……………6	国文講読Ⅳ(近世)(清田 啓子)……………23
西洋文化史Ⅰ(佐々木 真)……………6	国文講読Ⅴ(近・現代)(大室 英爾)……………23
考古学特講Ⅲ(飯島 武次)……………6	国文講読Ⅴ(近・現代)(笹瀬 王子)……………24
歴史哲学(麻生 建)……………6	国文特講Ⅴ(近・現代)(笹瀬 王子)……………24
哲学史(丸山 豊樹)……………6	英文タイプライティングⅡ(竹内 美恵子)……………24
日本民俗学(谷口 貢)……………6	時事英語(岡本 誠)……………24
マスコミュニケーション(川本 勝)……………6	英語演習Ⅰ(岡本 誠)……………24
産業社会学(安藤 喜久雄)……………7	計算機言語概論(杉田 徹)……………24
都市社会学(江上 涉)……………7	臨床放射線特講Ⅰ(本間 襄)……………24
社会福祉発達史(林 千代)……………7	応用計測学(櫃尾 英次)……………25
ロシア・東欧経済論(山縣 弘志)……………7	
社会政策(光岡 博美)……………8	
国民所得論(吉野 紀)……………8	
中国経済論(小杉 修二)……………9	

他学部履修科目

禅学特講Ⅰ

原田 弘道

禅宗と公案

公案は禅宗における經典観と深いかわりをもつ。そこで公案の成立とその歴史的展開を通し、その意義と機能について考察する。

(1)公案の起源と歴史、看話禅の成立 (2)曹洞宗と公案 (3)公案の諸相、公案の意義と機能。以上の順序で講義を進める。

禅学特講Ⅱ

黒丸 寛之

道元禅師の主著として知られる『正法眼蔵』を読む。この講座では、道元教学の理解に資するため、次のテーマに関わる諸巻を重点的に講読する。

I 正伝の仏法 II 生命の実相 III 道元と法華経 IV 晩年の道元。

〔教科書〕『正法眼蔵』

〔参考書〕『法華経』

禅学特講Ⅲ

石井 修道

平成5年度について『大慧書』を読む。大慧宗杲は看話禅の大成者である。その後の禅思想に大きな影響を与えた大慧の看話禅の性格は、『大慧書』に最もよくあらわれている。書とは、手紙のことであり、大慧が居士に与えた手紙を中心としているので、主張は明瞭である。宋代禅の性格を知る入門書と言えるであろう。荒木見悟博士の訳注本もあるが、まず禅録になれる意味もふくめて和刻本をテキストにしたい。その折に和刻本の誤読についても言及したい。

〔参考書〕荒木見悟著『大慧書』（筑摩書房）

¥3,500

石井修道著『禅語録』（中央公論社）

¥5,200

禅学特講Ⅳ

鈴木 格禅

『見聞宝永記』講読

本書は通常『損翁老人見聞宝永記』と呼ばれる。損翁老人とは、仙台の泰心院に住した損翁宗益（1649～1708）のことである。損翁は面山瑞方（1683～1769）の師であり、面山の宗教的人格形成に頗る影響を与えた古聖である。面山が損翁に随侍したのは約二年間程にすぎないが、その間における損翁の法益を集録したのが本書である。従って本書は、損翁における面山の「随聞記」といってよく、内容は多岐にわたるが、その根底には、現状にもなお光輝を放つ洞門の宗教的志操が、一貫して流れている。

本学年度は、前年度にひきつづき本書を講読し、学道の資助としたい。

〔教科書〕教員より配布する。

禅学思想史

峰 岸 孝 哉

禅学思想史の範囲はもとより広く考えられるが、本年は日本禅、とりわけ永平道元（1200～53）の流れを汲む曹洞教団の展開に注目し、そこにみられる教学・思想の歴史的な性格を跡付けてみたい。

〔教科書〕『道元禅の歴史』〔講座道元Ⅱ〕

（春秋社）

〔参考書〕鈴木泰山著『禅宗の地方発展』

（吉川弘文館）

廣瀬良弘著『禅宗地方展開史の研究』

（吉川弘文館）

哲学史

中 村 友 太 郎

西洋の思想と文化は、ヘレニズムとヘブライズム、ギリシア哲学と聖書的信仰の結合の上に形成されてきた。ここではとくにキリスト教的な中世哲学の形成とその展開をあとづけることを主眼と

したい。それは、神・自然・人間をめぐる理性の立場と信仰の立場との対決・調和・抗争の思想史という様相を呈するであろう。なお前期にはその背景となるギリシヤ哲学史を簡単に展望することから始めたい。

〔教科書〕開講時まで決定する。

〔参考書〕その都度指示する。

インド仏教史

池田 練太郎

インドにおける仏教の成立・展開の様相を、思想・文献・教団などの歴史の総体として捉えてみたい。また、インド仏教の歴史をインド史全体の流れの中に位置づけることを目指したい。

〔参考書〕平山 彰著『インド仏教史』（上・下）（春秋社）

中国仏教史

佐藤 達玄

中国民衆の仏教受容と、固有思想との関係を概観した上で、隋代より唐宋代に至る間の儒仏道三教の交渉史を中心に考察したい。

〔教科書〕『仏教史概説—中国篇』（平楽寺書店）

日本仏教史

石川 力山

日本における「仏教伝来の意義」といった課題を軸にして、日本に仏教が伝来した当初からの歴史を辿りつつ、日本思想史・宗教史上において果たしてきた仏教の役割を明らかにしたい。特に、中世における鎌倉新仏教の成立は、急速に仏教が社会のすみずみにまで浸透する契機となり、それにともない、さまざまな社会問題にも関与することになって、正・負の両面に機能を果たすことになった。この授業では、仏教思想の流れとともに、こうした社会的機能の側面についても、あわせて検討していきたい。

〔参考文献〕辻 善之助『日本仏教史』（全10巻、岩波書店刊）

家永三郎・圭室諦成・赤松俊秀監修『日本仏教史〈古代篇〉〈中世篇〉〈近世・近代篇〉』（全3巻、法蔵館刊）

川岸宏教・速見侑等篇『論集・日本仏教史』（全11巻、雄山閣出版刊）

日用経典

皆川 広義

曹洞宗における日常依用の経典について、解説し、その平易な解釈をする

この講義でとりあげる経典は、般若心経、法華経（寿量品、普門品）、修証義、大悲心陀羅尼などである。また、偈文・回向文などについても、解釈したい。

これらの経典は、日本人の精神形成に大きな影響をあたえたものであり、その仏教経典としての正しい理解に心がけたい。

〔教科書〕テキスト プリント配布。

仏教美術

中島 亮一

前期では仏教美術のルーツをインドに求め、その誕生の経緯と東漸のあとをたどり、その図像学的な解釈と信仰思想との関係、仏陀の伝記などを考察する。

後期は中国・朝鮮を経た仏教美術が、日本伝来後変容していく姿を、信仰思想の変遷とあわせて観察する。（スライド併用）

〔教科書〕高田 修『仏像の誕生』

（岩波新書 388）¥480

佐和隆研『仏教美術入門』

（教養文庫 576）¥720

〔参考書〕その都度指示する。

現代哲学概説

田島 節夫

今世紀哲学の多岐にわたる動向を統一ある視点から概説することは容易でないが、まず固有な意味での現代哲学の創始者たちとして、現象学におけるフッサール、分析哲学におけるフレイゲ、プラグマティズムおよび記号論におけるパースの各場合をとりあげ、相互の関連を考えながらそれぞれの業績に注目したい。西洋哲学の過去の遺産にたいして彼らのもたらしたものを問いなおすことから、今日までにあられた今世紀の重要な哲学的営為の意味を再考しつつ、哲学の新しい可能性をひらく道を探ることにしよう。

〔参考書〕田島節夫著『現象学と記号論』
（世界書院）¥2,500
田島節夫・他著『西洋哲学の展開』
（公論社）¥3,800

上代文学

小野 寛

『万葉集』をよむ。これは古代の日本人の心をよむことであり、古代の歴史をよむことである。『万葉集』をよむにあたって、一首一首、諸本の本文の異同をたずね、その訓みを明らかにし、上代語およびその独自の語法をしらべ、作者の心をさぐり、その作品の背景となる歴史・風土・民俗などについても詳細にしらべながらよんでゆく。毎年新しいテーマでよむ。

〔教科書〕小野 寛著『新選万葉集抄』
（笠間書院）

〔参考書〕金井清一・小野 寛編『年表資料上代文学史』（笠間書院）

中世文学

水原 一

『平家物語』を伝本比較の角度から読み、表現や題材・思想などの多角的な背景を探究してみる。併せて時代の実相理解に有効な、歴史書・公卿漢文日記等にも接する機会を設けたい。

近世文学

富士 昭雄

芭蕉の『おくのほそ道』の講読を通して、芭蕉の俳諧文学の特質を考察する。（昨年度の継続）
〔教科書〕萩原恭男校注『芭蕉 おくのほそ道』
（ワイド版岩波文庫）¥1,000

近代文学

高田 知波

明治前期の小説群の中から、二葉亭四迷『浮雲』と樋口一葉『たけくらべ』を取りあげ、精読していく。

〔教科書〕二葉亭四迷『浮雲』（岩波文庫）
樋口一葉『にごりえ・たけくらべ』
（新潮文庫）

中国文学

中村 璋八

中国の民族思想の中心的な陰陽五行説を集大成した五行大義を平易な解説をしながら、演習方式で読んで行く。この陰陽五行説は、儒教や道教など中国の文化の中で重要な位置を占めているだけでなく、日本にも夙に伝来し、奈良朝から江戸期に至るまでの陰陽道・仏教・神道・国文学・年間行事、民間信仰など多くの方面に大きな影響を及ぼし、現代においても暦・習俗の中に受け継がれている。そこで、国文学や日本史・東洋史を専攻する人々には欠かせない内容を含むものと思う。是非熟読されたい。

〔教科書〕『五行大義』（明德出版）¥2,170

英文学特講Ⅰ

石原 孝哉

ルネッサンス期の英文学について講じる。中世のたそがれから近世の夜明けへの過渡期の文学を、過去と未来の両方に開かれたものとしてとらえ、文化のさまざまな方面から論じる。意欲的な学生の受講を望む。

〔教科書〕『ノースロップ・フライのシェイクスピア講義』（三修社）¥3,800

英文学特講Ⅱ

高野 正夫

イギリス・ロマン派の詩人、ワーズワス、キーツ、ブレイクなどの詩を中心に読んでいく予定です。

〔教科書〕教場にて指示する。

英文学特講Ⅲ

岡崎 寿一郎

おそらく、過去のいかなる瞬間もまた現在であったことの認識をもつことなく現代という言葉

理解することはむづかしい。この認識の方法によって、十九・二十世紀の英詩について、その現代的意味を確認したい。具体的には、十九世紀ロマン派の詩人たち、テニスン、M.アーノルドの詩の検証を経て、ハーディ、イェイツ、D.H.ロレンス、さらに、エズラ・パウンド、T.S.エリオット以後の現代詩（モダニズム）について論究する。

〔教科書〕教場にて指示。

〔参考書〕教場にて指示。

英文学特講Ⅳ

中 岡 洋

イギリス小説の代表的傑作*Jane Eyre* や*Wuthering Heights* を残したBrontë sistersについて、彼女たちの文学史的位相を見定め、彼女たちの生涯と芸術について詳述する。

〔教科書〕教場にて指示する。

英文学特講Ⅴ

高 松 雄 一

20世紀イギリスのモダニズム文学の種々相を考察する。世紀末の唯美主義批評、イェイツ、イマジズム、エリオット、ジョイスらの作品や批評を取りあげて、モダニズム文学運動の意味を考えたい。

〔教科書〕必要があれば開講時に指示する。

英文学特講Ⅵ

丸 小 哲 雄

文学批評は個人の嗜好ではなく、集団的な判断の問題であるから、批評研究は最終的には世界解釈あるいは世界認識ということになります。前期ではそのための有効な方法として伝統批評、ロシア・フォルマリズム；ニュー・クリチシズム、受容理論（読者の立場）、構造主義、記号論、ポスト構造主義などの批評的考え方を講義します。後期では、作品の読み方と研究の仕方を修得するためにテキストを利用して、レポートを作成してゆきます。従って、テキスト理論とテキスト実践を平行的に作業することになります。

〔教科書・参考書〕開講時に指示します。読書のためのプリント・リスト、および適宜必要に応じてプリントを配布します。

英米演劇特講

落 合 和 昭

ギリシャ時代から現代までの演劇史に見られる主義（～ism）をその劇場史とともに、追いながら、重要な出来事、用語などの説明をする。

また、講義用のテキストとしては、図や写真が多く載っているアメリカの大学生用テキストを用いる。さらに、必要とあらば、英文の研究書などにも目を通し、多様な見方にも慣れる。

課題としては、講義の内容をまとめたレポートや他の英文（数冊のアメリカ大学生用テキストや研究書からのプリント）の要旨をまとめたレポートを十数回（一回につき四百字の原稿用紙2枚程度）ほど提出してもらう。

米文学特講Ⅰ

東 雄 一郎

19世紀のホイットマン、ディキンソンから現在のアッシュベリー、リッチ、スナイダー、プラス、マーク・ストランドにいたる総計30人のアメリカの代表的な詩人たちの作品を読みます。特に、ロゴセントリック（論理的）なモダニズムの言葉の解体、作品の自律性神話の崩壊から、ポストモダニズムの恣意性という「修正・見直し」への移行に焦点を当て、アメリカ詩の「自己の歌」の伝統を考えます。

〔教科書〕新倉俊一『アメリカ詩入門』

（研究社）¥2,200

米文学特講Ⅲ

原 川 恭 一

世界最大の内乱アメリカ南北戦争は、敗者南部に復しえぬ荒廃と頹廢をもたらした。その廢墟の中から、この南部の特殊状況を踏まえて、数多くの文学者が、文学作品が生まれ出たが、いわゆる「南部文芸復興」（Southern Renaissance）の興隆の様相を、William Faulkner以下数人の代表的作家の作品世界を中心に据えながら、歴史的、社会的視点をも構えて、出来る限り詳細に講じていきたい。

〔参考書〕福田陸太郎編著『アメリカ文学名作選—風土と文学』（中教出版）

時事英語

坂本 武

放送英語、新聞英語その他時事面に関する英語について、テープ等も随時併用して講義する。また、時事文を多用しての英作文の作法についても採り上げ、「読み書き聴く」の三点を重視していきたい。別名、Living Englishと呼ばれる程「生き役立つ」英語の筈である。積極的に受講してほしい。

〔教科書〕教場にて指示する。

地形学 I

小池 一之

地理学の基礎、地形学史から講義をはじめ、川・海の作る地形を中心にする。地形事変が国の内外で起こったときは、出来るだけ、それらの解説も加える。講義は、プリント、スライド、ビデオを使ったわかりやすいものになりたい。(内容は最先端の知見を含む)

〔教科書〕貝塚ほか編『写真と図でみる地形学』(東大出版会) ¥4,532

地質学

貝塚 爽平

前期には関東・東海地方でみられる、地震・火山・地層・岩石・地質構造・地殻変動などを解説しつつ一般論に及ぶ。また、日本列島ないし地球規模でおこる地質現象(たとえば大洋底の運動・造山運動・海面変動・気候変動・氷床の形成・サンゴ礁の形成)についても講ずる。後期には主として外国の地形・地質を一般論と交えて解説する。

人口地理学

土谷 敏治

人口の分布やその変化、人口移動について、研究の方法やこれまでの地理学の分野からの研究成果を紹介する。

応用地理学 I

高木 正博

河川と地域の関係を、利水・災害・自然環境などの視点から捉える。水と人とのかかわりあいについて、地理学と他の研究分野を関連させてのべる。

〔参考書〕高橋 裕著『河川工学』(東京大学出版会)

文化地理学

こも 菱口 善美

本講義では、まず文化地理学の中心的課題、すなわち(1)文化、(2)文化領域、(3)文化景観、(4)文化史(誌)、(5)文化生態について概観する。さらに内・外の研究事例を紹介しながら、文化地理学的手法による地域分析について議論する。

日本仏教史 II

廣瀬 良弘

仏教の歴史の流れを概観し、のちに平安後期から江戸期にかけての仏教と社会・文化とのかかわりについて講述する。とくに、鎌倉仏教の成立と展開、仏教諸宗派の僧侶・寺院と地域社会とのかかわり、都市景観と寺院、一向一揆・無縁所寺院と戦国大名、寺院と檀家等について考察する。その際には各地の寺院が所蔵する古文書・過去帳・授戒会帳・金石史料等も提示しながら行うことにする。

〔参考書〕黒田俊雄著『寺社勢力—もう一つの中世社会—』(岩波新書)
網野善彦著『無縁・公界・楽』(平凡社選書)
井上鋭夫『山の民・川の民』(平凡社選書)

日本史特講Ⅶ(近代)

山口 一之

日清戦争とその後の中国問題を講義する。

東洋史特講Ⅹ（近・現代）

安藤正士

現代中国の政治外交史＝中国の内政と国際関係について、近代化論、比較政治論の立場から講義する。

〔教科書〕安藤正士・太田勝洪・辻康吾『文化大革命と現代中国』（岩波書店）¥540

西洋文化史Ⅰ

佐々木 真

今日、私たちがイメージする西洋文化とは、主に19世紀から20世紀にかけて、知識人たちの影響下で形成された、近代文化のことであろう。しかし、最近のヨーロッパ史研究では、前近代社会や民衆世界においては、今日と異なった文化が存在したことが指摘されている。本講義では、西洋の民衆文化を題材として、中世末から近代にかけての文化変容の問題を考えてみたい。具体的には、民衆の生活様式（人口動態、家族・労働形態、女性や子供の地位）や知の世界（読書行為、識字）、民衆の心性（価値規範、死生観）などを手がかりとして民衆の文化世界を考察する。教科書は特に指定せず、参考文献については必要に応じて授業時に紹介する。

考古学特講Ⅲ

飯島武次

中国青銅器文化の研究。夏・殷・周の考古学的研究を講義する。

〔参考書〕飯島武次『夏殷文化の考古学研究』（山川出版社）1985年 ¥7,000
飯島武次『中国新石器文化研究』（山川出版社）1991年 ¥11,000

歴史哲学

麻生 建

歴史哲学をめぐる諸問題について概観した後で、歴史哲学の基盤をなす歴史「認識」の問題を、「解釈学」を中心に考えてゆく。「解釈学」とは、今日では哲学一般の構成要素の一つとして「人間存在」そのものに関わるものとされているが、そ

もそもは「他者理解」の問題、「歴史理解」の問題である。

〔教科書〕麻生 建『解釈学』（世界書院）
¥2,500

哲学史

丸山 豊 樹

この講義「哲学史」の内容は「近世哲学史」である。しかし、近世哲学も古代および中世の哲学の発展・展開であるから、まず始めに古代・中世の哲学を概観した後で、近世哲学を論ずることにする。

「イギリス経験論」と「大陸合理論」によって、近世哲学の歴史は開始されるが、それはカントの「批判哲学」によって総合され、後さらに幾多の曲折を経て、現代の哲学に結実する。それらの哲学の特色を捕らえて、現代の哲学と科学との関連を考慮しながら講義を進めたい。

〔教科書〕国嶋一則編『西洋哲学の展開』（公論社発行）

日本民俗学

谷 口 貢

民俗学は世代をこえて受け継がれてきた民間伝承を通して、日本社会の生活文化を明らかにしようとする学問である。国際的視野をもった人材の育成が叫ばれて久しいが、真の国際理解の前提には自国の伝統文化に対する民俗学的素養が近年益々大切になってきているといえよう。

講義では、日本の各地に伝承されている具体的な民俗の調査事例を紹介しながら、人の一生の重要な時期（誕生・成年・結婚・厄年など）に行われる人生儀礼（通過儀礼）を通して伝統文化についての理解を深め、民俗学の基礎的視点を学んでいきたい。

〔参考書〕必要に応じて紹介する。

マスコミュニケーション

川 本 勝

マス・コミュニケーションの生産過程から受容過程にいたるまでの主要なメカニズムを、これまでのマスコミ研究の成果、理論を紹介しながら考察し、マス・コミュニケーションの特質、社会的機能、効果や影響などを検討する。

高度情報化社会といわれる現代、ニューメディアを含めて、マス・メディアが社会や人びとの社会生活とどのようなかわりをもっているか、社会的に分析する。

〔参考書〕その都度指示する。

産業社会学

安藤 喜久雄

産業社会学の主要領域 — 組織、企業経営と労働者生活および労働者意識、労使関係、労働組合、職業・産業と社会、などについて概観し、そこでの社会的諸問題が現代人にとってどのような意味をもっているか検討する予定である。

〔教科書〕安藤喜久雄他『産業社会学』

(学文社) ¥2,500

都市社会学

江上 涉

都市社会学の主要なテーマは、都市という環境がいかなる人間を生み出すのかというところにあるが、これは2つに分けて考えられる。すなわち、環境としての都市そのものが何かということと、そこで生成する都市社会とはどのような社会かという問題である。このテーマをめぐって蓄積されてきた都市構造論、都市類型論、都市機能論、都市化論、生活構造論、ライフスタイル論、都市的生活様式論、ネットワーク論、コミュニティ論などを順次考えていくことにする。

なお、テキストは特に指定しないが参考文献を適宜紹介するので、それを読むことが重要である。

社会福祉発達史

林 千代

いつの時代にも、人々の生活不安は自然の変化と社会の変動によって生み出されてきたといえる。社会の変動期には、常に多くの問題が生じ人々は生活困難におちいった。社会事業は資本主義社会の成立とともに生成した。主に、英国、日本を中心に(部分的に米国にもふれる)社会福祉へ至る歩みを講述する。対象の存在と問題解決の方法、方法の意図や施策の背景をなす社会福祉の思想、その関連等が内容となる。一定の歴史的産物である社会福祉、その本質は何か、その現状は等々を考えるためにこそ、歴史を学ぶ意義がある。

〔教科書〕今岡 他編『社会福祉事業発達史』
(ミネルヴァ書房)

〔参考書〕随時紹介

ロシア・東欧経済論

山縣 弘志

〈授業内容と目標〉

ソ連邦が解体し、東欧諸国も再編成されて、いかなる方向かはともかくとして移行過程にあるが、この地域が従来の歴史的経緯を背負って今後も多少とも他と区別される経済圏を形成していくことは確かであろう。

ロシア・東欧圏は、ヨーロッパとアジアにまたがりオリエントと接するユーラシア地域として、独自の、また内部的には多様な文化を醸成してきた。この地域は、帝国主義の時代に、第1段階としてロシア革命、第2段階として第2次大戦を契機に社会主義をめざすことになった。そしてそれはまぎれもない社会主義の歴史として通俗的に理解されてきたが、本来は社会主義の模索として開始されたものであり、社会主義になりえたか否か自体が問われなければならないという認識が、同時代史によって求められている。社会主義であれ資本主義であれ、個別の体制は独特のあり方として捉えなければならない。その意味からも、ロシア革命による歴史の断絶か連続かの問題は、今日においては、後者に重点を置いた捉え方が妥当であるということが明らかになったのであるから、しからばロシア・東欧圏の歴史的連続性と独自性を何に求めるか、という問題も併せて探究していく必要がある。

社会主義論の原理的な捉え直しの上に立って、1930年代にソ連邦で形成され40年代に東欧に移植された独特の体制への認識が深まり、我々の時代の当面している課題が明らかになれば、自らの姿を鏡に映すという外国研究の基本的役割をいささかでも果たすことになるであろう。

〈授業予定〉

トピックスにコメントする機会が多いと思われるので、以下はあくまで予定と考えて頂きたい。

1. 社会主義とロシア革命

- (1) 社会主義論の歴史
- (2) マルクスの社会主義論
- (3) ロシア革命のめざしたもの — レーニン時代 —

2. ソ連経済体制の成立とスターリン時代

- (1) 1920年代から30年代への根本的転換
- (2) 工業化と農業集団化
- (3) ソ連型「社会主義」の特質
- (4) ソ連・東欧経済圏の形成

3. 「計画経済」と経済管理システム
 - (1) 「計画経済」の成立
 - (2) 「計画化」と「計画経済」の実態
 - (3) ソ連型経済管理システム
4. ソ連経済の到達水準
 - (1) 経済構造の特質
 - (2) 軍事生産と工業生産力
 - (3) 工業技術の諸問題
 - (4) 農業政策と農業制度
 - (5) 農業生産力
5. 停滞からペレストロイカへ
 - (1) 経済改革の時代
 - (2) ブレジネフと停滞の時代
 - (3) ペレストロイカとその挫折
6. ロシア・東欧経済の現状と課題
 - (1) ロシア・東欧社会の特質
 - (2) 市場経済化の諸問題 — 何から何への移行か —

〈成績評価〉

本講義に限らず、学生諸君にはステレオタイプから脱して自分自身の頭で考えることを求めたい。そのような観点で、成績評価はレポート（9月提出、40点配点）と定期試験（自筆ノート持込み可、60点配点）によって行なう。

〔教科書・参考書〕

教科書はない。授業中にノートを取るの当然である。参考書は適宜指示する。

社会政策

光岡博美

〈社会政策の内容〉

社会政策とは、資本主義社会で発生する社会問題や労働問題を体制内において解決する社会改良思想や政府の政策を意味している。この社会政策という学問は19世紀の中葉に、当時ヨーロッパの後進国であったドイツで発生したが、やがて近代化をめざす日本に紹介された。この意味で、戦前から、社会政策学は日本の経済学のなかでも重要な位置を占めてきたが、それは戦前日本の経済学がドイツ経済学から大きな影響を受けてきたからであった。

戦後の時代になると、社会問題や労働問題の処理は、政府の政策によってだけでなく、国民の権利を前提として、その解決が意図されるようになってきた。殊に、労働問題は、政府の介入を避け、労使の自主的な団体交渉によって事態に対処していくという方向に向かった。労働基準法、労働組合法、労働関係調整法といった労働法体系は、このような体制を作り出すために制定された法律だったのである。

このような現実世界の変化は、社会・労働問題研究へのアプローチの方法として、労使関係論の学問的発達を促すこととなった。戦後の日本においても、欧米社会で開拓された労使関係論を吸収し、日本の労働問題や労使関係の実態を分析し、労使関係をその実態に即して理解しようとする研究が大きな影響を及ぼしている。

〈本年度の講義内容〉

そこで、このような社会政策論や労使関係論の動向を視野に置いたうえで、本年度は、次のような講義内容で授業を行うことにしたい。

- (1) 社会政策学思想と理論
- (2) 労使関係論思想と理論
- (3) 日本における社会政策の歴史
- (4) 日本における労使関係の歴史
- (5) 戦後日本における労使関係の展開
- (6) 現代日本の社会政策と労働問題
- (7) 日本的労使関係の現実とその未来

上に述べた(1)～(7)の項目について、各々約3回程度の講義を予定している。しかし、時には、社会政策や労働問題を勉強するための専門書の紹介や解説、最近注目されている外国人労働者問題や女性労働問題などの時論、私が専門的に研究してきた問題なども、できるだけ分かりやすく解説してみたいと考えている。

また、授業とは直接関連はないが、労働問題を考えるうえでも有益と思われるような名作（映画）を鑑賞する機会も準備してみたい。

なお、全体の講義を通じて、その時々社会政策や労働運動・社会運動によってどのような問題が解決され、どのような問題が未解決のまま残されその解決が迫られているのかを考えてみることにする。そして、われわれにとっての“より良い”社会とはどのような社会であるのかといった事柄にも思いをめぐらしてみたい。

〈履修条件と成績評価〉

履修条件は特にないが、教場では私語を慎むこと。また必要に応じて、出欠の点検を行う場合もある。成績の評価基準や答案作成の注意は、年度末試験の2週間ほど前の授業で説明する。

〔教科書〕なし

〔参考書〕必要に応じて講義のなかで紹介する。

国民所得論

吉野 紀

220万の法人企業、6,200万人の就業者、そして4,200万の世帯、これら間でさまざまな生産活動や取引が営まれている。これに政府や海外取引を含めると、日本経済では正に無数といってよいほどの取引関係が日々結ばれていることになる。

これらの取引関係は複雑に入りこんでおり、その1つ1つを追跡すると、経済という森に歩み入って、森全体の状況についての認識に到達することが難しくなる。そこで、森の上に飛び上がって、これらの取引を上空から眺める工夫が生まれてくる。こうして、上空から眺めると複雑に入りこんだ諸取引はいくつかの類似した性質を共有するグループに分けられることに気付くであろう。このような諸活動の1年間の成果が、たとえば、日本経済の場合、国民総生産（GNP）440兆円に結実してゆくのである。

「国民所得論」はこのような視点に立脚した経済分析方法である。しばしば、マクロ（巨視的）分析とよばれる所以である。モデル・アナリシスと、現実に観察される日本経済との対応が常に心懸けられるであろう。

<授業計画>

「国民経済計算」…………… 5回

GNP、GDPなど、国民経済全体をとらえるための経済指標の理解と、さまざまな諸取引間の相互関係をとらえることが主題となる。

「平成3年日本経済の循環図」（配布資料）

『国民経済計算の知識』西嶋・藤岡（日経文庫）

「総需要、均衡産出量、均衡所得…………… 4回

いわゆる単純なケインズ派の所得決定理論が、モデル分析に即して説明される。このテーマの終了後、練習問題が宿題として課される。解答と解説は授業中に示される。

『入門マクロ経済学』中谷（日本評論社）第3章

「貨幣・利子率および同時均衡」…………… 8回

この段階で貨幣のはたす役割が導入され、前回までの主題との接合がはかられて、IS曲線とLM曲線を主な武器とする分析が進められてゆく。モデルを用いた説明が中心となるが、日本経済の置かれている現況との関わりが登場する機会も徐々に増えてゆくであろう。本テーマの終了時にも、簡単な練習問題が宿題として課される。正解と解説は授業中に示す。

「金融政策、財政政策」…………… 4回

前回までの内容が理解されれば、金融政策と財政政策の発動によって、望ましい所得水準を達成するプロセスは比較的容易に理解できるものと思われる。ただし、金融政策、財政政策ともに、その効果という点では一律ではなく、機動的なポリシー・ミックスが望まれる、といった点にも触れなければならない。

『マクロ経済学（上）』ドーンブッシュ・フィッシャー（マクローヒル）第4章

「労働市場を組み込んだ総需要・総供給分析」…………… 4回

これまでに扱われてきたのは、財やサービスの

取引と貨幣市場であったが、これに労働力市場が明示的に組み合わされる。

「最終講義」…………… 1回

平成7年日本経済の予想。

海外経済との関わりは、主に為替レートを中心にここで触れられる。

<成績評価>

期末試験…………… 85%

2回の練習問題の提出（2回とも提出することが条件）…………… 15%

なお、練習問題を教場で黒板に解答して見せてくれる学生諸君（年間15名前後）には、学生諸君全体の意見を反映しつつ別途配点することもありうる。

〔教科書〕開講時に指示する。

中国経済論

小杉修二

1. 現在の中国は対外開放、経済成長と生活の向上の結合、経済改革の試み等、新たな活気がみなぎるようになった。また、企業自主権の拡大、株式会社、個人営業の公認、失業・倒産の制度化、「1国2制度」「6・4天安門事件」等々話題に事欠かない状況である。

本講義ではこのような目前的変化をとらえると同時に、より長い視野と射程で問題を論じることとする。即ち、本講義のキー・ワードは、超大国志向、社会主義、発展途上国である。この三点で中国の長期的動態を論ずる。

2. 前期授業のはじめに、キー・ワードを3週間分けて説明する。ここでは、地域研究が本来もっている特徴である、問題のさまざまな面をとらえる、ということと、そのうち比重の大きい側面は何であるかをつかむ、といった点に留意する。特に、私独自の見方である中国の超大国志向について詳しく説明する。

3. 2につづいて、中国経済の解明に取組むが、それは一言でいえば歴史的方法をとる。すなわち、中華人民共和国の成立（1949年）から今日までを、3つの特徴的な時期に分けて(1)ソ連モデル（1949～57年）、(2)毛沢東モデル（1958～78年）、(3)鄧小平モデル（1978～）として、それぞれの時期の特質とその変化の動因を説明する。

このような方法をとるのは、今現在の目先の出来事も何かの方向へ向かって動いている訳だが、その方向というものは、あまりに近くで見ているとわかりにくいものだからである。つまり、現在および将来というのは、過去の何らかの延長であると考えからである。それが単純な延長である場合もあろうし、新しい条件に見合った微修正の

延長である場合もあろうし、また全く過去の否定的総括に立った転換である場合もあろう。その場合も、過去の何が否定的に総括されたのかを知らねば、将来への延長線は引かれないうであらう。そこで歴史的方法をとるわけである。

4. 上記の3つのモデルを超大国志向、社会主義、発展途上国の3つのキー・ワードを軸にして説明していくが、そこでの中国は著しく軍事大国志向、経済成長志向である。世界の他の国々がそのような志向性をもっている中で、また、中国が途上国であることからして、やむを得ない面もあるが、世界が環境問題で行き詰まりつつある中で、このような志向性のもつ問題点を相対化し得る見方をもてるように留意したいと思う。

5. 授業の進め方は、教科書に沿った講義とビデオ(1-201 または1-301 教室)上映による説明の二本立てで行っている。

教科書は専門家向けに書かれており、自明のことや初歩的なことは書かれていない。したがって、中国経済に全くの初心者であると思われる学部学生に対しては、自明とされていることや、初歩的な知識の説明を補いながら講義を行う。

また、何分にも外国のことなのでイメージがわきにくいといった問題があるので、年に数回、中国関係のビデオを見る。例えば、新日鉄宝山製鉄所、天津の用水路、長春第1自動車工場、江南億元郷、天安門激動の40年等。

6. 受験勉強の本質は正解当てクイズである。しかし、このような方法は実社会では通用しない場合が多いし、正解も変わっていく。諸君が物事(中国経済)を自前の頭で理解し判断できるための勉強が高等教育の場である。そのために、無数にいる専門家の意見の比較、優劣判定、取捨選択、時間による検証、といった作業が必要になる。その前提になるのが、各専門家の学説の正確な理解である(学説の受け入れとは異なる)。テストは基準となる一つの学説(とりあえず、私の説)の正確な理解ができたかどうかを見るものである。

7. 学習が正解当てクイズに終るかどうかは諸君の学習意欲にも係わっている。教科書の脚注引用文献や同第5章「諸学説の検討」あるいは授業中にその都度指摘する文献を積極的に読むことを希望する。

〔教科書〕小杉修二著『現代中国の国家目的と経済建設—超大国志向・低開発経済・社会主義』(龍溪書舎) ¥3,300

アジア経済論

小林英夫

今日ほどアジアが注目されるようになった時期

もめずらしい。アジア一般というより、その目ざましい経済成長が注目されたのである。1970年代は韓国、台湾、香港そしてシンガポールが、そして80年代後半になるとタイやマレーシアといったアセアン諸国が、その高成長のゆえに注目された。韓国をはじめとする4ヵ国は、一つの高成長グループとしてくられ、その名をニックス(NICS)と称された。

では、なぜ、この時期、アジアで経済成長が生じたのであろうか。それは、どのような歴史を背景に生まれたのか。そして、こうした成長地域の出現は、世界政治と経済にどのような影響を与えたのであろうか。アジア経済論は、こうしたアジアの経済成長の歴史的背景と現状そして将来を展望し、それが日本と世界の政治、経済に与えたインパクトを考察することにある。

授業は、講義形式でおこなう。ただし、原則として年間2回外部講師をまねいて、実際のアジアの実情を紹介してもらっている。昨年は残念ながら実現できなかったが、これまでに野村証券の調査員にシンガポールの金融事情を、ジェトロの調査員にマレーシアの実情を紹介してもらった。今年も同様の“アジア・ガイド”を計画している。

今年度の授業項目と授業スケジュールは以下の通りである。

4月

アジアの実情

5月～7月

日本とアジアの経済関係(戦後日本とアジアの関係を、I. 賠償過程、II. 借款過程、III. 直接企業進出の3期に分けその過程を追うと同時に、それが日本の産業構造に与えた影響について検討する。7月の夏休み前に、外部講師をよび、直接企業進出に的をしぼった、実態報告を行う。

9月～12月

東南アジアの日本企業の活動(1972年以降開始された日本企業の東南アジアでの活動実態について、主に輸出加工区でのそれをめぐってその活動実態を検討する)

1月

まとめ(1年間の講義について、まとめを行なう)

授業の受講にあたっては、あらかじめ指示した教科書を講読しておくこと。テストは、夏休み直前と期末のテストの2回を実施し、両者の総合成績で決定する。

〔参考書〕小林英夫『戦後日本資本主義と「東アジア経済圏」』(御茶の水書房)

¥3,200

小林英夫『東南アジアの日系企業』

(日本評論社) ¥3,200

開港前の日本は、極東の一封建国家にすぎなかった。1853年（嘉永3）のペリー（M. C. Perry）来航に始まる鎖国体制の解体と欧米列強による領事裁判権・協定関税率・最恵国条項を内容とする安政条約の強制は、政治的にも経済的にも軍事的にも、幕末日本を植民地化の危機に陥れた。にもかかわらず、開港後わずか数十年の間に、日本は工業化を達成し、アジアにおける唯一の工業国家になった。この講義では、幕末開港後のこうした工業化過程とその歴史的条件をできるだけ系統的に、また分かり易くお話してみたいと思っている。日本経済史の対象はすこぶる広いが、時間的・能力的制約から今年度はこの問題に限定した。お話の中身としては今のところ次のテーマを予定している。ただし、年度内に生起する事件の中で、経済史との関連で特に重要なものについては、適宜取り上げてお話するよう心掛けたい。生きた具体的な現実との緊張関係を抜きにした講義は、社会科学の講義としては適切なものではないと思うからである。

- (1) 幕藩体制の動揺
- (2) 開港と植民地化の危機
- (3) 明治維新
- (4) 明治政府の工業化政策
- (5) 政商と天皇・華族の資本蓄積
- (6) 農民の分解と士族の没落
- (7) 自由民権運動と天皇制国家
- (8) 産業革命と工業化
- (9) 紡績と製糸業
- (10) 工業化と在来産業
- (11) 重工業と鉱山業
- (12) 工業化と公害
- (13) 資本主義と地主制
- (14) 鉄道業と海運業
- (15) 外国貿易の発展と構造
- (16) 工業化と財政・金融
- (17) 植民地の領有とその矛盾
- (18) 工業化は民衆にとって何であったか。

経済史を含めて、いま、なぜ歴史を学ぶ必要があるのだろうか。講義要綱を書くたびに、いつも気になるのはこの点である。大学の教員のような研究を商売にしている人間は一応別として、一般の学生や市民にとって、果たして歴史を学ぶ必要などあるのだろうか。結論的にいえば、私はやはりその必要があると思っている。戦後補償裁判に事例をとって、その理由を若干述べておきたい。

第2次大戦中、日本政府と日本企業は百万を越える朝鮮人を軍人・軍属・従軍慰安婦として、あ

るいは労務要員として日本に連行し、酷使虐待の果てに多くの人々を死傷させた。にもかかわらず、日本政府も関係企業もこれに対して何の補償もしなかっただけでなく、未払金さえ支払わずに戦後処理に決着をつけた。

こうした理不尽な戦後処理の再検討を求めて、被害者たちはいま東京地裁その他に提訴し、裁判を始めてる。しかし、日本政府も関係企業も強制連行・強制労働・差別待遇の事実を一切認めず、未払金問題は1965年の日韓協定で解決済として、被害者の要求を突っぱねている。

日本政府と関係企業はなぜこういう傲慢な態度を取り続けているのだろうか。それは、研究者であるわれわれの怠慢と資料不足（敗戦後、国と企業は関係資料を徹底して焼却した）のために、事実の究明が充分でなく、多くの日本人が無知・無関のままに放置されているからであろう。歴史を学ぶことの意義は、現在を知り未来を洞察する武器を仕入れることにあるといわれるが、それは、具体的にはこういうことをいうのではなからうか。

中小企業論

三 井 逸 友

「中小企業」を論じるというのは実は存外に容易ではない。世界的な「中小企業フィーバー」の続いた80年代をへて、深刻化する不況と「構造転換」のすすむ今日こそ、さまざまな俗論や安直な先入観を排し、きちんとした学問的方法と総合的でグローバルな現状認識をはかり、さらに21世紀を展望した「政策観」をつくり上げていく必要がある。

日本の中小企業は約600万、企業の99%、従業員の80%を占め、製造業中小企業に限っても80万をこえ、付加価値の50%以上を生み出している。つまり、日本の経済社会にとって中小企業はきわめて重要な「メジャー」な存在であるとともに、諸外国からうらやましがられる「日本産業の競争力」を支えているのである。しかしこのことは、中小企業の地位が安定し、そこに働く人々が恵まれていることを示すものではない。中小企業をめぐる格差、不利、経営不安などの「問題状況」も依然広くみられ、今日また深刻となっている。しかもこうした「期待」と「困難」の交錯する事態は先進国に共通して確認されているのである。

この講義ではこうした中小企業の存在状況と役割、当面する問題を概観し、次にこうした中小企業の存立と問題性をめぐる理論・研究を検討し、「中小企業問題」の二面性と、現代経済における中小企業の「構造論」的位置づけを明らかにする。講義の後半では、「下請制」、「地場産業産地」

などの中小企業群の形成する分業と協働・集団の諸形態の特徴と最近の動向を追い、結合生産力の「効率性」と、これに対する競争と統制・管理の貫徹がもたらす「経済的關係」のうえでの問題状況を示す。事態は独占大企業の「支配・利用」と「過剰・淘汰」の間で現われるのである。さらにこうした「中小企業問題」に対応して展開されてきた「中小企業政策」の国際比較研究を行い、「生産力」的に成功を収めてきた日本の「中小企業近代化政策」の特徴と限界、これに対する欧米の政策の相違点と近年の「収斂傾向」を解明する。加えて補論として、最近の政策課題として注目される、「構造転換」(リストラ)対応策、分業にもとづく結合生産力の目的意識的な組織としての、企業間連携・共同促進策、新規開業促進策、そして「基本法30年」での中小企業政策の見直しの動きについてもふれてみたい。

授業は主に講義の形で進めるが、企業経営のナマの現場を理解してもらうため、ビデオ、スライドの上映、企業経営者の方の話などもとり入れた。その中で産業分析の基礎知識も伝え、さらに担当者の世界各地や全国での見聞も活用する。

<構成予定>

- I. 中小企業論の課題と対象、規定と構成、問題状況
- II. 「中小企業論」研究の方法と「存立」論・「問題」論
- III. 中小企業の現代的存在形態
- IV. 「中小企業政策」の展開と国際比較

なお、毎年夏休みには、補足的資料として、『中小企業白書』を読んでもらい、希望者にはレポートを書いてもらっている。成績評価は、他の専門科目同様、学年末定期試験を中心とする。

〔教科書〕三井逸友『現代経済と中小企業』

(青木書店) ¥2,800 (税抜)

〔参考書〕巽・佐藤編『新 中小企業論を学ぶ』

(有斐閣)

中小企業庁編『中小企業白書』

〔各年次〕

教育経済論

谷 敷 正 光

<授業内容>

経済発展に産業教育が果たした意義とその役割について考察する。

日本は近年、「経済大国」として世界的に認められるようになったが、この発展を築いた基礎に日本の高い教育水準と人材養成があるといわれている。そして欧米各国では経済面での国際競争力の低下が教育水準の低下と密接に関連していると

の観点から日本の産業教育政策を解明するとともに、2,000年に向けて一斉に教育改革に着手している。アメリカの「危機に立つ国家」「全米教育サミット」「2,000年のアメリカ」、イギリスの「教育改革法」「二十一世紀に向けての教育・訓練」、フランス「ジョスパン法」など各国の改革の中心は厳しい経済競争に勝ち残るための教育水準の向上、教育に市場原理の導入、高等教育の質的充実、教育投資の拡大など教育を「国の最優先課題」と位置づけている。

そこで本年度は、こうした各国の経済再建と教育改革の動向と、日本の現状をまず考察する。

次に、外国からは高く評価されている日本の高い教育水準、人材養成教育を戦前は産業資本確定期を中心に、戦後は朝鮮戦争を契機に復興した復興期から平成景気までを中心に、それぞれの経済発展段階の特徴とそれに応じた産業界の教育要求と国の教育政策、産業教育政策を考察する。

<授業形態>

講義の他、その都度現実的理解のために年間5～6回程、視聴覚教室でビデオを使用する。

<授業項目と授業スケジュール>

- (1) 欧米先進国の経済の現状と教育

- ①アメリカ
- ②イギリス
- ③フランス
- ④ドイツ
- ⑤日本

- (2) 戦前の経済発展と実業教育の振興

- ①学制時代(明治10年前)
- ②教育令時代(明治20年代)
- ③学校令時代(明治30年代)
- ④実業学校令時代(明治30年代)

- (3) 戦後の経済発展と産業教育の振興

- ①復興期
- ②高度成長期
- ③1970年代
- ④1980年代
- ⑤1990年代

(1)(2)は前期に、(3)は後期に講義する予定。

<履修条件>

欠席しないこと。

<評価方法>

定期試験の成績

〔教科書〕特に使用しない。年間25～30枚のプリントを講義資料として配布する。

〔参考書〕豊田俊雄編『わが国産業化と実業教育』(東大出版)
文部省『産業教育百年史』(ぎょうせい)
本庄良邦著『産業教育体制研究』(三和書房)

アメリカ経済論

瀬戸岡 紘

☆ 現代のアメリカ経済事情を幅ひろくわかりやすく解説します。

最新のアメリカ情報と、過去の私のアメリカ生活および研究活動でのエピソードを多数まじえながら、今日のアメリカ経済事情について、幅ひろく、トータルな解説をするのが、この講義です。それとともに、アメリカのできごとと関係のふかい世界の情勢を、ひろく検討します。

☆ 特別な経済学の予備知識がなくても理解できる授業です。

この講義を受講するためには、特別な経済学の予備知識などは必要ありません。経済学部以外の学生でも十分に理解できるように、理路整然と、わかりやすく話をすすめます。しかし同時に、アメリカ経済につよい関心をもつ学生諸君には、さらにふかめた研究をしていく動機をつかめるような学問的挑発を試みようかとも考えています。他方、講義でとりあげるニュースとキーワードは、就職などでの試験を受けようとする者にも役にたつものとなるでしょう。全体として、この講義は、いわゆる専門的な特定領域の探求をこころみるものではなく、奥ふかく興味のつきないアメリカ経済の世界に諸君を道案内するものなのです。

☆ 1回の講義でひとつのテーマをとりあげます。

1回ごとに独立したひとつのテーマをとりあげ、完結させるように話します。年間をとおしてきくと現代のアメリカ経済の全体の輪郭がわかるように講義を組んでいます。とりあげるテーマには、おおむねつぎのようなものを予定しています。

前期

[導入の話題]

◇大統領の今年の経済政策とアメリカ経済の近況

[総論]

◇アメリカ的特質

◇アメリカ経済の歴史的背景

[アメリカ経済各論]

◇アメリカの農業

◇アメリカの工業

◇アメリカの企業家

◇アメリカの労働者

◇アメリカの商業とサービス

◇アメリカの金融

◇アメリカの科学技術

◇アメリカの先端産業

後期

[世界とアメリカ]

◇国際通貨ドルの地位とIMF

◇アメリカと貿易(GATT)

◇アメリカ軍の世界的ネットワークと経済的意義

◇アメリカの海外援助

◇アメリカの多国籍企業

◇多国籍企業とアメリカ経済

[アメリカと世界の諸地域]

◇アメリカとEU

◇アメリカと日本

◇アメリカとアジア・太平洋

◇アメリカとカナダ・メキシコ

[むすびの話題]

◇アメリカの経済学(あたらしい学派の見解)

毎回の講義では、まずテーマに即した最新のニュースを話題にするところから話をはじめ、ついでそれぞれのテーマを理解するための基礎的な事実とキーワードを具体的な資料やデータにもとづいて解説します。各講義のしめくりには、受講者諸君との対話を大切にしながらテーマの本質について考えてみます。

☆ あたらしい情報やトピックスを、解説つきで、つねに受講者に紹介します。

年間予定とは別に、あたらしいニュースや情報は、随時、解説をつけて、お話しします。ただし、ただあたらしいことを追うばかりにおちいらぬで、ことの真相や本質的なことがらを、ちょっとたちどまって考えることができるような、多少とも理論的な視角をもちこみます。

☆ アメリカの諸大学にみられる長所をとりいれた授業です。

講義は、極力、受講者諸君の希望をいかして、たのしくすすめるつもりです。とくに、この講義には、アメリカの大学に見られる望ましい習慣をとりいれるようにこころがけています。たとえば、ながい時間の講義に諸君がつかれて集中力をおとさないように、講義の途中で小休止をおくようにしています。講義のなかでの受講者諸君の発言や質問は大歓迎です。講義にたいする受講者の側からの評価や採点、改善提案などは、もちろん今年も実施します。

☆ 最新の情報をもとに講義をすすめます。だから特定のテキストは使用しません。

この講義では、特定の図書を教科書として使用しません。アメリカ経済をあつかった文献はあまりにたくさんあって、しかもどの一冊も、これさえ読めばアメリカ経済が把握できるというほどアメリカ経済は単純ではないからです。講義では、その都度よい文献などを紹介していきます。今、どうしてもといわれれば、日々のニュースと諸君の周囲にあるさまざまなアメリカものの本の全体が、この講義の教科書です。

☆ 熱心な受講者には楽勝の、単位だけがほしい学生には恐怖の科目です。

この講義は、3年生、4年生いずれもが受講できることはいまでもありませんが、以上にのべたこの講義の性格からして、3年生のうちに受講することをすすめます。また、この講義については、いわば単位をかすめとることなど考えないほうが無難でしょう。すすんで受講しようとする者には、退屈させない楽しい講義をするつもりですし、また、そういう受講者がよい成績をおさめられるように評価のしかたを工夫しています。

財務会計論

遠藤 孝

〈授業の主たる内容〉

会計学、とくに企業の活動内容を外部に伝達開示することを目的とする財務会計（FINANCIAL ACCOUNTING）について、その伝達、開示の手段である貸借対照表（BALANCE SHEET）、損益計算書（INCOME STATEMENT）を中心に、その性質、内容、役割などについて講義する。

財務会計論は会計学原理ともいえるもので、企業会計とは何か、企業が作成する貸借対照表などの決算書は、どのようにして作成されるか、それはどのような性質、内容をもつものであるか、それはどのような役割を果たすものであるか、また決算書はどのように読んだら良いのか、など実例をもって説明する。

〈授業形態、講義〉

できるだけ多くプリントを配る予定。

〈授業項目と授業スケジュール〉

前期

- ① 4月第1週
企業会計、財務会計とは何か。会計学、財務会計論とは何か。その企業会計、財務会計の何を学ぶのか。
- ② 4月第2週
先週に引続き、企業会計、財務会計とは何か。企業会計、財務会計がわれわれの生活とどのように関係しているのかを中心に講義。
- ③ 5月第1週
財務会計の制度性について。企業会計制度とは何か。日本の企業会計制度、各国企業会計制度のタイプ。
- ④ 5月第2週
先週に引続き、日本の企業会計制度の問題点、「企業会計原則」について。
- ⑤ 5月第3週
貸借対照表論、貸借対照表とは何か。実際に企業が作成した貸借対照表で説明。貸借対照表の役割、貸借対照表学説。

- ⑥ 6月第1週
資産評価について。流動資産 — 棚卸資産の評価、有価証券の評価、現行評価制度の問題点。
- ⑦ 6月第2週
資産評価について。固定資産の評価、土地評価、減価償却について。
- ⑧ 6月第3週
繰延資産について。繰延資産の特殊性、繰延資産項目とその償却。
- ⑨ 6月第4週
引当金について、引当金とは何か。引当金の設定基準 — 商法、「企業会計原則」の引当金、引当金会計の問題点。
- ⑩ 7月第1週
同上
- ⑪ 7月第2週
資本会計について。

後期

- ⑫ 9月第1週
損益計算書とは何か。費用収益の認識。
- ⑬ 9月第2週
連結財務諸表とは何か。
- ⑭ 9月第3週
同上
- ⑮ 10月第1週
企業内容、会計内容の開示について。注記 財務諸表附属明細表（書）
- ⑯ 10月第2週
同上
- ⑰ 10月第3週
財務諸表の監査、商法上の監査。
- ⑱ 10月第4週
財務諸表の監査、証券取引法上の監査。
- ⑲ 11月第1週
会計の国際化、会計基準の国際的調整。
- ⑳ 11月第2週
同上
- ㉑ 11月第3週
日本、世界企業会計の最新動向。
- ㉒ 12月第1週
同上
- ㉓ 12月第2週
会計学を学ぶについて考えるべきこと。
— 総括
- ㉔ 最終週
予備

以上のスケジュールは学会出張、大学祭など大学の行事によって変更することがある。

〈成績評価の方法〉

試験による。（前期、後期2回実施の予定）
〔教科書〕講義の際指示。

管理会計論

中原 章 吉

〈授業の主たる内容〉

「管理会計」という分野は、多くの人にとって、大学に入って始めてお目にかかるものです。どの分野でも、ある段階に達するまでには、何段もの階段を一段一段昇ってゆかねばなりません。この「管理会計論」は、その二段目にあたる科目です。一段目の科目は「会計学総論」です。

「管理会計論」は、企業の「ことば」である会計、その知識体系である会計学の学習に必須な会計学の主要な2領域である「財務会計」と「管理会計」のうちの一つであるということができると思います。「財務会計」が企業の外への「ことば」であるのに対して、「管理会計」は企業の内での「ことば」です。

〈授業項目と授業スケジュール〉

前期は、管理会計の本質、体系その中の意思決定会計と業績管理会計をキーとして管理会計の基礎的概念を説明すると共に予算管理や原価管理との関連についても講義していきたいと思えます。

後期は、管理会計の豊富な各論のなかから、「財務諸表分析」と「付加価値管理会計」をキーとして管理会計の問題点を検討します。

「財務諸表分析」については、その企業の健康診断としての役割を、方法とその留意点、収益性の分析、生産性の分析、安全性の分析、総括的方法を内容として説明します。「付加価値管理会計」については、経営計画とくに要員計画と付加価値会計、経営管理のための付加価値生産性を内容として説明します。

〈予め読むべき文献など〉

1年生で「会計学総論」を選択しなかった経済学科の学生は会計学の入門書を読んでおくこと講義が理解しやすいと思えます。例えば、『企業会計の基礎知識』（創成社）

〔教科書〕講義の際、指示します。

会計監査論

飯 岡 透

会計監査の目的は、企業の作成した財務諸表がその企業の財政状態や経営成績を適正に表示しているかどうかについて、監査人が意見を表明することであり、企業規模の拡大、利害関係者の多様化および企業活動の複雑化に伴い、近年、その役割はますます重要になってきている。

本講座では、次の内容につき順次講義する。

1. 会計監査の目的と種類
 - (1) 会計監査の目的
 - (2) 会計監査の種類
 - (3) 監査基準の必要性とその構造
2. わが国における監査制度の発展
 - (1) 戦前におけるわが国監査制度の展開
 - (2) 戦後におけるわが国監査制度の展開
3. 証券取引法による監査制度
 - (1) 証券取引法による企業内容開示制度
 - (2) 公認会計士監査制度
4. 商法による監査制度
 - (1) 商法による計算と公開制度
 - (2) 監査役監査制度
 - (3) 会計監査人監査制度
5. 監査人の要件と責任
 - (1) 監査人の要件
 - (2) 監査役および会計監査人の選任と解任
 - (3) 監査役および会計監査人の職務権限と責任
6. 監査証拠の種類と内容
 - (1) 監査証拠の意義と分類
 - (2) 十分な証拠とその決定要因
7. 内部統制と監査リスク
 - (1) 内部統制の構成要素とその評価
 - (2) 監査リスクと重要性
8. 監査要点と監査手続の選択適用
 - (1) 監査要点の意義と種類
 - (2) 監査手続の意義と分類
9. 監査計画の設定要件と組織的監査
 - (1) 監査契約と予備調査
 - (2) 監査計画の目的とその設定
 - (3) 組織的監査の必要性と審査機能の整備
 - (4) 他の監査人の監査結果の利用
10. 監査調書の目的と種類
 - (1) 監査調書の目的と作成要件
 - (2) 監査調書の種類と保存
11. 経営者による確認書の意義と記載内容
 - (1) 経営者による確認書の役割
 - (2) 経営者による確認書の記載内容
12. 監査報告書と監査概要書
 - (1) 監査報告書の意義と機能
 - (2) 監査報告書の種類
 - (3) 短文式監査報告書の記載内容
 - (4) 特記事項の記載内容
 - (5) 監査概要書の目的と記載内容

会計監査は、財務諸表の適否についての意見表明を目的とするものであるから、会計学総論、簿記論および財務会計論などの講義を履修し、財務諸表について十分に理解していることが望まれる。なお、成績は、レポートおよびテストの結果によって評価する。また、教材・参考書については、最初の授業時に指示する。

商業政策

岩下 弘

〈授業項目〉

- 一 わが国の小売商業構造と蓄積構造
 - 1 80年代の小売商業構造
 - 2 80年代の大手小売業の資本蓄積構造
 - 3 90年代の大手小売業の資本蓄積構造
- 二 わが国の流通政策論
 - 1 中小小売商保護政策
 - 2 流通近代化政策
 - 3 流通システム化計画
 - 4 流通革命論
- 三 流通ビジョンと流通政策
 - 1 70年代の流通
 - 2 80年代流通産業ビジョン
 - 3 90年代流通ビジョン
- 四 わが国の小売商業調整政策の展開過程
 - 1 百貨店法
 - 1) 第一次百貨店法 2) 第二次百貨店法
 - 2 中小小売商業振興法
 - 3 小売商業調整特別措置法
 - 4 大店法
 - 1) 1973年法 2) 1979年改正法
 - 3) 1991年改正法
 - 5 凍結宣言、要綱及び条例
 - 6 通産省による行政指導＝抑制措置
 - 7 規制緩和
 - 1) 規制緩和の流れ－前川レポート、行革審報告 2) 日米構造問題協議 3) 適正化措置
 - 8 特定商業集積法
 - 9 街づくりと都市計画
- 五 海外の流通政策
 - 1 イギリス
 - 1) 出店調整政策－都市・農村計画法
 - 2) 日曜営業問題－商店法
 - 2 フランス－ロワイエ法
 - 3 ドイツ－土地利用計画
 - 4 アメリカ－ゾーニング規制
- 六 「大型店問題」と訴訟－中小事業者運動論
 - 1 大型店の出店をめぐる諸問題
 - 1) 社会問題としての大型店の出店
 - 2) 消費者と大型店
 - 2 江釣子訴訟
 - 1) 北上市の商業とジャスコの出店及びその影響
 - 2) 訴状と判決の問題点
 - 3 生業権訴訟
 - 1) 名古屋市の大型店問題
 - 2) 名古屋市の商業と小売市場

3) 生業権論

七 流通問題と消費者保護政策

- 1 消費者問題論
- 2 消費者保護基本法
- 3 消費者行政
- 4 生協

八 流通問題と独禁政策

- 1 独占禁止法
- 2 不公正取引
- 3 取引慣行

以上

〈成績評価〉

試験、レポート、出席により評価する。

〔教科書〕教科書は特に指定しない。必要な文献は指示する。

貿易論

古沢 紘造

オゾン層破壊、熱帯林破壊、温暖化、酸性雨、放射能汚染など地球を取り巻く環境はますます深刻になっています。一方、私たち生命体は水・大気・土壌の汚染により生存を脅かされるところまできています。本講義では、こうした危機的状況を踏まえ、生命系の経済学の立場に立って日本の対外経済関係（貿易、投資、援助）を批判的に考察したいと思います。その際、構造的に、また、人々の生活の実態に触れながら検討をすすめたい。

生命系の経済学とは、人格をもった人間としてのニーズ、環境、資源、地球のすべての生命との共存などを基準とした主体的な指標の確立と、それを実現し保証する政策と運動を具体的に提出する経済学です。詳しくはポール・エキンズ編著『生命系の経済学』（御茶の水書房）を読まれるとよいでしょう。

〈授業内容〉

- I. 農産物と貿易
- II. 水産物と貿易
- III. 林産物と貿易
- IV. 資源と貿易
- V. 工業製品と貿易
- VI. 援助と貿易
- VII. 企業進出と貿易
- VIII. 総括

I～VIIIの具体的な内容については、最初の講義のときに話したいと思います。

〈評価方法〉

基本的にはペーパー・テストにより評価しますが、自主的にレポートを提出してもらい、それを含めて評価をすることも考えています。答案やレポートを書くとき、論点を明確にし、自分の考えをしっかりと出すように努力してもらいたいと思

ます。思考の跡がうかがえないものは評価の対象にはならないでしょう。

〈教材〉

とくにこれといった教科書はありません。専門用語などむずかしいことは、そのつど説明しますので、授業に出てもらえば内容は充分理解できると思います。講義の中で特に興味をもち、もう少し掘り下げてみたいということがありましたら、遠慮なく話に来て下さい。いろいろな文献や訪れたらよい機関を紹介しします。講義の内容と卒業論文のテーマが関連しているということで研究室（第2研究館4階34号室）を訪ねる人もいます。

マーケティング

曾我信孝

1. 前期はマーケティングの基本政策を収奪構造の観点から説明する。

(1) 製品政策

- ① 概念と差別化政策
- ② 多様化・細分化政策
- ③ ライサイクルと計画的陳腐化政策

(2) 価格政策

- ① 概念と価格設定の方法(1)
- ② 価格設定の方法(2)と消費者支配
- ③ 差別価格と収奪

(3) チャネル政策

- ① 概念と流通機構
- ② 商業の排除と系列化政策
- ③ 流通支配の形態

(4) 販売促進政策

- ① 概念と人的販売政策
- ② 広告政策と広告業界

(5) マーケティング・ミックス

※前期の講義のねらいは、マーケティングの基本理論を理解してもらうことにある。しかし、講義中は理論の説明に固執するわけではなく、とりわけ消費財のマーケティング事例を豊富に取り入れるつもりである。それは学生諸君が今後マーケティングを応用できる能力をつけることを期待しているためである。

2. 後期はマーケティング理論の応用と国際マーケティングの分析を課題にする。とりわけ、総合商社を軸として、日本企業が激変する国際市場にどのように対応しているかを、マーケティングの観点から分析する。

(1) 激変する市場環境

- ① 国内市場の変化
- ② ブロック経済化
- ③ 経済規制の緩和

(2) 総合商社の新事業

- ① 川下戦略
- ② 消費財生産部門への参入
- ③ 新事業への対応政策

(3) 総合商社の国際マーケティング戦略

- ① 消費財マーケティングの展開
- ② 総合商社の需要創造活動
- ③ ネットワークと支配

(4) 総合商社と子会社

- ① 子会社戦略
- ② マーケティング管理と子会社

(5) 情報化戦略

- ① 国際化と情報の対応
- ② 通信事業と支配
- ③ 情報関連事業と支配

※地球規模での市場の変化は、日本企業だけではなく、世界の企業がマーケティングを限定した地域で展開することはできなくなっている。また、日本市場だけを考えても、生産から消費までを考えなければならないマーケティングでは、国際マーケティングを抜きには論じられなくなっている。そのなかで、日本企業の国際マーケティングに総合商社は深く関与している。したがって、総合商社の行動を分析することで、総合商社の国際マーケティングはもとより、日本企業の国際マーケティングの実態を解明することにねらいがある。

〈評価の方法〉

- ① 年一回の定期試験……70%
夏休中の課題 ……20%
出席状況 ……10%
- ② 評価基準
講義内容の理解 ……60%
問題意識 ……30%
分析力・応用力 ……10%

〔教科書〕 曾我信孝『総合商社とマーケティング』（白桃書房）¥4,000

〔参考書〕 三浦 信・来往元郎・市川 貢『マーケティング』（ミネルヴァ書房）
¥2,200
石原武政『マーケティング競争の構造』（千倉書房）¥2,800

労務管理論

石井脩二

〈講義目的〉

日本経済の繁栄を支えてきた日本企業の存在意義が問われはじめている。国際的には依然としてくすぶり続ける経済摩擦や経済ブロック化への動

き、国内的には政財界ゆ着による倫理性のない企業犯罪の頻発、過労死や長時間労働に示される労働生活の貧しさ、いわゆるバブル崩壊に伴う企業業績の悪化といった情勢のなかで、あらためて日本企業のあり方が問われている。日本企業をとり巻くこれらの環境変動は、日本企業が今後どのような方向へ進んでいくのかという「将来予測」を難しくしている。この変化の激しい時代に必要なのは、現実には生起している事実を可能な限り把握し、そのなかで次なる時代の方向を自分なりに見定めることである。この講義の目的は、日本企業の現実に関心をもち、これから到来するであろう社会がいかなる様相をもつことになるかを考えるための情報を提供することにある。

〈講義内容〉

企業は、一般にヒト・モノ・カネ・さらに情報といったさまざまな経営資源を調達・購入し、その効果的な組み合わせによって目的とするものを実現していく。日本企業が国際的に強い競争力を発揮しえたのは、これら諸資源のうちヒト資源つまり人的資源の活用の卓越性によるといわれている。企業活動のうちで人事・労務管理といわれてきたものが専らこのヒト資源の有効利用に関係している。

ところが現在、日本企業がつくりあげてきた強い競争力そのものが問われはじめている。このことは、競争力の源であった日本企業での人的資源管理つまり人事・労務管理そのものがその妥当性を問われているということにはほかならない。この講義では、日本企業が直面している企業環境の変化のなかで、どのような人的資源管理が展開されようとしているかを極力最新の情報によりつつ明らかにし、新しい制度・方式の展開の先にどのような日本企業の将来が浮上してくるかを考える。

前期は、人的資源管理に関わるもののうち、一般に「雇用管理」といわれている領域の問題を扱う。雇用管理とは、企業が必要とする量と質の人的資源を調達し育成する一連の計画的・組織的活動である。この雇用管理を貫いていた原理・原則は、周知の終身雇用慣行であり、年功制度であった。しかし、今日、日本企業を取りまく環境変動は、従来の雇用管理の原理・原則をゆり動かし、解体の様相さえみせはじめている。この講義では、その変動に関する事実情報を可能な限り把握し伝えようというわけである。講義は、以下の順序で進めていく。

序章

労務管理ないし人的資源管理とは

第1章

日本企業が直面している諸問題

第1節 企業環境の変化と日本企業の戦略転換

第2節 事例研究

第2章

雇用管理の内容と新しい動き

第1節 募集・選考

第2節 教育訓練・配置

第3節 昇進・昇格

第4節 給料・報酬

第5節 労働時間

第6節 定年退職

第3章

人事制度の新しい展開

第1節 変化を促進した要因

第2節 具体的制度とその有する意味

〈授業方式〉

授業は、講義方式、板書。出欠にはこだわらない。但し前期・後期それぞれに試験を行う。

〈成績評価〉

前期（50点）、後期（50点）を総合して判定する。試験内容の評価は、答案の論理性と説得性にもとづく。勿論、講義内容をふまえていることを条件とする。優・良・可・不可の配分は行わない。全員の答案がすぐれていれば全員が優と判定されることもありうる。また、その逆も極端な場合には生じうる。

〔教科書・参考書〕

テキストは使用しない。しかし、以下の文献は必読。講義時間にプリント配布。

①日本経済新聞社編『ゼミナール現代企業入門』（日本経済新聞社）¥2,800

②日本経済新聞社編『会社解体新書』（日本経済新聞社）¥1,300

③日本経済新聞社編『テラスで読む当世労働事情』（日本経済新聞社）¥1,300

④佐野陽子『企業内労働市場』（有斐閣）¥1,700

経営管理論

百田義治

〈講義の要旨〉

今日、日本的経営システムは、「トヨタイズム」という言葉に象徴されるその「効率性」の側面においても、また「長時間労働」や「過労死」という言葉に象徴される「否定的」な側面においても大きな関心が寄せられている。現代社会における我々の生活は、その大部分が企業の活動を媒介に実現されているのであり、物質的にも精神的にも豊かな社会を実現し、働きがいのある労働生活を回復するために、現代企業における経営管理問題に無関心でいられないことは多言を要しないであろう。

経営管理論は、企業の経営管理諸活動を近代化

・合理化する技法・制度・理念の提供を課題として誕生したものであり、今日においても、その基本的な性格が実践性にあることは否定できない。すなわち、現代の経営管理論は、めざましい技術革新の進展や著しい国際化の展開、あるいは急速に進行する高齢化社会の到来や深刻化する環境問題、さらには自覚した市民として登場しつつある消費者の行動の多様化など企業を取り巻く諸条件の変化に起因する諸問題に対する実践的な指針・政策を提供するという方策論的性格を一面において有している。

本講義では、このような方策論的経営管理論が提起するさまざまな経営管理の技法・制度・組織あるいは理念・思想の歴史的展開と現状を事実即して具体的に考察する。しかし同時に、経営管理の諸問題は、広義の経済学、あるいは社会科学の対象として位置づけて考察することが必要である。なぜなら、一つには、現代企業の諸活動は、経営者や管理者ばかりではなく、圧倒的多数の従業員の「総労働」として実現されているのであり、そのような総体としての企業構成員すべての労働と生活の豊かな未来を展望することが経営管理論の課題でもある。二つには、現代企業は私企業とはいえ「社会的存在」・「社会的公器」でもあり、国民全体の豊かな未来を展望するという立場から、現代企業の経営管理問題の多様な諸相を歴史的、客観的、科学的に認識し、その問題点を解明することも経営管理論の重要な現代的課題である。すなわち、現代企業の諸活動は企業構成員全体の労働に支えられたものであり、またその諸活動は一般株主や消費者あるいは取引業者や地域住民などの、さらには国際化（グローバリゼーション）の現状を踏まえれば進出国との関係をも含めて、数多くの利害関係者との多面的で密接なネットワークの中で展開されているのであり、したがって現代企業の経営管理の諸問題は、実践的・方策論的な立場からだけではなく、一般従業員、下請・関連企業、地域住民、消費者などの労働と生活との関係をも視野に入れて検討されなければならないであろう。本講義では、できる限り、このような視点からも経営管理の諸問題にアプローチすることにしたい。

〈授業の方法〉

授業は、主として、教科書と参考書を素材に授業スケジュールに従って行いが、経営管理問題への関心を鼓舞する意味でも、また経営管理の歴史的展開を学ぶことの現代的意義を理解する意味でも、新聞や雑誌の記事などできる限りアップ・トゥ・デートな生きた題材の利用にも努める。とくに、技術革新や日本的経営や国際化など経営管理の現代的課題を扱う後期の授業では、ビデオなども利用し、できるだけ具体的に現代企業の経営管理の実際を把握することにも努める。

〔授業スケジュール〕

- ①第1週～第2週：経営管理入門（社会と企業；現代企業と経営管理；経営者と労働者）
- ②第3週～第7週：現代経営管理の基本構造（生産管理；労務管理；財務管理；マーケティング；トップ・マネイジメント、など）
- ③第8週～第12週：経営管理の理論（科学的管理論；人間関係論；現代組織論；経営戦略論、など）
- ④前期試験（前期最終週）
- ⑤第14週～第15週：技術革新と経営管理（MC技術革命と労働；現代企業の情報化；OAの進展と事務労働）
- ⑥第16週～第18週：日本的経営論（日本的労使関係；日本的生産システム；法人資本主義と企業集団；企業社会論）
- ⑦第19週～第22週：国際化と経営戦略の新展開（日本企業、アメリカ企業、イギリス企業などの具体的事例について）
- ⑧第23週：現代経営管理の課題と労働の未来
- ⑨第24週：後期試験

（以上のスケジュールは授業の進め方の基本的な方向です。時間割編成の関係などで若干変更することがあります）

〈成績評価の方法〉

前期試験と後期試験に、数回のレポートと出席状況を加えて総合的に評価します。

〔教科書〕今井俊一編著『経営学』（八千代出版）1994年

笹川儀三郎編著『現代経営の基本問題（仮題）』（税務経理協会）1994年

〔参考書〕新書・文庫などを中心に随時指定します。

行政法Ⅱ

齊藤 寿

行政法の各論として、各種の行政法領域ごとに、関係法令を類型化し、解釈学的にとらえるとともに、判例や事例研究を通して、行政法令の現実的機能にふれつつ、興味深い講義を続け、楽しく研究します。

主な内容としては、(1)行政組織法、公務員法、(3)公物法・営造物法、(4)警察法、(5)統制法、(6)公企業法、(7)公用負担法、(8)財政法、などについて学んでいきます。

そして、時間的に可能であれば、生活空間（環境）形成行政法などにも、およぶ予定です。これらの講義は、一年間・全体を通じて、極めて楽しい雰囲気の中でなされます。

〔教科書〕『現代行政法論』（勁草書房）、

『行政法Ⅰ・Ⅱ』（評論社）など、拙著の中から、講義の際、選択・指示します。

民法Ⅳ（１）

叶 和 夫

開講時に指示する。

民法Ⅳ（２）

叶 和 夫

開講時に指示する。

比較憲法

竹 花 光 範

本年度も、昨年度と同様、次の順序で講義を行う予定である。

1. 比較憲法学とは
2. 憲法の内容と分類
3. 国体と元首（共和制と君主制、元首、国のシンボル等）
4. 統治の原理と構造（民主政治の基本原則、議院内閣制と大統領制、一院制と二院制、社会主義国における議会制度等）

〔教科書・参考書〕講義の中で述べる。

経済法

川 井 克 俊

経済法—独占禁止法を中心として—

- 第1部 経済法概説。経済法とは何か。経済法と競争政策。経済法における独占禁止法の位置づけ。
- 第2部 独占禁止法。独占禁止法の目的。その他私的独占、カルテル、企業結合、独占的状态、不公正な取引方法等について、なるべく条文に即して講義する。

このほか、最近でいえば経済の国際化を迎えて、国の内外で競争政策に対する関心が高まっている。日米構造問題協議しかり、臨行審の公的規制の見直ししかりである。このようなアップトウデートの問題に対して講義し、学生の社会的問題に対する学問的素養を高める。

〔教科書〕川井克俊著『競争政策法概説』（高文堂）¥3,600

〔参考書〕講義の中で紹介する。

川井克俊著『カルテルと課徴金』（日本経済新聞社）

川井克俊著『いやでもわかる公取委』（日本経済新聞社）

国際関係論

首 藤 素 子

第1に、冷戦後の国際関係の特徴と問題についてできる限り具体的に現状分析をする。第2に、戦後日本の対外関係について、日米経済摩擦、開発途上国に対する政府開発援助（ODA）の2点を中心に、これもできる限り新しい資料をふまえながら問題の所在を理解できるようにしたい。第3に、現代の国際関係における紛争の問題について、とくに南北問題及び第3世界諸国における紛争と軍事化の構造をとりあげ、暴力と平和の問題に対する関心を深めるようにしたい。

〔教科書〕細谷千博・臼井久和編『新版 国際政治の世界』（有信堂高文社）1993年

〔参考書〕有賀 貞他編『講座 国際政治』（東大出版会）1989年（第2、3、4巻）

西洋政治史

浦 田 早 苗

現代西ヨーロッパの政治は、そこから多くのこ

とを学んできた我々の先達が描いたほど理想的な状態で機能しているわけではなく、数々の矛盾にみちている。自由、平等の精神なり、『華やかなりし議会政治』の概念は、激動の現代政治のなかにあっては時として空虚な響きを投げかけてくることは否定できない。しかし、国家や政党、国民や民族といった西洋で生まれた近代政治の概念に再検討が迫られている今ほど、そうした概念の本質を成立した歴史過程のなかで考察することの重要性が問われたときはなかった。今年度はフランス革命以降の18、19世紀のフランス政治史を通じ、『近代』の意味するところを考えてみたい。

宣伝広告論

上 條 末 夫

政治宣伝と政治的コミュニケーションの問題を主として取り上げる。政治宣伝の理論、歴史、そして実際について、具体例によって説明する。現代は宣伝の時代ともいわれ、政治も宣伝やコミュニケーションがきわめて重要な役割をもっている。主権者としての国民は、これにどう対応していくべきか、あるいは社会人として、社会および個人との関係をどう調整していくべきか、という問題を解明していきたい。

〔参考書〕その都度指示する。

政 党 論

前期：岩 井 奉 信
後期：早 川 純 貴

政党は民主政治の要であるといわれてきた。しかし、近年の激動する政治状況の中、政党および政党政治のあり方そのものが問われるようになってきている。本講義では、前期で岩井が現代日本の政党および政党政治の現状について、政治改革や政界再編などのトピックを中心に講義を行ない、現代政党が抱える問題についての理解を深める。その上で、後期には早川が政党および政党政治の理論について講義を行なうと共に、諸外国の政党についての比較などを行なう。

〔教科書〕岡沢憲夫『政党』（東京大学出版会）

経 営 統 計

相 山 長 知

開講時に指示します。

国際経営論

茂 垣 広 志

国際経営論とは「国境を越えて事業展開している活動をどのようにマネジメントするのか？」という課題に取り組んでいる領域である。周知のように1985年のプラザ合意以降の急激な円高と貿易摩擦による相手先国の輸入規制は、これまでの日本企業の国際戦略の転換を余儀なくさせるものであった。海外市場確保のための現地生産や円圏離脱のための第三国生産、それらは企業の戦略と活動の調整をますます複雑なものにする。

本講義では、企業の国際化、海外進出、多国籍化というような言葉で表わされている現象を企業経営の視点から多面的にとらえ、検討していきたい。その際、日本企業を念頭において話を進めるが、欧米の多国籍企業との比較を踏まえながら、理論とケースを織り交ぜつつ講義を進行させていく予定である。

〔教科書〕根本 孝・諸上茂登編著『国際経営の進化』（学文社）¥2,800

保険経営論

石名坂 邦 昭

今日、日本経済は世界的な景気の停滞と貿易摩擦の激化から輸出の減少傾向となり、一方国内の個人消費、住宅投資、設備投資が伸び悩むなど景気回復に暗い材料が多い。こうした中であって高齢化問題など企業が克服しなければならないリスクが山積されている。そこで本講義においてはいかに各企業が企業危険に対処したらよいかといった観点から、リスク・マネジメントおよび保険を科学的にかつ実際の問題を取りあげながら行う。

〔教科書〕開講時に指示する。

財務会計論

渡 邊 恵 一 郎

財務会計論は会計学の一分野であり、企業の財政状態と経営成績を明らかにするという基本的職能を取り扱っている。財務会計の目的は、企業経営に責任を持つ経営者が、投資者、債権者、その他企業活動に利害関係を持つ外部の人々に対して、適切な企業情報を提供することにある。この主たる提供手段が貸借対照表、損益計算書などの財務諸表である。

講義では、財務諸表を作成するための会計処理と表示方法を中心的課題とし、またこれに関するわが国の商法、税法などの会計法規を取り上げ、さらに国際会計基準との関連にも触れる。

〔教科書〕染谷恭次郎著『現代財務会計』
(中央経済社)

経営分析論

片 桐 伸 夫

経営分析とは、文字どおり「企業の経営を分析すること」であり、かなり多方面にわたる内容をもっています。

前期は収益性・安定性分析を、後期は生産性・社会性・損益分岐点・利益増減・成長性その他の分析をとりあげ、教科書で必要最小限の理論を学び、ただちに、新聞などの最新のトピックによって企業の現実にふれます。

この授業の目的は、「財務諸表分析」を中心に、各人が就職を希望する、あるいは興味を持っている会社の「分析」をしていただくことにあります。(財務諸表とは「貸借対照表」や「損益計算書」など、企業の毎期の経済活動を報告するものです。)

したがって、成績は「平常点」で評価します。

- ① 前・後期、計2回のレポート提出と、
- ② 前・後期、計2回のテストを行い、
- ③ なお、出席を重視します。

学年末試験は行わないので、十分注意下さい。

〔教科書〕開講の時、指示します。

人税の問題が大きな関心事として存在している。消費税についても何かと話題にのぼっている。本講義では、普通法人(株式会社等)を前提とした法人税の算定過程を中心に講義を進めていく。

税務会計とは、一般に企業における課税所得の算定過程を研究する分野をいう。この課税所得は、商法あるいは企業会計原則等によって算出された利益にもとづいて算定される。そこでは、法人税法固有の規定(いわゆる別段の定め)が適用され、負担の公平、簡便性、あるいは政策的配慮等さまざまな考え方が反映されている。講義では、こうした税法固有の考え方の根拠、背景等を出来るだけやさしく説明しながら、今日、法人税法の抱えている問題点を明らかにしていきたいと考える。

講義内容の概要は次のとおりである。

1. 法人の種類及び課税所得の範囲等
2. 同族会社と青色申告
3. 課税所得の計算構造
 - (1) 企業利益と課税所得の関係
 - (2) 益金の額及び損金の額
 - (3) 公正処理基準及び資本等取引
4. 収益の計上基準についての原則的な考え方
 - (1) 引渡基準
 - (2) 特殊販売収益の計上基準
 - (3) 役務、請負、譲渡収益等の計上基準
5. 受取配当金益金不算入
6. リース取引
7. 給与(報酬、給料、賞与)の税務処理基準
8. 交際費及び寄付金
9. 有価証券、棚卸資産、固定資産、借地権、繰延資産等の税務処理
10. 圧縮記帳
11. 引当金と準備金
12. 企業を巡る国際課税の問題
 - (1) 移転価格税制
 - (2) タックス・ヘイブン対策税制
 - (3) 外国税額控除制度
13. 法人税額の計算

なお、テキスト、参考書等は開講時に指示する。

〔評価方法〕

原則として学年末の試験によって評価する。レポートは年1回程度、提出を求める。また、毎回出欠をとるかどうかは、初回の講義の中で受講生諸君と相談して決めたい。

税務会計論

高 木 克 己

税務会計論

今日、租税は我々個人にとっては、所得税、相続税等の問題として、また、企業にとっては、法

経営労務論

中 村 眞 人

企業社会と言われる今日の日本社会で、人々はそのように働き、生活を支えているのだろうか。企業を社会経済のなかに位置づけた上で、企業と

労働との関係、企業のなかでの労働の実態について、考えていきたい。

学問の対象それ自体は、会社と仕事という身近なものだが、専門的な諸概念や理論枠組を用いて問題の発見と説明をはかる。講義内容は高度だから、自分で毎回、詳しいノートを取りながら聴講すること。

(1) 企業社会の成り立ちと労働

現代日本には、さまざまな業種の企業があり、また世界的な巨大企業から零細企業に至るまで企業規模の幅も広い。これらの企業は、どのような関係のもとに結びついているのか。そして、それは、企業で働く人々にどのような階層分化をもたらしているのか。また、それぞれの階層ごとに、どのような問題を抱えているか。これら前半については、下記の教科書を用いる。

(2) 現代日本企業の人的資源管理と労使関係

後半では、私がおこなっている実態調査研究をふまえて、現代日本企業の雇用管理（人事管理）、賃金、労働時間、労使関係などについて、具体的な事例を示し、最新の現実にも引照しつつ解説する。

〔教科書〕戸塚秀夫・徳永重良編『現代日本の労働問題』（ミネルヴァ書房）

商業史

山田 勝

商業と商業経営の歴史的発展の過程を、文化との関係に留意しながら講義する。その際、対象とする時代の人々の生活や考え方、現代とのかかわり、といった諸点も検討していきたい。

主に対象とする時代は欧米については16世紀以降、日本については19世紀中葉以降とする予定である。

〔教科書〕開講時に指示する。

国文講読Ⅰ（上代）

佐原 作美

『万葉集』の中から各期を代表する歌人の特色ある歌を選んで講読していきたい。

〔教科書〕土橋 寛編『作者別 万葉集』（桜楓社刊）¥1,800

国文講読Ⅱ（中古）

鈴木 裕子

今年度は、『源氏物語』を、紅葉賀巻から読む。本文を正確に読みながら光源氏の青春期の喜びや苦悩というものについて考えてみよう。

〔教科書〕新潮日本古典集成『源氏物語』二（新潮社）

国文講読Ⅲ（中世）

藺 部 幹 生

中世は説話の時代とも言われるが、そのなかでも説話文学の代表作品である『宇治拾遺物語』を読む。一つ一つの説話が担っている歴史的背景や意味、及び他作品との関連について考えてみたい。

〔教科書〕中島悦次校註 角川日本古典文庫『宇治拾遺物語』（角川書店）¥720
〔参考書〕その都度指示する。

国文講読Ⅳ（近世）

清 田 啓 子

近世小説の白眉とされる『雨月物語』をとりあげる。古典と中国文学との撰取による独自の世界を充分味わってみたい。また、読本の発生以来、後期読本への流れも見、「雨月」の位置も確かめたい。

〔教科書〕水野 稔校注『雨月物語』（明治書院）

国文講読Ⅴ（近・現代）

大 室 英 爾

近代詩を読む。『於母影』の訳詩などからはじめて大正期の朔太郎・犀星・春夫あたりまでの主たる作品を順次読み、考える。併せて近代詩の流れにも検討を加える。

〔教科書〕萬田・吉田編著『展望近代詩』－その歴史と作品－（双文社出版）¥1,236

国文講読V (近・現代)

笹瀬 王子

前年度に引きつづき、泉鏡花を扱う。作品に忠実な読みを通して〈一つの美しい魂の国〉とも評される鏡花文学の特質とその魅力を考えたい。

〔教科書〕川村二郎編『鏡花短篇集』（岩波文庫）

¥520

泉 鏡花著『歌行燈』（岩波文庫）

¥260

英語演習 I (ディクテーション)

岡本 誠

慣用句の成立背景を歴史的にみていく。例えば、OKという言い方はどのようないきさつで成立したのか。あるいはmaverickとはどうして「一匹狼」の意味になったのか。これを全講義ディクテーションで行なう。紙と鉛筆それに辞書を持ってくること。各自TOEFL 500点をめざしてほしい。

〔教科書〕テープ使用。

国文特講V (近・現代)

笹瀬 王子

田山花袋の回顧録『東京の三十年』を読む。本書に描かれた文壇や社会の動きに留意しつつ、多角的に明治の文学を考えてみたいと思う。

〔教科書〕田山花袋『東京の三十年』（岩波文庫）

¥570

〔参考書〕授業中、適宜指示する。

計算機言語概論

杉田 徹

高度情報化社会と呼ばれる二十一世紀の基盤技術のひとつにコンピュータが上げられる。その利用はあらゆる分野で急速に進められている。特に通信分野、医療関係の検査診断機器には、顕著なものがある。将来、診療放射線技師を目指す諸君にとって、コンピュータの基本知識は必要不可欠なものである。この講義ではパーソナルコンピュータの高級言語であるBASICを中心に、アルゴリズム的発想の習得とその活用を目標に授業を進める。講義は次のテーマで行う。

1. コンピュータ言語の基本理論
2. BASIC 言語
3. パーソナルコンピュータ (PC-9801)による
実習

〔教科書〕コンピュータ教育工学研究所編

ガイドブック『BASIC』

(サイエンス社) ¥1,854

英文タイプライティングⅡ

竹内 美恵子

一年次に習得した基礎の上に、レター、各文書を中心に実務的な内容を学んでいきます。プリントしたものを課題とし、一定の時間内に文書等の処理ができるように授業を進めていきます。

なお、他学部の学生は、ブラインド・タッチをマスターしていること。

時事英語

岡本 誠

その日の朝の英語ニュースを聞く。受講者はこれを機会に世の中の政治経済の動きにも関心をもつことが肝要。また当日は耳をよく掃除してやること。

〔教科書〕テープ使用。

臨床放射線特論 I

本間 襄

医療の中で、診療録・依頼箋の内容を理解し、相互のコミュニケーションに欠かせない外来医学用語の初歩的知識の修得を目的とする。

他学部履修では、将来病院や医学関係に従事する人に必要な知識である。

〔教科書〕定めず

医用画像診断装置は、コンピュータ技術の進歩と共に診断には不可欠なものとなってきた。この講義では、核医学機器（ガンマカメラ、シングルホトンECT、ポジトロンCT）、X線CT装置、MRI装置のハードウェアとソフトウェアについて概説する。また超音波診断装置、DSA、CRならびにPACSについても、その概要を講述する。

〔参考書〕 岩井喜典他編著『医用画像診断装置』
（コロナ社）

教職および資格講座

教 職 課 程
 学校図書館司書教諭講座
 社会教育主事講座
 博物館学講座
 社会福祉主事 講座
 社会福祉士基礎

※上記の教職および資格講座授業科目の講義内容が掲載されているが、各学部において受講できる課程および講座は以下のとおりである。
 (履修についての詳細は、「教職課程・資格講座の履修要項」を参照すること。)

課程・講座名	資格取得学部
教 職 課 程	全 学 部
学校図書館司書教諭講座	全 学 部
社会教育主事講座	全 学 部
博物館学講座	仏教学部・文学部
社会福祉主事講座 社会福祉士基礎	全 学 部

講義内容目次

I 教職課程

(1) 教職に関する専門科目 (必修)

教育原理 (上岡 安彦)	1
教育原理 (北村 三子)	1
教育原理 (坂本 信昭)	1
教育原理 (田中 智志)	1
教育原理 (村山 輝吉)	1
教育心理学 (教育方法論を含む) (遠藤 司)	2
教育心理学 (教育方法論を含む) (大浜 幾久子)	2
教育心理学 (教育方法論を含む) (北島 歩美)	2
教育心理学 (教育方法論を含む) (国眼 眞理子)	2
教育心理学 (教育方法論を含む) (中村 均)	2
青年心理学 (教育方法論を含む) (大浜 幾久子)	2
青年心理学 (教育方法論を含む) (川田 三夫)	2
青年心理学 (教育方法論を含む) (小宮山 要)	3
青年心理学 (教育方法論を含む) (牟田 悦子)	3
特別活動 (中野目 直明)	3
生活指導 (遠藤 司)	3
生活指導 (佐藤 尚人)	3
宗教科教育法 (小山 一乗)	3
国語科教育法 (神谷 道倫)	4
書道科教育法 (那須 隆吉)	4
英語科教育法 (荒井 良雄)	4
社会科・地理歴史科教育法 (長野 覺)	4
(平成元年度以前入学生: 社会科教育法)	
社会科・地理歴史科教育法 (中島 義一)	4
(平成元年度以前入学生: 社会科教育法)	
社会科・地理歴史科教育法 (野呂 肖生)	5
(平成元年度以前入学生: 社会科教育法)	
社会科・公民科教育法 (長谷部 八朗)	5
(平成元年度以前入学生: 社会科教育法)	
社会科・公民科教育法 (谷敷 正光)	5
(平成元年度以前入学生: 社会科教育法)	
社会科・公民科教育法 (小山 一乗)	6
(平成元年度以前入学生: 社会科教育法)	
社会科・公民科教育法 (橋爪 敏)	6
(平成元年度以前入学生: 社会科教育法)	
職業科教育法 (前田 幸一)	6
商業科教育法 (谷敷 正光)	7

道德教育の研究 (上岡 安彦)	7
教育実習 (上岡 安彦)	7
教育実習 (坂本 信昭)	7
教育実習 (村山 輝吉)	8
教育実習 (北村 三子)	8

(2) 教職に関する専門科目 (選択)

教育哲学 (汐見 稔幸)	8
教育社会学 (高島 秀樹)	8
現代社会の諸問題と教育 (高島 秀樹)	8
教育評価 (大浜 幾久子)	9
教育情報学 (小倉 康仁)	9
教育調査 (鈴木 規夫)	9
教育史 (北村 三子)	9
教育関係法規 (広沢 明)	9
社会教育の基礎 (社会教育概論) (村山 輝吉)	(9)
社会教育施設 (村山 輝吉)	(9)
図書館学 I (山崎 慶子)	(9)
図書館学 II (源 昌久)	(9)
視聴覚教育 (赤堀 正宜)	(9)
教育臨床心理学 (牟田 隆郎)	10
教育法規研究 (神田 修)	10
児童文化 (湯山 厚)	10
宗教教育 (松本 皓一)	10

(3) 教科に関する専門科目

【社会 地理 歴史 公民】

日本史概説 (粟野 俊之)	10
日本史概説 (小松 寿治)	10
世界史概説 (井村 行子)	10
世界史概説 (渡辺 惇)	11
地誌学概説 (橋詰 直道)	11
地誌学概説 (長野 覺)	11
地誌学概説 (宮口 伺廸)	11
人文地理学概説 (小林 高壽)	11
自然地理学概説 (高木 正博)	11
自然地理学概説 (早船 元峰)	11
民法 I (青野 博之)	12
民法 I (鶴井 俊吉)	12
政治学原論 (大塚 桂)	13
社会学原論 (渡辺 源樹)	13
経済原論 (荒木 勝啓)	13
経済原論 (大石 雄爾)	14
経済原論 (小野 俊夫)	15
哲学概説 (中村 璋八)	15
哲学概説 (久保 陽一)	15
倫理学概説 (国嶋 一則)	15
宗教学概説 (洗 建)	15

宗教学概説(松田 文雄)	15
宗教人類学(佐々木 宏幹)	(16)
民間信仰論(谷口 貢)	16
東洋思想研究(館野 正美)	16
民衆宗教成立史(洗 建)	16
歴史哲学(麻生 建)	16
日本文化史Ⅱ(廣瀬 良弘)	(16)
美術史概説(中島 亮一)	(16)
日本宗教文化史(松田 文雄)	16
【職業】	
産業概説(前田 幸一)	16
職業指導(山田 勇治)	17
商業実習(前田 幸一)	17
【商業】	
職業指導(山田 勇治)	(17)

Ⅱ 学校図書館司書教諭講座

図書館学Ⅰ(山崎 慶子)	18
図書館学Ⅱ(源 昌久)	18

Ⅲ 社会教育主事講座

(1) 必修科目

社会教育の基礎(社会教育概論) (村山 輝吉)	19
社会教育計画(村山 輝吉)	19
社会教育実習(村山 輝吉)	19
社会教育実習(上岡 安彦)	19

(2) 選択必修科目

現代社会の諸問題と教育(高島 秀樹) ..	(19)
婦人問題と社会教育(矢口 悦子)	19
社会教育施設(村山 輝吉)	20
図書館学Ⅰ(山崎 慶子)	(20)
博物館学Ⅰ(倉田 芳郎)	(20)
博物館学Ⅱ(竹内 順一)	(20)
企業内教育・職業訓練(塩川 正人)	20
社会体育Ⅰ(古田 潤子)	20
社会体育Ⅱ(古田 潤子)	20
視聴覚教育(赤堀 正直)	(20)
教育原理	(20)
教育心理学(教育方法論を含む)	(20)
青年心理学(教育方法論を含む)	(21)
社会心理学(坪井 健)	21
教育社会学(高島 秀樹)	(21)
教育調査(鈴木 規夫)	(21)
教育史(北村 三子)	(21)
児童文化(湯山 厚)	(21)
社会教育行政(牧野 篤)	21
成人学習論(牧野 篤)	21

Ⅳ 博物館学講座

(1) 必須科目

博物館学Ⅰ(倉田 芳郎)	22
博物館学Ⅱ(竹内 順一)	22

教育原理	(22)
社会教育の基礎(社会教育概論) (村山 輝吉)	(22)
視聴覚教育(赤堀 正直)	22
博物館実習Ⅰ(館務) (倉田 芳郎・太田喜美子) ..	22
博物館実習Ⅱ(収集) (倉田 芳郎・葉貫 鷹哉・ 恵津森 智行・太田喜美子) ..	22
考古発掘実習(千葉 基次)	23
博物館実習Ⅲ(見学) (倉田 芳郎・太田喜美子) ..	23

(2) 選択必修科目

日本文化史Ⅱ(廣瀬 良弘)	23
インド仏教文化史(奈良 康明)	23
西洋文化史Ⅰ(佐々木 真)	23
西洋文化史Ⅱ(三小田 敏雄)	23
仏教美術(中島 亮一)	24
現代美術(矢野 陽子)	24
禅美術(海老根 聰郎)	24
美術史概説(中島 亮一)	24
西域美術史(相馬 隆)	24
考古学概説Ⅰ(日本) (倉田 芳郎)	24
考古学概説Ⅱ(外国)(飯島 武次)	24
考古学特講Ⅰ(高浜 秀)	24
考古学特講Ⅲ(飯島 武次)	25
日本民俗学(谷口 貢)	25
宗教人類学(佐々木 宏幹)	25
地形学Ⅰ(小池 一之)	25
地質学(貝塚 爽平)	25

V 社会福祉主事講座 社会福祉士基礎講座

※社会福祉原論(伊藤 秀一)	26
※社会福祉原論(原田 信一)	26
※老人福祉論(前期:中野 いく子)	26
(後期:東條 光雅)	
※障害者福祉論(原田 信一)	26
児童福祉論(柏女 靈峰)	26
※社会保障論(近藤 功)	27
※公的扶助論(伊藤 秀一)	27
※地域福祉論(和田 敏明)	27
※心理学(福祉)(井上 孝代)	27
※社会学(福祉)(橋爪 敏)	27
※法学(福祉)(小林 弘人)	28
リハビリテーション論(原田 信一)	28
社会福祉運営論(坂田 周一)	28
家族福祉論(高橋 重宏)	28
医療福祉論(前期:松本 栄二)	28
(後期:春見 静子)	
婦人福祉論(林 千代)	28
保健福祉論(安梅 勅江)	28

社会福祉発達史（林 千代）……………	29
海外社会福祉論（中野 いく子）……………	29
上記科目のうち	
※印は、社会福祉主事、社会福祉士基礎に兼用 する科目、それ以外は社会福祉主事のみ対象と する科目	

注（ ）頁は他の課程・講座と兼用科目のため、
講義内容は主たる課程・講座にのみ掲載し、そ
の頁を表示している。

I 教 職 課 程

(1) 教職に関する専門科目（必修）

教 育 原 理

上 岡 安 彦

『エミール』（上・中・下）を年間を通して読みます。次に、出てくる問題について日本の現象を例として教育学的に考察します。

そして最後に原典に直接触れ、ルソーの音楽の音色を身体で感じることにします。

〔教科書〕『エミール』〔上・中・下〕
（岩波文庫）

上 ¥570，中 ¥520，下 ¥520

教 育 原 理

北 村 三 子

登校拒否・不登校の広がりや象徴するように、今日の社会では、それまで自明だとされていた学校や教育の価値が揺ぎ始めている。このような時期にあって、私たちはどのような方向で教育について考えてゆけばよいのだろうか。本講義では、その手掛りを、J. クリシュナムルティの教育思想の中に探ってみたい。

〔教科書〕J. クリシュナムルティ『英知の教育』
（春秋社）¥1400

教 育 原 理

坂 本 信 昭

下記のテーマを「問題」としてとりあげ、ともに考えていきます。

1. いま教育のめざすもの
2. ひとの適応・成長・発達
3. 家庭の役割・地域の働き
4. 人格をはぐくむ
5. 学校への期待
6. よりよい授業に向けて
7. 学習をふかめる
8. 教師を育てる

9. 教育制度をみなおす

10. 障害児とともに

11. 内なる差別を考える

12. 学びへの出発

さらに、教育問題にかかわるVTRを視聴する予定です。

〔教科書〕田村皖司他『きょういく』ビジュアルノート（エイデル研究所）¥1,800

〔参考書〕教師養成研究会『教育原理』

（学芸図書）¥950

デュイ著、宮原誠一訳『学校と社会』
（岩波文庫）¥200

西村絢子他『現代教育を考える』

（昭和堂）¥2,600

教 育 原 理

田 中 智 志

本講義は、教育についての基本的・総合的な認識と、教育の現実を直視する学問的姿勢を学ぶことを目的とするものであり、とくに個人的経験をこえた、ひと・社会と教育・学校との構造的な関係をあきらかにしていきたいと思います。とりあげるトピックスは、1. 人間と教育（人間を形成するとはどういうことか）、2. 社会のなかの学校（学校の選抜機能はなぜ生じるのか）、3. 教育課程と学習指導（みえないカリキュラムとはなにか）、4. 教育と学校の存立構造（脱学校論や再生産論はなにを告発しているのか）などです。

〔教科書〕松浦良充編著『いま教育を考えるための8章』（川島書店）¥2,200

教 育 原 理

村 山 輝 吉

テキストにそいながら、下村湖人の著作なども参照しつつ、人間の発達と教育、文化、社会のかかわりについて原理的考察をおこない、あわせて教育の制度、形態、内容、方法のもつ意味と問題を社会的歴史的な視座からアプローチしたい。

〔テキスト〕堀尾輝久著『教育入門』（岩波新書）
¥480

〔参考書〕『下村湖人全集』〔全10巻〕（国土社）
『教育の原理Ⅰ・Ⅱ』（東大出版会）

教育心理学
（教育方法論を含む）

遠 藤 司

今日の教育の現場において、教師、生徒がおこなう様々な活動に対して心理学の知見を基にした見方がなされている。特に、教師として生徒と様々な形で関わる際に、心理学的見方に対してどのような態度で臨むかによって、具体的な教育活動のあり方が異なってくる。本講義では、心理学の知見がどのように教育の世界に影響を及ぼしてきたかを、学習、評価等の諸領域において概観しながら、生徒とのよりよい関わりを作るために、教師としてどのような活動をしていけばよいのかという問題について考えていきたい。

教科書、参考書については、講義中、随時紹介する。

教育心理学
（教育方法論を含む）

大 浜 幾久子

前半では、発達心理学・学習心理学・人格心理学など現代心理学の諸分野の基礎理論のうち、教育にかかわるものを解説する。後半では、学校教育を中心に、教育の現場の様々な問題を取りあげ、教育心理学的な考え方や、それに関連した最近の心理学研究を紹介、解説していく。また、性格テストなどの実習や初歩的な実験演習も随時、行う。

教育心理学
（教育方法論を含む）

北 島 歩 美

思春期、青年期の心理的発達課題について概説し、それらと合わせて、教育の現場においてあらわれる臨床的諸問題（不登校、心身症など）について検討する。さらに、時間が許せば、それらの問題についての臨床的アプローチを考えていきたいと思っている。

〔教科書〕菅佐和子著「思春期女性の心理療法」
（創元社）¥1400

〔参考書〕E. H. エリクソン著「自我同一性」（誠
心書房）¥2500

中井久夫・中山康裕編「思春期の精神

病理と治療」¥4,000

教育心理学
（教育方法論を含む）

国 眼 眞理子

教育心理学は、教育という場に応用された心理学である。したがって広汎な領域が含まれるが、中学・高校の免許状取得を念頭において、「青年期」「心の健康」、「対人関係とパーソナリティ」の三領域を中心に学んだ上で、「学習意欲と教育評価」や「進路指導」についても併せて考えていきたい。

〔参考書〕授業において随時プリントを配布する。

教育心理学
（教育方法論を含む）

中 村 均

1. 発達
どのような仕組みで発達が起こると考えられているか。発達の变化の概観。
2. 学習
どのような仕組みで学習が起こると考えられているか。学習を促進する条件はどういうものがあるか。
3. 個人差
一人ひとりの違いの把握について。
4. 教育方法
教育メディアを利用した教育方法について。
〔参考書〕授業中そのつど紹介する。

青年心理学
（教育方法論を含む）

大 浜 幾久子

まず青年期に限らず一般に、人間の発達とは何か、について考察する。その上で青年期の様々な問題を取りあげ、それらに対する心理学的な分析の方法と最近の研究を紹介、解説していく。また、性格テストなどの実習や初歩的な研究演習も随時、行う。

青年心理学
（教育方法論を含む）

川 田 三 夫

青年は発達の存在であると同時に社会的存在でもある。思春期の頃にふと自分のことを考え始

め、友達と比較をしたりして色々悩みながら現在に至っている。親はもちろん、テレビ・マンガ、遊び・おもちゃ、学校・友達、勉強・進学、文学・音楽など自己の形成に影響を与えるものは数多い。講義の前半はこれらの意味や役割について考えてみる。

後半は身近な所で起きている現象や話題を取り上げながら青年を考える一方で、分かっているようで分かってない自分のことを人格心理学的な側面からアプローチして理解を広げてみたい。簡単な心理学のテストなども試みにやってもらう予定である。

青年心理学
(教育方法論を含む)

小宮山 要

前半では青年期の発達課題、自我、感情、知性などについて考察する。また、後半では親子関係、恋愛・結婚、職業、問題行動、時間的展望等について検討し、自己と他者の理解を深めていく。
〔教科書〕使用しない。

青年心理学
(教育方法論を含む)

牟田悦子

人間の発達の中で青年期がどのような意味をもつかを考えながら、青年期の身体的、知的、情緒的発達や人間関係の特徴、彼らへの対応について学ぶ。また、現在の学校教育の中で問題になっている様々な事象に対して、各自が考える契機をつくることもこの授業のねらいとしたい。
〔教科書〕岸本 弘編著『ポイント教育学－青年心理学』(学文社) ¥1,000

特別活動

中野目 直明

情報化、国際化、高齢化の進む現代社会において、広い視点から学校教育の意義やこれからの方向を考え、人間形成を目指す特別活動のねらいや内容を明らかにしたい。主として、次の内容を講義する。

1. 現代社会と学校教育の課題
2. 人間形成を目指す特別活動
3. 特別活動の内容とその指導

〔教科書〕宇留田敬一編『特別活動の基礎理論と実践』(明治図書) ¥1,650

〔参考書〕中野目直明著『教育情報管理と学校経営』(エイデル研究所) ¥2,000

生活指導

遠藤 司

教師として生徒の「生活」にいかんして関わるべきかという問題は、今日の学校教育において重要になっている。特に最近、学校生活に適応できずに、様々な形で不適応状態に陥り、困難をおぼえている生徒も多い。本講義では、それぞれの生徒にとっての学校生活に適応することの意味、あるいは不適応状態に陥ることの意味を探りつつ、一人一人の生徒に教師がどのように関わればよいのか、また、学校という生活の場をどのように作っていけばよいのかという問題について考えていきたい。

教科書、参考書については、講義中、随時紹介する。

生活指導

佐藤 尚人

児童・生徒の教育を考える時、教科学習の指導はもちろん、学習がスムーズに行われるための環境づくり、わけても1人ひとりの子どもの学習への積極的な姿勢を導き出すことは極めて重要である。

本講義では、友だちができない・学習に集中できない・登校拒否・非行など具体的事例をもとに、子どもの精神発達の道すじを理解し、教師として子どもにどのように関わってゆくかについて考える。

〔教科書〕講義ノートに基づき進めてゆく。

〔参考書〕大貫・佐々木編著『心の健康と適応』(福村出版) ¥2,200

宗教科教育法

小山 一乗

まず教育関係法規下での「宗教科教育」の位置づけを概観する。特に各教科と宗教科との関係、「宗教教育」と「宗教科教育」との異同点にも留意する。我が国にかかわる第2次世界大戦後の、対日米国占領教育改革施策に看取される「宗教教育」の諸問題を例示しつつ、日本国憲法20条と教育基本法9条との関係、基本法9条と初期社会科

学習指導要領の文言との関係等を検証する。その上で、「宗教の定義集」への着目をし、「『宗教に関する寛容の態度』の涵養」への展開を検討する。そこからさらに「宗教の社会生活における地位」に関する「宗教的無知」解消を図る授業展開を考える。宗教一般知識教育、宗教的情操教育、宗派教育の学習指導方法を具体的に探究して、異文化理解の課題にも備えるようにしたい。

適宜わらべうた等も導入し、幼稚園教育から高校教育までの接続も考察に含めたい。模擬授業を課します。学習指導案作成の徹底的指導をする。

- 〔教科書〕『仏教概論－わかりやすい仏教－』（曹洞宗宗務庁）¥800
『仏教・キリスト教・イスラーム・神道 どこが違うか』（大法輪閣）¥1,600
『教育小六法』（学陽書房）¥2,200
小中高各『学習指導要領』（文部省、各¥230、¥250、¥370）
『生徒指導の手引』（文部省¥460）
『教職教養ランナー』（一ツ橋書店）¥1,020
『現代のエスプリ』251号（至文堂）¥1,020
その他必要に応じて指示する。資料を配布するのでファイルを用意しておくこと。

- 〔参考書〕『宗教教育の理論と実際』（鈴木出版、1985年）
その他必要に応じて多数指示する。

国語科教育法

神谷道倫

前期は中学校・高等学校の国語科教育の意義・目標・内容、あるいは教材に即したそれぞれの指導方法等について講義、後期は実際の教材にあたって、基礎学力を点検するとともに、教材研究のあり方・指導事項・方法等主に模擬授業の形態で具体的に研究を深め、実践に際しての指導力を養成する。

- 〔教科書〕改編 中学校・高等学校『国語科教育法』（桜楓社）¥1,800

書道科教育法

那須隆吉

長い歴史をもつ書の特徴を考察し、その指導法を学習する。文部省の芸術科指導要領を理解し、

将来の教師としての自覚を促し、指導力を養うことにつとめたい。

- 〔教科書〕久米公著「書写書道教育要説」（萱原書房）¥2,300
〔参考書〕「高等学校学習指導要領解説」（文部省）¥410

英語科教育法

荒井良雄

中学校や高等学校の英語教員として教壇に立つための基本となる英語教育法の理論と実践の研究指導を行う。

学習指導案の作成法と授業の進め方の実際的な指導が中心になる。教師に必修のPublic Speakingを重視する。

- 〔教科書〕『英語科教育法の実際』（成美堂）¥2,200
〔参考書〕稲村松雄『ジャック・アンド・ベティーから21世紀へ』（桐原書店）¥1,400

社会科・地理歴史科教育法

（平成元年度以前入学生：
社会科教育法（地理））

長野 覺

学習指導要領に基づく中学校社会科・高等学校地理歴史科の教科目的・教科内容等を概観したのち、特に地理教育について教案作成・教材の工夫・視聴覚器材の使用法などをに指導し、授業演習を行い、教育実習に備える。

- 〔教科書〕中学校社会科教科書、高等学校地理教科書・地図帳、文部省学習指導要領

社会科・地理歴史科教育法

（平成元年度以前入学生：
社会科教育法（地理））

中島 義一

社会科（地理歴史）教育の諸問題を講義し、後半は学生諸君に交代で壇上に立ってもらって授業演習を行う。出席を重視する。遅刻や欠席の多い人は教師として不適格である。

社会科・地理歴史科教育法
(平成元年度以前入学生：
社会科教育法(歴史))

野 呂 肖 生

「中学校で社会科，高等学校で地理歴史科の授業をするさいに役立つように」を目標とし，社会科・地歴科教育(とくに歴史)の理論と実践を学ぶ。とくに個性を重視したい。

社会科・公民科教育法
(平成元年度以前入学生：社会科教育法)

長谷部 八 朗

教育をめぐるさまざまな今日的課題にもふれながら，社会科公民科教育のあり方をともに考えてみたい。

前期は，社会科公民科の性格，目標，歴史，指導計画，指導案，教材研究，教育評価といった問題について，とりあげる予定である。

そして後期には，模擬授業やディスカッションの機会を持ち，受講生の主体的な授業参加を期したい。

より詳しい進め方については，最初の授業で述べる。

[教科書・参考書] 適宜指示する。

社会科・公民科教育法
(平成元年度以前入学生：社会科教育法)

や しよ
谷 敷 正 光

〈授業内容〉

社会科は，民主主義の発展と平和的な国家・社会の形成者の育成をめざす上で，重要な使命を負って誕生した教科であり，日本の将来を担ったと云っても過言ではない教科である。しかし，この社会科教育も，戦後の政治・経済の発展とともに大きく変遷し，動揺を続けてきた。学習指導要領は1989年に第6回目の改訂が行われた。今回の改訂は単なる教科内容の改訂にとどまらずに小学校低学年の社会科と理科を廃止し，新たに生活科を設け，高等学校の社会科を廃止し，新たに地理歴史科と公民科を設けたことの意味を考えなければならない。

したがって，しっかりと社会科教育を樹立するため，単なる授業方法の技術論ではなく，より基本的な「教育とは何か」といったところまで

さかのぼって充分検討してみたい。その上で，社会科教育の基本原則とその内容・方法の把握につとめ，教科担当の専門職としての認識を深めるとともに教員としての資質の養成につとめたい。

〈授業形態〉

講義の他に教室での模擬授業実践と討論，視聴覚教室でのビデオの上映などを行う。

〈授業項目〉

1. 日本教育の現状
2. 教育の基本概念
3. 社会科教育の原点
4. 社会科学習指導要領の変遷
5. 中学校の教育課程と公民科
6. 高等学校の教育課程と公民科
7. 社会科の学習指導計画
8. 学習指導案の作成
9. 中学校社会科の目標・内容・取り扱い
10. 高等学校公民科の目標・内容・取り扱い
11. 教育評価
12. 教育実習の意義
13. 模擬授業を通じての社会科の学習指導と授業実践の研究
14. 社会科教師論
15. 教員採用試験の準備と今年度の採用について(教員採用試験の受験希望者は授業とは別に指導する)

〈履修条件〉

出席を確認する。

〈成績評価の方法〉

授業中定期試験と同じ様式で一度試験を行う。授業での課題の提出，学習指導案の作成，授業実践などで総合的に評価する。

[教科書] 大森・谷敷共著『社会科教育研究』(梓出版)

[参考書] 遠山 啓『競争原理を超えて』(太郎次郎社)

石川達三著『人間の壁』(新潮文庫)
灰谷健次郎著『兎の眼』(新潮文庫)
無着成恭著『山びこ学校』(角川文庫)
その他，若干のルポ，小説，社会科・公民科の教科書，中学校・高等学校学習指導要領も使用する。

[注 意] ①年間かなりのプリントを配布するので，必ずファイルを用意すること。
②視聴覚教室も使用するので，常に教場には注意しておくこと。

社会科・公民科教育法
(平成元年度以前入学生：社会科教育法)

小 山 一 乗

我が国にかかわる第二次世界大戦、英文・邦文の「日本国憲法・教育基本法」、学習指導要領相互の関連検証。学校教育法に規定する学校の目的・学校教育の目標の系統的位相性の検討。社会科創設の国際関係論的・歴史的背景、及び、初期社会科指導要領（試案）以来の変遷概観。社会教育の目標・内容・方法・カリキュラム論。カリキュラムの類型。学習指導の段階説。学習指導案の様式・類型と教師の教育観。学習指導要領各項文末表現①「知識理解度事項」②「態度的事項」③「技能的事項」等と学習指導上のねらいの確認。中・高等学校の社会科・公民科の教科書を用い、個人又はチームによる模擬授業実践を課す。その際、年間学習指導計画案から本時学習指導計画案までを作成し、他教科との関連をも考慮すること。模擬授業とはいえ実際の授業とところえ、メディア・ミックスを含めた手作りの「掲示・配布資料等の実物」を作成すること。模擬事業は、カガミ利用としてのビデオに収録し、事後の授業分析の討議に供する予定。最後に『学習指導要領』『指導書 社会編』『解説 公民編』をもとにして、各自手作りの教科書素描の提出を課す。シラバスは開講時に示す。

〔教科書〕小・中・高校各『学習指導要領』、各¥230 ¥250 ¥370 小学校・中学校学習指導要領各『指導書 社会編』¥90 ¥100 『高等学校学習指導要領解説 公民編』（実教出版）¥220 『中学生の社会科・地理』『同 歴史』『同 公民』（中教出版）各¥605 ¥605 ¥605

『最新版 倫理』『改訂版 政治・経済』『改訂新版 現代社会』（中教出版）、各¥370 ¥370 ¥605

『地図帳』各自で用意のこと

『平成6年版 教育小六法』（学陽書房）¥2,200 『現代のエスプリ』251号（至文堂）¥1,020

〔参考書〕『楽しく学べるヒント教材 シリーズ 中学 社会科の授業Ⅰ』『同・Ⅱ』

（明治図書）各1,400

『教職教養ランナー95年版』（一ッ橋書店）¥1,020

『一般教養ランナー95年版』（一ッ橋書店）¥1,020

谷川彰英『戦後社会科教育論争に学ぶ』（明治図書）¥783

社会科・公民科教育法
(平成元年度以前入学生：社会科教育法)

橋 爪 敏

社会科は、戦後改革の一環として、民主的な国民の育成を目指して設定された教科である。したがって、単に知識の習得のみを目的としたものではなく、戦後教育の中心を成すものと位置付けられてきた。しかし、現実の政治的状況・教育状況によって紆余曲折してきたのも事実である。

1994年4月から、高等学校社会科は公民科と地歴科の2科に再編される。その分割再編の是非はともあれ、公民科・社会科教師に求められる「資質」は他教科のそれにも増して、厳しいものがあると言っておく。

この授業では、こうした点を踏まえた上で、公民科・社会科教師に必要な基礎的認識や知識を習得する事を目的とする。また、模擬授業等の機会を設け“教えること”を、実際の体験を通して学習する。

〔教科書〕開講時に指示する。

職業科教育法

前 田 幸 一

〈講義目的〉

職業科及び技術・家庭科に関する教育について学んでいきます。授業は人数の関係もありますが、ゼミ形式で進めていきます。

〈授業内容〉

基本的には以下の項目に沿って授業を進めていきます。

(1) 「技術・家庭のあり方」について、新聞の切り抜きを通して考えていく。

(2) 「中学校学習指導要領」の技術・家庭科について、その新旧の違い、変化などを比較検討する。

(3) 職業教育について

(1)(2)は前期授業、(3)の職業教育は後期授業で行う予定です。なお(3)の職業教育についてはテキストを利用します。これは開講時に指示します。

〈評価方法〉

筆記試験はしません。平常点かレポート提出物などで評価します。

商業科教育法

や しよ
谷 敷 正 光

〈授業内容〉

「産業教育」（職業教育）の一つである商業教育は、日本の経済をささえる重要な一環としてつねに重視され、産業構造の高度化、経営革新にもなっけてめまぐるしく変遷してきた。そして、高度成長期の高校教育は大きく軌道修正され、さらに先端産業化、国際化、情報化時代をむかえ、再び修正されている。従って、本講は、「職業教育」のあり方そのものが問われている現在、しっかりと商業教育を樹立するため、この「教科教育法」を商業教育の単なる技術論に終わらせることなく、より基本的な「教育とは何か」といったところまでさかのぼり、本来的な意味での商業教育論を展開し、教科担当の専門職としての認識を深めるとともに教員としての資質の養成につとめたい。

〈授業形態〉

講義の他に教室での模擬授業実践と討論、視聴覚教室でのビデオ上映などを行う。

〈授業項目〉

1. 日本経済の発展と教育・産業教育
2. 商業教育の現状と課題
3. 職業教育・商業教育の概念
4. 高等学校における商業教育の歴史
5. 高等学校の教育課程
6. 商業科の教育課程
7. 商業科の学習指導計画
8. 学習指導案の作成
9. 商業の各科目の個別目標・内容・取り扱い
10. 教育評価
11. 教育実習の意義
12. 模擬授業を通じての商業科の学習指導と授業実践の研究
13. 商業科教師論
14. 教員採用試験の準備と今年度の試験について（教員採用試験の受験希望者は授業とは別に指導する）

〔教科書〕岡田修二他『新商業教育論』（多賀出版）

〔参考書〕城山三郎『素直な戦士たち』

（新潮文庫）

灰谷健次郎『兎の眼』（新潮文庫）

竹内 宏『日本の学歴社会は変わる』

（有斐閣）

その他、高校商業の教科書、高等学校学習指導要領、新聞の切り抜き、雑誌、ルポ、小説なども使用する。

〔注 意〕①年間かなりのプリントを配布するので、必ずファイルを用意すること。

②視聴覚教室も使用するので、常に会場には注意しておくこと。

道徳教育の研究

上 岡 安 彦

道徳教育の基礎理解と課題研究を行う。

〔教科書〕『道徳教育の研究』（新訂版）（学芸図書）¥900

教育実習

上 岡 安 彦

事前指導

学校の教師としての仕事について講義

学習指導案作成実習

訪問指導

実習期間の研究授業参加

事後指導

デューイの『学校と社会』によって自分の教育実習の体験を吟味し、日本の教育を考えてみる。

〔教科書〕『中学校 学習指導要領』（大蔵省印刷局）¥250

『高等学校 学習指導要領』（大蔵省印刷局）¥370

デューイ『学校と社会』（岩波文庫）¥350

教育実習

坂 本 信 昭

教育実習前の段階では、教育実習の意義・目標・内容（領域）に関する講義とビデオ教材「教育実習の日々」等を視聴し、教育実習の心得などについての事前準備指導を行う。

教育実習期間中は、できるかぎり実習校を訪問したいと思っている。

教育実習後は、口頭報告、レポート作成—提出、教育問題にかかわるVTRの視聴、グループ編成による授業（ディスカッション）を行い、教育への理解を深め、教育とは何か、どうあるべきかについて各自の教育観を明示できるようにし、さらに、望ましい教師像についても一緒に考えたいと思う。参考書は、下記以外にも授業で適宜紹介する。

〔参考書〕大村はま著『教えるということ』
(共文社) ¥480
田村皖司他著『きょういく』ビジュアル
ノート(エイデル研究所) ¥1,800
西村絢子他『現代教育を考える』
(昭和堂) ¥2,600

教育実習

村山輝吉

学生が教育実習に主体的にとりくみ、教育実践について理解を深めるよう、年間を通じて次の事項を取りあげる。

1. 教育実習の意義と心がまえ
2. 学習指導について
3. 生活指導について
4. 学校と教師に関する諸問題

実習校における実習体験をはさんで、講義、討議、レポート作成、面接指導等、適宜の方法と形態で進めていく。

教育実習

北村三子

前半は教育実習の準備にあてる。後半は、教育をめぐる様々な問題について、文献を読み合い討議をしたい。

(2) 教職に関する専門科目(選択)

教育哲学

汐見稔幸

科目名は教育哲学となっているが、固苦しいものではなく、気軽に現代の教育問題を話し合い考え合う研究会形式の授業を考えている。授業者の都合で、毎週の授業でなく、まとめて何回かの授業を合宿形式の可能性も含めて行なう予定であるが詳細は参加者と相談して決めたい。取りあげたいテーマとして環境問題と教育、授業形式の新しい創意(ディベートなど)とその検討、学校の現在と将来、不登校・登校拒否問題などを考えているが、これも参加者の希望により決定する。参考図書としてあげた本は読んで参加することを希望する。

〔参考書〕『地球時代の子どもと教育』汐見稔幸
著(ひとなる書房)

教育社会学

高島秀樹

教育社会学は教育を社会的な事象としてとらえ、社会学の方法をもって実証的に解明していこうとする教育科学の一部門である。教育が個人の発達を目ざす営みであることはいままでもないが、それは同時に人間を社会の成員にふさわしく形成し、次代の担い手を育成することを通して社会の存続・発展を可能にするという、きわめて社会的な営みでもある。

この講義ではこうした教育社会学の基本的な考え方を明らかにした上で、社会集団の教育(家族、遊びと仲間集団、地域社会など)と学校に焦点を合わせ、その基本的特質を明らかにするとともに、現代日本における実態・問題点をできる限り具体的に考察していきたい。

〔教科書〕福永安祥・高島秀樹『教育社会学』
(明星大学) ¥2,000

現代社会の諸問題と教育

高島秀樹

現代日本社会とその内での私達の生活は、今日大きく変動しつつあり、そこにまた多くの問題を内在させている。この科目では、現代社会の内における個人のライフステージに沿って、各ライフステージにおける生活世界の実態と発達課題、各ライフステージにおいて個人と密接な関係を持つ社会集団や社会の状況について明らかにし、さらにそれらと教育との関係についてできるだけ具体的に、実例を取り入れて考察していきたい。

この科目では単なる「講義」にとどまらず、各々の問題について基本的なことを説明した上で、受講生自身に考え、発表してもらうことも取り入れていきたいと計画している。

〔教科書〕高島秀樹・岩上真珠・石川雅信共著
『生活世界を旅するーライフステージの社会学』(福村出版)
1994年3月刊行予定

教育評価

大 浜 幾 久 子

まず狭義の教育評価にとらわれず、教育心理学の研究手法 — 実験・観察・調査・テスト — の基礎を学ぶ。その上で、発達や学習の測定、評価に関わる研究演習を行い、そのことを通して、教育評価の諸問題に対する考察を深めていきたい。

なお、パソコンによるデータ分析の実習も行う。

教育情報学

小 倉 康 仁

日本の学校現場で広く普及しているパソコン用アプリケーションソフト（ワープロソフト、表計算ソフト）や教育用プログラミング言語の操作実習を通して、教育におけるコンピュータ利用の可能性について多角的に検討する。

授業で取り上げる話題としては、コンピュータ・リテラシー、CAIとCAL、CMI、オーサリング・ソフト、シュミレーション・ソフト、データベース、パソコン通信、マルチメディアなどを予定している。

教育調査

鈴 木 規 夫

教育調査あるいは社会調査を実際に行い、調査に必要な基本的プロセスを学ぶと共に調査に不可欠なデータの解析法についても学習する。主な内容は、調査主題の設定、主題に関する討議、調査票の作成、調査の実施、結果の分析等である。なお、結果の分析は主としてパソコンを利用する。

教育史

北 村 三 子

日本の若者史および青年期教育に関する歴史的文献を読む。

教育関係法規

広 沢 明

憲法、教育基本法、子どもの権利条約など教育に関する基本法規につき、具体的事例に触れながら講義を行う。校則、体罰、内申書、日の丸・君が代、教科書検定、学校事故、障害児教育、民族教育など今日的な教育問題について、法的観点から検討をしたい。

〔教科書〕広沢明『憲法と子どもの権利条約』
（エイデル研究所）¥2,800

〔参考書〕開講時に指示する。

社会教育の基礎（社会教育概論）

村 山 輝 吉

(P.19) 参照

社会教育施設

村 山 輝 吉

(P.20) 参照

図書館学 I

山 崎 慶 子

(P.18) 参照

図書館学 II

源 昌 久

(P.18) 参照

視聴覚教育

赤 堀 正 宜

(P.22) 参照

教育臨床心理学

牟田隆郎

現代の青年や子どもをとりまく社会環境は、必ずしも適正なものとはいえない。そのために、感受性に富む若い人たちが、社会のもつさまざまな矛盾を、「問題」というかたちで表現している。

本講義では、社会の表面に現れた青少年の諸問題を種々の材料を用いてとりあげ、その発生の機序と対応について、心理面・社会面等から考察していく。

教育法規研究

神田修

憲法と教育基本法、教育と権利、学校教育・教師と法、教育行政と法などについて学習する。

〔参考書〕①『解説教育六法』1993年版（三省堂）

②神田修他編著『現代教育の課題』
1992年（北樹出版）

③兼子仁、神田修編著『教育法規事典』
1991年（北樹出版）

児童文化

湯山厚

児童文化とはなにかとか、その史的推移とか、あるいはこれからのあり方は、といったように概論風ではなく、現に身近にある名作物の児童図書や、リバイバルソング風に歌われている童謡などを具体的に取り上げ、それらを歴史的に、あるいは他ジャンルとの関連、さらには公教育、民間教育運動との関係、といった観点からとらえなおし、子どもを取りまく環境の一部ともなっている文化財をみなおすいとぐちとしたい。

〔参考書〕上笙一郎著『児童文学概論』（東京堂出版）¥1,800 『日本唱歌集』『日本童謡集』（いずれも岩波文庫）各¥450
坪田譲治編『赤い鳥傑作集』（新潮文庫）¥400

H・Aレイ・光吉夏弥訳『ひとまねござる』（岩波書店）¥1,300

宗教教育

松本皓一

宗教的情操を培うことは、円満な人格完成にとって必須の要件である。とくに今日のように主知主義・科学主義の時代においては重要問題である。そうした点から、知識教育・情操教育を併せた広い立場で宗教教育の諸問題を考えてみる。

〔参考書〕必要に応じて適宜明示する。

(3) 教科に関する専門科目

教科に関する専門科目で各学科専門教育科目と兼用する科目の講義内容は「専門教育科目」欄に掲載されている。

【社会 地理 歴史 公民】

日本史概説

栗野俊之

日本における古代から中世・近世・近代へという歴史の流れを概観するが、その際、政治・社会・文化・宗教などの中で、主に政治状況・社会状況を中心として講義して行きたい。また、関連する史料なども活用したいと思う。

日本史概説

小松寿治

古代から近世にわたり政治史を中心に講義を行なう予定であるが、特に日本史を教える上で、最小限必要である事項を選び、授業を行ないたいと思う。教科書はとくに用意しない。

世界史概説

井村行子

「大航海時代」以降の世界史をヨーロッパ、アメリカを中心に概説する。

〔教科書〕大下・西川・服部・望田編
『西洋の歴史』〔近現代編〕
（ミネルヴァ書房）¥2,000

〔参考書〕授業中に指示する。

世界史概説

渡 辺 惇

アジアの歴史を地域的に東アジア、東南アジア、南アジア（インド）、西アジア、内陸アジアに分け、それぞれの歴史的世界の風土、歴史展開の特色等について講義する。
〔教科書〕特に定めず、プリント・資料を配布する。

地誌学概説

橋 詰 直 道

前半は、地域の捉え方、地域区分、自然環境と人間の関係など地理学の基礎と地誌的な地域の見方を中心に学ぶ。
後半は、主に都市と農村の変容について、動態地誌的な事例研究成果を紹介し、地理的空間構造とその変容過程を学ぶ。
教科書は特に定めず、講義はプリント中心に行う。参考書は講義の中で紹介する。

地誌学概説

長 野 覺

前期は地理学における、地誌学の概念と役割を発達史的に講義する。後期は学習時点で、国際的に関心をもたれている国の地誌を学習することにした。講義はプリント資料を中心に進めるが、参考書は開講後に指示する。
〔教科書〕藤岡謙二郎他『世界地誌』（大明堂）

地誌学概説

宮 口 侗 廸

日本という「地域」をどのように理解すればよいかということテーマとしながら、地誌学のあり方を講じていきたい。風景の持つ意味を理解してもらい、日本を相対化するために非日本的な世界にもふれる。

人文地理学概説

小 林 高 壽

教職のための人文地理学を概説するのである。そのために①人文地理とは何か（本質論）②人文地理をどう教えるか（教授論）③教える立場と教わる立場の考察（教育論）④人文地理の基盤となるべき自然地理の内容はどうなっているか（体系論）⑤自然環境及社会環境とは（相互作用論）⑥地図と地理統計をどう読むか（教材論）⑦地理学にあらわれてくる人物をどうとらえるか（主体論）⑧人文地理の教育と研究について（教養論）等にわたって講述したい。

地図帳と最新地理統計（小冊子になっている）は持参して貰いたい。
〔教科書〕長谷川典夫編著『教養のための地理学トピックス』（大明堂）¥2,800
〔参考書〕高校用地図帳（アトラス）と、二宮書店編の『地理統計』

自然地理学概説

高 木 正 博

自然地理学の分野のうち、地形と水を基本的な視点において、自然環境と人間生活とのかかわりを具体的な地域事例をもとに解説し、それぞれの地域が有する地域的特性を明らかにする。

自然地理学概説

早 船 元 峰

人間生活の舞台である大地の形成過程について講じ、人間と自然とのかかわりあいについて論じる。
さらに受講生に2.5万分の1、5万分の1の地形図を用意（10枚程度）させ、それらをもとに種々なる作業（土地利用図・切峰面図・帯状平行投影地形断面図等を作成）をさせてより一層の理解を深めさせる。トレーズ紙・方眼紙・色鉛筆・黒インク等各人用意すること。
〔参考書〕水見山幸夫・岡本次郎編著『土地利用変化とその問題』（大明堂）¥3,600

民法 I

青野博之

〈講義目的(要旨)〉

生活に関連するものとして、民法を学ぶ。民法の最初ということで、民法入門という性格も有する民法総則が中心となるが、物権法も、もちろん講義対象である。せっかく民法を学ぶつもりになったのであれば、民法全体のイメージをつかむためにも、民法の体系性からしても、できれば、民法二部も続けて受講してほしい。

民法総則・物権法の中で、自分と他人との関係を権利義務という法律の目でみることができるようになれば、講義目的は達成される。自分は他人に対して何をなぜ主張することができるのか(権利)、自分は他人に対してなぜそんなことをしなければならないか(義務)を受講生自身が考えていけるように講義を進めたい。質問は大歓迎である。

出席者がそれほど多くなければ、私から受講者に質問しつつ、受講者に民法の条文を読み上げていただきながら、私の講義を聞いていただくことになると思われる。

〈授業内容・授業計画〉

前期

民法総則のうち法律行為の前半まで(民法一条から一一八条まで)。

4月、序説(たとえば、自分の土地はどういうふうに使ってもいいとはどういう意味か、他人に迷惑をかけても自分の自由に使ってもいいか)。

5月、自然人(たとえば、未成年者と契約をするときにどんな問題があるか)。

6月、法人(たとえば、法人という制度を認めることによってどんな利点があり、どんな弊害が発生するか)、物

7月、法律行為(たとえば、契約は自由であるとはどういう意味か)。

後期

民法総則のうち法律行為の後半から時効まで、および物権法(民法一九九条から三九八条の二二まで)。

9月、法律行為(たとえば、契約を取り消すことができるのはどんな場合か、契約を取り消すとどうなるか)、期間、時効(たとえば、時効という制度はなんのために認められているか)。

10月、物権総論(たとえば、物権は債権とどこが違うか)、物権変動(たとえば、マンションを買った場合には何をしなければならないか)。

11月、占有権、所有権、用益物権(たとえば、土地を借りるとどんな権利が発生するか)。

12月、担保物権(たとえば、土地を買うために

お金を借りやすいのはなぜか)。

1月、質問に答える(受講生からの質問には毎回の講義時間の際に答えるが、それとは別に質問時間を設ける)。

〈評価方法〉

出席して質問をした回数、およびその質問の内容を重視する。出席者に対して私の方から質問をするので、これに答えてくだされば、これもカウントに入れる。正しい答えでなくともよく、自分で考えた答えであればよい。自分で考えることに意味がある。答えられなかったとしても不利には扱わないので、安心して質問に答えてほしい。出席したらできるだけ、質問をし、私からの質問に答えることが結局受講生のためになる。また、私のためにもなる。したがって、質問および回答はこの講義を進める鍵である。試験に際しては一切の持ち込みを不可とする。

〈教材〉

教科書：我妻 栄・有泉 亨著(川井 健補訂)『民法I(総則・物権法)』(一粒社)、教科書は、上記のものを使うが、ほかに自分が気に入ったもの、手持ちのものがあれば、それでもよい。

六法：憲法・民法・刑法・商法・民事訴訟法・刑事訴訟法を中心として法律を集めて編集したものを六法と呼んでいる。受講する際にはぜひとも六法を持っていくこと。外国語を学ぶ際に辞書が欠かせないように、法律科目を履修する際には六法は不可欠である。六法は、『ポケット六法』(有斐閣)、『コンパクト六法』(岩波書店)、『デイリー六法』(三省堂)などの大きさ(厚さ・値段)のもので十分である。『コンサイス六法』(三省堂)、『判例基本六法』(岩波書店)、『判例六法』(有斐閣)を進んだ勉強をしたい受講生に勧める。『口語〜』という書名のついたものでもよい。六法は毎年出版されるので、新しいものの方が望ましい。

民法 I

鶴井俊吉

民法(I)は、民法総則、物権法を対象とする。民法総則は民法の通則であって、抽象的でわかりづらい。そして物権法も、日本の特殊性が強く出ている領域であって、これもまたむずかしい。できる限り具体的な事例などをあげて解説する予定でいる。

〔教科書〕我妻 栄・有泉 亨著『民法I』
総則・物権法(一粒社)

政治学原論

大塚 桂

現代政治学の体系的な理解を深めるべく、以下の諸問題について検討していく。

- I. 政治学の課題と対象ならびに方法論
- II. デモクラシーとリベラリズムの概念、史的展開
- III. 政治権力論
- IV. 政治制度・機構論
- V. 行政国家論・現代社会論
- VI. 政治変動論
- VII. 政治行動論
- VIII. 政治過程論・政策決定過程論
- IX. 政治集団論
- X. 国際政治理論

〔教科書〕開講時に指示するが、拙著の刊行を予定している。

- 〔参考書〕原田鋼『政治学原論』（朝倉書店）
¥5,356
佐竹寛『政治学体系論』（法学書院）
¥3,090
中山政夫『現代政治学』（三和書房）
¥2,575
日下喜一『現代政治学概説』（勁草書房）
¥2,060
本田弘『政治理論の構造』（頸草書房）
¥4,000

社会学原論

渡辺 源樹

何よりも社会学は現実科学であるという視点をふまえ、つとめて人間の存在・行動の問題と関らしめながら、集団論・組織論などを中心として基礎理論にぞくする諸問題を講述するとともに、現代社会学の課題とその主要問題を体系的かつ具体的に講述する。

経済原論

荒木 勝啓

原論は本来ミクロ・マクロ両面にわたって学習すべきであるが、この科目が商学科選択および他学部生の教職科目でもあることを考慮して、この授業はもっぱらマクロ経済学の基礎的部分（IS-LM分析まで）に限定して行うことにする。

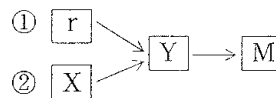
ところでなぜ経済事象を理解するために「経済理論」を学ばなければならないのであろうか。理論なき現実観察がいかにかげりものであるかは、毎年のように見られる次のような答案の叙述をみればよく理解できよう。

「公定歩合が下がる。すると景気が良くなるとともに国際収支の黒字幅が拡大し……」

この記述は、おそらく「日本経済が過去において輸出主導型であり、輸出拡大によって（その結果）黒字が増大しながら景気が拡大していった」という記憶に基づいて書かれたものであろう。たしかに経験に基づけば、日本経済の輸出拡大（黒字増大）と、景気拡大は同時進行的であったようにみえる。しかし経験の一般化ほどこわいものはない。ではアメリカはどうだったのであろうか。景気が拡大するたびに国際収支の赤字が増大したのではない。

上述の答案のように(A) 景気がよくなると国際収支の黒字化傾向となるのが正しいのか、それともアメリカがそうであったように(B) 景気がよくなると国際収支の赤字化傾向となるのが正しいのか。

そこで問題の整理が、すなわち前提条件を明確にした上で結論を導くという方法論、つまり「理論」が必要となるのである。今輸出をX、輸入をMとし、国際収支を便宜上經常収支すなわち輸出－輸入だけに限定し、 $B = X - M$ と書こう。BはもしXがふえれば増大（黒字化）し、Mがふえれば減少（赤字化）する。X、Mともにふえればその相対的なふえ方に依じてBの増減が決まる。さて、公定歩合をrと表し、「景気」を国民所得Yで代表しよう。すると、「公定歩合が下がる」と景気が良くなる」という関係は $r \downarrow \rightarrow Y \uparrow$ と書ける。「輸出が増大すると景気が良くなる」という関係は $X \uparrow \rightarrow Y \uparrow$ と表すことができる。また輸入は景気が良くなると増加するのが一般的であるから $Y \uparrow \rightarrow M \uparrow$ という関係がある。すると図式的に



のようなcausality が成立つてあろう。さて上述の答案の混乱は、本来この図式の①から出発する事象の流れを、日本経済の経験が示した②から出発する流れと混同してしまったところに原因があるのである。①から出発したとすれば、結果はMの増加だけであり、従って $B = X - M$ は赤字化以外の道はない。すなわち80年代後半のアメリカ経済のように超低金利政策のもとで輸出の拡大を伴わなければ經常収支Bは赤字化する以外にないのである。②から出発したとすれば、結果はやはりMの増大となるがしかし、日本経済の経験が示す

ように $\Delta X > \Delta M$ である限りBはふえる。すなわち経常収支は増大するのである。こうして、上述の答えは前提が違うが故に、誤りであり、また(A)が正しいのか(B)が正しいのかという問題は、「景気が良くなった」その原因、出発点が①であるのか②であるのかを明示化しなければ判定できないという結論が導けるのである。このように理論とは条件明示化の方法論なのである。

以上のように本講義は現実問題をたえず念頭に置きつつもマクロ理論を基礎から構築するということを主眼に置いている。年間の主要項目は次の通りである。

- (1) 総供給＝総需要
- (2) 均衡国民所得の決定
- (3) 政府・海外部門の存在する場合への拡張
- (4) 乗数
- (5) ビルト＝イン＝スタビライザー
- (6) 貨幣とは何か
- (7) 信用創造理論
- (8) 貨幣数量説
- (9) マネタリズム
- (10) 古典派経済学の3命題
- (11) ケインズ理論
- (12) IS-LM分析
- (13) 財政政策と金融政策
- (14) ポリシー・ミックス
- (15) フィリップス曲線をめぐって
- (16) 期待理論
- (17) 成長理論

なお、最低年1回実地研修を行う。予定では証券取引所である。この時出席点をとる。

試験は期末に前後期合わせた分の試験を行う。ノート・本・電卓持込可。2題出題し1題は計算問題、1題は論述問題が予定。

〔教科書〕浅野・荒木・浅田著『エコノミックス』（成蹊堂）

経済原論

大石雄爾

〈講義内容〉

20世紀末を抑えて、国内・国外を問わず現代社会は大きく揺れ動き、ますます複雑な様相を呈している。そのような時代であるからこそ、私たちはただ目まぐるしく移り変わる日々の出来事だけに目を奪われてはならない。現実をよく観察し、そこに貫いている傾向や法則をしっかりと捉えることが必要となってくる。

この講義は、このように複雑な現代資本主義社会の運動法則を理解する上で必要な基礎的・一般的知識を身につけることを目的としている。その

ために、以下のようにテーマを立て、講義を進めていく。

1. 経済理論を学ぶにあたって
2. 社会科学としての経済学
3. 経済学の対象と方法
4. 商品とは何か
5. 商品生産社会と貨幣
6. 貨幣の諸機能
7. 貨幣の資本への転化
8. 資本の生産過程
9. 絶対的剰余価値の生産
10. 相対的剰余価値の生産
11. 資本主義と賃金
12. 資本の蓄積
13. 資本の流過程－資本の循環と回転
14. 社会的総資本の再生産－単純再生産
15. 社会的総資本の再生産－拡大再生産
16. 剰余価値と利潤
17. 生産価格と平均利潤率
18. 商業資本と商業利潤
19. 利子生み資本と利子
20. 近代的土地所有と地代
21. 国家と財政
22. 国際経済関係
23. 資本主義と産業循環
24. 現代資本主義経済理解のために

〈講義（授業）方法と留意点〉

講義においては、上記のテーマについてはほぼ1回につき1テーマのペースでお話する予定である。できる限り理解を深めてもらうために、相当量の板書をするようになる。参加する諸君は、ただこれを書き写すだけでは不十分である点を自覚し、自分で読み返したとき意味が理解できるノートの取り方を工夫してほしい。

毎回の講義の冒頭では、その時々政治・経済にかかわるトピックスをとり上げて解説を加える予定である。また、諸君の問題関心を引き出すために、年間数回にわたって「30分レポート」を実施する。これは、年間の成績を評価する際に、考慮の対象となる。

経済原論は理論という性格上、全体的な関連の強い科目であり、年間を通して受講して初めて十分な理解が可能になるという特徴をもつ。その点からして、毎回必ず出席することを強く要求したい。欠席する場合には、その事由を書いた、客観的な証明書の役を果たす文書を提出する必要がある。

〈成績評価〉

試験は原則として年度末に行う。平素から講義に出席し、反復勉強していないと失敗することが多い。また、「30分レポート」も加味して評価する。

〔教科書〕平野喜一郎他『経済原論』（青木書店）
¥2,781

〔参考書〕金子ハルオ他『資本主義の原理と歴史』
（青木書店）¥1,854

経済原論

小野俊夫

いわゆる近代経済学の立場から、近年の学問的成果をも考慮し、現代経済学のミクロとマクロの基本を解説し、複雑な現代経済を理解しうる力を養うことを目指す。

〔教科書〕小野俊夫編著『現代経済学の基礎』
（学文社）

哲学概説

中村璋八

この講義は中国の哲学を中心とし、その起源より、それ以後、現代に至るまでの史的展開を概説する。哲学・思想は洋の東西にかかわりなく、その地の自然環境、すなわち気候、風土やその時々政治、経済などと密接な関連を持ちながら発生し、それを展開して行くものである。中国は広大であり、その歴史も世界の中で最も長い。そこで、この講義も中国各地の気候・風土やその各時代の政治・経済を念頭におきながら殷墟卜辞・諸子百家を始め秦・漢以降の経学・道教・佛教などの各特色を考察し、それが朝鮮半島や日本に如何に受容され、変質して行ったかも考えてみたい。

〔教科書〕中村璋八編『中国思想文学通史』
（明治書院）¥1,600

哲学概説

久保陽一

科学技術の進歩は今日めざましいが、反面様々な弊害をもたらしつつある。産業廃棄物による環境破壊などは我々、地球上の生物の生存そのものを脅かしており、それ故、科学技術の進歩を単純に手離して楽観視することはできなくなっている。それだけでなく、科学のみが「客観的真理」を保障するという信念は、科学的抽象によって切捨てられた現象を見失うことになりかねない、という問題もある。科学はむしろ、「真理」の或る一面だけを捉えられるにすぎず、科学以外のアプローチによる「真理」への道もあるのではないか、例

えば芸術や宗教は、（科学によって見えなくさせられた）人間と世界との根源的関係を体験させられるのではないか、少くとも科学にはそのような補充が必要ではないか。このような問題を今年の講義では取り上げ、それを次のような題目に即して扱いたい。

- 1) 近代の科学主義と認識論（デカルト、ガリレオ、ロック～ヒューム、カント）
- 2) ドイツ観念論における形而上学復活（ラインホルト、フィヒテ、シェリング、ヘルダーリン、ヘーゲル）
- 3) ラッセルのヘーゲル批判と現代英米系の言語論的哲学
- 4) 芸術の哲学（アリストテレス、ニーチェ、ハイデガー等）

〔教科書〕田島節夫他『西洋哲学の展開』（公論社）

〔参考書〕渡辺二郎『現代哲学』（日本放送出版協会）

渡辺二郎『芸術の哲学』（ " ）

倫理学概説

国嶋一則

善や正義などの倫理学上の基本的概念を歴史的に検討しながら、－アリストテレス倫理学、キリスト教の倫理、カント道徳哲学、ヘーゲルの法哲学、マルクス主義、実存主義、プラグマティズム、功利主義等－現代における倫理の問題（生命環境倫理学等）について考えることにしたい。

〔教科書〕開講時に指示する。

宗教学概説

洗 建

宗教学の体系について概観し、その中から特に宗教社会学的問題を中心に考察する。教職教科であることに配慮し、憲法問題の宗教学的考察などをとりあげる。

〔教科書〕なし。

〔参考書〕その都度指示する。

宗教学概説

松田文雄

初めに宗教学の研究手法、その領域、宗教学で用いる用語などを概説し、後期、今年度は日本仏教の特色について述べる。

〔参考書〕 随時指示する。

宗教人類学

佐々木 宏 幹

(P. 25) 参照

民間信仰論

谷 口 貢

日本社会の各地に展開している神祭りや信仰行事の具体的な調査事例を紹介しながら、神と人が織り成すさまざまな世界には、どのような意味があるのかを探っていきたい。そして、民間信仰の性格や機能、あるいは現代的意義といった問題について考察を加える。

〔参考書〕 必要に応じて紹介する。

東洋思想研究

館 野 正 美

中国古代のさまざまな思想家たち（いわゆる“諸子百家”）の哲学思想を概観する。すなわち、まず儒家の孔子・孟子・荀子らの考え方を垣間見る。いわゆる“人性論”（人間存在の本質、本性論）と“天命説”（運命論）を機軸に、その思想の流れを把握する。

その際、これを墨家の思想と対比させることによって、そのおのおのの思想的特質を一層きわだたせたい。文字通り“似ていて非なる”儒家と墨家の両思想が、より明確になるであろう。

かくして、中国古代における人性論と天命説の大きな流れが、ひととおり概観されることとなるであろう。

〔教科書〕 館野正美著『中国古代思想管見』（汲古書院）¥1,200

〔参考書〕 授業中に適宜紹介します。

民衆宗教成立史

洗 建

新宗教の規定をめぐる諸問題、新宗教の展開、発達史を概観し、主要な新宗教教団について紹介する。

〔参考書〕 堀 一郎編『日本の宗教』（大明堂）¥2,000

歴史哲学

麻 生 建

歴史哲学をめぐる諸問題について概観した後で、歴史哲学の基盤をなす歴史「認識」の問題を、「解釈学」を中心に考えてゆく。「解釈学」とは、今日では哲学一般の構成要素の一つとして「人間存在」そのものに関わるものとされているが、そもそもは「他者理解」の問題、「歴史理解」の問題である。

〔教科書〕 麻生 建『解釈学』（世界書院）¥2,500

日本文化史Ⅱ

廣 瀬 良 弘

(P. 23) 参照

美術史概説

中 島 亮 一

(P. 24) 参照

日本宗教文化史

松 田 文 雄

近世における日本宗教文化について講義する。必要な資料はプリントして、受講生と共に講読する。

【職業】

商業概説

前 田 幸 一

〈講義目的〉

日本の主要な産業を勉強していきます。教職コースの科目ということもあり、受講者数が多くないのでゼミ形式で授業を進めていきます。

〈授業内容・授業計画〉

授業は

1. 戦後日本の産業発展と今後の展望
2. 産業の見方・考え方

3. 素材型産業
4. 組立加工型産業
5. 生活関連産業

という項目に沿って進めていきますが、特に上記の3、4、5の項目に力を入れて授業を進めます。

〈評価方法〉

筆記試験はしません。平常点かレポート提出物のどちらかで評価します。

〔教科書〕日本興業銀行産業調査部編『日本産業読本』（東洋経済新報社）

〔参考書〕水口和寿『現代産業概論』（昭和堂）

宮沢健一・竹内宏編『日本産業教室』（有斐閣）

職業指導

山田 勇 治

〈講義目的〉（要旨）

職業指導（進路指導）は教職科目であるから、将来教員として役立つような講義内容とするように心掛け、なるべく教育現場の現状をふまえた上で、実践的な授業にするつもりである。受講する場合には、問題意識をもって積極的に教育問題を考えるようにしてほしい。

〈授業内容・授業計画〉

前期は、職業指導の基礎的な概念である「職業」についての理解を深めるとともに、職業の中でも特に公認会計士を中心にした会計専門職業についてアメリカの場合と比較しながら、特に教育面を中心に講義していきたいと考えています。

後期は、中学・高校を中心とした学校進路指導の現状とその問題点について文部省が過去3回にわたって実施した実態調査を中心にしてその現状と問題点について考えていくような授業をするつもりである。なお、時間的な余裕があれば学校で実施されている心理テストについて説明を加えたいと思っています。

〈評価方法〉

出席および授業中における課題などの提出状況を考慮しながら、期末のレポート提出によって評価する。

〔教科書〕山田勇治『会計教育論』（創成社）
¥1,300

〔参考書〕藤本喜八『進路指導論』（恒星社厚生閣）

商業実習

前田 幸 一

〈講義目的〉

国内よりも対外国企業との商品取引の実務について授業を進めていきます。授業はゼミ形式で行っていくつもりです。

〈授業内容〉

授業は基本的に以下の項目で進めていきます。

1. 輸出実務の概要
2. 取引関係の創設
3. 取引条件の取決め
4. 売買条件の取決めと契約成立
5. 輸出信用状の照合
6. 約定品の調達
7. 輸出保険
8. 輸出承認と認証の取付け
9. 運送契約の締結
10. 為替の予約
11. 海上保契約
12. 輸出検査と包装
13. 輸出通関
14. 船積み
15. 船積書類
16. 輸出決済
17. 貿易クレーム

〈評価方法〉

筆記試験はしません。評価は平常点かレポート提出等によって行います。

〔教科書〕開講時に指示

〔参考書〕石田貞夫『貿易取引の実務』実教出版
渋谷源蔵『貿易実務』同文館
藤田栄一『貿易取引の英語』勁草書房

【商業】

職業指導

山田 勇 治

(P.17) 参照

II 学校図書館司書教諭講座

図書館学 I

山崎 慶子

小学校、中学校、高等学校各々の学校の教育目標を達成するために学校図書館はなくてはならぬ設備である。

人格形成期にある児童生徒たちが多くの事を学び教養や趣味を豊かに育てるためには、教科書の他にたくさんの資料が必要となる。児童生徒たちが生涯にわたって学ぶことの面白さを知る魅力ある学校図書館はどうあるべきか、そのためにはどのような研究や工夫が必要か。学校図書館を預かり教員の中心的存在として活躍する司書教諭の職務内容全般について、特に読書指導の意義及び資料利用の技能育成について考察を深めたい。

前期講義は「学校図書館通論」と「学校図書館の管理と運用」「図書館資料の選択」、後期は「学校図書館の利用指導」「読書指導」。

〔教科書〕図書館教育研究会『新編 学校図書館通論』改訂版（学芸図書）¥1,442

図書館学 II

源 昌久

この講義においては、司書教諭の資格を修得する上で必要な諸科目の内、主として資料組織法（分類法・目録法）について論じる。前期には分類法、後期には目録法を講じ、各々の概念的フレーム・ワーク、基本的規則およびコンピュータとの関連等について言及する。開講時に詳しいシラバスを示す。

〔教科書〕もり・きよし原編『日本十進分類法新訂8版』（日本図書館協会）
日本図書館協会目録委員会編
『日本目録規則1987年版』
（日本図書館協会）

Ⅲ 社会教育主事講座

(1) 必修科目

社会教育の基礎（社会教育概論）

村山輝吉

社会教育の本質について理解を図ることを目的とする。その内容としておもに下記の事項を取りあげる。

1. 社会教育の意義 — 理念、歴史、現状、外国との比較、社会教育と学校教育
2. 多様な学習の機会
3. 社会教育の法と行財政
4. 社会教育の施設
5. 学習者の理解
6. 社会教育の内容と方法
7. 社会教育と生涯教育・生涯学習

〔教科書〕碓井・倉内編『新社会教育』（学文社）
¥2,000

〔参考書〕『社会教育ハンドブック』（エイデル研究所）

社会教育実習

上岡安彦

事前指導

社会教育分野の活動について講義

実習期間

社会教育施設訪問指導

事後指導

ジェルピ『生涯教育』によって自分の社会教育実習の体験を吟味し、日本の教育を考えてみる。

〔教科書〕永田良行著『成人教育への挑戦』

（全日本社会教育連合会）¥773

ジェルピ著『生涯教育』（東京創元社）
¥1,500

(2) 選択必修科目

社会教育計画

村山輝吉

社会教育主事として社会教育計画を立てるに際して必要な事項について基礎的な理解を図る。社会教育の対象の理解と組織化、地域社会と社会教育、社会教育調査とデータの活用、社会教育事業計画、学習情報の提供と学習相談、社会教育と広報・広聴、社会教育施設の経営、社会教育の評価等が主な内容となる。

〔教科書〕酒匂・村山他共編著『生涯学習の方法と計画』国土社¥2,800

現代社会の諸問題と教育

高島秀樹

(P. 8) 参照

社会教育実習

村山輝吉

実習前の指導 — これまでの実習の経験に学ぶ。

実習期間 — 個別の訪問指導。

実習後の指導 — 個別の体験の整理・検討とそこから生ずる共通する課題の追求。〔例〕社会教育職員の専門性とはなにか。

婦人問題と社会教育

矢口悦子

女性問題（婦人問題）の現状を明らかにし、その解決にむけて取り組まれている諸活動を紹介・分析する。年間の予定としては、

I. 女性問題を捉える基本的視点

II. 日本における婦人運動の歴史

III. 日本における婦人教育政策の歴史と現状

IV. 国際的動向と女性学の発展

V. 女性問題学習の実際

（社会教育のなかでの実践・グループ・サークル等での実践、その他の活動・実践など）

VI. 今後にむけての課題

という内容を考えている。

〔教科書〕なし

〔参考書〕授業中に紹介する。

社会教育施設

村山輝吉

1. 社会教育施設とは何か
 2. 社会教育施設にかかわる人々
 3. 公民館
 4. 図書館
 5. 博物館
 6. 社会体育施設
 7. その他の社会教育施設・関連施設
 8. 社会教育施設をめぐる動向と課題
- 〔参考書〕適宜指示する。

図書館学 I

山崎慶子

(P. 18) 参照

博物館学 I

倉田芳郎

(P. 22) 参照

博物館学 II

竹内順一

(P. 22) 参照

企業内教育・職業訓練

塩川正人

「企業」は“生きもの”のように変貌し、成長しています。企業の生きた姿を知ることが、卒業後の未来をつかむ上で必須の条件といえそうです。

本講座は、企業人教育20年の経営コンサルタントが、実践事例を中心に、企業論と人間論を、学生諸君と対話しつつ展開します。

★教職や社教主事を希望する諸君へは「採用試験合格」への決め手を、企業人教育の手法を活用して指導します。

★会社就職を希望する人へは、会社選択のノウハウを、個人別指導をしつつ展開します。

〔教科書〕なし

社会体育 I

古田潤子

野口三千三氏の理論と方法論を基にして、私なりの考え方や方法を加味したものです。

“人間のからだはどうあるべきか” “いいからだとはどういうのか” “それにはどうしたらよいか” ということ動きを通じて考え、行動できるからだづくりを行います。

立つ・寝る・歩く等あらゆる姿勢に於て、地球の表面と接触しているからだの最下部に全体重を任せきることの出来る能力と感覚を身につけます。

「社会体育 I・II」は必ず対で履修すること。
〔参考書〕野口三千三著『原初生命体としての人間』（三笠書房）¥980

社会体育 II

古田潤子

人間の動きと道具との関係。
動きに於ける人と人との対話。
動きと呼吸との関係。
動きのイメージ。
効率のいい力の使い方。

あらゆる行動に対して最良の適応が出来る基本姿勢…等について動きながらたしかめ、自己発見していきます。

視聴覚教育

赤堀正宜

(P. 22) 参照

教育原理

(P. 1) 参照

教育心理学

(教育方法論を含む)

(P. 2) 参照

青年心理学
(教育方法論を含む)

(P. 2・3) 参照

社会心理学

坪 井 健

社会心理学は、元来、社会学と心理学の境界領域にある現象を研究対象としてきた。従って、社会学的アプローチと心理学的アプローチが並存しており、必ずしも統一されたものになっていない。

本講義は、個人の心理(行動)に影響を与える社会的諸条件に関心を持つ心理学的アプローチにも留意しつつ、現実の社会における人々の心理(行動)に関心を持ち、社会過程を重視する社会学的アプローチを基調にして、社会生活をしている人々の社会心理諸現象の分析的な解明を目的としたい。

〔教科書〕穴田義孝編『こころ・行動そして社会』(人間の科学社)

教育社会学

高 島 秀 樹

(P. 8) 参照

教 育 調 査

鈴 木 規 夫

(P. 9) 参照

教 育 史

北 村 三 子

(P. 9) 参照

児 童 文 化

湯 山 厚

(P. 10) 参照

社会教育行政

牧 野 篤

生涯学習振興法の成立により国の教育政策全体が生涯学習体系の構築へと動き出した。それはまた従来の学校教育・社会教育の区別を曖昧にしかつ各々の固有の役割を否定し、生涯にわたる国民管理の体系への移行ともいえる側面を有している。しかし他方、細川政権の誕生に見られるように、地方分権への動きが強まりつつあり、生涯学習に、従来のたて割り、中央集権行政の打破を期待する声もある。この講義では、生涯学習体系の中において、国民の学習する権利を生涯にわたって保障する社会教育行政のあり方をとくに地方自治、住民のまちづくり運動の観点から考察したい。

成人学習論

牧 野 篤

生涯学習振興法の成立により、生涯学習体系の構築が政策として明確に位置づけられることとなった。しかし、そこでは人間とくに成人が生涯にわたって学び続けるとはどういうことなのかという根本的問題がとらえられているとはいえない。この講義では、生涯学習体系の理論的枠組を分析しながら、その問題点を指摘するとともに、成人が学ぶということの意味をとらえ返し、そこから成人学習のあるべき内容を考察したい。

IV 博物館学講座

(1) 必修科目

博物館学Ⅰ

倉田芳郎

学芸員課程の必修科目であり、社会教育主事課程の選択必修科目でもある。「博物館実習Ⅲ（見学）」ならびに「博物館学Ⅱ」と有機的に関連をもたせるので、同年度に併せて受講していただきたい。また、後期は午後いっぱい使って見学を行うことになるので、時間割を組むうえで、各自研究してもらいたい。なるべく2～3年生の時に受けておくことが望ましい。4年生で受けると、学芸員資格を卒業時に取得するのは難しいかもしれない。本講義は博物館の基本のみを講ずるので、2単位である。社教主事の資格を取得しようとする方は、「博物館学Ⅱ」（2単位）も履修することが必要である。受講方法について、誤りの無いようにしたので、4月第1週の時間は必ず出席すること。

博物館学Ⅱ

竹内順一

博物館の運営について、以下の項目を中心に実際例をとりあげる。①展覧会実施マニュアル ②パブリシティ ③インスタレーション ④美術館エデュケイター ⑤レジストレーション ⑥学芸員の研究 ⑦学芸員の文章と翻訳 ⑧外国における特別展の実施。これらを通して、将来の博物館像を追求し、専門家の分業体制とともにレジストラの役割の重要性を考える。（しばしばレポート課題がある）

〔参考書〕講義時に指示する。

教育原理

(P. 1) 参照

社会教育の基礎（社会教育概論）

村山輝吉

(P. 19) 参照

視聴覚教育

赤堀正宜

学校教育や社会教育における視聴覚教材やコンピュータなどの教育メディアの利用と選択について考える。

また、学校教育番組や社会教育番組の利用は、教育方法・内容の革新とつながり、教育工学の一部となっている。視聴覚教育の原理・具体的な利用方法、その教育的効果を明らかにしていく。

〔教科書〕中野照海・赤堀正宜他編著『メディアと教育』（小林出版）¥2,000

博物館実習Ⅰ（館務）

倉田芳郎・太田喜美子

博物館で10日間以上、学芸員の指導により実習を行なう。学芸員課程の必修科目である。この科目は学芸員課程の総仕上げでもあり、無条件に、誰でも履修できるわけではないので、年度第1週のこの科目の時間に必ず出席すること。欠席した場合は来年度履修することになる。

博物館実習Ⅱ（収集）

倉田芳郎・葉貫磨哉
恵津森智行・太田喜美子

学芸員課程の必修科目である。詳しくは、年度第1週の講義時間に話すので、必ず出席すること。無断欠席のものは、受講できない。実習の種類・時期は下記の予定である。このうちの、1つを履

修すればよい。

1. 考古学発掘調査 7月中旬から8月中旬
2. 民俗調査 12月か2月
3. 文書・石仏調査 9月下旬
4. 石仏調査 10月上旬

考古発掘実習

千葉基次

一般的に言えば、考古学は机上の実習の一方で、遺跡を調査するための技術も必要とする。十分な技術は、一回の実習で身に付くと思えないが、いつの場合も基本・基礎の変わることはない。学友とこの基礎を、汗と泥にまみれて野外実習する経験も良いでしょう。新学期第1回目の授業は、必ず出席のこと。又、発掘実習には30日以上参加すること。

博物館実習Ⅲ（見学）

倉田芳郎・太田喜美子

学芸員課程の必修科目である。

都内および都周辺の博物館を見学する。博物館・学芸員の使命・役割を識るためには教室の講義だけでは不足である。そのため、現場で学芸員の方のご講義を承り、博物館運営上の諸問題について考えたい。実習の組分けを決定する関係上、今年度履修しようとする学生は、必ず4月第1週に出席すること。

(2) 選択必修科目

日本文化史Ⅱ

廣瀬良弘

日本文化の流れを概観し、とくに中世文化の成立と展開過程、北山・東山文化、戦国期の文化、安土桃山文化と寛永文化、元禄文化等、平安期末から江戸期にかけての文化について詳述する。

インド仏教文化史

奈良康明

いかなる社会であれ、その成員により獲得され、習熟され、伝達されていく諸観念や慣習、儀礼等がある。かかる生活様式の統合的な体系を文化と呼んでいい。仏教の研究においても、例えば涅槃を中核におく高次の教理の研究も仏教文化の一側面を明らかにするものであることは疑いない。そうした高いレベルの観念や行法を一方におきつつ、他方に、各種民間信仰的な諸観念や儀礼、生活慣習等、日常レベルの生活様式を考察し、且つ、両レベルのかかわりあいを見るところにはじめて仏教文化が全的なすがたでとらえられるのではないか。本講座はこうした視座からインドの社会、宗教とかかわらせつつ、仏教文化の歴史にアプローチをこころみる。

〔参考書〕奈良康明著『仏教史Ⅰーインド、東南アジアー』（山川出版社）

奈良康明著『釈尊との対話』（NHKブックス）、『仏教と人間』（東京書籍）

西洋文化史Ⅰ

佐々木 真

今日、私たちがイメージする西洋文化とは、主に19世紀から20世紀にかけて、知識人たちの影響下で形成された、近代文化のことであろう。しかし、最近のヨーロッパ史研究では、前近代社会や民衆世界においては、今日と異なった文化が存在したことが指摘されている。本講義では、西洋の民衆文化を題材として、中世末から近代にかけての文化変容の問題を考えてみたい。具体的には、民衆の生活様式（人口動態、家族・労働形態、女性や子供の地位）や知の世界（読書行為、識字）、民衆の心性（価値規範、死生観）などを手がかりとして民衆の文化世界を考察する。教科書は特に指定せず、参考文献については必要に応じて授業時に紹介する。

西洋文化史Ⅱ

三小田 敏雄

本年度は下記の教科書を使用して、＜西欧的結婚パターン＞や＜ライフ・サイクル奉公人＞というような西欧的特徴を通してヨーロッパの家族関係を変遷を辿りながら、文化の諸相におけるその具

体的表現を学んで行く。

〔教科書〕 ミッテラウア／ジューダー『ヨーロッパ
家族社会史』名古屋大学出版会
¥2,472

仏教美術

中島亮一

前期では仏教美術のルーツをインドに求め、その誕生の経緯と東漸のあとをたどり、その図像学的な解釈と信仰思想との関係、仏陀の伝記などを考察する。

後期は中国・朝鮮を経た仏教美術が、日本伝来後変容していく姿を、信仰思想の変遷とあわせて観察する。(スライド併用)

〔教科書〕 ①高田修『仏像の誕生』(岩波新書
388) ¥480

②佐和隆研『仏教美術入門』(教養文
庫576) ¥720

〔参考書〕 その都度指示する。

現代美術

矢野陽子

19世紀以降の美術の流れを鳥瞰しながら、あらゆる表現が試みられている現代美術を時代を追って検討していく。毎回スライド等で具体的に美術作品を見ながら、様式の革新、伝統の継承、作者の意図などを考察する。

禅美術

海老根 聡 郎

日本の中世絵画には、伝統的な大和絵と、この時代に、中国から新たに流入した絵画を学んだ漢画がある。後者を作りだした環境は禅宗社会であり、画家も禅宗画僧である。講義は、この流れを黙庵、鉄舟、明兆、周文、雪舟などの画家を中心としてたどりながら、合わせて大和絵についても述べる。(毎回スライドを使用する)

美術史概説

中島亮一

前期では日本の原始時代から平安時代までの美

術を、後期は鎌倉時代以後(できれば江戸時代まで)の美術を、時代の中で紀伝風にテーマ仕立てに分類し(例えば「明日香村の石造物」、「浄土教の美術」など)スライドなどをとおして考察し、それぞれの問題点も検討する。

〔教科書〕 久野健他『美術史<日本>』(東京堂
出版) ¥2,000

〔参考書〕 その都度指示する。

西域美術史

相馬 隆

東西文化交流史、東西美術交渉史の視点より、ターリム盆地周辺地区の所謂オアシス国家群と其の美術はいうまでもなく、葱嶺の西に横たわる壮大なる絹の道に就いて、道程、宿駅等隊商路の実相を復元究明し、併せて、東西にまたがる文物の有機的連関関係に関し、講述を進めるものである。(スライド使用)

考古学概説Ⅰ(日本)

倉田 芳 郎

日本考古学研究のための基礎知識について講義する。年度第1週目の授業には、必ず出席してほしい。

考古学概説Ⅱ(外国)

飯島 武 次

東洋考古学の概説を講義する。

〔参考書〕 飯島武次『夏殷文化の考古学研究』

1985年(山川出版社) ¥7,000

飯島武次『中国新石器文化研究』

1991年(山川出版社) ¥11,000

考古学特講Ⅰ

高 浜 秀

ユーラシア大陸の北を横切って、西はハンガリア平原から東は中国の北の大興安嶺まで続く草原地帯には、古来、南方の農耕地帯とは異なった独

特の文化が栄えていた。初期鉄器時代になるとここには騎馬による遊牧が行われ始め、スキタイ系文化と呼ばれる互いにきわめて共通点の多い幾つかの文化が成立することになる。講義では、その前段階である青銅器時代から始めて、この地帯の文化を考えていきたい。

考古学特講Ⅲ

飯島武次

中国青銅器文化の研究。夏・殷・周の考古学的研究を講義する。

〔参考書〕飯島武次『夏殷文化の考古学研究』

(山川出版社) 1985年¥7,000

飯島武次『中国新石器文化研究』

(山川出版社) 1991年¥11,000

日本民俗学

谷口貢

民俗学は世代をこえて受け継がれてきた民間伝承を通して、日本社会の生活文化を明らかにしようとする学問である。国際的視野をもった人材の育成が叫ばれて久しいが、真の国際理解の前提には自国の伝統文化に対する民俗学的素養が近年益々大切になってきているといえよう。

講義では、日本の各地に伝承されている具体的な民俗の調査事例を紹介しながら、人の一生の重要な時期(誕生・成年・結婚・厄年など)に行われる人生儀礼(通過儀礼)を通して伝統文化についての理解を深め、民俗学の基礎的視点を学んでいきたい。

〔参考書〕必要に応じて紹介する。

宗教人類学

佐々木宏幹

アニミズム、アニマティズム、シャーマニズム、妖術、邪術、死霊・祖霊崇拜など宗教的諸形態をめぐる理論や学説を紹介するとともに、これら諸形態が、日本を含むアジア各地の現代の文化・社会のなかでどのような位置と役割をもっているかについて考察する。ときにスライドまたはビデオを用いる。

〔教科書〕佐々木宏幹編著『宗教人類学』(新曜社) ¥2,200

地形学 I

小池一之

地理学の基礎、地形学史から講義をはじめ、川・海の作る地形を中心にする。地形事変が国の内外で起こったときは、出来るだけ、それらの解説も加える。講義は、プリント・スライド、ビデオを使ったわかりやすいものになりたい。(内容は最先端の知見を含む)

〔教科書〕貝塚ほか編『写真と図でみる地形学』(東大出版会) ¥4,532

地質学

貝塚爽平

前期には、関東・東海地方でみられる、地震・火山・地層・岩石・地質構造・地殻変動などを解説しつつ一般論に及ぶ。また、日本列島ないし地球規模でおこる地質現象(たとえば大洋底の運動・造山運動・海面変動・気候変動・氷床の形成・サンゴ礁の形成)についても講ずる。後期には主として外国の地形・地質を一般論を交えて解説する。

V 社会福祉主事 講座 社会福祉士基礎

社会福祉原論

伊藤 秀一

本講では、受講生がこれから社会福祉を学ぶ者であることを留意しつつ、まず、社会福祉の概念を整理することから始めたい。

次いで、社会福祉の生成過程、制度的なしくみ、各分野の現状に論及する。

さらに、社会福祉の今日的課題を講述し、一応の体系的な把握に努めたい。

〔教科書〕仲村優一著『社会福祉概論』
(誠信書房) ¥1,700

社会福祉原論

原田 信一

今日の社会福祉は、時代に即応し、個人のニーズに合致した福祉サービスの支援を要求している。そこには提供者と利用者(対象者)間における対人的・非貨幣的援助活動のもつ比重が著しく大きくなり、従来までのような物的・貨幣的救済を主とした、福祉問題の彌縫的・応急的対応では、最早、包摂できない状態にきている。

それらのことをふまえて、本講では時代要請に応える専門的原理の探究をおこないたい。

- 〔参考書〕1. 孝橋正一『全訂・社会事業の基本問題』(ミネルヴァ書房)
2. 岡村重夫『全訂・社会福祉学』(柴田書店)

老人福祉論

前期：中野 いく子
後期：東 條 光 雅

人口の急速な高齢化が進む中、家族形態・機能の核家族化と相まって、老後問題に対する社会的関心が非常に高まっている。老後問題は、今後一層の深刻化が予想され、老人福祉施策は近年流動的に変化している。わが国においては、約30年後に超高齢化社会の到来が予測されるわけであるが、

現状改善という視点からだけでなく、長期的な展望と広い視座から老人福祉対策の在り方を考えておくことが必要である。

本講では、老人福祉施策の歴史の変遷はもとより、現状認識を深め、今後の老人福祉サービスを考える上で重要な老人を取り巻く社会的諸状況の変化や、関連する制度・政策についても理解が得られるよう講じてゆきたい。

- 〔教科書〕冷水 豊・浅野 仁・宮崎昭夫編『老人福祉』第3版(海声社) ¥1,640
〔参考書〕三浦文夫編『図説 高齢者白書1993』(全社協) ¥2,800

障害者福祉論

原田 信一

わが国の障害者福祉の発展過程をその淵源に遡りつつ体系的に講ずる。内容面では、人権の認識を基盤においた正当性のある障害者観、そして今後、激動化によって惹起が予測される障害者問題発生メカニズムを究明する。さらに、その対応方法、政策、ならびに処遇のあり方などに加え、欧米先進諸国における障害者福祉との対比から、わが国の障害者福祉に見直しを必要とする新たな課題構築点などに重点をおき講じたい。

- 〔教科書〕星野・藤村・原田・井田編『障害福祉論入門』〔改訂版〕(有斐閣)
〔参考書〕(1)原田・春見・佐藤著『新しい社会福祉の理論』(高文堂)
(2)原田・吉田編『心身障害児(者)の心理・教育・福祉』(文化書房博文社)

児童福祉論

柏女 靈 峰

児童福祉とは、理念的には人格主体として理解されながら、実際には自分たちの立場を主張したり、それを守ることができない児童に代わって、国、地方自治体、保護者及び社会全体が、その生活と発達、自己実現を保障する活動の総体であると考えられる。

本講では、最新の資料に基づきながら、児童福

祉の理念、児童を取り巻く環境、制度体系、サービスの現状と課題、児童福祉の方法について論述するとともに、出生率の低下、児童虐待、不登校等の今日的・個別の課題についても言及し、現代社会とのつながりの中で児童の福祉について考えてみたい。

〔教科書〕福祉士養成講座編集委員会編集「児童福祉論」中央法規1992 ¥2,500

〔参考書〕別途作成する「児童福祉資料集」をコピーの上使用する予定。

社会保障論

近藤 功

社会保障は、憲法第25条に規定する国民の生存権の保障のための重要な政策体系であり、国政において、優れて高い地位を与えられている。

この社会保障について、欧米諸国を含め、歴史的発展過程、体系、財政、国際比較等を検討し、その問題点を明らかにする。

特に、わが国の社会保障について、その主要な部門としての所得保障（年金保険、公的扶助、児童手当等）、医療保障（健康保険等）その他について、制度の現状及び課題を講じる。

〔参考書〕開講時に指示する。

公的扶助論

伊藤 秀一

本講の中心的なテーマは、わが国の生活保護制度をどのように位置づけ、どのように方向づけるかである。

講義内容としては、上述した問題意識のもとに、以下の項目について講じていく予定である。

1. 現代社会と公的扶助
2. 低所得問題対策の概要
3. 生活保護制度のしくみ
4. 生活保護の最近の動向
5. 生活保護及び関連分野の組織・専門職及びその連携のあり方

なお、テキスト等については開講時に指示する。

地域福祉論

和田 敏明

地域福祉を基調とする社会福祉の転換が、地方分権化、社会福祉供給システムの多様化、責任主

体の多元化を伴い進展している。平成5年度からは、老人福祉法等8法改正の完全実施が行われ、市町村福祉時代が始まり、地域福祉の実現が新しい段階を迎えた。講義では、地域福祉の理念と内容、推進方法、地域福祉の現状について基礎概論を講ずるとともに、それを実践動向に即して深めたい。

〔教科書〕改訂社会福祉士養成講座7

『地域福祉論』¥2,500（中央法規）

〔参考書〕永田幹夫著<改訂>『地域福祉論』（全国社会福祉協議会）¥2,060

心理学（福祉）

井上 孝代

欧米諸国において、社会福祉実践の方法論として心理学が広汎に取り入れられているという現況に基づき、社会福祉にかかわる基礎科学として心理学の分野全般を講義する。

重点的な内容としては、①人間の心理学的理解における心理機能と基礎的概念、②人間の成長発達の様相と障害、③人間理解の学説および諸理論の実際、④心理学的援助の技術と実践など、社会福祉士の養成における指定科目である「心理学」で学ぶべき内容を整理する。

教科書の指定は特に行わないが、必要に応じて資料、参考プリントなどを用意する。

社会学（福祉）

橋爪 敏

この講義は、「社会学」についての基本的な知識を提供する事を目的とする。『改訂 社会福祉士養成講座12/社会学』をテキストとしてその内容を把握し、社会学独自の社会現象の見方や考え方を理解する。

したがって、テキストに即して、社会学の歴史、社会集団、現代社会の諸問題などを論じていく。参加学生数によっては講義以外の方法も併用したい。

〔教科書〕福祉士養成講座編集委員会編『改訂社会福祉士養成講座12/社会学』（中央法規出版）

〔参考書〕安藤喜久雄ほか編『社会学概論』、『わかりやすい社会学』（学文社）

法 学 (福祉)

小 林 弘 人

本講義は、教科書『社会福祉のための法入門』を使用して、憲法25条を具体化する社会福祉・社会保障に関する法を検討・整理・体系化することを目的とする。

その他、諸般のことがらについては、講義初日に説明する。

〔教科書〕小林弘人編著『社会福祉のための法入門』（川島書店）¥2,000

〔参考書〕小川政亮著『社会事業法制』（第2版）（ミネルヴァ書房）¥2,500

リハビリテーション論

原 田 信 一

リハビリテーション領域のなかで、学問的にいちじるしく遅れをみせているのが社会リハビリテーションであるといわれている。この分野は、内蔵する問題が広汎・多岐に亘っているばかりか、いずれも現実的で、しかも難解な社会福祉問題を抱えていることがいちじるしい遅滞をもたらす原因になっているといわれる。そこで、本講義はとくに、社会リハビリテーションの基本問題をふまえ、社会・文化的環境を考察し、政策と実践的方法論、それらを支える隣接科学面ならびにリハビリテーションの国際的展望等について概説したい。

〔教科書〕講義ノートによる。

〔参考書〕随時指示する。

社会福祉運営論

坂 田 周 一

社会福祉の政策形成と行政運営および財政問題、さらに社会福祉施設をはじめとした現場での組織運営を包括的に捉える理論である社会福祉運営管理論（ソーシャル・アドミニストレーション）の基本概念を体系的に講述する。

〔参考書〕必要に応じて適宜紹介する。

家族福祉論

高 橋 重 宏

現代の家族生活の問題と課題を解説する。さら

に、「家族」、「家庭」、「家庭機能」等の概念を整理するとともに、ファミリー・サービスのあり方についても北米における事例を紹介しつつ検討したい。

とくに1994年は国連が定めた国際家族年であり、その原則、目的スローガン等についても講述する。

医療福祉論

前期：松 本 栄 二
後期：春 見 静 子

医療とは何か。医療の歴史、医療福祉の歴史、医療の分野で社会福祉援助活動を行うために必要な知識と技術を学ぶ。

1. 医療論

医療の概念、医療の場、与え手と受け手、医療法、現代医療問題点

2. 医療領域のソーシャルワーク

歴史、意義、機能、方法、機関

3. 医療ソーシャルワークの実際

事例を通して医療福祉の実際を学ぶ

〔教科書〕山川哲也『臨床医療ソーシャルワーク』（誠信書房）¥2,500

婦人福祉論

林 千 代

私は、婦人（女性）問題の視点から婦人福祉論を組立てているが、それは、性差別を根底に婦人の生存や生活が不安定化する局面、その解決へのプロセス、施策が主な内容になる。その状況として、主に母子家庭になった時（父子家庭とも関連）、売買春の問題（性とは何か、婦人保護事業について）、女と老い（老後問題の中で）等が考えられる。どの場合も、女子労働との関連が深いので、主に女子労働をめぐるさまざまな問題を主軸において上記三者に焦点をあわせ講義する。

〔教科書〕講義ノートによる。

〔参考書〕林 千代著『母子寮の戦後史』（ドメス出版）

保健福祉論

安 梅 勅 江

急速な人口の高齢化や国際化、地方の時代といった社会構造の大きな節目と相まって、福祉に対するニーズは大きく変貌してきており、わが国の

保健・医療・福祉の諸領域は、今や連携から統合化の時代へと推移しつつあると言える。

従って、本講義では、人間の生涯における身体的・精神的・社会的に健康で豊かな生活を維持する原理及び方法論の希求を目的とした保健福祉学の理念に基づき、健康を基軸に据えた真の生涯福祉のあり方について理論的な整理を行う。さらに、学際的学問領域としての保健福祉学の概念、歴史、方法論を踏まえ、保健福祉の実践に根ざした体系につき概説する。

〔教科書〕日本保健福祉学会編 平山宗宏・高山忠雄監修『保健福祉学』（川島書店）

社会福祉発達史

林 千代

いつの時代にも、人々の生活不安は自然の変化と社会の変動によって生み出されてきたといえる。社会の変動期には、常に多くの問題が生じ人々は生活困難におちいった。社会事業は資本主義社会の成立とともに生成した。主に、英国、日本を中心に（部分的に米国にもふれる）社会福祉へ至る歩みを講述する。対象の存在と問題解決の方法、方法の意図や施策の背景をなす社会福祉の思想その関連等が内容となる。一定の歴史的産物である社会福祉、その本質は何か、その現状は等々を考えるためにこそ、歴史を学ぶ意義がある。

〔教科書〕今岡 他編『社会福祉事業発達史』（ミネルヴァ書房）

〔参考書〕随時紹介。

海外社会福祉論

中 野 いく子

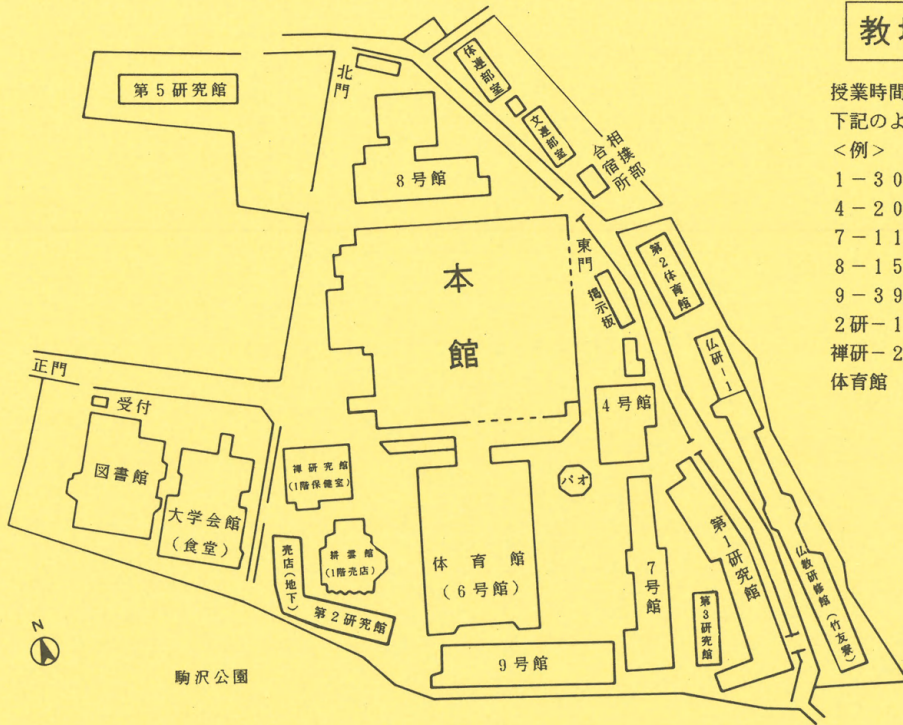
前半では、福祉国家を世界で最初に成立させたイギリスを中心に社会福祉・社会保障のアイデアとその政策・制度的変遷を講じることにする。

後半では、受講生の関心に基づいてグループを編成し、北欧やヨーロッパ大陸諸国、アジア諸国の社会福祉の政策・制度を研究・発表してもらうことにしたいと考えている。

〔教科書〕開講時に指示する。

〔参考書〕社会保障研究所編『イギリスの社会保障』『フランスの社会保障』『スウェーデンの社会保障』『西ドイツの社会保障』『アメリカの社会保障』（東大出版会）

駒澤大学の構内図



教場案内

授業時間表に載っている教場は下記のように見てください。

<例>

1-301	本館(1号館)3階
4-204	4号館2階
7-110	7号館1階
8-150	8号館1階
9-390	9号館3階
2研-101	第2研究館1階
禅研-201	禅研究館2階
体育館	体育館2階

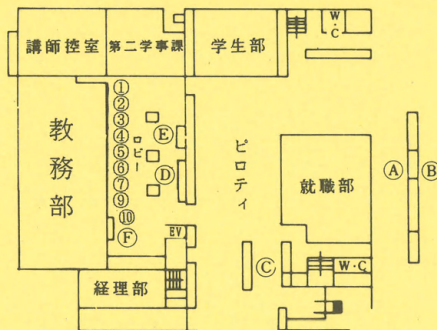
(ただし選択種目により第2体育館になる)

各事務室・掲示板配置図

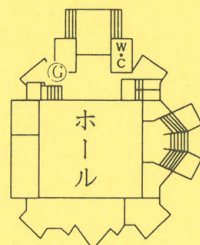
教務部窓口

- ①教職課程
学校図書館司書教諭講座
- ②博物館学講座
社会福祉主事講座
社会教育主事講座
- ③科目等履修生 聴講生 卒業証書
- ④証明書(教務関係)申込受付・発行
<健康診断書および在学証明書は学生部>
- ※ 諸証明書申込用紙は経理部前にあります。
- ⑤諸届願
{ 休学・復学・退学・死亡
改氏名・本籍地変更・保証人変更・保証人住所変更 }
- ⑥大学院関係・留学生関係
卒業論文(仏教学部・文学部)
- ⑦転部転科
- ⑧履修・試験・成績・学業相談
学部演習 { 仏教学部・経済学部
法学部・経営学部 }
- ⑩時間割変更・休講・外国語指定届

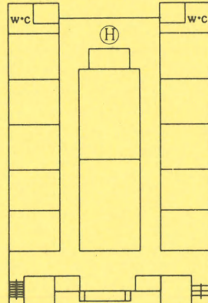
本館1F



耕雲館2F



体育館1F



掲示

- ①第1掲示板(表面)
公示・告示・学生部・就職部関係連絡事項, 教務部関係(試験・教職・研究室等)連絡事項, その他
- ②第2掲示板(裏面) - 臨時掲示板 -
教務部関係連絡事項(12月~3月)
就職部関係連絡事項(8月)
- ③第3掲示板 - 臨時掲示板 -
教務部関係連絡事項(12月~3月)
就職部関係連絡事項(4月~11月)
- ④休講掲示板・ビデオ教場使用一覧(当日)
- ⑤授業時間表カウンター・教場変更掲示板
- ⑥大学院・留学生関係掲示板
- ⑦国際センター掲示板
- ⑧留学生専用・海外留学掲示板
学外諸機関からの案内・募集広告等

